

2003年度

英語学科シラバス

獨協大学

【 シラバスの見方 】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとに授業計画、目的、講義内容および評価方法を学生に周知することにより、受講の指針および授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

英語学科のカリキュラムは入学年度により3種類に分かれています。「2001年度以前入学者用」、「2002年度入学者用」及び「2003年度入学者用」です。各自の入学年度に従い、目次を確認してください。

シラバスの見方は次のとおりです

適用カリキュラム(入学年度による)

02以前	英語学概論	担当者	獨協 太郎	} 通年科目の科目名, 担当者 } 春学期(前期)科目の科目名, 担当者
03以降	英語学概論 a	担当者	獨協 太郎	
講義目的および講義内容		授業計画	1 授業のポイント	} 春学期(前期)の欄
			2 以下同じ	
			3	
			⋮	
			⋮	
			⋮	
			⋮	
			⋮	
			⋮	
			⋮	
			11	
12				
評価方法				
テキスト参考				
03以降	英語学概論 b	担当者	獨協 太郎	} 秋学期(後期)科目の科目名, 担当者
講義目的および講義内容		授業計画	1 授業のポイント 以下同じ	} 秋学期(後期)の欄
			2	
			3	
			⋮	
			⋮	
			⋮	
			⋮	
			⋮	
			⋮	
			⋮	
			11	
12				
評価方法				
テキスト参考				

* 春学期と「講義目的および講義内容」が同じ場合は秋学期の記述が省略されている場合があります。

目 次 (2003 年度入学者)

学科基礎科目

英語部門 <a,b セット履修!>

Speech Communication a,b	各担当教員	1
Advanced Speech Communication a,b	各担当教員	2
英語ライティング・ストラテジーズ a,b	各担当教員	3
英語パラグラフライティング a,b	各担当教員	4
英語リーディング・ストラテジーズ a,b	各担当教員	5
Reading Comprehension a,b	各担当教員	6
Honors English 1 a,b	各担当教員	7
英語学概論 a,b		
.....	阿部 一	23
.....	清水 由理子	24
.....	長谷川 欣祐	25
.....	府川 謹也	26
英語圏の文学・文化概論		
{ a	児嶋 一男	27
{ b	高橋 雄一郎	27
{ a	佐藤 勉	28
{ b	島田 啓一	28
{ a	島田 啓一	29
{ b	佐藤 勉	29
{ a	高橋 雄一郎	30
{ b	児嶋 一男	30
文化コミュニケーション概論		
{ a	柿田 秀樹	35
{ b	鍋倉 健悦	35
{ a	柿田 秀樹	36
{ b	町田 喜義	36
{ a	鍋倉 健悦	37
{ b	柿田 秀樹	37
国際コミュニケーション概論		
{ a	八丁 由比	38
{ b	永野 隆行	38
{ a	八丁 由比	39
{ b	金子 芳樹	39
{ a	金子 芳樹	40
{ b	永野 隆行	40
英語音声学		
.....	(半) 大竹 孝司	41
.....	(半) 大西 雅行	42
スピーチ・クリニック		
.....	(半) 浅岡 千利世	43
.....	(半) 大西 雅行	44

ベーシック・カレッジ・グラマー

.....	(半) 白鳥 正孝.....	46
.....	(半) 豊田 宣是.....	47
.....	(半) 福田 有美.....	48
.....	(半) 山田 修.....	49

学科共通科目

「英語」部門 <a,b セット履修!>

レベル*はTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の3つのレベルに決められています。

レベルA・・・TOEIC® 700 点以上・TOEFL® 520 点以上を取得している者

レベルB・・・TOEIC® 600 点以上・TOEFL® 480 点以上を取得している者

レベルC・・・TOEIC® 500 点以上・TOEFL® 440 点以上を取得している者

レベルが【既修条件】となっている科目を履修する場合は、TOEIC® または TOEFL®のスコアを証明する書類のコピーを**教務課外国語学部担当係**まで提出してください。

Public Speaking I a,b

【既修条件】**レベルB**を修得していること。

【定員】25人

.....	A.R.ファルヴォ.....	151
.....	E.カーニィ.....	152
.....	K.R.ペイン.....	153

Debate I a,b

【既修条件】**レベルB**を修得していること。

【定員】25人

.....	N.H.ジョスト.....	154
.....	柿田 秀樹.....	155

通訳 I a,b

【既修条件】**レベルB**を修得していること。

【定員】25人

.....	原口 友子.....	156
-------	------------	-----

目 次 (2002 年度以前の入学者)

学科基礎科目

「英語」部門

Speech Communication	各担当教員	1
Advanced Speech Communication	各担当教員	2
英語ライティング・ストラテジーズ	各担当教員	3
英語パラグラフライティング	各担当教員	4
英語リーディング・ストラテジーズ	各担当教員	5
Reading Comprehension	各担当教員	6
Honors English 1	各担当教員	7
Honors English 2		
01	E.カーニィ	8
02	JJ.ダゲン	9
03	N.H.ジョスト	10
04	T.ヒル	11
05	T.マーフィー	12
英語専門講読入門		
01	大竹 孝司	13
02	大西 雅行	14
03	工藤 和宏	15
04	児嶋 一男	16
05	佐藤 唯行	17
06	島田 啓一	18
07	高橋 雄一郎	19
08	鍋倉 健悦	20
09	原 成吉	21
10	福井 嘉彦	22
英語学概論		
.....	阿部 一	23
.....	清水 由理子	24
.....	長谷川 欣祐	25
.....	府川 謹也	26
英米文学概論		
.....	(春) 児嶋 一男	27
.....	(秋) 高橋 雄一郎	
.....	(春) 佐藤 勉	28
.....	(秋) 島田 啓一	
.....	(春) 島田 啓一	29
.....	(秋) 佐藤 勉	
.....	(春) 高橋 雄一郎	30
.....	(秋) 児嶋 一男	

国際コミュニケーション概論（再履修コマ）

.....	(春) 柿田 秀樹.....	31
.....	(秋) 金子 芳樹.....	
.....	(春) 金子 芳樹.....	32
.....	(秋) 鍋倉 健悦.....	
.....	(春) 鍋倉 健悦.....	33
.....	(秋) 永野 隆行.....	
.....	(春) 八丁 由比.....	34
.....	(秋) 町田 喜義.....	

英語音声学

.....	(半) 大竹 孝司.....	41
.....	(半) 大西 雅行.....	42

スピーチ・クリニック

.....	(半) 清水 由理子.....	45
-------	-----------------	----

学科共通科目

* 「英語」部門*

LEVEL*はTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の3つのレベルに決められています。

LEVELA TOEIC® 700 点以上・TOEFL® 520 点以上を取得している者

LEVELB TOEIC® 600 点以上・TOEFL® 480 点以上を取得している者

LEVELC TOEIC® 500 点以上・TOEFL® 440 点以上を取得している者

*【既修条件】の科目を修得していない者が、LEVEL*を【既修条件】として履修登録する場合は、履修登録前にTOEIC®またはTOEFL®のスコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

専門講読 <2001 年度以前の入学者>

英語専門講読 <2002 年度入学者>

【既習条件】

<2001 年度以前の入学者>：英語 I (Reading Strategies) または (講読) 及び英語 I (Reading Comprehension) または (Reading) を修得していること。

<2002 年度入学者>：英語リーディング・ストラテジーズ 及び Reading Comprehension または Honors English 1 を修得していること。

【定員】 40 人

(英・米文学)	E.カーニイ	50
(英米文化)	J.J.ダゲン	51
(英語文化)	N.H.ジョスト	52
(英語学)	T.ヒル.....	53
(Exploring Learning)	T.マーフィー.....	54
(英米文化)	W.J.ベンフィールド.....	55
(米国の東アジア政策)	阿部 純一.....	56
(アメリカ詩—エミリー・ディキンソン)	石塚 あおい.....	57
(Reading an Oral History of World War II)	板場 良久 (春学期のみ)	58
(モダニズム詩精読)	遠藤 朋之.....	59
(英語音声の理論と実践)	大竹 孝司.....	60
(英語学)	大西 雅行.....	61
(アメリカにおける黒人文化の流れ)	岡田 誠一.....	62
(英語『マトリクス』の表象分析)	柿田 秀樹.....	63


(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	64
(『ヨブ記』を Revised Version で読む)	川崎 潔	65
(異文化コミュニケーション)	川島 浩美	66
(日本文化の継続性と変化)	工藤 和宏	67
(オーストラリアの詩)	国見 晃子	68
(英米の現代劇)	児嶋 一男	69
(Communication Models)	佐々木 輝美	70
(アメリカのエッセイスト)	佐藤 唯行	71
(物語を読む)	佐藤 勉	72
(現代アメリカ小説)	島田 啓一	73
(Effective Reading)	清水 由理子	74
(イギリス児童文学)	白鳥 正孝	75
(各種英文ビジュアル文書の読み方と実務)	杉山 晴信	76
(一ドライデン)	園部 明彦	77
(日系アメリカ人の文化とは 日系アメリカ女性の視点)	高田 宣子	78
(パフォーマンス研究の諸相)	高橋 雄一郎	79
(現代の国際関係)	竹田 いさみ	80
(英語教授法)	中上 健二	81
(現代国際関係)	永野 隆行 (秋学期のみ)	82
(歴史・文化)	中村 粲	83
(アメリカ現代詩)	原 成吉	84
(認知言語学入門)	府川 謹也	85
(英米文化)	福井 嘉彦	86
(イギリスの小説)	藤田 永祐	87
(英語で日本語の構造を学ぶ)	安井 美代子	88
(現代スコットランド文学)	山田 修	89

英作文

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>: 英語IV (Writing Strategies)

または (文法・作文) を修得していること。

<2002年度入学者>: 英語ライティング・ストラテジーズまたは  を修得していること。

【定員】 40人

.....	金谷 優子	90
.....	川崎 潔	91
.....	喜田 慶文	92
.....	工藤 和宏	93
.....	島田 啓一	94
.....	園部 明彦	95
.....	高田 宣子	96
.....	中上 健二	97
.....	中村 粲	98
.....	藤田 永祐	99
.....	本田 謙介	100
.....	宮廻 和男	101

エッセイ・ライティング <2001年度以前の入学者>

英語エッセイ・ライティング <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>: 英語Ⅳ (Paragraph Writing) 若しくは (パラ) または英作文を修得していること。

<2002年度入学者>: 英語パッセージ・ライティング、英作文または **レベルB** を修得していること。

【定員】 30人

1	D.L.ブランケン	102
2	E.J.ナオウミ	103
3	E.カーニイ	104
4	K.ミーハン	105
5	M.フッド	106
6	N.ハミルトン	107
7	P.M.ホーネス	108
8	P.マッケビリー	109
9	R.ダラム	110

翻訳Ⅰ <2001年度以前の入学者>

英日翻訳 <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>: なし

<2002年度入学者>: 英語リーディング・ストラテジーズ及び Reading Comprehension または Honors English 1、または **レベルC** を修得していること。

【定員】 30人

.....	金谷 優子	111
.....	工藤 政司	112
.....	児嶋 一男	113

翻訳Ⅱ <2001年度以前の入学者>

日英翻訳 <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>: なし

<2002年度入学者>: 英語パッセージ・ライティング、英作文、または **レベルB** を修得していること。

【定員】 30人

.....	高田 宣子	114
-------	-------	-----

英文法 <2001年度以前の入学者>

カレッジ・グラマー <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>: なし

<2002年度入学者>: 英語リーディング・ストラテジーズ及び Reading Comprehension または Honors English 1、または **レベルC** を修得していること。

【定員】 45人

.....	児玉 仁士	115
.....	府川 謹也	116
.....	本田 謙介	117
.....	三好 健	118

Conversation I <2001年度以前の入学者>

Communicative English I <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>:英語Ⅲ (SC) または (IC) を修得していること。

<2002年度入学者>:Speech Communication または VLC を修得していること。

【定員】 35人

.....	A.R.ファルヴォ	119
.....	D.ブラドリ	120
.....	D.L.ブランケン	121
.....	E.ハードスターク	122
.....	J.ウォールドマン	123
.....	K.R.ペイン	124
.....	K.ミーハン	125
.....	L.K.ハーキンス	126
.....	P.M.ホーネス	127
.....	P.アプス	128
.....	R.J.バロウズ	129
.....	R.M.ペイン	130
.....	R.ジョーンズ	131
.....	R.ダラム	132
.....	T.J.フォトス	133

Conversation II <2001年度以前の入学者>

Communicative English II <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>:英語Ⅲ (ASC) 若しくは (AC) または Conversation I を修得していること。

<2002年度入学者>:Advanced Speech Communication, Communicative English I または VLB を修得していること。

【定員】 35人

.....	A.R.ファルヴォ	134
.....	C.B.池口	135
.....	D.L.ブランケン	136
.....	D.マッキャン	137
.....	E.J.ナオウミ	138
.....	E.カーニィ	139
.....	E.ハードスターク	140
.....	L.K.ハーキンス	141
.....	M.デル バッキオ	142
.....	N.ハミルトン	143
.....	P.マッケピリー	144
.....	R.M.ペイン	145
.....	R.ダラム	146
.....	W.J.ベンフィールド	147

Discussion <2001年度以前の入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>: 英語Ⅲ (ASC) 若しくは (AC)
または Conversation I を修得していること。

<2002年度入学者>: Advanced Speech Communication,
Communicative English I または **LEVELB** を修得していること。

【定員】 25人

.....	N.H.ジョスト	148
.....	R.ジョーンズ	149
.....	W.J.ベンフィールド	150

スピーチ <2001年度以前の入学者>

Public Speaking I <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>: 英語Ⅲ (ASC) 若しくは (AC)
または Conversation I を修得していること。

<2002年度入学者>: Advanced Speech Communication,
Communicative English I または **LEVELB** を修得していること。

【定員】 25人

.....	A.R.ファルヴォ	151
.....	E.カーニィ	152
.....	K.R.ペイン	153

ディベート <2001年度以前の入学者>

Debate I <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>: 英語Ⅲ (ASC) 若しくは (AC)
または Conversation I を修得していること。

<2002年度入学者>: Advanced Speech Communication,
Communicative English I または **LEVELB** を修得していること。

【定員】 25人

.....	N.H.ジョスト	154
.....	柿田 秀樹	155

通訳 I

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>: 英語Ⅲ (ASC) 若しくは (AC)
または Conversation I を修得していること。

<2002年度入学者>: Advanced Speech Communication,
Communicative English I または **LEVELB** を修得していること。

【定員】 25人

.....	原口 友子	156
-------	-------	-----

通訳 II

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>: 通訳 I を履修していること。

<2002年度入学者>: 通訳 I または **LEVELA** を修得していること。

【定員】 25人

.....	原口 友子	157
-------	-------	-----

ビジネス英語Ⅰ <2001年度以前の入学者>

英語ビジネス・コミュニケーションⅠ <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>:なし
<2002年度入学者>:英語リーディング・ストラテジズおよびReading Comprehension または Honors English 1、または[VLC]を修得していること。

【定員】55人

.....	海老沢 達郎.....	158
(木2履修者)	杉山 晴信.....	159
(金1履修者)	杉山 晴信.....	160
.....	信 達郎.....	161

ビジネス英語Ⅱ <2001年度以前の入学者>

英語ビジネス・コミュニケーションⅡ <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>:なし
<2002年度入学者>:英語リーディング・ストラテジズおよびReading Comprehension または Honors English 1、または[VLB]を修得していること。

【定員】55人

.....	杉山 晴信.....	162
-------	------------	-----

時事英語Ⅰ <2001年度以前の入学者>

メディア英語Ⅰ <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>:なし
<2002年度入学者>:英語リーディング・ストラテジズおよびReading Comprehension または Honors English 1、または[VLC]を修得していること。

【定員】55人

.....	W.J.ベンフィールド.....	163
.....	新井 妥門.....	164
.....	海老沢 達郎.....	165
.....	金子 節也.....	166
.....	工藤 政司.....	167

時事英語Ⅱ <2001年度以前の入学者>

メディア英語Ⅱ <2002年度入学者>

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>:なし
<2002年度入学者>:英語リーディング・ストラテジズおよびReading Comprehension または Honors English 1、または[VLB]を修得していること。

【定員】55人

.....	新井 妥門.....	168
.....	川島 浩美.....	169
<2002年度入学者のみ履修可>	高橋 雄一郎.....	170

シネマ英語 <2002年度入学者> (<2001年度以前の入学者>は履修出来ません。)

【既修条件】

<2001年度以前の入学者>:なし

<2002年度入学者>:英語リーディング・ステージズ および Reading Comprehension または Honors English 1、またはLEVELを修得していること。

【定員】35人

.....	岡田 誠一	171
.....	高橋 雄一郎	172

第二外国語

ドイツ語Ⅲ	木村 佐千子	173
ドイツ語会話Ⅰ	A.リプスキ	174
フランス語Ⅲ	大原 知子	175
フランス語会話Ⅰ		
.....	C.ヴァリエヌ	176
.....	M.ミズバヤシ	177
スペイン語Ⅲ	喜多 延鷹	178
スペイン語会話Ⅰ	J.フェレーラス	179

学科専門科目

「言語情報」部門

言語情報処理Ⅰ a,b	【定員】55人	長崎等・吉成雄一郎	180
言語情報処理Ⅱ a,b	【定員】80人	吉成 雄一郎	181
統語論 a,b		安井 美代子	182
意味論 a,b		阿部 一	183
音声・音韻論 a,b		大竹 孝司	184
英語史 a,b		児玉 仁士	185
英語学特殊講義 a,b		府川 謹也	186

「文学文化」部門

英米の小説 a		藤田 永祐	187
英米の小説 b		島田 啓一	187
英米の詩 a		園部 明彦	188
英米の詩 b		原 成吉	188
英米の演劇 a,b		児嶋 一男	189
英語圏文学特殊講義 a,b		高橋 雄一郎	190
英語圏文学文献研究 a,b	【定員】35人	白鳥 正孝	191
英米の社会と思想 a,b		福井 嘉彦	192
英米の歴史 a,b		佐藤 唯行	193
英米事情 a		佐藤 勉、他	194
英米事情 b		白鳥 正孝、他	194

「国際コミュニケーション」部門

{ 国際政治論 a	竹田 いさみ	195
{ 国際政治論 b	金子 芳樹	195
{ 国際政治論 a	金子 芳樹	196
{ 国際政治論 b	竹田 いさみ	196
国際関係史 a	有賀 貞	197
国際関係史 b	永野 隆行	197
国際開発協力論 a	竹田 いさみ	198
国際開発協力論 b	金子 芳樹	198
国際関係論特殊講義 a,b	森 健	199
国際関係論文献研究 a,b 【定員】 35 人	阿部 純一	200
国際関係論文献研究 a 【定員】 35 人	金子 芳樹	201
国際関係論文献研究 b 【定員】 35 人	竹田 いさみ	201
異文化間コミュニケーション論 a,b	石井 敏	202
異文化間コミュニケーション論 a,b	鍋倉 健悦	203
マス・コミュニケーション論 a,b	佐々木 輝美	204
スピーチ・コミュニケーション論 a,b	板場 良久 (春学期のみ)	205
スピーチ・コミュニケーション論 a,b	柿田 秀樹	206
コミュニケーション論特殊講義 a,b	柿田 秀樹	207
コミュニケーション論文献研究 a,b 【定員】 35 人	石井 敏	208

***** 02 年度	***** Speech Communication	担当者	各担当教員
----------------	-------------------------------	-----	-------

03 年度	Speech Communication a	担当者	各担当教員
-------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' <u>basic</u> presentation (expository and persuasive) skills for communication. Students should (1) get experience in making and delivering a short speech in English, (2) become familiar with how to describe visual materials or to use visual aids to explain events, phenomena or concepts, and (3) learn to be responsive listeners, commentators, and/or questioners in the audience, rather than passive auditors.</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
評価方法	Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.		4
テキスト参考文献	This decision is left to the discretion of the individual instructor.		5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

03 年度	Speech Communication b	担当者	各担当教員
-------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' <u>basic</u> presentation (expository and persuasive) skills for communication. Students should (1) get experience in making and delivering a short speech in English, (2) become familiar with how to describe visual materials or to use visual aids to explain events, phenomena or concepts, and (3) learn to be responsive listeners, commentators, and/or questioners in the audience, rather than passive auditors.</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
評価方法	Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.		4
テキスト参考文献	This decision is left to the discretion of the individual instructor.		5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

***** 02年度	***** Advanced Speech Communication	担当者	各担当教員
---------------	--	-----	-------

03年度	Advanced Speech Communication a	担当者	各担当教員
------	---------------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills and suggests that the course be designed accordingly. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' presentation (expository and persuasive) skills for communication.</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate, and ability.		
テキスト参考文献	This decision is left to the discretion of the individual instructor.		

03年度	Advanced Speech Communication b	担当者	各担当教員
------	---------------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills and suggests that the course be designed accordingly. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' presentation (expository and persuasive) skills for communication.</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate, and ability.		
テキスト参考文献	This decision is left to the discretion of the individual instructor.		

**** 02年度	***** 英語ライティング・ストラテジーズ	担当者	各担当教員
--------------	---------------------------	-----	-------

03年度	英語ライティング・ストラテジーズ a	担当者	各担当教員
------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>基本的な単語や文法を用い、文章構成の基本を学びながら身近でやさしいトピックについて具体的に目的を持った短い文章が書けるようになることを目標とする。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な文法項目等を復習する 2. 日常使われる手紙の基本形式を学び、実際に短い手紙を書いてみる（お祝の手紙、入学／就職希望の手紙、英文履歴書等） 3. パラグラフの基本について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> (1) パラグラフとはなにか (2) トピック、センテンスについて (3) トピック、センテンスをサポートする、他 4. 以上の作文技術を学習した後、各教員が指定した教材を使用し作文力の向上を図る。場合によっては上記の作文技術と文法・作文用の教材を交えながら年間を通じて学んでいくこともあり得る。 	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	各担当教員が授業時に説明する。
------	-----------------

テキスト参考文献	各担当教員がしじする。
----------	-------------

03年度	英語ライティング・ストラテジーズ b	担当者	各担当教員
------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	英語ライティング・ストラテジーズ a の延長	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	
------	--

テキスト参考文献	
----------	--

***** 02年度	***** 英語パラグラフ・ライティング	担当者	各担当教員
---------------	-------------------------	-----	-------

03年度	英語パラグラフ・ライティング a	担当者	各担当教員
------	------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	(目的) 1. 英文パラグラフにおけるいくつかのパターンを理解する。 2. 論理的な流れのあるパラグラフを書くことができる。 3. 日本語の作文と英語の作文の違いを理解する。 (概要) 1. パラグラフとは何か 2. トピックとトピック・センテンスについて 3. トピック・センテンスのサポートの仕方 4. 表現の言い換えと盗用について 5. 要約の仕方、他 6. 以上の技術を学習した後、各教員が指定した教材を使用しライティング力の向上を図る。	授業計画	1
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	各担当教員が授業時に説明する。		
テキスト 参考 文献	各担当教員が指示する。		

03年度	英語パラグラフ・ライティング b	担当者	各担当教員
------	------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	英語パラグラフ・ライティング a の延長。	授業計画	1
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	各担当教員が授業時に説明する。		
テキスト 参考 文献	各担当教員が指示する。		

***** 02年度	***** 英語リーディング・ストラテジーズ	担当者	各担当教員
---------------	---------------------------	-----	-------

03年度	英語リーディング・ストラテジーズ a	担当者	各担当教員
------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の数週間は現在の高度情報化社会において必要とされている情報収集のための技術を学ぶ。具体的には、 1. パラグラフ・リーディング：パラグラフの構成原理を理解し、トピック・センテンスの置かれている位置をすばやく判断する技術。 2. スキミング：長めのパッセージを読む際、付随的な情報に惑わされずにメイン・アイデアだけを探して大意をつかむ技術。 3. スキャニング：案内用のパンフレットやホームページなどを含むさまざまな媒体から、読み手が必要とする特定の情報だけを正確かつ迅速に探す技術。 その後は、各担当教員が決めた教材を使用しながら、年間を通じて読解力および読解技術の養成をおこなう。	授業計画	1
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	各担当教員が授業時に説明する。		
テキスト参考文献	各担当教員が指示する。		

03年度	英語リーディング・ストラテジーズ b	担当者	各担当教員
------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	英語リーディング・ストラテジーズ a の延長。	授業計画	1
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	各担当教員が授業時に説明する。		
テキスト参考文献	各担当教員が指示する。		

***** 02年度	***** Reading Comprehension	担当者	各担当教員
---------------	--------------------------------	-----	-------

03年度	Reading Comprehension a	担当者	各担当教員
------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>The Department has set the following macro-level objectives for this reading course to be taught by native-speaker instructors:</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students learn to think English To enlarge students' vocabulary To give students insights into Western culture and literature To help prepare students for study in an English-speaking country To help students learn new ideas, and have new learning experiences. <p>Instructors are free to select their own texts (inside and outside readers) and to use them as they think fit. However, in addition to the set texts, the Department would like the students in this class to be taught basic reading skills. The teaching of the skills may be done at the beginning of each class throughout the year or, alternatively, it may be done for a month or so at the beginning of the course.</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
評価方法	This decision is left to the discretion of the individual instructor.		11
テキスト参考文献	This decision is left to the discretion of the individual instructor.		12

03年度	Reading Comprehension b	担当者	各担当教員
------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>The Department has set the following macro-level objectives for this reading course to be taught by native-speaker instructors:</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students learn to think English To enlarge students' vocabulary To give students insights into Western culture and literature To help prepare students for study in an English-speaking country To help students learn new ideas, and have new learning experiences. <p>Instructors are free to select their own texts (inside and outside readers) and to use them as they think fit. However, in addition to the set texts, the Department would like the students in this class to be taught basic reading skills. The teaching of the skills may be done at the beginning of each class throughout the year or, alternatively, it may be done for a month or so at the beginning of the course.</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
評価方法	This decision is left to the discretion of the individual instructor.		11
テキスト参考文献	This decision is left to the discretion of the individual instructor.		12

***** 02年度	***** Honors English 1	担当者	各担当教員
---------------	---------------------------	-----	-------

03年度	Honors English 1 a	担当者	各担当教員
------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	The purpose of this Honors English course is to help students who already have a solid command of English develop a deeper understanding of specific content areas, and to be able to demonstrate that understanding through oral presentations and classroom discussions. Students will be required to give formal as well as informal presentations according to a schedule set at the beginning of the course and to complete all outside reading assignments. By the end the course, students will have developed a greater understanding of the content areas focused on, and will have further developed in their ability to look at issues more critically and to discuss them with greater authority.	授 業 計 画	1	
			2	
			3	
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
評価方法	Grades will be based on attendance, classroom presentations, quizzes, and mid-term and final exams.			11
テキスト参考文献	Outside reading material, provided by the instructor,			12

03年度	Honors English 1 b	担当者	各担当教員
------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	The purpose of this Honors English course is to help students who already have a solid command of English develop a deeper understanding of specific content areas, and to be able to demonstrate that understanding through oral presentations and classroom discussions. Students will be required to give formal as well as informal presentations according to a schedule set at the beginning of the course and to complete all outside reading assignments. By the end the course, students will have developed a greater understanding of the content areas focused on, and will have further developed in their ability to look at issues more critically and to discuss them with greater authority.	授 業 計 画	1	
			2	
			3	
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
評価方法	Grades will be based on attendance, classroom presentations, quizzes, and mid-term and final exams.			11
テキスト参考文献	Outside reading material, provided by the instructor,			12

***** 02年度	***** Honors English 2	担当者	E.カーニイ
---------------	---------------------------	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Aims: A class for ambitious students who are eager to discuss, learn, listen, adapt, teach something even, and enjoy the present day.</p> <p>Stimulating discussion materials will be used to help generate useful communication situations(How should I deal with that?).</p> <p>Students are asked to be aware. Aware of everything they can be and should be, perhaps aware especially in those areas where they show culpable ignorance.</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1, Introductions 2. What's going on?. Tell us about it. 3. Discuss and analyze 4. Communicating ideas 5. Teach your skill 6. Deal with problems 7. Preparation for a "moral" discussion 8. Discussing it 9. Ways to improve communication techniques 10. Why are you so "narrow minded?" Who? Me? 11. Presentation with a difference. 12. Testing preparations and testing
	評価方法		Grading by end of term exam
	テキスト参考文献		-- The widest range of materials.

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Learn from the masters 2: This is me. Can you understand me? 3. How's your logic? 4. Fun and games shouldn't kill you. 5. You mean some people don't do drugs? 6. Speculate on the future. If there is one. 7. Gadgetry versus pastoral 8. brainstorming 9. What have I learned, improved, done? 10. Is this what you want for your child? 11. Laugh and grow fat 12. How did we do, then?
	評価方法		
	テキスト参考文献		

***** 02年度	***** Honors English 2	担当者	J. J.ダゲン
---------------	---------------------------	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>The aim of this course is to give those students with a solid command of English the opportunity to further develop reading and comprehension skills. In the first semester, we will work on a two-week cycle reading, researching, discussing, and informally presenting content-based material of a topical nature from the New York Times and other similar sources.</p> <p>I will be selecting the articles and preparing the tasks and activities. It is the students' responsibility to read and further research into the topic as well as to complete the assigned tasks outside of class so as to be ready to participate in discussing and sharing your ideas in class. In this way, we can make the best use of the time we have available to help you, the student, improve your reading and comprehension skills, as well as develop a greater understanding of issues and events happening in the world around you.</p> <p>As this class is centered around participation, attendance is a must. If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>	授業計画	1	Course description & explanation
			2	Selection A assignments & comprehension study
			3	Selection A activities & discussion study
			4	Selection B assignments & comprehension study
			5	Selection B activities & discussion study
			6	Selection C assignments & comprehension study
			7	Selection C activities & discussion study
			8	Selection D assignments & comprehension study
			9	Selection D activities & discussion study
			10	Selection E assignments & comprehension study
評価方法	Students will be evaluated based on preparation (assigned reading, homework, research), class participation (class discussion, informal presentations), and a written exam.		11	Selection E activities & discussion study
テキスト参考文献	Handouts/online reading of articles from the New York Times and other selected sources.		12	First semester consolidation & review

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>The aim of this course is to give those students with a solid command of English the opportunity to further develop reading and comprehension skills. In the second semester, we will work on a one-week cycle reading, researching, discussing, and formally presenting content-based material of a topical nature from newspapers and news magazines.</p> <p>Students, working in pairs or small groups, making use of the resources provided by the teacher, will be selecting articles of their own choosing and of interest not just to them but to the class as a whole. You will then be expected to further research into your chosen material, and to give a formal presentation to the class as well as lead the discussion following.</p> <p>As this class is centered around participation, attendance is a must. If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>	授業計画	1	Second semester class preparation
			2	Selection F presentation & discussion
			3	Selection G presentation & discussion
			4	Selection H presentation & discussion
			5	Selection I presentation & discussion
			6	Selection J presentation & discussion
			7	Selection K presentation & discussion
			8	Selection L presentation & discussion
			9	Selection M presentation & discussion
			10	Selection N presentation & discussion
評価方法	Students will be evaluated based on preparation (assigned reading, homework, research), class participation (class discussion, a formal presentation), and a written exam.		11	Selection O presentation & discussion
テキスト参考文献	Handouts/online reading of articles from the New York Times and other selected sources.		12	Second semester consolidation & review

***** 02年度	***** Honors English 2	担当者	N. H. ジョスト
---------------	---------------------------	-----	------------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their speaking, listening, reading, writing and critical thinking skills. The material chosen for this class will look at some of the controversial issues that face us today. Students in this class will have to the opportunity to discuss and debate the issues covered in the reading and listening material. Additionally, students will be responsible for giving ordinary presentations as well as end of the semester poster presentations.	授業計画	1. Course Description and Student Introductions
			2. The Internet: A Driving Force for Change?
			3. Continuation: Discussion and Presentation
			4. Better Dead Than Coed
			5. Continuation: Discussion and Presentation
			6. When Does Life Begin
			7. Continuation: Discussion and Presentation
			8. Economic Might vs. Ecologic Right
			9. Continuation: Debate
			10. Beyond Darwin
評価方法	Grades will be based on class participation, attendance, exams and presentations.		11. Continuation and Debate
テキスト 参考 文献	<u>Raise the Issues</u> by Longman Publishers. Students should NOT buy this book until class starts.		12. 1st Semester Poster Presentations

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	Same as above	授業計画	1. To Know About Less or Less About More
			2. Continuation: Discussion and Presentation
			3. "Just Say 'No' to Drugs"?
			4. Continuation: Discussion and Presentation
			5. The Right to Die vs the Right to Life
			6. Continuation: Debate
			7. The Global Village
			8. Continuation: Discussion and Presentation
			9. "For Every Winner, There's a Loser"
			10. Continuation: Debate
評価方法			11. 2nd Semester Poster Presentations
テキスト 参考 文献			12. 2nd Semester Poster Presentations

***** 02年度	***** Honors English 2	担当者	T. ヒル
---------------	---------------------------	-----	-------

副題	Developing Critical Thinking, Listening and Speaking Skills	担当者	*****
----	---	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course will use authentic radio interviews and reports from National Public Radio.</p> <p>The text presents an integrated approach to developing listening comprehension and critical thinking skills. Students will build their vocabulary in content areas, do research and give poster presentations in the areas that interest them, and develop their overall English proficiency to a high level.</p> <p>Attendance at every class will be an obligation.</p> <p>This class is hard work for good students.</p>	授業計画	1 If it smells like fish, forget it!
			2 Presentations
			3 Living through divorce
			4 Presentations
			5 A couch potato
			6 Presentations
			7 The Bible hospital
			8 Presentations
			9 A Boy's shelter for street people
			10 Presentations
評価方法	Grades will be based on class participation, attendance and presentations.		11 The 4 new food groups
テキスト参考文献	Face The Issues. C. Numrich. Longman		12 Presentations

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course will use authentic radio interviews and reports from National Public Radio.</p> <p>The text presents an integrated approach to developing listening comprehension and critical thinking skills. Students will build their vocabulary in content areas, do research and give poster presentations in the areas that interest them and develop their overall English proficiency to a high level.</p> <p>Attendance at every class will be an obligation.</p> <p>This class is hard work for good students.</p>	授業計画	1 The dirty dozen
			2 Presentations
			3 From one world to another
			4 Presentations
			5 Attached to crime
			6 Presentations
			7 Meet you on the air
			8 Presentations
			9 There are worse things than dying
			10 Presentations
評価方法	Grades will be based on class participation, attendance and presentations.		11 A healthier way
テキスト参考文献	Face The Issues. C. Numrich. Longman		12 Presentations

***** 02年度	***** Honors English 2	担当者	T. マーフィー
---------------	---------------------------	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	Object & Summary of the Lecture... The content of this course will be the students and their ways of learning. We will try to understand better how we learn, or don't learn, and look at many alternative ways of learning and using English, including multiple intelligences, habits of mind, mind mapping, and interactive language learning.	授業計画	1 Schedule of the Yer... Introduction	
	評価方法		How to Evaluate... Students will be evaluated according to what they write each week in their action log and negotiate their work and their self-assessment with the teacher.	2 Structures and frameworks
			テキスト 参考 文献	Text,,Language Hungry! Tim Murphey 1998 MacMillian Languagehouse.
4 ditto				
5 ditto				
6 ditto				
7 ditto				
8 ditto				
9 ditto				
10 ditto				
11 Begin wrapping up				
12 Finish course				

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 Schedule of the Yer... Introduction	
	評価方法		How to Evaluate... Students will be evaluated according to what they write each week in their action log and negotiate their work and their self-assessment with the teacher.	2 Structures and frameworks
			テキスト 参考 文献	To be decided with the students
4 ditto				
5 ditto				
6 ditto				
7 ditto				
8 ditto				
9 ditto				
10 ditto				
11 Begin wrapping up				
12 Finish course				

***** 02年度	***** 英語専門講読入門	担当者	大竹 孝司
---------------	-------------------	-----	-------

副題	世界の言葉の仕組みを探る	担当者	*****
----	--------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>本講義では、言語コミュニケーションに関する入門書(米国の大学で広く用いられている教科書を使用)を通じて英語で書かれた専門書を読みこなすために必要な読解力を身に付ける。授業では以下の2点を行う。</p> <p>第1は、言語コミュニケーションの教科書を徹底的に理解する作業を行う。アカデミックな分野で用いられる書き言葉としての英語を習得するためには、術語の定義、論理的な文章展開、各分野の特有な表現などを学ぶ必要がある。そこで、授業では、(1) 術語の理解の確認、(2) 各パラグラフのパラフレーズ化、(3) 各セクションのまとめの確認、(4) 文章展開法の確認、そして(4) 音読による文章理解の確認などの作業を中心に進める。授業は、発表と討論を中心としたゼミ形式で行う。</p> <p>第2は、各自が興味を持った基礎知識の中からテーマを設定してリサーチを行い、英語でポスターにまとめて発表する。ポスターの作成と発表を通じて英語力、分析力、論理的な思考力などを身に付ける。</p> <p>この講義は、言語によるコミュニケーション、言語や言語教育に興味を持つ学生、本格的な留学を目指す学生などには有益であろう。なお、外国語を学ぶ際には、数値目標を設定して学ぶことが大切であるので講義終了時にはTOEFL 550点以上の英語力が身に付くようにする。</p> <p>各章を2回に分けて発表と討論を行う。授業では、3名がレジュメを基に発表予定(20分発表+10分討論)。</p>	授 業 計 画	1	授業の概要説明。専門書を理解するために必要な学習内容の説明。
			2	人間の言語の性質：言語とは? Part 1
			3	人間の言語の性質：言語とは? Part 2
			4	人間の言語の性質：脳と言語 Part 1
			5	人間の言語の性質：脳と言語 Part 2
			6	言語の構造：音声の仕組み Part 1
			7	言語の構造：音声の仕組み Part 2
			8	言語の構造：音声の構造の仕組み Part 1
			9	言語の構造：音声の構造の仕組み Part 2
			10	言語の構造：語彙の構造の仕組み Part 1
			11	言語の構造：語彙の構造の仕組み Part 2
			12	ポスターによるプレゼンテーション
評価方法	授業への貢献度、試験またはレポート、ポスターの質によって総合的に決定する。			
テキスト参考文献	<i>An Introduction to Languages, Sixth edition.</i> Fromkin, V. and Rodman, R. (Eds.) Harcourt Brace College Publishers (各自 amazon.co.jp など授業前に入手すること)。英英辞書とその他配布プリントも使用する。			

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>本講義では、言語コミュニケーションに関する入門書(米国の大学で広く用いられている教科書を使用)を通じて英語で書かれた専門書を読みこなすために必要な読解力を身に付ける。授業では以下の2点を行う。</p> <p>第1は、言語コミュニケーションの教科書を徹底的に理解する作業を行う。アカデミックな分野で用いられる書き言葉としての英語を習得するためには、術語の定義、論理的な文章展開、各分野の特有な表現などを学ぶ必要がある。そこで、授業では、(1) 術語の理解の確認、(2) 各パラグラフのパラフレーズ化、(3) 各セクションのまとめの確認、(4) 文章展開法の確認、そして(4) 音読による文章理解の確認などの作業を中心に進める。授業は、発表と討論を中心としたゼミ形式で行う。</p> <p>第2は、各自が興味を持った基礎知識の中からテーマを設定してリサーチを行い、英語でポスターにまとめて発表する。ポスターの作成と発表を通じて英語力、分析力、論理的な思考力などを身に付ける。</p> <p>この講義は、言語によるコミュニケーション、言語や言語教育に興味を持つ学生、本格的な留学を目指す学生などには有益であろう。なお、外国語を学ぶ際には、数値目標を設定して学ぶことが大切であるので講義終了時にはTOEFL 550点以上の英語力が身に付くようにする。</p> <p>各章を2回に分けて発表と討論を行う。授業では、3名がレジュメを基に発表予定(20分発表+10分討論)。</p>	授 業 計 画	1	言語の構造：文の構造の仕組み Part 1
			2	言語の構造：文の構造の仕組み Part 2
			3	言語の構造：意味の構造の仕組み Part 1
			4	言語の構造：意味の構造の仕組み Part 2
			5	言語と心理：言語習得の仕組み Part 1
			6	言語と心理：言語習得の仕組み Part 2
			7	言語と心理：言語理解の仕組み Part 1
			8	言語と心理：言語理解の仕組み Part 2
			9	言語と社会：言語使用の仕組み Part 1
			10	言語と社会：言語使用の仕組み Part 2
			11	世界の言語と文字の仕組み
			12	ポスターによるプレゼンテーション
評価方法	授業への貢献度、試験またはレポート、ポスターの質によって総合的に決定する。			
テキスト参考文献	<i>An Introduction to Languages, Sixth edition.</i> Fromkin, V. and Rodman, R. (Eds.) Harcourt Brace College Publishers (各自 amazon.co.jp など授業前に入手すること)。英英辞書とその他配布プリントも使用する。			

***** 02年度	***** 英語専門講読入門	担当者	大西 雅行
---------------	-------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

<p>講義目的</p> <p>日本人が読む英語は分かりやすいが、英米人が読む英語は早く、目で字を追っていないと分かり難いという経験は誰もがしたことがある。一つには音声英語は日本語と違う点が多いこと、もう一つは音は瞬時に消え、再確認が難しいことによる。英語は読めても、聞くのは苦手という人が多いのは当然である。</p> <p>英語音が英語全体に、特にコミュニケーションに与える影響、働きを考え、その重要性を確認する。</p> <p>講義概要</p> <p>テキストはロンドン大学の J.D.O'Connor の記事を使う。専門用語は少なく、読みやすい英文である。テキストとしてプリントを配布する。テキストは学生が読み、日本語に訳す。講義担当者は補足説明や内容説明を主に行う。</p> <p>評価方法</p> <p>期末の試験と平常点と出席状況で評価を出す。</p>	授 業 計 画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. words and phonemes-1 2. words and phonemes-2 3. words and stress 4. words and tone 5. words and length 6. words boundaries 7. sequence markers-1 8. sequence markers-2 9. intonation and grammar-1 10. intonation and grammar-2 11. range, tempo and loudness 12. voice quality and attitude
--	------------------	---

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講 義 目 的 お よ び 講 義 概 要		授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 13. tone of voice and universals-1 14. tone of voice and universals-2 15. language analysis-1 16. language analysis-2 17. language teaching 18. speech therapy 19. communications-1 20. communications-2 21. lung action 22. vocal cord function 23. voice production 24. pitch
評価 方法			
テ キ ス 参 考 文 献			

***** 02年度	***** 英語専門講読入門	担当者	工藤 和宏
---------------	-------------------	-----	-------

副題	異文化適応研究	担当者	*****
----	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>英語で書かれた専門書や論文の読み方を習得するのが本講義の目標ですが、ディスカッションとプレゼンテーション能力の向上も重視します。また、異文化適応についての学習が新しい環境への適応と自分の将来の在り方を考える手助けになることを期待します。</p> <p>授業はグループ・ワークや討論を中心とする参加型形式です。春学期では、異文化適応過程、留学生の文化的・学業的適応、カルチャー・ショックの原因と対処法、文化と対人コミュニケーションの関係、コミュニケーション能力など、主に個人レベルの異文化接触について学習します。秋学期では、海外駐在員、帰国子女、移民、少数民族の経験が提起する文化・社会・国家(間)レベルの異文化接触の問題について考察します。これらの学習内容を踏まえた上でグループ研究発表をしていただきます。</p> <p>レポート、春学期試験、研究発表の使用言語は英語と日本語のどちらも可とします。</p>	授業計画	1 導入
			2 Cross-cultural conflict and adjustment
			3 Cross-cultural conflict and adjustment
			4 Education: Values and expectations
			5 Education: Values and expectations
			6 Immigration and acculturation
			7 Immigration and acculturation
			8 Culture and communication
			9 Culture and communication
			10 Intercultural communication competence
			11 <i>Who moved my cheese?</i>
			12 春学期授業のまとめ
評価方法	春学期 レポート (和文で3千字程度) と定期試験 秋学期 レポート (和文で3千字程度) と研究発表		
テキスト 参考 文献	1.プリント 2. Johnson, S. (1998). <i>Who moved my cheese?</i> London: Vermilion		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 導入
			2 Farewell to <i>Nippon</i>
			3 Japanese business people
			4 <i>Kikokushijo</i>
			5 Lives of young Koreans in Japan
			6 Foreign migrants in Japan
			7 Multiculturalism
			8 Japan's internationalization
			9 研究発表の準備
			10 研究発表会 1
			11 研究発表会 2
			12 秋学期授業のまとめ
評価方法			
テキスト 参考 文献			

***** 02年度	***** 英語専門講読入門	担当者	児嶋 一男
---------------	-------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>国によって、その国の地域によって、発話する人の文化的な背景によって、話される英語は、さまざまに異なってきます。</p> <p>この授業はいくつかの戯曲のテキストから、さまざまな英語の会話表現を学び、暗記することをネライにしています。</p> <p>同時に、書かれた英文の背景となっている国や地域の文化の理解と、その文化の中に生きる人間の感情の動きを知ることが目標にします。</p> <p>また、欧米では日本よりも身近にある演劇に対する違和感を、実際の上演を観ることで、消してもらいたいとも思っています。</p> <p>舞台上で交される話し言葉の日本語表現を工夫してみるのも勉強になります。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	毎回の vocabulary quiz、観劇レポートなど。		
テキスト参考文献	テキストはプリント配布。 参考文献は作品に合わせて言及。		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

***** 02年度	***** 英語専門講読入門	担当者	佐藤 唯行
---------------	-------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を、授業の目標といたします。</p> <p>使用するテキストは合衆国ユダヤ史の研究者フェインゴールドがアメリカ人の大学生向きに執筆した教科書です。そこにかかれた文章は比較的平易で平均的な大学生でも辞書をひきながら読む事が出来るでしょう。唯、時おり「特殊な単語」が登場することがありますので、そういう時には、労を惜しまず図書館へゆき「大きな辞書」で調べてください。</p> <p>正確な和訳作業を各センテンス毎に行くと同時に、パラグラフ毎の要旨をまとめる事が授業では要求されます。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	<p>評価は試験結果 60%、平常点 40%、欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合、試験結果が合格点に達していても単位を与えません。遅刻は 3 回で欠席 1 回分に換算します。</p>		11
テキスト参考文献	<p><i>Zion in America</i>, H. L. Feingold (1974) テキストはコピーを配布いたします。</p>		12

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	前期と同じ	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	前期と同じ		11
テキスト参考文献			12

***** 02年度	***** 英語専門講義入門	担当者	島田 啓一
---------------	-------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>アメリカの現代小説（短編）を読みます。訳読と質問表による討論を通じて、英語の読解力と作品理解を深めることを目的とします。</p> <p>最初は訳読を中心に授業を進め、後半は事前に配布した作品の内容に関する質問表の答え合わせをしながら、討論形式で授業を進める予定です。</p> <p>毎回必ず予習をして授業に臨むことが義務づけられます。万一予習をしておこなった場合は、出欠をとるときに、その旨申告してもらいます（「はい」のかわりに「パス」と返事）。但し、「パス」は3回までで、その後は、1回につき2点減点します。欠席は3点減点、30分以内の遅刻、早退は1点減点です。減点0（無遅刻・無欠席・ノーパス）の場合は、学期末に20点の「ボーナス点」を与えます。「パス」の申告漏れは20点減点としますので、発覚すれば致命的と思われる。</p>	授業計画	1 授業の説明など。必ず出席することを希望。欠席すると「ボーナス点」の資格が消えます。
			2 前週指示した範囲を読み、討論します。以下、同じ。
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	定期試験(100点満点)±平常点(上記参照)
------	------------------------

テキスト参考文献	未定
----------	----

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期（前期）と同じ	授業計画	1 春学期（前期）と同じ
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	春学期（前期）と同じ
------	------------

テキスト参考文献	春学期（前期）と同じ
----------	------------

***** 02年度	***** 英語専門講読入門	担当者	高橋 雄一郎
---------------	-------------------	-----	--------

副題	ビルマ研究	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	(ビルマ研究) 皆さんはビルマという国を知っていますか？アウンサンスーチーの名前なら聞いたことはあるかも知れませんね。日本のメディアではミャンマーという国名が使われることが多いのはどうしてでしょうか？同じアジアに位置する国なのに、意外に知らないことたくさんありますね。 僕はビルマに3回行きましたが、ビルマの人々の優しさは決して忘れることができません。屋台でモヒンガーという素麺を朝食に取り、郊外にでると水牛がのんびりと田を耕している光景に出会います。そして陽が落ちると、ライトアップされたパゴダの前には祈りを捧げるために、またいくばくかの涼を求めて、大勢の敬虔な老若男女が集っています。そんな時、心がすーっと洗われるように感じるのは僕だけでしょうか？（下欄につづく）	授業計画	1
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	予習、出席重視。4月13日（日）のビルマのお正月のお祭りへの参加。小レポート。		
テキスト参考文献	『ビルマー「発展」のなかの人びと』（岩波新書）を初回の授業までに読了していること		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	ところが旅行者の前にはそんな「癒し」の表情を見せるこの国は、もう40年も過酷な軍事政権の下にあり、人々は人権の侵害と経済の破たんを喘いでいるのです。1988年に学生を中心とする民主化運動が蜂起しますが、軍隊は銃をもってそれに応じ、数千人もの人々が命を落としたとも言われています。 そして1990年に実施された総選挙ではアウンサンスーチーの率いる国民民主連盟(NLD)が90%以上の得票を得て圧勝しますが、それから10年以上たった今でも軍は権力の座に居座ったままで、民政移管への道は依然閉ざされたままです。 このクラスでは英文の資料を読みながら、ビルマの歴史、社会、文化を学び、また民主化、少数民族の問題や、日本を含む国際社会の対応について考えていきます。授業はディスカッション中心で、後学期にはグループ研究の成果を発表してもらいます。	授業計画	1
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	予習、出席重視。グループによる研究発表。		
テキスト参考文献	Aung San Suu Kyi <i>Freedom from Fear</i> (Penguin) 前学期から使います。他。		

***** 02年度	***** 英語専門講読入門	担当者	鍋倉 健悦
---------------	-------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	あくまでも入門コースなので、 いろいろな内容のものを英語で 読める基礎力を身につけるのが 当講義の目的である。授業では、 TOEICやTOEFL等からの Reading comprehensionを使い、 毎回のミニ模擬試験も実施し、 これを中心に進めていく。 読めるものの内容や進度等に ついては未定である。	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	毎回の試験が重要となる		
テキスト参考文献	プリント		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	同上	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

***** 02年度	***** 英語専門講読入門	担当者	原 成吉
---------------	-------------------	-----	------

副題	アメリカ詩入門—もう一つの現代詩"Rock Music"を読む	担当者	*****
----	---------------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Rock Classicの中から代表的な24曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。Rockの50年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせるのがねらい。</p> <p>3人1組のレポーターを中心に、個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、ディスカッション形式で授業を進める。映像と音を使いながらインタラクティブにアメリカ文化論を考える。受講者はこれまでの英語学習のマッサージのつもりで受けてほしい。</p> <p>後半の学期は、Bob Dylan の作品を中心に取り上げる予定。</p>	授業計画	1 "America" by Paul Simon
			2 "Eleanor Rigby" by Lennon / McCartney
			3 "The Boxer" by Paul Simon
			4 "Across the Universe" by Lennon / McCartney
			5 "Me and Bobby McGee" by Kris Kristofferson / Fred Foster as sung by Janis Joplin
			6 "Big Yellow Taxi" by Joni Mitchell
			7 "Sweet Baby James" by James Taylor
			8 "California" by Joni Mitchell
			9 "Piano Man" by Billy Joel
			10 "Thunder Road" by Bruce Springsteen
			11 "Dancing in the Dark" by Bruce Springsteen
			12 "At Seventeen" by Janis Ian
評価方法	授業への参加度と学期ごとのレポート(ワープロで4,000字程度の作品論)で決める。		
テキスト参考文献	プリントを担当教員が用意する。		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

***** 02年度	***** 英語専門講読入門	担当者	福井 嘉彦
---------------	-------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	テキストに従って、英語それ自信についての知識と、一定の英語読解力とつけること。	授業計画	1	ガイダンス
			2	時間に従って、その都度一定量の英文を読む。
			3	以下同様。
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	授業への参加と発表、及びテストによって評価する。			
テキスト参考文献				

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	上に同じ。	授業計画	1	上に同じ。
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	上に同じ。			
テキスト参考文献				

01年度以前 02年度	英語学概論 英語学概論	担当者	阿部 一
----------------	----------------	-----	------

03年度	英語学概論 a	担当者	阿部 一
------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>本講義は最近までの言語学や英語学あるいはその関連領域の研究成果を大幅に取り入れた上で、できるだけわかりやすく「英語」という言語の特徴、歴史、構造、意味などを解説するものである。その際、科学的な研究・分析のやり方の実際を具体例を挙げながら行ってみることと、我々の母語である日本語との比較・対照を絶えず意識しながら行ってみることを重視していきたい。</p> <p>講義概要</p> <p>講義では英語学の中心テーマでも特に重要で興味深い個所に焦点を絞り、担当者の講義、質疑応答、ビデオ・レヴュー、ミニ・プロジェクトなどが行われる。受講生諸君が一方的に講義を聞くだけでなく、積極的に授業に参加できる機会を多く設けたいと考えている。また、昨年度、好評だった英語力の増強に英語学の知識や考え方がどう役立つのかといった具体的で実践的な例を大幅に取り上げてバージョンアップを図っていくので期待して欲しい。なお、テキストや参考文献の講義に関係する該当個所など具体的な情報が盛りだくさんのシラバスを第一回目の講義で配布することと、いろんな履修上の約束などについて話すので必ず出席すること。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語学のオリエンテーション：英語学って何をやるの？どんな役に立つの？ 2. 英語史を体験：まずは身近な単語で英語の起こりや歴史を考えてみよう。 3. 音声学を体験：やっぱり英語をモノにするにはリスニング力を伸ばすことが必要というけれど？——「正しく発音できない音は聞き取れないの原則」って何？ 4. 音声学を体験：やっぱり英語をモノにするにはリスニング力を伸ばすことが必要というけれど？——実際に、発声・発音の基礎練習をやってみよう。 5. 音声学を体験：応用練習をやってみよう。 6. 音韻論を通して「ことば」の分析の基本概念や面白みを知ってみよう。 7. 形態論（語形成）を体験：これを知ればTOEICの単語力はぐーんと増える？ 8. 語彙論を体験：単語の構造や仕組みはどうなっているの？なぜ「やさしい単語ほど難しい」っていわれるの？ 9. 語彙論を体験：単語同士の関係や構造はどうなっているの？ 10. 動詞論を体験：やっぱり英語ができるようになる鍵は「動詞」だって？！ 11. 統語論を体験：動詞がわかれば「文」がわかる?? 12. 統語論を体験：動詞がわかれば「文」がわかる??
評価方法	評価は前期・後期の定期試験、数回の課題、ミニ・プロジェクトへの貢献度、それに出席点によって総合的に行われる。		
テキスト参考文献	第一回目に指示。各種プリントのファイル。 参考文献 上記のシラバスで紹介する。また、図書館でそれらを取りざらしていただくので留意すること。		

03年度	英語学概論 b	担当者	阿部 一
------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>本講義は最近までの言語学や英語学あるいはその関連領域の研究成果を大幅に取り入れた上で、できるだけわかりやすく「英語」という言語の特徴、歴史、構造、意味などを解説するものである。その際、科学的な研究・分析のやり方の実際を具体例を挙げながら行ってみることと、我々の母語である日本語との比較・対照を絶えず意識しながら行ってみることを重視していきたい。</p> <p>講義概要</p> <p>講義では英語学の中心テーマでも特に重要で興味深い個所に焦点を絞り、担当者の講義、質疑応答、ビデオ・レヴュー、ミニ・プロジェクトなどが行われる。受講生諸君が一方的に講義を聞くだけでなく、積極的に授業に参加できる機会を多く設けたいと考えている。また、昨年度、好評だった英語力の増強に英語学の知識や考え方がどう役立つのかといった具体的で実践的な例を大幅に取り上げてバージョンアップを図っていくので期待して欲しい。なお、テキストや参考文献の講義に関係する該当個所など具体的な情報が盛りだくさんのシラバスを第一回目の講義で配布することと、いろんな履修上の約束などについて話すので必ず出席すること。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 13. 統語論を体験：動詞がわかれば「文」がわかる?? 14. 意味論を体験：じゃあ「形（文）」の向こうを見てみよう。 15. 意味論を体験：じゃあ「形（文）」の向こうを見てみよう。 16. 意味論を体験：じゃあ「形（文）」の向こうを見てみよう。 17. 語彙意味論を体験：動詞や前置詞はタダモノではない！ 18. 語彙意味論を体験：動詞や前置詞はタダモノではない！ 19. 語用論を体験：みんなで映画の英語を研究してみよう。 20. 語用論を体験：みんなで映画の英語を研究してみよう。 21. 会話分析（談話分析）を体験：映画じゃ物足りない？それじゃ、生（ナマ）の対話を分析・研究してみようか？ 22. 会話分析（談話分析）を体験：映画じゃ物足りない？それじゃ、生（ナマ）の対話を分析・研究してみようか？ 23. 英語学に関連する分野をちょっと体験：英語の方言、子供のことば、英語教育 24. 英語学のエピローグ：まとめと発表会
評価方法	評価は前期・後期の定期試験、数回の課題、ミニ・プロジェクトへの貢献度、それに出席点によって総合的に行われる。		
テキスト参考文献	第一回目に指示。各種プリントのファイル。 参考文献 上記のシラバスで紹介する。また、図書館でそれらを取りざらしていただくので留意すること。		

01年度以前 02年度	英語学概論 英語学概論	担当者	清水 由理子
----------------	----------------	-----	--------

03年度	英語学概論 a	担当者	清水 由理子
------	---------	-----	--------

講義目的 および 講義概要	英語という言葉がどのような視点から研究されてきたか、また、現在されているかを知ることを通して、私たちが毎日使っていることばに対する関心と理解を深める。 〔講義概要〕「ことば」というものは、日本語の場合を考えても分かるように時代と共に変化している。英語の場合は、何がどのように変化し、その原因は何かを時代背景と共に学ぶ。 その後、現在使われている英語（現代英語）の仕組みを、音・語・文・意味の面から探り、人はどのようにその仕組みを意思伝達に活用しているのか考えてみる。	授業計画	1 英語学とは何を研究する分野か。人間のことばの特徴。
			2 英語の歴史① Old English
			3 英語の歴史② Old English
			4 英語の歴史③ Middle English
			5 英語の歴史④ Middle English
			6 英語の歴史⑤ Modern English
			7 英語の歴史⑥ Modern English
			8 英語の歴史⑦ American English
			9 英語の音構造① 音声学
			10 英語の音構造② 音声学
評価方法	Take Home Quiz および期末試験により評価を出す。		11 英語の音構造③ 音韻論
テキスト 参考文献	稲木昭子他 『新 えいご・エイゴ・英語学』 松柏社		12 英語の音構造④ 音韻論

03年度	英語学概論 b	担当者	清水 由理子
------	---------	-----	--------

講義目的 および 講義概要		授業計画	1 前期試験結果と解説	
				2 英語の語構造① 形態論
				3 英語の語構造② 形態論
			4 英語の文構造① 統語論	
			5 英語の文構造② 統語論	
			6 英語の文構造③ 統語論	
			7 英語の意味構造① 意味論	
			8 英語の意味構造② 意味論	
			9 英語の意味構造③ 語用論	
			10 英語の意味構造④ 語用論	
評価方法	英語学概論 a に同じ		11 英語学とその関連分野①	
テキスト 参考文献	英語学概論 a に同じ		12 英語学とその関連分野②	

01年度以前 02年度	英語学概論 英語学概論	担当者	長谷川 欣祐
----------------	----------------	-----	--------

03年度	英語学概論 a	担当者	長谷川 欣祐
------	---------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>英語の多様な言語事象の分析を通して言語研究の面白さを伝えたい。具体的にはデータに基いて仮説を立て、それをより広汎なデータに照らして検証していくなかで、文法構造の規則性や一般的原理を発見していく統語分析の方法に重点を置いて述べる。この興味ある発見の過程と、着実な論証の仕方を理解することは、英語の学習に役立つだけでなく、ことば（更には自然、社会）の問題を自分の頭で考え、自主的に判断する能力を養う上でも役に立つと思う。</p> <p>人間の言語使用は「創造的」（いくらでも新しい文を創りそれを理解することができる）であり、そのために思考・感情の自由な表現が可能になる。これを可能にしている「ことばの仕組」を明らかにすることを目標とする（生成）文法理論の基本的な考え方と方法を概説し、それに基づいて英語の主要な統語現象の背後にあるさまざまな規則性を明らかにする。</p> <p>連続した体系をなすので毎回出席すること。</p>	授 業 計 画	1	
			2	1~3. 前期は「序論」と「第1部：文の組み立て方についての一般原理」について述べる。
			3	まず序論として人間の言語の基本的性質である、言語使用の創造性をデータに基いて例証し、文法研究の目標を設定する。ここで英語の代名詞や再帰代名詞の用法について簡単な原則を提示する。
			4	4・5. 「文の組み立て方」に関する第1の原理としての「句構造規則」の必要性とその説明。文法上の単位（文法カテゴリー）を立てる根拠について「動詞句」などを例にとり、やや詳しく解説。
			5	
			6	6~11. 「文の組み立て方」に関する第2の原理としての「変形」の概念を導入。典型的な例に基づいてこの仕組の必要性をわかりやすく解説。さらに英語のいくつかの構文を取り挙げ、それらの説明のために変形が必要であることを示し、同時にこれらの構文自体の構文分析によって文法解析の方法を理解してもらう。取り挙げる事象は、wh-句移動変形、外置変形（以上 6-7 週）、Tough 構文移動変形（8 週）、繰り上げ変形（Raising）（9 週）、助動詞成分の分析（10-11 週）、など。（10-11 週）では音韻論・形態論の基礎にも触れる。
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	12. 試験
			12	
評価方法	テストと授業への参加度			
テキスト参考文献	L. Haegeman (1994 ²), Introduction to Government and Binding Theory (Blackwell); Handout			

03年度	英語学概論 b	担当者	長谷川 欣祐
------	---------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>英語の多様な言語事象の分析を通して言語研究の面白さを伝えたい。具体的にはデータに基いて仮説を立て、それをより広汎なデータに照らして検証していくなかで、文法構造の規則性や一般的原理を発見していく統語分析の方法に重点を置いて述べる。この興味ある発見の過程と、着実な論証の仕方を理解することは、英語の学習に役立つだけでなく、ことば（更には自然、社会）の問題を自分の頭で考え、自主的に判断する能力を養う上でも役に立つと思う。</p> <p>人間の言語使用は「創造的」（いくらでも新しい文を創りそれを理解することができる）であり、そのために思考・感情の自由な表現が可能になる。これを可能にしている「ことばの仕組」を明らかにすることを目標とする（生成）文法理論の基本的な考え方と方法を概説し、それに基づいて英語の主要な統語現象の背後にあるさまざまな規則性を明らかにする。</p> <p>連続した体系をなすので毎回出席すること。</p>	授 業 計 画	1	後期「第2部：英語統語構造の概要」前期の講義に立脚し、主要な文法単位（カテゴリー）の内部構造と、それらに関連する構文分析の典型例について述べる。
			2	
			3	「動詞句」の内部構造。補語（Complement）と副詞的要素（Adjunct）の区別の根拠・重要性について do so テストなどを用いて解説。
			4	
			5	「動詞+小辞」、「動詞+前置詞」などの複合動詞の分析。小辞（Particle）移動変形、間接目的語・直接目的語構文の構造と意味。VNP to VP 形の構造分析、表層フィルターの必要性など。
			6	
			7	受動構文の分析。文法分析の一典型例として、古典的分析から比較的妥当な分析へ至る過程をデータに基いて解説し、受動文の構造と意味を明らかにする。
			8	
			9	名詞句の内部構造
			10	
			11	Wh-句移動変形などへの「一般的制約」
			12	試験
評価方法	テストと授業への参加度			
テキスト参考文献	L. Haegeman (1994 ²), Introduction to Government and Binding Theory (Blackwell); Handout			

01年度以前 02年度	英語学概論 英語学概論	担当者	府川 謹也
03年度	英語学概論 a	担当者	府川 謹也
講義目的および講義概要	この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深めることであるが、その過程において、ふだん無意識のうちに使っていることばの研究の楽しさを味わうことである。具体的には、日本語の母語話者としての直感がきく日本語にも多少言及しながら英語を分析し、英語を母語とする話者の無意識下にある言語直感を掘り出し、英語の隠れていた規則性を発見し、ひいては言語そのものの研究が意外と（問題の多いことばであるが）科学的かつ人間的で、それだから楽しいということを実感してもらうことである。 英語学科の学生はただ英語の実用的運用能力に秀でているだけでなく、知的好奇心の対象としての英語について、その本質的知識を身につけ、その過程で、ことばが人間であることの大事な証であることを理解してほしい。	授業計画	1 ことばの諸相
			2 音素と異音
			3 類型論から見た日本語と英語の音韻構造
4 日本語の「モーラ」と英語の「音節」			
5 語アクセントの規則			
6 イントネーションとリズム			
7 続き			
8 英語の情報構造			
9 続き			
10 続き			
11 形態論とレキシコン			
12 動詞の造語力（名詞＋動詞の複合語）			
評価方法	定期試験を主とする。欠席が4回を超えると「不可 (F)」とする。		
テキスト 参考 文献	プリント。 参考書は随時紹介		

03年度	英語学概論 b	担当者	府川 謹也
講義目的および講義概要	この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深めることであるが、その過程において、ふだん無意識のうちに使っていることばの研究の楽しさを味わうことである。具体的には、日本語の母語話者としての直感がきく日本語にも多少言及しながら英語を分析し、英語を母語とする話者の無意識下にある言語直感を掘り出し、英語の隠れていた規則性を発見し、ひいては言語そのものの研究が意外と（問題の多いことばであるが）科学的かつ人間的で、それだから楽しいということを実感してもらうことである。 英語学科の学生はただ英語の実用的運用能力に秀でているだけでなく、知的好奇心の対象としての英語について、その本質的知識を身につけ、その過程で、ことばが人間であることの大事な証であることを理解してほしい。	授業計画	1 英語の統語構造（生成文法）
			2 続き
			3 機能主義的統語論
4 続き			
5 さまざまな意味関係			
6 認知意味論			
7 続き			
8 文法と意味			
9 続き			
10 意味とコンテキスト			
11 続き			
12 意味の習得			
評価方法	前期と同じ		
テキスト 参考 文献	前期と同じ		

01年度以前 02年度	英米文学概論 英米文学概論	担当者	(春) 児嶋 一男 (秋) 高橋 雄一郎
----------------	------------------	-----	----------------------

03年度	英語圏の文学・文化概論 a	担当者	児嶋 一男
------	---------------	-----	-------

講義目的 および 講義概要	いくつかの英語圏の文学作品を読むことによって、英語表現と日本語表現の相異の妙味を探り、同時に異なる文化状況に置かれた人間の感情の動きについて考察する。 異なる文化環境に生まれ育った人間の言葉と文化背景を追究することによって、それが人間全般の理解へと転化していくことを目標とする。 最初に、主としてイギリス文学史の概略をなぞった後、主に小説作品や、実際の上演舞台を鑑賞できる戯曲作品から、適宜抜粋した箇所(英文)を読み、表現技法と文化背景を考える。 受講生は作品全体を自分で通して読み、その主題を解析して発表する。	授業計画	1 イギリス文学史 1 古期から中世
			2 イギリス文学史 2 ルネサンスと沙翁
			3 イギリス文学史 3 17-18世紀
			4 イギリス文学史 4 ヴィクトリア朝と20世紀
			5 大ヒット・ミュージカルとキリスト教精神 <i>Les Miserables</i> と <i>The Phantom of the Opera</i>
			6 人間は卑小なものか? Arundhati Roy: <i>The God of Small Things</i>
			7 人間は本来、善か悪か? <i>The Canterbury Tales</i> と <i>Hamlet</i>
			8 ラピュタの国とヤフーとは? Jonathan Swift: <i>Gulliver's Travels</i>
			9 私/僕って何? Michael Ondaatje: <i>The English Patient</i>
			10 近未来社会はこう予想されていた? <i>Nineteen Eighty-Four</i> と <i>Brave New World</i>
			11 報道の受け手の責任とは? Ben Elton: <i>Popcorn</i>
			12 巨匠 James Joyce は言葉遊びの天才?
評価方法	レポート2編と講義中の課題。		
テキスト 参考文献	プリント配布。 『読み解かれる異文化』と『英米文学ガイド』。		

03年度	英語圏の文学・文化概論 b	担当者	高橋 雄一郎
------	---------------	-----	--------

講義目的 および 講義概要	(アメリカ偏) 世界の覇者たる「合州国」の影響の大きさゆえに、私たちは時に「アメリカ」＝「アメリカ合州国」と考えてしまうことがあります。アメリカの文学や文化が、「アメリカ合州国」の市民で、それも主に白人で、男性で、しかも異性愛者によって形成されてきたのだと、当然のように信じられてきた時代が長く続きました。でも今は違います。でも、今は違います。 この授業では、北はアラスカから南はアルゼンチンのフェゴ諸島までを含む広大な大陸と、カリブ海や大平洋に浮かぶ島々までを視野に収め、文学作品の鑑賞だけでなく、歴史、宗教、文化など多角的な視点から「アメリカ」とは何かを考察していきます。	授業計画	1 イントロダクションーアメリカを探して
			2 現代のアメリカーグローバルゼーションの中で
			3 ネイティブはどこへ行った
			4 ピューリタン社会の伝統
			5 合州国の民主政治
			6 マイノリティの権利回復運動を追って
			7 フェミニズムの文学と文化
			8 アフリカ系アメリカ人の文学と文化
			9 アジア系アメリカ人の文学と文化
			10 クィアの文学と文化
			11 アメリカ文学/文化の伝統って何だろう?
			12 自由討論
評価方法	宿題、授業中の小テスト、および学期末のレポートによる。		
テキスト 参考文献	『早わかりアメリカ』日本実業出版者 『ジョイ・ラック・クラブ』角川文庫/他		

01 年度以前 02 年度	英米文学概論 英米文学概論	担当者	(春) 佐藤 勉 (秋) 島田 啓一
------------------	------------------	-----	--------------------

03 年度	英語圏の文学・文化概論 a	担当者	佐藤 勉
-------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	講義の目的 この講義では文学の意義、とくにイギリス詩の流れを考えながら、中期英語の時代から 20 世紀まで、主たる作家・作品を、物語詩を中心に解説する。それぞれの作品が作者の人生観や思想、その時代の社会をどのようにその物語の中で反映しているかなどについて分かり易く話す予定にしている。	授業計画	1 イギリスの地理的、文化的背景について
	講義概要 配布するハンドアウトに従って作家・作品を解説する。また主要な文学用語についてもできるだけ解説する。限られた時間での講義なので、幾つかの古典的な詩を取り上げて、その文学的特質を述べることになるが、自ずと担当者の好みが入ることになる。各詩人のよく知られた詩を取り上げるが、中心のテーマは物語である。英文学史は易しい英文のハンドアウトを配布して、簡単な理解が得られるようにする。		2 Pre - Renaissance から Renaissance に至る詩人について
	評価方法 前期及び後期とも定期試験（さらにレポートの提出もありうるが）によって評価する。		3 Chaucer の詩について
テキスト参考文献 テキスト 平易な英文のハンドアウト（テキスト及び参考）を必要に応じて配布する。	4 Spenser の詩について		
	5 Shakespeare の詩について		
	6 Donne の詩について		
	7 Milton の詩について		
	8 Marvel の詩について		
	9 Blake の詩について		
	10 Wordsworth の詩について		
	11 Keats の詩について		
	12 Shelley の詩について		
	13 現代詩について、まとめ、その他		

03 年度	英語圏の文学・文化概論 b	担当者	島田 啓一
-------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接接触する（小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらい、文学を通じてアメリカの文化を考える。	授業計画	1 概説（授業のやり方、注意事項などの説明を含む）：必ず出席すること。
	米文学史の概略をなぞるが、19 世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60 年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム（文化多元主義）に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。		2 Multiculturalism(1): 概説。Multiculturalism の背景
	このスペースに本当のシラバスを記載することは不可能なので、島田ゼミ HP 内の http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit.htm を参照のこと。		3 Multiculturalism(2): African American Writers と Jewish Writers
評価方法 2 回の中間試験（各 50 点、計 100 点）と定期試験（100 点）、不定期に課す課題 20 点	4 Multiculturalism(3): Jewish Writers ("The First Seven Years")		
テキスト参考文献 板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）	5 [中間試験 1] Modernism(1): Post Modernism と Modernism の作家たち		
	6 Modernism (2): William Faulkner と Yoknapatawpha County		
	7 Modernism (3): William Faulkner と Yoknapatawpha County		
	8 [中間試験 2] Realism(1): Mark Twain から Theodore Dreiser まで		
	9 Realism(2) : "gender/class/race"? Mark Twain の場合 (<u>Adventures of Huckleberry Finn</u>)		
	10 American Renaissance(1) : Emerson, Thoreau, E. A. Poe, Walt Whitman, etc.		
	11 American Renaissance(2) : Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc.		
	12 創世期のアメリカ文学 : Benjamin Franklin, C Brown, W Irving, James Fenimore Cooper, etc.		

01年度以前 02年度	英米文学概論 英米文学概論	担当者	(春) 島田 啓一 (秋) 佐藤 勉
----------------	------------------	-----	--------------------

03年度	英語圏の文学・文化概論 a	担当者	島田 啓一
------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接接触れる（小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらい、文学を通じてアメリカの文化を考える。 米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム（文化多元主義）に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。 このスペースに本当のシラバスを記載することは不可能なので、島田ゼミ HP 内の http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit.htm を参照のこと。	授業計画	1 概説（授業のやり方、注意事項などの説明を含む）：必ず出席すること。	
	評価方法		2 回の中間試験（各 50 点、計 100 点）と定期試験（100 点）、不定期に課す課題 20 点	2 Multiculturalism(1): 概説。Multiculturalism の背景
				3 Multiculturalism(2): African American Writers と Jewish Writers
テキスト参考文献	板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）		4 Multiculturalism(3): Jewish Writers ("The First Seven Years")	
			5 [中間試験 1] Modernism(1): Post Modernism と Modernism の作家たち	
			6 Modernism (2): William Faulkner と Yoknapatawpha County	
			7 Modernism (3): William Faulkner と Yoknapatawpha County	
			8 [中間試験 2] Realism(1): Mark Twain から Theodore Dreiser まで	
			9 Realism(2) : "gender/class/race"? Mark Twain の場合 (<u>Adventures of Huckleberry Finn</u>)	
			10 American Renaissance(1) : Emerson, Thoreau, E. A. Poe, Walt Whitman, etc.	
			11 American Renaissance(2) : Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc.	
			12 創世期のアメリカ文学 : Benjamin Franklin, C Brown, W Irving, James Fenimore Cooper, etc.	

03年度	英語圏の文学・文化概論 b	担当者	佐藤 勉
------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	講義の目的 この講義では文学の意義、とくにイギリス詩の流れを考えながら、中期英語の時代から 20 世紀まで、主たる作家・作品を、物語詩を中心に解説する。それぞれの作品が作者の人生観や思想、その時代の社会をどのようにその物語の中で反映しているかなどについて分かり易く話す予定にしている。 講義概要 配布するハンドアウトに従って作家・作品を解説する。また主要な文学用語についてもできるだけ解説する。限られた時間での講義なので、幾つかの古典的な詩を取り上げて、その文学的特質を述べることになるが、自ずと担当者の好みが入ることになる。各詩人のよく知られた詩を取り上げるが、中心のテーマは物語である。英文学史は易しい英文のハンドアウトを配布して、簡単な理解が得られるようにする。	授業計画	1 イギリスの地理的、文化的背景について	
	評価方法		前期及び後期とも定期試験（さらにレポートの提出もあろうが）によって評価する。	2 Pre - Renaissance から Renaissance に至る詩人について
				3 Chaucer の詩について
テキスト参考文献	テキスト 平易な英文のハンドアウト（テキスト及び参考）を必要に応じて配布する。		4 Spenser の詩について	
			5 Shakespeare の詩について	
			6 Donne の詩について	
			7 Milton の詩について	
			8 Marvel の詩について	
			9 Blake の詩について	
			10 Wordsworth の詩について	
			11 Keats の詩について	
			12 Shelley の詩について	
			13 現代詩について、まとめ、その他	

01年度以前 02年度	英米文学概論 英米文学概論	担当者	(春) 高橋 雄一郎 (秋) 児嶋 一男
----------------	------------------	-----	----------------------

03年度	英語圏の文学・文化概論 a	担当者	高橋 雄一郎
------	---------------	-----	--------

講義目的および講義概要	(アメリカ編) 世界の覇者たる「合州国」の影響の大きさゆえに、私たちは時に「アメリカ」=「アメリカ合州国」と考えてしまうことがあります。アメリカの文学や文化が、「アメリカ合州国」の市民で、それも主に白人で、男性で、しかも異性愛者によって形成されてきたのだと、当然のように信じられてきた時代が長く続きました。でも今は違います。でも、今は違います。 この授業では、北はアラスカから南はアルゼンチンのフエゴ諸島までを含む広大な大陸と、カリブ海や大太平洋に浮かぶ島々までを視野に収め、文学作品の鑑賞だけでなく、歴史、宗教、文化など多角的な視点から「アメリカ」とは何かを考察していきます。	授業計画	1 イントロダクションーアメリカを探して	
	評価方法		宿題、授業中の小テスト、および学期末のレポートによる。	2 現代のアメリカグローバリゼーションの中で
			テキスト参考文献	『早わかりアメリカ』日本実業出版者 『ジョイ・ラック・クラブ』角川文庫/他
		4 ピューリタン社会の伝統		
		5 合州国の民主政治		
		6 マイノリティの権利獲得運動		
		7 フェミニズムの文学と文化		
		8 アフリカ系アメリカ人の文学と文化		
		9 アジア系アメリカ人の文学と文化		
		10 クィアの文学と文化		
		11 アメリカ文学/アメリカ文化の伝統って何だろう？		
		12 自由討論		

03年度	英語圏の文学・文化概論 b	担当者	児嶋 一男
------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	いくつかの英語圏の文学作品を読むことによって、英語表現と日本語表現の相異の妙味を探り、同時に異なる文化状況に置かれた人間の感情の動きについて考察する。 異なる文化環境に生まれ育った人間の言葉と文化背景を追及することによって、それが人間全般の理解へと転化していくことを目標とする。 最初に、主としてイギリス文学史の概略をなぞった後、主に小説作品や、実際の上演舞台を鑑賞できる戯曲作品から、適宜抜粋した箇所(英文)を読み、表現技法と文化背景を考える。 受講生は作品全体を自分で通して読み、その主題を解析して発表する。	授業計画	1 イギリス文学史 1 古期から中世	
	評価方法		レポート2編と講義中の課題。	2 イギリス文学史 2 ルネサンスと沙翁
			テキスト参考文献	プリント配布。 『読み解かれる異文化』と『英米文学ガイド』。
		4 イギリス文学史 4 ヴィクトリア朝と20世紀		
		5 大ヒット・ミュージカルとキリスト教精神 <i>Les Miserables</i> と <i>The Phantom of the Opera</i>		
		6 人間は卑小なものか? Arundhati Roy: <i>The God of Small Things</i>		
		7 人間は本来、善か悪か? <i>The Canterbury Tales</i> と <i>Hamlet</i>		
		8 ラビュタの国とヤフーとは? Jonathan Swift: <i>Gulliver's Travels</i>		
		9 私/僕って何? Michael Ondaatje: <i>The English Patient</i>		
		10 近未来社会はこう予想されていた? <i>Nineteen Eighty-Four</i> と <i>Brave New World</i>		
		11 報道の受け手の責任とは? Ben Elton: <i>Popcorn</i>		
		12 巨匠 James Joyce は言葉遊びの天才?		

01年度以前 02年度	国際コミュニケーション概論(再履修コマ) 国際コミュニケーション概論(再履修コマ)	担当者	(春) 柿田 秀樹 (秋) 金子 芳樹
----------------	--	-----	---------------------

*****	*****	担当者	柿田 秀樹
-------	-------	-----	-------

講義目的 および 講義概要	講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミクスを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。 表象(represent)された言語は政治的であり、表象の代理・代用(re-present)可能性がゆえに、受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏(特にアメリカ)の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなろう。	授業計画	1 Course Orientation
	講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータムの解説を加えながら講義を進めていく。		2 Hollywood and Hypercommercial
	評価方法 定期試験、不定期に課す課題、及び授業への参加度による総合評価		3 Hollywood and Hypercommercial
テキスト 参考文献	初回の授業で指示する。		4 Hollywood and Hypercommercial
			5 Politics, Media and the Public
			6 Politics, Media and the Public
			7 Politics, Media and the Public
			8 Desire, Sexuality and Power in Music Video
			9 Desire, Sexuality and Power in Music Video
			10 Desire, Sexuality and Power in Music Video
			11 Desire, Sexuality and Power in Music Video
			12 Wrap Up

*****	*****	担当者	金子 芳樹
-------	-------	-----	-------

講義目的 および 講義概要	講義目的 国際社会における様々な主体(国家、国際機関、NGO)の間の関係について、その仕組み・構造やコミュニケーションのあり方を多角的に学ぶ。「冷戦」という国際関係のフレームワークが長い間維持されてきたが、1980年代末にこの構造が崩壊し、その後、世界の各地域で新しいタイプの紛争や新たな国際秩序を模索する動きが起こっている。本講義では、変化が激しく不透明な現代の国際社会を理解し、自らの視点と判断力を養うために必要な国際関係の基礎的知識と分析方法の習得を目指す。	授業計画	1 国際関係論とは—国家と国際社会
	講義概要 1. 冷戦時代の国際関係の基本構造と歴史的展開を説明し、同時に国際関係論の基礎理論を解説する。 2. 冷戦崩壊後(ポスト冷戦期)に起きている幾つかの事象(ヒト・モノ・カネ・情報のボーダレス化・グローバル化の現象)を取り上げ、歴史的背景の説明、現状分析などを盛り込みながら、国際社会の構造変化について検討する。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。		2 冷戦の構造(1) — 構造
	評価方法 学期中1回のレポートと学期末試験を評価対象とする。レポートは、指定されたテーマに沿って2千字以上、ワープロを用いて書き、e-mailにて提出する。		3 冷戦の構造(2) — 起源と特徴
テキスト 参考文献	テキスト:特に指定しない。 参考文献:長谷川雄一・高杉忠明編著『新版 現代の国際政治』(ミネルヴァ書房、2002年)ほか。		4 冷戦の構造(3) — 崩壊
			5 冷戦の展開(1) — ヨーロッパの緊張
			6 冷戦の展開(2) — 朝鮮半島の分断
			7 冷戦の展開(3) — ベトナム戦争
			8 ポスト冷戦期の現象 — グローバル化の影響(1)
			9 ポスト冷戦期の現象 — グローバル化の影響(2)
			10 ポスト冷戦期の現象 — グローバル化の影響(3)
			11 ポスト冷戦期の現象 — グローバル化の影響(4)
			12 ポスト冷戦期の現象 — グローバル化の影響(5)

01年度以前 02年度	国際コミュニケーション概論 (再履修コマ) 国際コミュニケーション概論 (再履修コマ)	担当者	(春) 金子 芳樹 (秋) 鍋倉 健悦
----------------	--	-----	---------------------

*****	*****	担当者	金子 芳樹
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的 国際社会における様々な主体（国家、国際機関、NGO）の間の関係について、その仕組み・構造やコミュニケーションのあり方を多角的に学ぶ。「冷戦」という国際関係のフレームワークが長い間維持されてきたが、1980年代末にこの構造が崩壊し、その後、世界の各地域で新しいタイプの紛争や新たな国際秩序を模索する動きが起こっている。本講義では、変化が激しく不透明な現代の国際社会を理解し、自らの視点と判断力を養うために必要な国際関係の基礎的知識と分析方法の習得を目指す。</p> <p>講義概要 1. 冷戦時代の国際関係の基本構造と歴史的展開を説明し、同時に国際関係論の基礎理論を解説する。 2. 冷戦崩壊後（ポスト冷戦期）に起きている幾つかの事象（ヒト・モノ・カネ・情報のボーダレス化・グローバル化の現象）を取り上げ、歴史的背景の説明、現状分析などを盛り込みながら、国際社会の構造変化について検討する。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	授業計画	1 国際関係論とは－国家と国際社会	
	評価方法		<p>学期中1回のレポートと学期末試験を評価対象とする。レポートは、指定されたテーマに沿って2千字以上、ワープロを用いて書き、e-mailにて提出する。</p>	2 冷戦の構造(1) － 構造
			テキスト参考文献	<p>テキスト：特に指定しない。 参考文献：長谷川雄一・高杉忠明編著『新版 現代の国際政治』（ミネルヴァ書房、2002年）ほか。</p>
			4 冷戦の構造(3) － 崩壊	
			5 冷戦の展開(1) － ヨーロッパの緊張	
			6 冷戦の展開(2) － 朝鮮半島の分断	
			7 冷戦の展開(3) － ベトナム戦争	
			8 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(1)	
			9 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(2)	
			10 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(3)	
			11 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(4)	
			12 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(5)	

*****	*****	担当者	鍋倉 健悦
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>コミュニケーションとは何なのか、 そしてコミュニケーションと文化は どのようなつながりを持っているの か、というようなことを学んでいく のが本講座の目的です。 講義はコミュニケーション全般について話をしますが、中心テーマは 異文化間コミュニケーションであり、 文化の違いがコミュニケーションの 仕方にもどのような影響をおよぼす のかというのを学んでいきます。</p>	授業計画	1 授業の趣め方等の説明	
	評価方法		レポートもしくはテスト	2 コミュニケーションとは何か
			テキスト参考文献	異文化間コミュニケーション入門 (丸善ライブラリー)
			4 コミュニケーション論の種類Ⅱ	
			5 異文化間コミュニケーションの背景	
			6 異文化間コミュニケーションの体験	
			7 文化とコミュニケーション	
			8 非言語コミュニケーション	
			9 言語と文化的認識	
			10 言語の影響力	
			11 カルチャー・ショック	
			12 より効果的なコミュニケーション	

01年度以前 02年度	国際コミュニケーション概論 (再履修コマ) 国際コミュニケーション概論 (再履修コマ)	担当者	(春) 鍋倉 健悦 (秋) 永野 隆行
----------------	--	-----	---------------------

*****	*****	担当者	鍋倉 健悦
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	コミュニケーションとは何なのか、そしてコミュニケーションと文化はどのような関係にあるのか、というようなことを学んでいくのが本講義の目的です。 講義はコミュニケーション全般について話をしますが、本講義の中心テーマは異文化間コミュニケーションであり、文化の違いがコミュニケーションの仕方などにどのような影響をおよぼすのかということを学んでいきます。	授業計画	1	授業の進め方の説明	
	評価方法		レポートもしくはリスト	2	コミュニケーションとは何か
			テキスト参考文献 『異文化間コミュニケーション入門』(菅野イブリー)	3	コミュニケーション論の種類Ⅰ
4	コミュニケーション論の種類Ⅱ				
5	異文化間コミュニケーションの背景				
6	異文化間コミュニケーションの体験				
7	文化とコミュニケーション				
8	非言語コミュニケーション				
9	言語と文化的認識				
10	言語の影響力				
11	カルチャー・ショック				
12	より効果的なコミュニケーション				

*****	*****	担当者	永野 隆行
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。 本講義は2部構成となっている。本講義の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明した上で本論にはいる。第一部では冷戦時代の国際政治を概観し、続いて第二部ではポスト冷戦期の国際関係、特にアジア地域の国際関係について論じることとする。なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく。毎回の講義の冒頭では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設ける。 なお、本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えること。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けているので、積極的に利用して欲しい。	授業計画	①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？(その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)	
	評価方法		二回のレポート(各50点)による評価とする。	②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？
			テキスト参考文献 小島朋之・竹田いさみ共編『東アジアの安全保障』南窓社、2002年。	③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？
	④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？			
	⑤相互依存と国際関係～グローバリゼーションは国際関係にどんな変化をもたらしたのか？			
	⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？			
	⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？			
	⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？			
	⑨アジア太平洋の安全保障②～中国とロシア			
	⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカとイギリス			
	⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢			
	⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア			
	⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本			
以上の計画はあくまでも予定です。学生さんからの要望などに応じて臨機応変に対応します。				

01年度以前 02年度	国際コミュニケーション概論 (再履修コマ) 国際コミュニケーション概論 (再履修コマ)	担当者	(春) 八丁 由比 (秋) 町田 喜義
----------------	--	-----	---------------------

*****	*****	担当者	八丁 由比
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標： 国際社会で起こっている出来事を、「国際関係論」を通して見ると、どのように見えるか？ 本講義では、国際社会の歴史的な流れと、国際関係論の基礎知識を学ぶことを目標とする。これにより、国際政治を理解するために必要なバックグラウンドと視角を習得する。</p> <p>講義概要： 1. 国際関係全般に対する関心を高めるために、講義の冒頭で時事問題を紹介し、考察を行う。 2. テキストを用いて国際政治の歴史的流れを学びながら、その流れを作り出した国際政治構造、行為主体、さらには考え方などについて学習する。また、それらの特徴を体系化した理論を学ぶ。</p>	授業計画	1. 講義の概要説明・アンケート 2. 国際関係論とはどのような学問なのか？ 3. 第一次世界大戦はなぜ起こり、どのように終わったのか？ 4. 「危機の20年」とは？ 5. 第二次世界大戦の政治と外交～「戦争の政治」とは？ 6. 冷戦はどのように始まったのか？歴史とは？ 7. 冷戦はなぜ続いたのか？ 8. デタント(緊張緩和)とは？ 9. 冷戦の時代は米ソ対立だけだったのか？ 10. 冷戦とは何であったのか？ 11. 冷戦後の世界を考える① 12. 冷戦後の世界を考える②
	評価方法		出席状況、テスト、レポート (詳しくは講義で説明)
	テキスト参考文献		石井修 『国際政治史としての20世紀』有信堂、2000年。

*****	*****	担当者	町田 喜義
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>目的：異文化間コミュニケーション入門として、受講生の過去・現在・近未来の異文化経験やコミュニケーション行動目標の設定支援。</p> <p>概要：日本は長い間、人種的に同質であったことが指摘されている。要するに同様な信条、価値観、そして行動を共有すると言われる。しかし、このような文化的同質性に対する挑戦が始まっている。それらに関わる側面をカナダ、韓国を例にして講義する。 併せて、受講生のグループによる討議・研究・レポート (GW) なども課す。出席は取らないが、欠席によって被る不利益は各自の責任となることを意識すること。</p>	授業計画	1 講義内容・GWの説明、その他。 2 「文化」の定義を参照しながら、日本文化を再確認・再検討する。 3 「コミュニケーション」の定義を参照しながら、日本人のコミュニケーション行動を再確認・再検討する。 4 文化的同質性への挑戦の具体例① 5 文化的同質性への挑戦の具体例② 6 アメリカ・カナダ文化比較① 7 アメリカ・カナダ文化比較② 8 アメリカ・カナダ文化比較③ 9 韓国・日本文化比較① 10 韓国・日本文化比較② 11 韓国・日本文化比較③ 12 まとめ
	評価方法		筆記試験 (50%) グループレポート (50%)
	テキスト参考文献		テキストは使用しない。参考文献は開講初日に配布する。

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03年度	文化コミュニケーション概論 a	担当者	柿田 秀樹
------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミクスを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに、受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏(特にアメリカ)の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなろう。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータムの解説を加えながら講義を進めていく。</p>	授業計画	1 Course Orientation
			2 Hollywood and Hypercommercial
			3 Hollywood and Hypercommercial
	4 Hollywood and Hypercommercial		
	5 Politics, Media and the Public		
	6 Politics, Media and the Public		
	7 Politics, Media and the Public		
	8 Desire, Sexuality and Power in Music Video		
	9 Desire, Sexuality and Power in Music Video		
	10 Desire, Sexuality and Power in Music Video		
	11 Desire, Sexuality and Power in Music Video		
	12 Wrap Up		
評価方法	定期試験、不定期に課す課題、及び授業への参加度による総合評価		
テキスト参考文献	初回の授業で指示する。		

03年度	文化コミュニケーション概論 b	担当者	鍋倉 健悦
------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>コミュニケーションとは何なのか、そしてコミュニケーションと文化はどのようなつながりを持っているのか、というように学んでいくのが本講義の目的です。</p> <p>講義はコミュニケーション全般について話をしますが、中心テーマは異文化間コミュニケーションであり、文化の差がコミュニケーションの仕方などにどのような影響をおよぼすのかという点を学んでいきます。</p>	授業計画	1 授業の趣めや算の説明
			2 コミュニケーションとは何か
			3 コミュニケーション論の種類Ⅰ
		4 コミュニケーション論の種類Ⅱ	
		5 異文化間コミュニケーションの背景	
		6 異文化間コミュニケーションの体験	
		7 文化とコミュニケーション	
		8 非言語コミュニケーション	
		9 言語と文化的認識	
		10 言語の影響力	
		11 カルチャー・ショック	
		12 より効果的なコミュニケーション	
評価方法	レポートもしくはテスト		
テキスト参考文献	『異文化間コミュニケーション入門』(丸善ライブラリー)		

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03年度	文化コミュニケーション概論 a	担当者	柿田 秀樹
------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的</p> <p>映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミクスを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに、受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏 (特にアメリカ) の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要</p> <p>講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キーマムの解説を加えながら講義を進めていく。</p>	授業計画	1 Course Orientation
	2 Hollywood and Hypercommercial		
	3 Hollywood and Hypercommercial		
	4 Hollywood and Hypercommercial		
5 Politics, Media and the Public			
6 Politics, Media and the Public			
7 Politics, Media and the Public			
8 Desire, Sexuality and Power in Music Video			
9 Desire, Sexuality and Power in Music Video			
10 Desire, Sexuality and Power in Music Video			
11 Desire, Sexuality and Power in Music Video			
12 Wrap Up			
評価方法	定期試験、不定期に課す課題、及び授業への参加度による総合評価		
テキスト参考文献	初回の授業で指示する。		

03年度	文化コミュニケーション概論 b	担当者	町田 喜義
------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>目的：異文化間コミュニケーション入門として、受講生の過去・現在・近未来の異文化経験やコミュニケーション行動目標の設定支援。</p> <p>概要：日本は長い間、人種的に同質であったことが指摘されている。要するに同様な信条、価値観、そして行動を共有すると言われる。しかし、このような文化的同質性に対する挑戦が始まっている。それらに関わる側面をカナダ、韓国を例にして講義する。</p> <p>併せて、受講生のグループによる討議・研究・レポート (GW) なども課す。出席は取らないが、欠席によって被る不利益は各自の責任となることを意識すること。</p>	授業計画	1 講義内容・GWの説明、その他。
	2 「文化」の定義を参照しながら、日本文化を再確認・再検討する。		
	3 「コミュニケーション」の定義を参照しながら、日本人のコミュニケーション行動を再確認・再検討する。		
	4 文化的同質性への挑戦の具体例①		
5 文化的同質性への挑戦の具体例②			
6 アメリカ・カナダ文化比較①			
7 アメリカ・カナダ文化比較②			
8 アメリカ・カナダ文化比較③			
9 韓国・日本文化比較①			
10 韓国・日本文化比較②			
11 韓国・日本文化比較③			
12 まとめ			
評価方法	筆記試験 (50%) グループレポート (50%)		
テキスト参考文献	テキストは使用しない。参考文献は開講初日に配布する。		

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03年度	文化コミュニケーション概論 a	担当者	鍋倉 健悦
------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>コミュニケーションとは何なのか、そしてコミュニケーションと文化とはどのような関係にあっていっているのか、というようなことを学んでいくのが本講義の目的です。</p> <p>講義はコミュニケーション全般について話をしますが、本講義の中心テーマは異文化間コミュニケーションであり、文化の違いがコミュニケーションの仕方とどのような影響をおよぼすのかということを学んでいきます。</p>	授業計画	1	授業の進め方の説明
			2	コミュニケーションとは何か
			3	コミュニケーション論の種類 I
			4	コミュニケーション論の種類 II
			5	異文化間コミュニケーションの背景
			6	異文化間コミュニケーションの体験
			7	文化とコミュニケーション
			8	非言語コミュニケーション
			9	言語と文化的認識
			10	言語の影響力
			11	カルチャー・ショック
			12	より効果的なコミュニケーション

評価方法	レポートもしく、テスト
テキスト参考文献	異文化間コミュニケーション入門 (菅野イブツリ)

03年度	文化コミュニケーション概論 b	担当者	柿田 秀樹
------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的</p> <p>映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミクスを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに、受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏 (特にアメリカ) の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要</p> <p>講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータムの解説を加えながら講義を進めていく。</p>	授業計画	1	Course Orientation
			2	Hollywood and Hypercommercial
			3	Hollywood and Hypercommercial
			4	Hollywood and Hypercommercial
			5	Politics, Media and the Public
			6	Politics, Media and the Public
			7	Politics, Media and the Public
			8	Desire, Sexuality and Power in Music Video
			9	Desire, Sexuality and Power in Music Video
			10	Desire, Sexuality and Power in Music Video
			11	Desire, Sexuality and Power in Music Video
			12	Wrap Up

評価方法	定期試験、不定期に課す課題、及び授業への参加度による総合評価
テキスト参考文献	初回の授業で指示する。

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03 年度	国際コミュニケーション概論 a	担当者	八丁 由比
-------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標： 国際社会で起こっている出来事を、「国際関係論」を通して見ると、どのように見えるか？ 本講義では、国際社会の歴史的な流れと、国際関係論の基礎知識を学ぶことを目標とする。これにより、国際政治を理解するために必要なバックグラウンドと視角を習得する。</p> <p>講義概要： 1. 国際関係全般に対する関心を高めるために、講義の冒頭で時事問題を紹介し、考察を行う。 2. テキストを用いて国際政治の歴史的流れを学びながら、その流れを作り出した国際政治構造、行為主体、さらには考え方などについて学習する。また、それらの特徴を体系化した理論を学ぶ。</p>	授業計画	<p>1. 講義の概要説明・アンケート</p> <p>2. 国際関係論とはどのような学問なのか？</p> <p>3. 第一次世界大戦はなぜ起こり、どのように終わったのか？</p> <p>4. 「危機の 20 年」とは？</p> <p>5. 第二次世界大戦の政治と外交～「戦争の政治」とは？</p> <p>6. 冷戦はどのように始まったのか？歴史とは？</p> <p>7. 冷戦はなぜ続いたのか？</p> <p>8. デタント(緊張緩和)とは？</p> <p>9. 冷戦の時代は米ソ対立だけだったのか？</p> <p>10. 冷戦とは何であったのか？</p> <p>11. 冷戦後の世界を考える①</p> <p>12. 冷戦後の世界を考える②</p>
	評価方法		出席状況、テスト、レポート（詳しくは講義で説明）
	テキスト参考文献		石井修 『国際政治史としての 20 世紀』有信堂、2000 年。

03 年度	国際コミュニケーション概論 b	担当者	永野 隆行
-------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p> <p>本講義は2部構成となっている。本講義の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明した上で本論にはいる。第一部では冷戦時代の国際政治を概観し、続いて第二部ではポスト冷戦期の国際関係、特にアジア地域の国際関係について論じることとする。なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく。毎回の講義の冒頭では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設ける。</p> <p>なお、本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えること。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けているので、積極的に利用して欲しい。</p>	授業計画	<p>①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？(その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)</p> <p>②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？</p> <p>③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？</p> <p>④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？</p> <p>⑤相互依存と国際関係～グローバル化は国際関係にどんな変化をもたらしたのか？</p> <p>⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？</p> <p>⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？</p> <p>⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？</p> <p>⑨アジア太平洋の安全保障②～中国とロシア</p> <p>⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカとイギリス</p> <p>⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢</p> <p>⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア</p> <p>⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本</p> <p>以上の計画はあくまでも予定です。学生さんからの要望などに応じて臨機応変に対応します。</p>
	評価方法		二回のレポート(各 50 点)による評価とする。
	テキスト参考文献		小島朋之・竹田いさみ共編『東アジアの安全保障』南窓社、2002 年。

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03年度	国際コミュニケーション概論 a	担当者	八丁 由比
------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標： 国際社会で起こっている出来事を、「国際関係論」を通して見ると、どのように見えるか？ 本講義では、国際社会の歴史的な流れと、国際関係論の基礎知識を学ぶことを目標とする。これにより、国際政治を理解するために必要なバックグラウンドと視角を習得する。</p> <p>講義概要： 1. 国際関係全般に対する関心を高めるために、講義の冒頭で時事問題を紹介し、考察を行う。 2. テキストを用いて国際政治の歴史的流れを学びながら、その流れを作り出した国際政治構造、行為主体、さらには考え方などについて学習する。また、それらの特徴を体系化した理論を学ぶ。</p>	授業計画	1. 講義の概要説明・アンケート 2. 国際関係論とはどのような学問なのか？ 3. 第一次世界大戦はなぜ起こり、どのように終わったのか？ 4. 「危機の20年」とは？ 5. 第二次世界大戦の政治と外交～「戦争の政治」とは？ 6. 冷戦はどのように始まったのか？歴史とは？ 7. 冷戦はなぜ続いたのか？ 8. デタント(緊張緩和)とは？ 9. 冷戦の時代は米ソ対立だけだったのか？ 10. 冷戦とは何であったのか？ 11. 冷戦後の世界を考える① 12. 冷戦後の世界を考える②
	評価方法		出席状況、テスト、レポート（詳しくは講義で説明）
	テキスト参考文献		石井修 『国際政治史としての20世紀』有信堂、2000年。

03年度	国際コミュニケーション概論 b	担当者	金子 芳樹
------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的 国際社会における様々な主体（国家、国際機関、NGO）の間の関係について、その仕組み・構造やコミュニケーションのあり方を多角的に学ぶ。「冷戦」という国際関係のフレームワークが長い間維持されてきたが、1980年代末にこの構造が崩壊し、その後、世界の各地域で新しいタイプの紛争や新たな国際秩序を模索する動きが起こっている。本講義では、変化が激しく不透明な現代の国際社会を理解し、自らの視点と判断力を養うために必要な国際関係の基礎的知識と分析方法の習得を目指す。</p> <p>講義概要 1. 冷戦時代の国際関係の基本構造と歴史的展開を説明し、同時に国際関係論の基礎理論を解説する。 2. 冷戦崩壊後（ポスト冷戦期）に起きている幾つかの事象（ヒト・モノ・カネ・情報のボーダレス化・グローバル化の現象）を取り上げ、歴史的背景の説明、現状分析などを盛り込みながら、国際社会の構造変化について検討する。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	授業計画	1 国際関係論とは－国家と国際社会 2 冷戦の構造(1) － 構造 3 冷戦の構造(2) － 起源と特徴 4 冷戦の構造(3) － 崩壊 5 冷戦の展開(1) － ヨーロッパの緊張 6 冷戦の展開(2) － 朝鮮半島の分断 7 冷戦の展開(3) － ベトナム戦争 8 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(1) 9 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(2) 10 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(3) 11 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(4) 12 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(5)
	評価方法		学期中1回のレポートと学期末試験を評価対象とする。レポートは、指定されたテーマに沿って2千字以上、ワープロを用いて書き、e-mailにて提出する。
	テキスト参考文献		テキスト：特に指定しない。 参考文献：長谷川雄一・高杉忠明編著『新版 現代の国際政治』（ミネルヴァ書房、2002年）ほか。

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03 年度	国際コミュニケーション概論 a	担当者	金子 芳樹
-------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	講義目的 国際社会における様々な主体（国家、国際機関、NGO）の間の関係について、その仕組み・構造やコミュニケーションのあり方を多角的に学ぶ。「冷戦」という国際関係のフレームワークが長い間維持されてきたが、1980年代末にこの構造が崩壊し、その後、世界の各地域で新しいタイプの紛争や新たな国際秩序を模索する動きが起こっている。本講義では、変化が激しく不透明な現代の国際社会を理解し、自らの視点と判断力を養うために必要な国際関係の基礎的知識と分析方法の習得を目指す。	授業計画	1 国際関係論とは－国家と国際社会
	講義概要 1. 冷戦時代の国際関係の基本構造と歴史的展開を説明し、同時に国際関係論の基礎理論を解説する。 2. 冷戦崩壊後（ポスト冷戦期）に起きている幾つかの事象（ヒト・モノ・カネ・情報のボーダレス化・グローバル化の現象）を取り上げ、歴史的背景の説明、現状分析などを盛り込みながら、国際社会の構造変化について検討する。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。		2 冷戦の構造(1) － 構造
	評価方法 学期中1回のレポートと学期末試験を評価対象とする。レポートは、指定されたテーマに沿って2千字以上、ワープロを用いて書き、e-mailにて提出する。		3 冷戦の構造(2) － 起源と特徴
	テキスト参考文献 テキスト：特に指定しない。 参考文献：長谷川雄一・高杉忠明編著『新版 現代の国際政治』（ミネルヴァ書房、2002年）ほか。		4 冷戦の構造(3) － 崩壊
			5 冷戦の展開(1) － ヨーロッパの緊張
			6 冷戦の展開(2) － 朝鮮半島の分断
			7 冷戦の展開(3) － ベトナム戦争
			8 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(1)
			9 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(2)
			10 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(3)
			11 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(4)
			12 ポスト冷戦期の現象 － グローバル化の影響(5)

03 年度	国際コミュニケーション概論 b	担当者	永野 隆行
-------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。 本講義は2部構成となっている。本講義の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明した上で本論にはいる。第一部では冷戦時代の国際政治を概観し、続いて第二部ではポスト冷戦期の国際関係、特にアジア地域の国際関係について論じることとする。なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく。毎回の講義の冒頭では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設ける。 なお、本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えること。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けているので、積極的に利用して欲しい。	授業計画	①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？（その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など）
	評価方法 二回のレポート(各50点)による評価とする。		②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？
	テキスト参考文献 小島朋之・竹田いさみ共編『東アジアの安全保障』南窓社、2002年。		③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？
			④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？
			⑤相互依存と国際関係～グローバル化は国際関係にどんな変化をもたらしたのか？
			⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？
			⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？
			⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？
			⑨アジア太平洋の安全保障②～中国とロシア
			⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカとイギリス
			⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢
			⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア
			⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本 以上の計画はあくまでも予定です。学生さんからの要望などに応じて臨機応変に対応します。

01年度以前 02年度	英語音声学 (半期完結) 英語音声学 (半期完結)	担当者	大竹 孝司
----------------	------------------------------	-----	-------

03年度	英語音声学	担当者	大竹 孝司
------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>オウムや九官鳥は、人の言葉を何度か聞かせると直にまねることができるのに対して、人は外国語を何度聞いてもまねることができないのは何故なのであろうか。近年の先端研究から少なくとも次の2つの理由をあげることができるであろう。1つ目は、我々の頭の中には母語の音体系は存在するが、外国語の音体系は存在していないからである。2つ目は、人は母語の音体系によって外国語の音声を解釈する傾向があるからである。</p> <p>本講義では、これらのことを念頭におきながら、英語音声の基礎知識を学習すると共に日本語話者が英語音声をどのように認知するかという問題を論ずる。受講生が発音と聴解の両面で直面するであろう諸問題を具体的に解決する練習方法についても論ずる。このように本講義では、教科書に書かれた基礎知識の学習にとどまらず、外国語音声による実験を体験しながら理解を深化することにする。</p>	授 業 計 画	1 講義概要の説明
			2 音声言語の特徴と音声記号
			3 発音器官の仕組み
			4 英語の母音 I (母音の分類法)
			5 英語の母音 II (母音の発音と知覚)
			6 英語の子音 I (子音の分類法)
			7 英語の子音 II (子音の発音と知覚)
			8 英語の単語内の音韻単位 (音素と音節) とその知覚
			9 英語の強勢構造の仕組みと発音練習
			10 英語のリズムの構造と発音練習 I
評価方法	定期試験、課題、クイズによって決める。		11 英語のリズムの構造と発音練習 II
テキスト参考文献	英語で書かれたプリントをテキストとして配布		12 英語の音変化と発音練習

03年度	英語音声学	担当者	大竹 孝司
------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>オウムや九官鳥は、人の言葉を何度か聞かせると直にまねることができるのに対して、人は外国語を何度聞いてもまねることができないのは何故なのであろうか。近年の先端研究から少なくとも次の2つの理由をあげることができるであろう。1つ目は、我々の頭の中には母語の音体系は存在するが、外国語の音体系は存在していないからである。2つ目は、人は母語の音体系によって外国語の音声を解釈する傾向があるからである。</p> <p>本講義では、これらのことを念頭におきながら、英語音声の基礎知識を学習すると共に日本語話者が英語音声をどのように認知するかという問題を論ずる。受講生が発音と聴解の両面で直面するであろう諸問題を具体的に解決する練習方法についても論ずる。このように本講義では、教科書に書かれた基礎知識の学習にとどまらず、外国語音声による実験を体験しながら理解を深化することにする。</p>	授 業 計 画	1 講義概要の説明
			2 音声言語の特徴と音声記号
			3 発音器官の仕組み
			4 英語の母音 I (母音の分類法)
			5 英語の母音 II (母音の発音と知覚)
			6 英語の子音 I (子音の分類法)
			7 英語の子音 II (子音の発音と知覚)
			8 英語の単語内の音韻単位 (音素と音節) とその知覚
			9 英語の強勢構造の仕組みと発音練習
			10 英語のリズムの構造と発音練習 I
評価方法	定期試験、課題、クイズによって決める。		11 英語のリズムの構造と発音練習 II
テキスト参考文献	英語で書かれたプリントをテキストとして配布		12 英語の音変化と発音練習

01年度以前 02年度	英語音声学 (半期完結) 英語音声学 (半期完結)	担当者	大西 雅行
----------------	------------------------------	-----	-------

03年度	英語音声学	担当者	大西 雅行
------	-------	-----	-------

<p>講義の目標</p> <p>英語に現れる一般的な音声現象や英語特有の音声変化を解説し、英語を聞く、話す能力の向上に役立てる。言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>講義概要</p> <p>音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類、英語音の各論、日英米音の差異、英語の韻律特徴など通常の発話に必要な現象を講義する。音声理論に合わせ、視聴覚機器を使い実際音にも触れる。</p> <p>テキスト</p> <p>なし。</p> <p>評価方法</p> <p>期末テストによる</p>	<p style="text-align: center;">年間授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の標準語と標準音 2. 発音器官の部位と機能 3. 音声の表記法 4. 母音の定義と分類 5. 英語の単母音 6. 英語の二重母音、三重母音 7. 英語の子音分類 8. 破裂音、破擦音、 9. 鼻音、側音、摩擦音、半母音 10. 連続音中の音変化 11. 強勢、リズム 12. 長音、イントネーション
---	---

03年度	英語音声学	担当者	大西 雅行
------	-------	-----	-------

<p>講義の目標</p> <p>英語に現れる一般的な音声現象や英語特有の音声変化を解説し、英語を聞く、話す能力の向上に役立てる。言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>講義概要</p> <p>音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類、英語音の各論、日英米音の差異、英語の韻律特徴など通常の発話に必要な現象を講義する。音声理論に合わせ、視聴覚機器を使い実際音にも触れる。</p> <p>テキスト</p> <p>なし。</p> <p>評価方法</p> <p>期末テストによる</p>	<p style="text-align: center;">年間授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の標準語と標準音 2. 発音器官の部位と機能 3. 音声の表記法 4. 母音の定義と分類 5. 英語の単母音 6. 英語の二重母音、三重母音 7. 英語の子音分類 8. 破裂音、破擦音、 9. 鼻音、側音、摩擦音、半母音 10. 連続音中の音変化 11. 強勢、リズム 12. 長音、イントネーション
---	---

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03年度	スピーチクリニック	担当者	浅岡 千利世
------	-----------	-----	--------

講義目的および講義概要	英語の音を聞き取り、自分でも自信を持って発話できるようになることを目的とする。	授業計画	1 Introduction to course
	さまざまな音を聞き、自分でも正確に発音できるような訓練を行う。前半は単語レベル、徐々にセンテンスレベル、談話レベルの発音を練習する。また実際の会話の流れの中での発音の重要性を学ぶ。		2 Reading phonetic symbols
	この授業はペアワーク、グループワークを含めてすべて英語で行われる。		3 Vowels
授業内容を復習したい学生はテープまたはMDを持参すること。	4 Vowels and consonants		
この授業は受講指定された学生対象に開講される。指定されていない学生が受講を希望する場合は担当教員に必ず相談すること。	5 Quiz 1, Consonants		
評価方法	出席、小テスト、テーププロジェクト、授業参加態度などを総合して評価する。		6 Rhythm
			7 Connected speech, Thought groups
テキスト参考文献	"Pronunciation Plus -Practice Through Interaction", M. Hewings & S. Goldstein (Cambridge Univ. Press)		8 Quiz 2, Linking words
			9 Disappearing sounds Prominent words
			10 More on prominent and nonprominent words
			11 Weak and strong forms, Long and short forms
			12 Quiz 3, Wrap-up activity Due: tape project

03年度	スピーチクリニック	担当者	浅岡 千利世
------	-----------	-----	--------

講義目的および講義概要	英語の音を聞き取り、自分でも自信を持って発話できるようになることを目的とする。	授業計画	1 Introduction to course
	さまざまな音を聞き、自分でも正確に発音できるような訓練を行う。前半は単語レベル、徐々にセンテンスレベル、談話レベルの発音を練習する。また実際の会話の流れの中での発音の重要性を学ぶ。		2 Reading phonetic symbols
	この授業はペアワーク、グループワークを含めてすべて英語で行われる。		3 Vowels
授業内容を復習したい学生はテープまたはMDを持参すること。	4 Vowels and consonants		
この授業は受講指定された学生対象に開講される。指定されていない学生が受講を希望する場合は担当教員に必ず相談すること。	5 Quiz 1, Consonants		
評価方法	出席、小テスト、テーププロジェクト、授業参加態度などを総合して評価する。		6 Rhythm
			7 Connected speech, Thought groups
テキスト参考文献	"Pronunciation Plus -Practice Through Interaction", M. Hewings & S. Goldstein (Cambridge Univ. Press)		8 Quiz 2, Linking words
			9 Disappearing sounds Prominent words
			10 More on prominent and nonprominent words
			11 Weak and strong forms, Long and short forms
			12 Quiz 3, Wrap-up activity Due: tape project

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03年度	スピーチ・クリニック	担当者	大西 雅行
------	------------	-----	-------

	<p>講義の目標 正しい米語発音の習得を目指す。</p> <p>講義概要 発音矯正と訓練を主にした授業で、音声理論は訓練の補助として多少説明するに留める。人数制限をしているので発音練習の機会が多い。 LL教室でLD、ビデオ、オーディオ・テープなどの視聴覚教材も使う。</p> <p>テキスト なし。</p> <p>評価方法 平常点と期末のテスト</p>	<p>年間授業計画：</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">1. 呼吸法と発声法</td><td style="width: 20%;"></td></tr> <tr><td>2. 前母音</td><td>ストレスー1</td></tr> <tr><td>3. 後母音</td><td>ストレスー2</td></tr> <tr><td>4. 中母音</td><td>リズムー1</td></tr> <tr><td>5. r 音色の母音</td><td>リズムー2</td></tr> <tr><td>6. 二重母音</td><td>リズムー3</td></tr> <tr><td>7. 無声破裂子音</td><td>イントネーションー1</td></tr> <tr><td>8. 有声破裂子音</td><td>イントネーションー2</td></tr> <tr><td>9. 無声摩擦子音</td><td>イントネーションー3</td></tr> <tr><td>10. 有声摩擦子音</td><td>音の長さ</td></tr> <tr><td>11. 破擦子音</td><td>プロミネンスー1</td></tr> <tr><td>12. 鼻音と側音</td><td>プロミネンスー2</td></tr> </table>	1. 呼吸法と発声法		2. 前母音	ストレスー1	3. 後母音	ストレスー2	4. 中母音	リズムー1	5. r 音色の母音	リズムー2	6. 二重母音	リズムー3	7. 無声破裂子音	イントネーションー1	8. 有声破裂子音	イントネーションー2	9. 無声摩擦子音	イントネーションー3	10. 有声摩擦子音	音の長さ	11. 破擦子音	プロミネンスー1	12. 鼻音と側音	プロミネンスー2
1. 呼吸法と発声法																										
2. 前母音	ストレスー1																									
3. 後母音	ストレスー2																									
4. 中母音	リズムー1																									
5. r 音色の母音	リズムー2																									
6. 二重母音	リズムー3																									
7. 無声破裂子音	イントネーションー1																									
8. 有声破裂子音	イントネーションー2																									
9. 無声摩擦子音	イントネーションー3																									
10. 有声摩擦子音	音の長さ																									
11. 破擦子音	プロミネンスー1																									
12. 鼻音と側音	プロミネンスー2																									

03年度	スピーチ・クリニック	担当者	大西 雅行
------	------------	-----	-------

	<p>講義の目標 正しい米語発音の習得を目指す。</p> <p>講義概要 発音矯正と訓練を主にした授業で、音声理論は訓練の補助として多少説明するに留める。人数制限をしているので発音練習の機会が多い。 LL教室でLD、ビデオ、オーディオ・テープなどの視聴覚教材も使う。</p> <p>テキスト なし。</p> <p>評価方法 平常点と期末のテスト</p>	<p>年間授業計画：</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">1. 呼吸法と発声法</td><td style="width: 20%;"></td></tr> <tr><td>2. 前母音</td><td>ストレスー1</td></tr> <tr><td>3. 後母音</td><td>ストレスー2</td></tr> <tr><td>4. 中母音</td><td>リズムー1</td></tr> <tr><td>5. r 音色の母音</td><td>リズムー2</td></tr> <tr><td>6. 二重母音</td><td>リズムー3</td></tr> <tr><td>7. 無声破裂子音</td><td>イントネーションー1</td></tr> <tr><td>8. 有声破裂子音</td><td>イントネーションー2</td></tr> <tr><td>9. 無声摩擦子音</td><td>イントネーションー3</td></tr> <tr><td>10. 有声摩擦子音</td><td>音の長さ</td></tr> <tr><td>11. 破擦子音</td><td>プロミネンスー1</td></tr> <tr><td>12. 鼻音と側音</td><td>プロミネンスー2</td></tr> </table>	1. 呼吸法と発声法		2. 前母音	ストレスー1	3. 後母音	ストレスー2	4. 中母音	リズムー1	5. r 音色の母音	リズムー2	6. 二重母音	リズムー3	7. 無声破裂子音	イントネーションー1	8. 有声破裂子音	イントネーションー2	9. 無声摩擦子音	イントネーションー3	10. 有声摩擦子音	音の長さ	11. 破擦子音	プロミネンスー1	12. 鼻音と側音	プロミネンスー2
1. 呼吸法と発声法																										
2. 前母音	ストレスー1																									
3. 後母音	ストレスー2																									
4. 中母音	リズムー1																									
5. r 音色の母音	リズムー2																									
6. 二重母音	リズムー3																									
7. 無声破裂子音	イントネーションー1																									
8. 有声破裂子音	イントネーションー2																									
9. 無声摩擦子音	イントネーションー3																									
10. 有声摩擦子音	音の長さ																									
11. 破擦子音	プロミネンスー1																									
12. 鼻音と側音	プロミネンスー2																									

01年度以前 02年度	スピーチ・クリニック (半期完結) スピーチ・クリニック (半期完結)	担当者	清水 由理子
----------------	--	-----	--------

*****	スピーチ・クリニック	担当者	清水 由理子
-------	------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>二年生以上で教職を目指す人が対象となる授業で、次のような目的で行う。</p> <p>①英語の発音矯正を主な目的とする。まずその第一歩として、聞き取りの力をつける。音、強勢、抑揚の違いの聞き分けとそれを実際に発音できるようにするための訓練をする。</p> <p>②英語教員を目指す人のコースであるので、教育現場で英語の発音に関することを教える際に役立つような指導方法を身につける。</p> <p>英語音の単音、音のつながり、強勢とリズム、抑揚の特徴と発音の仕方の要点を把握し、実際に練習する。毎回、診断テストとアチーブメント・テストを行うので、その結果を参考にして自分の苦手な部分を十分練習する。</p> <p>なお、前期、後期各 20 名の定員制である。</p>	授業計画	1 Introduction and Pre-Test Lesson 1: Stress
			2 Lessons 2-3: Stops (1) and (2)
			3 Lessons 4-5: Stops (3) and Fricatives (1)
			4 Lessons 6-7: Fricatives (2) and (3)
			5 Lessons 8-9: Nasals and Liquids (1)
			6 Lessons 10-11: Liquids (2) and Semivowels
			7 Lesson 12: Consonant Clusters Lesson 13: Stress and Rhythm
			8 Lessons 14-15: Front Vowels (1) and (2)
			9 Lessons 16-17: Central Vowels (1) and (2)
			10 Lessons 18-19: Back Vowels (1) and (2)
評価方法	期末試験の結果に平常点(出席状況とアチーブメント・テストの結果)を加味する。		11 Lesson 20: Diphthongs Lesson 21: Obscure Vowels and Rhythm
テキスト	牧野勤 他、 <i>New Approach to English Pronunciation</i> , 愛育社		12 Lessons 22-23: Intonation (1) and (2)

*****	スピーチ・クリニック	担当者	清水 由理子
-------	------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>二年生以上で教職を目指す人が対象となる授業で、次のような目的で行う。</p> <p>①英語の発音矯正を主な目的とする。まずその第一歩として、聞き取りの力をつける。音、強勢、抑揚の違いの聞き分けとそれを実際に発音できるようにするための訓練をする。</p> <p>②英語教員を目指す人のコースであるので、教育現場で英語の発音に関することを教える際に役立つような指導方法を身につける。</p> <p>英語音の単音、音のつながり、強勢とリズム、抑揚の特徴と発音の仕方の要点を把握し、実際に練習する。毎回、診断テストとアチーブメント・テストを行うので、その結果を参考にして自分の苦手な部分を十分練習する。</p> <p>なお、前期、後期各 20 名の定員制である。</p>	授業計画	1 Introduction and Pre-Test Lesson 1: Stress
			2 Lessons 2-3: Stops (1) and (2)
			3 Lessons 4-5: Stops (3) and Fricatives (1)
			4 Lessons 6-7: Fricatives (2) and (3)
			5 Lessons 8-9: Nasals and Liquids (1)
			6 Lessons 10-11: Liquids (2) and Semivowels
			7 Lesson 12: Consonant Clusters Lesson 13: Stress and Rhythm
			8 Lessons 14-15: Front Vowels (1) and (2)
			9 Lessons 16-17: Central Vowels (1) and (2)
			10 Lessons 18-19: Back Vowels (1) and (2)
評価方法	期末試験の結果に平常点(出席状況とアチーブメント・テストの結果)を加味する。		11 Lesson 20: Diphthongs Lesson 21: Obscure Vowels and Rhythm
テキスト	牧野勤 他、 <i>New Approach to English Pronunciation</i> , 愛育社		12 Lessons 22-23: Intonation (1) and (2)

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03 年度	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	白鳥 正孝
-------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目的：今日「聞く、話す」英語へと流れが大きくシフトしています。そんな中で、つい英文法の基礎がなおざりにされ勝ちです。本講は、大学生として相応しい英語を話す為にも基本的に必要と思われる文法知識をおさらいし、且つ、しっかり身につけることを目的とします。併せてTOEICの文法への攻略をも目指します。</p> <p>講義概要：上記目標に則り、12項目の文法事項（右の授業計画参照）を、毎週だいたい1項目ずつ進める。あくまでも問題を沢山こなすことにより、自然と身につくことを心掛ける。</p> <p>参考文献 安井稔著 『英文法総覧』 開拓社 昭和59年</p>	授 業 計 画	<p>Unit 1 時制 (Tenses)</p> <p>Unit 2 仮定法 (Subjunctive)</p> <p>Unit 3 受動態 (Passive)</p> <p>Unit 4 関係詞 (Relatives)</p> <p>Unit 5 分詞 (Participles)</p> <p>Unit 6 助動詞 (Auxiliary Verbs)</p> <p>Unit 7 主語と動詞の一致 (Subject/Verb Agreement)</p> <p>Unit 8 不定詞・動名詞 (Infinitives and Gerunds)</p> <p>Unit 9 比較 (Comparison)</p> <p>Unit 10 形容詞・副詞 (Adjectives and Adverbs)</p> <p>Unit 11 名詞・冠詞 (Nouns and Articles)</p> <p>Unit 12 接続詞 (Conjunctions)</p>	
	評価方法		毎回の小テストの積み重ねによる。	
	テキスト		島本たい子他著 『TOEICテキスト基礎文法トレーニング』 (マクミラン ランゲージハウス、2003)	

03 年度	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	白鳥 正孝
-------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目的：今日「聞く、話す」英語へと流れが大きくシフトしています。そんな中で、つい英文法の基礎がなおざりにされ勝ちです。本講は、大学生として相応しい英語を話す為にも基本的に必要と思われる文法知識をおさらいし、且つ、しっかり身につけることを目的とします。併せてTOEICの文法への攻略をも目指します。</p> <p>講義概要：上記目標に則り、12項目の文法事項（右の授業計画参照）を、毎週だいたい1項目ずつ進める。あくまでも問題を沢山こなすことにより、自然と身につくことを心掛ける。</p> <p>参考文献 安井稔著 『英文法総覧』 開拓社 昭和59年</p>	授 業 計 画	<p>Unit 1 時制 (Tenses)</p> <p>Unit 2 仮定法 (Subjunctive)</p> <p>Unit 3 受動態 (Passive)</p> <p>Unit 4 関係詞 (Relatives)</p> <p>Unit 5 分詞 (Participles)</p> <p>Unit 6 助動詞 (Auxiliary Verbs)</p> <p>Unit 7 主語と動詞の一致 (Subject/Verb Agreement)</p> <p>Unit 8 不定詞・動名詞 (Infinitives and Gerunds)</p> <p>Unit 9 比較 (Comparison)</p> <p>Unit 10 形容詞・副詞 (Adjectives and Adverbs)</p> <p>Unit 11 名詞・冠詞 (Nouns and Articles)</p> <p>Unit 12 接続詞 (Conjunctions)</p>	
	評価方法		毎回の小テストの積み重ねによる。	
	テキスト		島本たい子他著 『TOEICテキスト基礎文法トレーニング』 (マクミラン ランゲージハウス、2003)	

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03年度	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	豊田 宣是
------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	この授業の目的は、初等英文法のおさらいをすることです。授業では、練習問題を解きながら文法の知識を整理し、知識の定着を図るために短い文章を読みます。	授業計画	1	品詞・文型	
			2	冠詞	
			3	時制・進行形・完了形	
			4	助動詞	
			5	不定詞・動名詞・分詞	
			6	受動態	
			7	仮定法・話法	
			8	関係詞	
			9	比較・否定	
			10	疑問詞	
			11	無生物主語・名詞構文	
			12	副詞・前置詞・接続詞	
評価方法	前後期試験の成績および授業への参加度を総合的に評価します。				
テキスト参考文献	大学生のための基礎英文法―― グラマーからリーディングへ（成美堂、2002）				

03年度	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	豊田 宣是
------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	この授業の目的は、初等英文法のおさらいをすることです。授業では、練習問題を解きながら文法の知識を整理し、知識の定着を図るために短い文章を読みます。	授業計画	1	品詞・文型	
			2	冠詞	
			3	時制・進行形・完了形	
			4	助動詞	
			5	不定詞・動名詞・分詞	
			6	受動態	
			7	仮定法・話法	
			8	関係詞	
			9	比較・否定	
			10	疑問詞	
			11	無生物主語・名詞構文	
			12	副詞・前置詞・接続詞	
評価方法	前後期試験の成績および授業への参加度を総合的に評価します。				
テキスト参考文献	大学生のための基礎英文法―― グラマーからリーディングへ（成美堂、2002）				

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03年度	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	福田 有美
------	-----------------	-----	-------

講義 目的 および 講義 概要	英語の基礎的文法の内、「文の構造」の復習から始め、「情報構造と文法の関係」「表現選択としての文法」という視点から基礎英文法を見直していく。 単に規則を覚える文法学習でなく、考える文法学習としたい。 授業は予定範囲（原則として2章分ずつ）を全て予習済みであることを前提として進める。疑問点等を明確にして授業に臨むこと。解説部分の重要ポイント指摘の後、練習問題の確認をする。毎回、その日の学習内容に関する小テストを実施する。	授業 計画	1 授業計画説明 第1章：文とは何か
			2 第2章：基本5文型とその発展 第4章：動詞句の構造
			3 第3章：名詞句の構造 第5章：冠詞
	4 第6章：修飾Ⅰ（形容詞的修飾） 第7章：修飾Ⅱ（副詞的修飾）		
	5 第8章：前置詞と前置詞句 第9章：時制と相		
	6 第10章：法と法助動詞		
	7 第11章：情報構造 第12章：語順		
	8 第13章：前提と焦点 第14章：代用と省略		
	9 第15章：文の連結		
	10 第16章：話法 第17章：文体と丁寧表現		
	11 第18章：発話の機能 第19章：英語特有の構文		
	12 第20章：意味と文法		
評価 方法	小テスト(1/3)・定期試験(1/3)・レポートやその他の授業活動(1/3)全般を総合的に評価		
テキ スト 参考 文献	『新大学英文法』石黒・赤楚・北林・山内著 金星堂 1992		

03年度	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	福田 有美
------	-----------------	-----	-------

講義 目的 および 講義 概要	英語の基礎的文法の内、「文の構造」の復習から始め、「情報構造と文法の関係」「表現選択としての文法」という視点から基礎英文法を見直していく。 単に規則を覚える文法学習でなく、考える文法学習としたい。 授業は予定範囲（原則として2章分ずつ）を全て予習済みであることを前提として進める。疑問点等を明確にして授業に臨むこと。解説部分の重要ポイント指摘の後、練習問題の確認をする。毎回、その日の学習内容に関する小テストを実施する。	授業 計画	1 授業計画説明 第1章：文とは何か
			2 第2章：基本5文型とその発展 第4章：動詞句の構造
			3 第3章：名詞句の構造 第5章：冠詞
	4 第6章：修飾Ⅰ（形容詞的修飾） 第7章：修飾Ⅱ（副詞的修飾）		
	5 第8章：前置詞と前置詞句 第9章：時制と相		
	6 第10章：法と法助動詞		
	7 第11章：情報構造 第12章：語順		
	8 第13章：前提と焦点 第14章：代用と省略		
	9 第15章：文の連結		
	10 第16章：話法 第17章：文体と丁寧表現		
	11 第18章：発話の機能 第19章：英語特有の構文		
	12 第20章：意味と文法		
評価 方法	小テスト(1/3)・定期試験(1/3)・レポートやその他の授業活動(1/3)全般を総合的に評価		
テキ スト 参考 文献	『新大学英文法』石黒・赤楚・北林・山内著 金星堂 1992		

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

03年度	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	山田 修
------	-----------------	-----	------

講義目的 おおよび講義概要	講義目的 英文法の基礎事項は中学校の3年間で大体学ぶといわれるが、この授業ではその基本事項を確実なものにすることを目標とする。文法のための文法ではなく、英文を読んでいくための、英文を書くための手段としての文法習得を目指す。 講義概要 授業は、テキストの説明は各自読み、練習問題を中心に進めていく。テキストにない項目で必要と思われるものは適宜補っていく。授業の後半時間のある場合は、テキスト外の問題をやり、文法知識の習得を確認する。 後期のテキストはかわるので、後期受講者は下記のテキストを購入しないように。後期テキストは9月に掲示。	授業計画	1. 導入としての説明・その他
			2. 代名詞
			3. 完了形
			4. 助動詞
			5. 態
			6. 不定詞
			7. 分詞
			8. 動名詞
			9. 比較
			10. 関係詞
			11. 仮定法
			12. まとめ

03年度	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	山田 修
------	-----------------	-----	------

講義目的 おおよび講義概要	講義目的 英文法の基礎事項は中学校の3年間で大体学ぶといわれるが、この授業ではその基本事項を確実なものにすることを目標とする。文法のための文法ではなく、英文を読んでいくための、英文を書くための手段としての文法習得を目指す。 講義概要 授業は、テキストの説明は各自読み、練習問題を中心に進めていく。テキストにない項目で必要と思われるものは適宜補っていく。授業の後半時間のある場合は、テキスト外の問題をやり、文法知識の習得を確認する。 後期のテキストはかわるので、後期受講者は下記のテキストを購入しないように。後期テキストは9月に掲示。	授業計画	1. 導入としての説明・その他
			2. 代名詞
			3. 完了形
			4. 助動詞
			5. 態
			6. 不定詞
			7. 分詞
			8. 動名詞
			9. 比較
			10. 関係詞
			11. 仮定法
			12. まとめ

01 年度以前 02 年度	専門講読 英語専門講読	担当者	E.カーニィ
------------------	----------------	-----	--------

副題	英・米文学	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course aims to encourage students to read good short stories for study, for vocabulary learning, and for sheer pleasure.</p> <p>The stories are chosen for their active ingredients; thought - provoking, stimulating, and educational. Students will be invited to discuss the material and should be able to meet a challenge quiz on each story. We are also concerned with the writer's style, technique, and reader appeal. What the writer says between the lines must be given important consideration, too.</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
評価方法	<p>Grading will be in the form of quizzes for each story. Students can gain supplementary bonuses by writing 'intelligent comments'</p>		4
			5
			6
テキスト参考文献	<p>Short story prints of Roald Dahl, Stephen King, Ray Bradbury, and others.</p>		7
			8
			9
			10
			11
			12

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
評価方法			4
			5
			6
テキスト参考文献			7
			8
			9
			10
			11
			12

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	J. J. ダゲン
----------------	----------------	-----	-----------

副題	英米文化	担当者	*****
----	------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>The aim of this course is to give students the opportunity to further develop reading and comprehension skills as they explore the many facets of American and world culture and events, as presented in articles from newspapers and news magazines.</p> <p>Due to the popularity of this course over the past two years, I have decided to continue this course for one more year. Those who took my class last year will already be familiar with the procedures and goals. There will be some changes (hopefully for the better) this year. The first is that we will not use a textbook, but actual up-to-date articles from recent newspapers and magazines. I will prepare these articles to be similar in study format to last year's text. Another difference is that you will have a final assignment of finding an appropriate article, and preparing it for possible use in the second semester.</p> <p>The study of each reading selection will follow a two-week cycle as in this schedule:</p> <p>1) A reading selection is assigned as homework, together with comprehension questions.</p> <p>2) In class, any questions concerning the vocabulary and/or comprehension are addressed.</p> <p>3) The reading selection is read and analyzed as a class.</p> <p>4) The students work in groups to compare and check their homework, which some groups then present to the class for class discussion.</p> <p>5) The homework is collected, and the discussion questions assigned for the next class as homework.</p> <p>6) In the next class, students work in groups and discuss their answers, which some groups present to the class for class discussion.</p> <p>7) After the homework is collected, the cultural vocabulary for the next reading selection is covered.</p>	授 業 計 画	1	Course description & explanation
			2	Selection A reading comprehension study
			3	Selection A discussion study
			4	Selection B reading comprehension study
			5	Selection B discussion study
			6	Selection C reading comprehension study
			7	Selection C discussion study
			8	Selection D reading comprehension study
			9	Selection D discussion study
			10	Selection E reading comprehension study
			11	Selection E discussion study
			12	First semester consolidation & review
評価方法	Grades will be based on in-class participation, (if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail), weekly homework assignments, a final assignment, and a written exam.			
テキスト参考文献	Handouts of articles from newspapers and magazines, worksheets.			

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>The aim of this course is to give students the opportunity to further develop reading and comprehension skills as they explore the many facets of American and world culture and events, as presented in articles from newspapers and news magazines.</p> <p>In the second semester, we hope to work with some of the articles of particular interest to you. Indeed, this term we will make use of the final assignment you prepared and handed in the first semester. I will select and rework some of them for use in class to be of a similar study format as in the first semester.</p> <p>The study of each reading selection will follow a two-week cycle as in this schedule:</p> <p>1) A reading selection is assigned as homework, together with comprehension questions.</p> <p>2) In class, any questions concerning the vocabulary and/or comprehension are addressed.</p> <p>3) The reading selection is read and analyzed as a class.</p> <p>4) The students work in groups to compare and check their homework, which some groups then present to the class for class discussion.</p> <p>5) The homework is collected, and the discussion questions assigned for the next class as homework.</p> <p>6) In the next class, students work in groups and discuss their answers, which some groups present to the class for class discussion.</p> <p>7) After the homework is collected, the cultural vocabulary for the next reading selection is covered.</p>	授 業 計 画	1	Second semester class preparation
			2	Selection F reading comprehension study
			3	Selection F discussion study
			4	Selection G reading comprehension study
			5	Selection G discussion study
			6	Selection H reading comprehension study
			7	Selection H discussion study
			8	Selection I reading comprehension study
			9	Selection I discussion study
			10	Selection J reading comprehension study
			11	Selection J discussion study
			12	Second semester consolidation & review
評価方法	Grades will be based on in-class participation, (if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail), weekly homework assignments, and a written exam.			
テキスト参考文献	Handouts of articles from newspapers and magazines, worksheets.			

01 年度以前 02 年度	専門講読 英語専門講読	担当者	N.H.ジヨスト
------------------	----------------	-----	----------

副題	英語文化	担当者	*****
----	------	-----	-------

講義目的および講義概要	The book chosen for this class is challenging, yet very interesting. It looks at many aspects and theories of language: The origins of Language; Language and Communication; Language and the Media; Language and Society; The Structure of Language; Language and Mind. Class time will be divided between short lectures, material review, language study and group discussions. A main feature of this class will be group discussions. Students will be called upon to have discussion questions ready for each chapter and to carry out discussions for the different topics in each chapter. Thus, students considering this class should have 1) a keen interest in the topic of language, 2) an interest in discussing in English topics related to language, and 3) a desire to improve their reading, speaking and listening skills	授業計画	1. Course introduction The Talking Animal: The Origin of Language
			2. Continuation/ Group Discussions
			3. Continuation/ Group Discussions
			4. Getting the Better of Words: Language and Communication
			5. Continuation/ Group Discussions
			6. Continuation/ Group Discussions
			7. Virtual Words: Language and Media
			8. Continuation/ Group Discussions
			9. Continuation/ Group Discussions
			10. We Are What We Speak: Language and Society
			11. Continuation/ Group Discussions
			12. Continuation/ Group Discussions
評価方法	Grades are based on class participation, attendance, and final debates.		
テキスト 参考 文献	Word of Mouth: An New Introduction to Language and Communication by Geoffrey Finch ISBN: 0-333-91453-8 paperback. Book can be ordered from Amazon.co.jp (www.amazon.co.jp)		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	Please Note: 1) This class has an English only policy--only English will be used in class. 2) At the end of the second semester, students will be required to give a group presentation on a topic discussed in class. 3) The reading load for this class is about 10 ten pages per week. Students should buy the book before the start of the first semester. 4) Books are available through Amazon. www.amazon.co.jp	授業計画	1. Course Overview for Second Semester The Design and Structure of Language
			2. Continuation/ Group Discussions
			3. Continuation/ Group Discussions
			4. The Parent of Language: Language and Mind
			5. Continuation/ Group Discussions
			6. Continuation/ Group Discussions
			7. The House of Being: Future of Language
			8. Continuation/ Group Discussions
			9. Continuation/ Group Discussions
			10. Group Presentations
			11. Group Presentations
			12. Group Presentations
評価方法			
テキスト 参考 文献			

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	T.ヒル
----------------	----------------	-----	------

副題	英語学	担当者	*****
----	-----	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course will be a basic introduction to discourse and discourse analysis. It will involve the study of how stretches of language used in communication assume meaning, purpose and unity for their users: the quality of coherence.</p> <p>The ability to produce a coherent written or spoken text of language is known as Discourse Competence.</p> <p>Students will study the concepts of discourse analysis and will work on their own on texts of spoken and written language.</p>	授業計画	1 What is discourse?
			2 Text-forming devices
			3 Spoken versus written language
			4 Cohesion 1
			5 Cohesion 2
			6 Information structure
			7 'Given' and 'new' information
			8 Theme and rheme 1
			9 Theme and rheme 2
			10 Genre
評価方法	Grades will be based on attendance and participation		11 Rhetorical patterns
テキスト参考文献	Introduction to Discourse Analysis. D. Nunan. Penguin		12 Propositional analysis

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course will be a basic introduction to discourse and discourse analysis. It will involve the study of how stretches of language used in communication assume meaning, purpose and unity for their users: the quality of coherence.</p> <p>The ability to produce a coherent written or spoken text of language is known as Discourse Competence.</p> <p>Students will study the concepts of discourse analysis and will work on their own on texts of spoken and written language.</p>	授業計画	1 Discourse coherence
			2 Speech acts
			3 Background knowledge 1
			4 Background knowledge 2
			5 Bottom-up processing
			6 Top-down processing
			7 Interactive processing
			8 Conversation analysis
			9 Intercultural communication
			10 Developing Discourse Competence 1
評価方法	Grades will be based on attendance and participation		11 Developing Discourse Competence 2
テキスト参考文献	Introduction to Discourse Analysis. D. Nunan. Penguin		12 Developing Discourse Competence 3

01 年度以前 02 年度	専門講読 英語専門講読	担当者	T.マーフィー
------------------	----------------	-----	---------

副題	Exploring Learning	担当者	*****
----	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	The focus will be on reading extensively, with self-selected materials, and frequently and sharing what we read with others interactively, modeling the use of language we read. The content of this course will be the students and their ways of learning. We will try to understand better how we learn, or don't learn, and look at many alternative ways of learning and using English, including multiple intelligences, habits of mind, mind mapping, and interactive language learning.	授 業 計 画	1 Schedule of the Yer... Introduction	
	評価方法		Students will be evaluated according to what they write each week in their action log and negotiate their work and their self-assessment with the teacher.	2 Structures and frameworks
			テキスト 参考 文献	Text,,,Language Hungry! Tim Murphey 1998 MacMillian Languagehouse.
4 ditto				
5 ditto				
6 ditto				
7 ditto				
8 ditto				
9 ditto				
10 ditto				
11 Begin wrapping up				
12 Finish course				

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1 Schedule of the Yer... Introduction	
	評価方法		Students will be evaluated according to what they write each week in their action log and negotiate their work and their self-assessment with the teacher.	2 Structures and frameworks
			テキスト 参考 文献	To be decided with the students.
4 ditto				
5 ditto				
6 ditto				
7 ditto				
8 ditto				
9 ditto				
10 ditto				
11 Begin wrapping up				
12 Finish course				

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	W. J.ベンフィールド
----------------	----------------	-----	--------------

副題	英米文化	担当者	*****
----	------	-----	-------

講義目的および講義概要	This course aims to introduce students to the pleasures and difficulties of tackling an authentic literary work in English. As well as providing extensive practice in reading English, the work will raise wider questions about life and society, which we will discuss in class. Each week we will look at one section of the book. There will be comprehension exercises as well as discussion of some of the wider issues raised by the book. "The Lion, the Witch and the Wardrobe" by C. S. Lewis. With the worldwide success of J. K. Rowling's Harry Potter novels and the film version of J.R.R. Tolkein's "Lord of the Rings", fantasy literature has become a major focus of attention. This novel, part of Lewis' fantasy series "The Chronicles of Narnia", is an early classic of this genre.	授 業 計 画	1	Course outline; introduction to the author and the background of the book
			2	Reading and discussion
			3	Reading and discussion
			4	Reading and discussion
			5	Reading and discussion
			6	Mid-term test
			7	Reading and discussion
			8	Reading and discussion
			9	Reading and discussion
			10	Reading and discussion
			11	Reading and discussion
			12	Review of term's work
評価方法	There will be a test at the end of each semester. Attendance and performance in class will also be considered when awarding the final grade.			
テキスト参考文献	"The Lion, the Witch and the Wardrobe" by C. S. Lewis (Collins)			

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	Reading and discussion
			2	Reading and discussion
			3	Reading and discussion
			4	Reading and discussion
			5	Reading and discussion
			6	Mid-term test
			7	Reading and discussion
			8	Reading and discussion
			9	Reading and discussion
			10	Reading and discussion
			11	Reading and discussion
			12	Review of term's work
評価方法				
テキスト参考文献				

01 年度以前 02 年度	専門講読 英語専門講読	担当者	阿部 純一
------------------	----------------	-----	-------

副題	米国の東アジア政策	担当者	*****
----	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	アメリカの東アジア政策の現状分析をおこなう。 2001年9月11日、アメリカを突然襲ったテロ事件によって、国際政治は国際テロと対峙する新たな局面を迎えた。ブッシュ政権は、イラク、イラン、北朝鮮を、大量破壊兵器を開発・保持し、国際テロと連携する「悪の枢軸」と非難して、反テロ国際協調を目指しつつも、アメリカ単独でもこれらの国への軍事圧力を高めている。東アジアでは、北朝鮮の核開発をめぐり、緊張が危険水域に達しようとしている。こうしたアメリカの政策が東アジア国際関係にどのような影響をもたらすのか注目される。授業では、アメリカの東アジア外交の現状と展望について時局に対応した政策文献を取りあげ分析する。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	成績は授業時の学生による報告と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。そのためには授業への出席が最低条件となる。出席率70%以下は不可。		
テキスト参考文献	アメリカの公式外交文書、政府高官の議会証言およびシンクタンクのレポート等、最新のテキストを毎回配布する。		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	(前期に同じ)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	石塚あおい
----------------	----------------	-----	-------

副題	アメリカ詩—エミリー・ディキンソン	担当者	*****
----	-------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>1,775 に及ぶ詩を創作しながらも生存中に世に示した作品は殆どなかったエミリー・ディキンソン (1830-86) だが、現在ではアメリカが生んだ偉大なる詩人のひとりとして認識されている。しかし暗示的で濃縮された言葉で構築された彼女の詩は不可解で、今でも多くの学生・学者が新解釈を試みようとする様々な角度から読んでいる。</p> <p>この授業では、難しい理論は抜きにして、彼女の短い詩の中に圧縮された深く強い思いを鑑賞したい。受講者に要求されるものは想像力と「謎」を解きほぐそうとする意欲、そして彼女の言葉の可能性を迫るために英英辞典と「にらめっこ」をする覚悟。10名の人が彼女の詩を読めば10通りの解釈が生まれると言われるほどである。受講者の新解釈に期待したい。</p> <p>授業の進め方についてであるが、まず、ディキンソンの詩の「謎」を解くための大きなポイントとなる事実(時代背景や彼女の育った環境など)を講義する。そして、数編の詩の解釈例を示す。その後、毎週2~3名(受講者総数による)の学生が、あらかじめ指定された1篇の解釈を発表し、全員でディスカッションする。ディスカッションするためには、全受講者が同篇の解釈を試みて授業に臨むことが必要とされるのは言うまでもない。また、ディキンソンの「思い」をできるだけ理解するために、彼女が友人に宛てて書いた手紙の主だったものを要所所で読んでいく。後期には、今までに発表されたディキンソンに関する国内外の研究論文を読む機会も持つ。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	年2回のレポートと平常点(予習と授業における発言、及び出席率)により評価。		
テキスト参考文献	①テキスト(最初の授業で指示する) ②プリント 参考文献・辞書等に関しては授業中に指示・紹介する。		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

01 年度以前 02 年度	専門講読 英語専門講読	担当者	板場 良久 (春学期完結)
------------------	----------------	-----	---------------

副題	Reading an Oral History of World War II	担当者	*****
----	---	-----	-------

※このクラスは週1日・連続2コマ・春学期完結で開講されます。

講義目的および講義概要	We, born after the war, are not accountable for World War II atrocities. But I believe we do have the “postwar” responsibility as citizens of a nation that is presently working to compensate for the war victims. Then how much do we know about the war? Have you listened to the soldiers who actually fought in the battlefield or to the victims who actually suffered in the war? There are many ways to approach these questions. One of them is to read what some Americans, be they ex-soldiers or not, have vividly told about various kinds of experiences they had during the wartime period, which is a form of discourse called an “oral history.” Reading an oral history is an important way of understanding what we cannot experience directly: the war and their perspectives in this case. We will also try to read their “true” stories critically by analyzing how they regarded wartime “friends and foes” and why, the questions related to national/cultural identities.	授業計画	1. Overview: Receiving the syllabus, handouts, and other bits of information.
			2. Overview: Getting acquainted with classmates
			3. Reading assignment 1: Intercultural Communication & WW II. (R. Benedict & E. T. Hall)
			4. Reading assignment 2: The anti-humanist Perspective. (E. Grosz, “The Subject”)
			5. Oral report I-a
			6. Oral report I-b Quiz I
			7. Reading assignment 3: An oral history from S. Terkel, “ <i>The Good War</i> ”: <i>An Oral History of WW II</i> .
			8. Reading assignment 4: An oral history from S. Terkel, “ <i>The Good War</i> ”: <i>An Oral History of WW II</i> .
			9. Reading assignment 5: An oral history from S. Terkel, “ <i>The Good War</i> ”: <i>An Oral History of WW II</i> .
			10. Reading assignment 6: An oral history from S. Terkel, “ <i>The Good War</i> ”: <i>An Oral History of WW II</i> .
			11. Oral Report II-a
			12. Oral Report II-b Quiz II

講義目的および講義概要	<p>If you would like to register for this class, you need to agree to the following: (1) Our activities include making oral reports, taking quizzes, and listening to my mini-lectures, which are all done <i>in English</i>. (But what matters is not so much your current English ability as it is your willingness to participate and learn.) (2) I tend to speak English slowly, which may irritate some students fluent in it. (3) We will have lots of group work and presentations; i.e., this class is student-centered.</p> <p>Students registered for this class may use my following email address, although limited to short questions and comments:</p> <p style="text-align: center;">sam_itaba@hotmail.com</p> <p>A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.</p>	授業計画	13. Reading assignment 7: An oral history from S. Terkel, “ <i>The Good War</i> ”: <i>An Oral History of WW II</i> .
			14. Reading assignment 8: An oral history from S. Terkel, “ <i>The Good War</i> ”: <i>An Oral History of WW II</i> .
			15. Reading assignment 9: An oral history from S. Terkel, “ <i>The Good War</i> ”: <i>An Oral History of WW II</i> .
			16. Reading assignment 10: An oral history from S. Terkel, “ <i>The Good War</i> ”: <i>An Oral History of WW II</i> .
			17. Oral Report III-a
			18. Oral Report III-b
			19. Watching a war movie critically: Part I
			20. Watching a war movie critically: Part II
			21. Group discussion
			22. Group discussion
			23. Oral Report IV-a
			24. Oral Report IV-b Quiz IV

評価方法	(1) Attend more than 3 fourths of the class hours to get the letter grade of C or better. (2) Four quizzes: 20%. (3) Four oral reports: 80%.
テキスト参考文献	Handouts, primarily from Studs Terkel’s “ <i>The Good War</i> ”: <i>An Oral History of World War II</i> , will be provided on the first day of class.

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	遠藤 朋之
----------------	----------------	-----	-------

副題	モダニズム詩精読	担当者	*****
----	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	20世紀初頭に起った、あらゆる芸術形態を包括する芸術運動、「モダニズム」、特にその詩の分野におけるモダニズムを考えることを通じて、現代に生きるわれわれの時代意識を考える手がかりとする。 「詩」とは、れっきとした言語芸術だ。単なる感情の垂れ流しではない。前期は、モダニズムの構成原理を学び、詩人たちがいかに感情に「形態（フォーム）」を与えていったかを、最初に見る。それから、モダニズムの巨匠ともいべき詩人たちの実際の作品に触れ、その詩人たちがいかに世界を言語によって“articulate”していったかをたどる。相田みつをがいかに「詩」や「芸術」とかけ離れているか、わかってもらえるだろう。	授業計画	1 ガイダンス	
	評価方法		レポート、および授業への participation。	2 Walt Whitman “Poets To Come,” The Beatles “In My Life”
			テキスト参考文献	主にプリント。非常に安いテキストを購入してもらおうこともある。
				4 同上
				5 同上
				6 William Carlos Williams の短詩
				7 同上
				8 Williams の “Spring And All”
				9 T. S. Eliot “The Love Song of J. Alfred Prufrock”
				10 Wallace Stevens “The Snow Man,” “The Thirteen Ways of Looking at a Blackbird”
				11 同上、“The Idea of Order at Key West,” “The Emperor of Ice-Cream”
				12 H. D. の短詩

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	前期につちかったモダニズムの構成原理の理解を、さらに21世紀に近いところまで延ばしていく。そこで、なぜ詩人たちが長篇詩へと向かったのかを探る。さらに、今現在、われわれがどのような地点に立っているのかを、現代のアメリカで書かれた英語詩、できれば、日本の現代の詩においても見てみたい。	授業計画	1 e. e. cummings “[in Just-],” “[Buffalo Bill’s]”		
	評価方法		レポート、および授業への participation	2 Robert Lowell “For the Union Dead,” Bob Marley “Buffalo Soldier”	
			テキスト参考文献	主にプリント。非常に安いテキストを購入してもらおうこともある。	3 Lowell “Skunk Hour”
					4 Pound, “Hugh Selwyn Mauberley I, II, III”
					5 同上
					6 Williams, <i>Paterson</i> “Preface”
					7 Eliot, <i>The Waste Land</i> “The Burial of the Dead”
					8 同上
					9 Gary Snyder “Piute Creek,” “Axe Handles”
					10 A. R. Ammons “Corsons Inlet”
					11 同上
					12 Derek Walcott “The Light of the Earth”

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	大竹 孝司
----------------	----------------	-----	-------

副題	英語音声の理論と実践	担当者	*****
----	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>車の免許を取得する場合、座学と実技が不可欠であるように、英語音声の正しく発音したり聞き取ることができるためには、英語音声を持つ構造や機能（音声学や音韻論）に関する基礎知識の習得に加えて、実際に音声を聞いたり、発音したりするなどして音声を自分の脳の中に蓄積する訓練を行うことが大切である。</p> <p>本講義では、音声学と音韻論に関する入門レベルの専門書を読むために必要な英語力を身に付けると同時に英語音声の発音と聞き取りのための実践的な訓練も並行して学習する。これにより英語音声に関する理論面と実践面をバランスよく学ぶ「総合的な講読」を目指す。</p> <p>英語音声の構造と機能の理論的側面を学ぶと同時に実際に英語音声を聞いて発音記号に転写することも並行して行う。理論的側面の学習内容は、英語音声の分節音（子音と母音）、英語の様々な音韻構造（強勢、音節構造、リズムの構造、イントネーションの構造など）を扱う。なお、様々な話者が発話した英語音声を分析するリサーチプロジェクトの方法も紹介する。</p> <p>授業形式は、発表と討論を中心としたゼミ形式で行う。授業では、3名がレジュメを基に発表予定（20分発表＋10分討論）。言語によるコミュニケーション、英語や日本語などの言語教育に興味を持つ者には有益であろう。英語力は、講義終了時 TOEFL 550 点以上が取得できるよう指導する。</p>	授業計画	1	授業の概要説明。
			2	第1章と第2章：言語音の産出
			3	第3章：母音の種類（長母音、二重母音、三重母音）
			4	第4章：音声の生成の仕組みと子音の産出（破裂音）
			5	第5章：音韻単位（音、音素、異音）と分布の概念（相補分布）。音声記号（IPA）の仕組み。
			6	第6章：子音の産出（摩擦音と破擦音）
			7	第7章：子音の産出（鼻音、側音、接近音）
			8	第8章：音節の基本概念（音節の仕組み）
			9	第9章：2種類の音節（強音節と弱音節）
			10	第10章：単語と強勢（単一語内の強勢）
			11	第11章：単語と強勢（複合語の強勢）
			12	第12章：弱形
評価方法	(1) 試験またはレポート、(2) 課題レポートによって決める。			
テキスト参考文献	<i>English Phonetics and Phonology: A Practical Course</i> Peter Roach (著); 及び CD 又はカセット。各自 amazon.co.jp など事前に入手のこと。			

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>車の免許を取得する場合、座学と実技が不可欠であるように、英語音声を正しく発音したり聞き取ることができるためには、英語音声を持つ構造や機能（音声学や音韻論）に関する基礎知識の習得に加えて、実際に音声を聞いたり、発音したりするなどして音声を自分の脳の中に蓄積する訓練を行うことが大切である。</p> <p>本講義では、音声学と音韻論に関する入門レベルの専門書を読むために必要な英語力を身に付けると同時に英語音声の発音と聞き取りのための実践的な訓練も並行して学習する。これにより英語音声に関する理論面と実践面をバランスよく学ぶ「総合的な講読」を目指す。</p> <p>英語音声の構造と機能の理論的側面を学ぶと同時に実際に英語音声を聞いて発音記号に転写することも並行して行う。理論的側面の学習内容は、英語音声の分節音（子音と母音）、英語の様々な音韻構造（強勢、音節構造、リズムの構造、イントネーションの構造など）を扱う。なお、様々な話者が発話した英語音声を分析するリサーチプロジェクトを実行し、知識の定着を図る。</p> <p>授業形式は、発表と討論を中心としたゼミ形式で行う。授業では、3名がレジュメを基に発表予定（20分発表＋10分討論）。言語によるコミュニケーション、英語や日本語などの言語教育に興味を持つ者には有益であろう。英語力は、講義終了時 TOEFL 550 点以上が取得できるよう指導する。</p>	授業計画	1	第13章：音素分析とその問題点
			2	第14章：連続音声に見られる音韻現象（言語のリズム、主要な音韻規則）
			3	第15章：超分節素（イントネーション I）
			4	第16章：超分節素（イントネーション II）
			5	第17章：超分節素（イントネーション III）
			6	第18章：イントネーションの機能 I
			7	第19章：イントネーションの機能 II
			8	第20章：音声学・音韻論と他の領域（社会言語学、言語習得など）
			9	個人プロジェクトの発表 I
			10	個人プロジェクトの発表 II
			11	個人プロジェクトの発表 III
			12	個人プロジェクトの発表 IV
評価方法	(1) 試験またはレポート、(2) 課題レポート、(3) プロジェクトなどによって決める。			
テキスト参考文献	<i>English Phonetics and Phonology: A Practical Course</i> Peter Roach (著); 及び CD 又はカセット。各自 amazon.co.jp など事前に入手のこと。			

01 年度以前 02 年度	専門講読 英語専門講読	担当者	大西 雅行
------------------	----------------	-----	-------

副題	英語学	担当者	*****
----	-----	-----	-------

<p>講義目的 英語は国際語として広く使われているが、英語の音声面を見ると違いがいろいろある。英語の代表的なイギリスのロンドン英語とアメリカのニューヨーク英語の特徴を探る。</p> <p>講義概要 ロンドン大学の J.C.Wells の <i>Accents of English</i> より抜粋し、プリントし、配布する。学生は日本語に訳し、講義担当者が語義や内容説明を主に行う。</p> <p>評価方法 期末の試験と平常点で評価する。</p>	授 業 計 画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. London 2. The Vowel System 3. The Diphthong Shift 4. The Diphthong Shift 5. The THOUGHT Split 6. The GOAT Split 7. Vowel plus /l/ 8. Further Remarks on Vowels 9. Further Remarks on Vowels 10. The Consonant System: /h/ 11. Plosives 12. Plosives
--	------------------	--

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講 義 目 的 お よ び 講 義 概 要		授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 13. Fricatives 14. Prosodic Features 15. New York City 16. The Vowel System 17. The Vowel System 18. Variable Non-Rhoticity 19. NURSE and CHOICE 20. BATH Raising 21. CLOTH-THOUGHT Raising 22. LOT Lengthening 23. Alveolars and Dentals 24. Other Consonants
評価 方法			
テキスト 参考文献			

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	岡田 誠一
----------------	----------------	-----	-------

副題	アメリカにおける黒人文化の流れ	担当者	*****
----	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>アメリカ黒人文学の背景となっている、黒人文化の流れを学ぶのが、この講義の目標である。絵、風刺画 写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストに使う予定。英文をじっくり読むことにより、将来必ず役に立つような英語力を培うのも、もう一つの目標である。</p> <p>今年度は南北戦争、奴隷解放の時代を中心に学んでいく計画である。</p> <p>なお、アメリカ文学を知るための一助として、年間2～3本の映画を鑑賞する予定である。</p>	授業計画	1 リンカーンが選挙戦に
			2 黒人と南北戦争
			3 銃後の教育
評価方法	出席状況、どの程度予習をして授業に臨んだか、前後期の試験などにより決定される。		4 コントラバンドとは
			5 奴隷ロバート・スモールズ
			6 黒人だけの連隊
テキスト参考文献	プリントを使う予定。		7 奴隷解放宣言
			8 黒人たちのつらい日々
			9 戦争終わる
			10 開放されて
			11 オリヴァー・ハワードとは
			12 万人のための学校教育

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	前期と同じ	授業計画	1 初めて妻子が自分のものに
			2 再建時代
			3 黒人を取り締まる法律とは
評価方法	前期と同じ		4 憲法修正第14条, 15条
			5 政界の黒人たち
			6 法の制定者たち
テキ	プリントを使用する予定。		7 議会と黒人
			8 黒人の全国規模の会合
			9 反動の始まり
			10 再建時代終わる
			11 カンザスへ向かって
			12 移住か防御か

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	柿田 秀樹
----------------	----------------	-----	-------

副題	映画『マトリックス』の表象分析	担当者	*****
----	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標 ラリー&アンディ・ウォンシャウスキー兄弟監督による映画『マトリックス』を諸哲学的立場から批評した論文を精読する。論文の精読を通して映像テキストの表象分析とはいかなるものであるかを考案する。講義においては以下の3点が探求のテーマとなる。 1) 理論とは何か、2) 批評とは何か、3) レトリック研究とは何か。これら3点のテーマについて綿密なテキスト分析を実践し、この映画の可能性に含まれた社会的意義を探っていく。</p> <p>講義概要 映像という表象手段によってコミュニケーションされる映画『マトリックス』をテキストとして、レトリック理論の基礎を学んでいく。映像というレトリックの手段が哲学を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を綿密に読み込み、さらに理論的な背景を加味しながら理解していく。この講座の目的はあくまでもレトリック理論の探求であり、映画をエンターテインメントとして楽しむためのものではない。如何にして理論的な「読み」の楽しみを映画というテキストを通じて見いだしていくかが、講義と活発な討論における探求の主題となる。</p>	授業計画	1 Course Orientation	
	評価方法		定期試験又はレポート、授業への参加度(発表・発言等)、出席状況(一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当)等から総合的に評価する。	2 “Computers, Caves, and Oracles: Neo and Socrates”
			テキスト参考文献	<i>The Matrix and Philosophy: Welcome to the Desert of the Real.</i> Ed. by William Irwin.
		4 “Skepticism, Morality, and <i>The Matrix</i> ”		
		5 “Skepticism, Morality, and <i>The Matrix</i> ”		
		6 “Seeing, Believing, Touching, Truth”		
		7 “Seeing, Believing, Touching, Truth”		
		8 “The Metaphysics of <i>The Matrix</i> ”		
		9 “The Metaphysics of <i>The Matrix</i> ”		
		10 “Neo-Materialism and the Death of the Subject”		
		11 “Neo-Materialism and the Death of the Subject”		
		12 Review		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 “We Are (the) One! Kant Explains How to Manipulate the Matrix”
			2 “We Are (the) One! Kant Explains How to Manipulate the Matrix”
			3 “Popping a Bitter Pill: Existential Authenticity in <i>The Matrix</i> and <i>Nausea</i> ”
評価方法			4 “Popping a Bitter Pill: Existential Authenticity in <i>The Matrix</i> and <i>Nausea</i> ”
			5 “The Paradox of Real Response to Neo-Fiction”
テキスト参考文献			6 “The Paradox of Real Response to Neo-Fiction”
			7 “ <i>The Matrix</i> , Marx, and the Coppertop’s Life”
			8 “ <i>The Matrix</i> , Marx, and the Coppertop’s Life”
			9 “ <i>The Matrix</i> Simulation and the Postmodern Age”
			10 “ <i>The Matrix</i> Simulation and the Postmodern Age”
			11 “The Matrix: Or, The Two Sides of Perversion”
			12 “The Matrix: Or, The Two Sides of Perversion”

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	金子 芳樹
----------------	----------------	-----	-------

副題	アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係	担当者	*****
----	---------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的 目的は2つである。第一に、国際関係論や地域研究 (area studies) にとって不可欠な英語表現を学習する。第二に、アジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する基本的な知識を習得するとともに、各国、各地域の現状分析を行う際の視点・手法の習得を図る。</p> <p>講義概要 テキスト (アジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する主要事項をまとめた英文資料・文献) を読み進めることを中心に、同地域に横たわる諸問題について検討する。指定されたテキストのパートを週ごとに精読し、その内容を全訳 (その回ごとに指定) したレポートを、毎週、受講者全員が提出する。授業はそれを基にしながら、受講者によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。さらにその他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的求める。</p> <p>受講条件 初回の授業で1時間程度の英文読解テスト (国際政治経済の時事問題に関する英文の和訳) を実施し、一定以上の英語読解力を有する者に受講を認める。受講者数には上限を設定する。</p>	授 業 計 画	1 英文の読解テスト
			2~12 (テキストのパートごとに進める)
評価方法	出席率、レポート内容、報告内容、討論への参加状況に基づいて総合的に評価を行う。理由のいかんを問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。		
テキスト参考文献	Far Eastern Economic Review, <i>Asia 2003 Yearbook</i> . (ただし、同 <i>Yearbook</i> の2003年版は出版されない可能性があるため、その場合には他の <i>Yearbook</i> を用いる。いずれにしてもテキストは一括購入するので事前に準備する必要はない)		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	同上	授 業 計 画	1~12 (テキストのパートごとに進める)

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	川崎 潔
----------------	----------------	-----	------

副題	『ヨブ記』を Revised Version で読む	担当者	*****
----	----------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、殊に The Authorized Version (1611年出版)は W. Shakespeare の戯曲と共に必読の書である。AVは先行する英訳聖書の粋を集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与え、英語史家達からは、「英語散文の金字塔」であり、「近代英語の性格を決定した」と言われるに至ったからである。Book of Jobのヘブル語原典は text の乱れがあるから、原典解釈上の進歩による改訂版 Revised Version で読むことにしたい。</p> <p>Book of Job は、正しい人が苦難に襲われることがあるのは何故かという mystery of suffering の問題を中心として、神の絶対性と人間の浅はかさを教える偉大な宗教文学である。授業ではテキストを語学的に精読することに重点をおきたいと思う。Revised Version (1881-85年出版)は用語や文体がほぼ AV に似ているが、これを他の現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version (新旧両訳 1952) や New English Bible (新旧両訳・外典 1970) と読み比べることによって、両者の英語の違いを具体的に知る事ができよう。</p>	授 業 計 画	1 Chapter I
			2 Chapter I
			3 Chapter II
			4 Chapter II, III
			5 Chapter III
			6 Chapter IV
			7 Chapter V
			8 Chapter V, VI
			9 Chapter VI
			10 Chapter VII
			11 Chapter VIII
			12 予備日
評価方法	期末テストと平常点によって評価する。		
テキスト参考文献	小林清一注釈: The Book of Job, 南雲堂 浅野順一『ヨブ記注解』I, II, III, IV, 創文社 浅野順一『ヨブ記—その今日への意義』, 筑波新書		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	同上	授 業 計 画	1 Chapter IX
			2 Chapter X
			3 Chapter XI
			4 Chapter XII
			5 Chapter XII, XIII
			6 Chapter XIII
			7 Chapter XIV
			8 Chapter XXXVIII
			9 Chapter XXXVIII
			10 Chapter XL
			11 Chapter XLII
			12 予備日
評価方法	同上		
テキスト参考文献	同上		

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	川島 浩美
----------------	----------------	-----	-------

副題	異文化コミュニケーション	担当者	*****
----	--------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>コミュニケーションの構成要素、文化とコミュニケーションの関係についての英文を読み、異文化コミュニケーションへの基本的認識・理解を深める。その上で、コミュニケーション上の問題点等を分析できることを目的とする。</p> <p>授業は、毎週10ページ前後の文献をもとに、受講生による内容発表（レジュメ作成）と質疑応答で進めていく。文献は、コミュニケーションの基本概念及び構成要素、文化とコミュニケーションの密接性に関するものを扱い、基本概念を理解する。</p> <p>前期使用文献： Klopf, D. W. (2000). <i>Intercultural encounters: The fundamentals of intercultural communication</i> (5th ed.). CO:Morton. 他4篇。プリント使用。</p>	授業計画	1. ガイダンスおよびレジュメ作成方法
	評価方法		2. Culture and communication (1)
			3. Culture and communication (2)
			4. Perception and communication
テキスト参考文献	5. Attribution and intercultural communication		
	6. The influence of culture on behaviors: Values, beliefs, and attitudes (1)		
	7. The influence of culture on behaviors: Values, beliefs, and attitudes (2)		
	8. Verbal communication (1)		
	9. Verbal communication (2)		
	10. Nonverbal communication (1)		
	11. Nonverbal communication (2)		
	12. Review		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>目的および授業の進め方は、前期に同じ。</p> <p>文献は、異文化接触に伴う個人の心理的反応、異文化適応、グローバル社会での医療問題などを中心に扱う。</p> <p>後期使用文献： Gudykunst, W. B., & Kim, Y. Y. (1997). <i>Communicating with strangers: An approach to intercultural communication</i> (3rd ed.). New York: McGraw-Hill. 他4篇。プリント使用。</p>	授業計画	1. Review of the exam
	評価方法		2. Intercultural contact: individual reaction (1)
			3. Intercultural contact: individual reaction (2)
			4. Cross-cultural adaptation (1)
テキスト参考文献	5. Cross-cultural adaptation (2)		
	6. Intercultural communication: Health care (1)		
	7. Intercultural communication: Health care (2)		
	8. Intercultural communication		
	9. Intercultural communication		
	10. Intercultural communication competence (1)		
	11. Intercultural communication competence (2)		
	12. Review		

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	工藤和宏
----------------	----------------	-----	------

副題	日本文化の継続性と変化	担当者	*****
----	-------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>国際的に著名な社会心理学者デービット・マツモト氏が日本社会・文化と日本人の特性の変化について著した本を精読します。文化の継続性・変化・多様化についての理解を深めることにより、文化と対人行動の関係を複眼的に分析できるようになることを目標とします。</p> <p>授業は担当教員による導入、グループ討論、全体討論、担当教員によるコメントという形式で進めていきます。春学期では、文化の継続性と可変性、内外で指摘されてきた日本人のステレオタイプの妥当性について、秋学期では、日本社会と日本人の変化の現状とその背景・原因について考察します。これらの学習内容を踏まえた上で、日本の文化や社会、対人行動に関するグループ研究発表をしていただきます。</p> <p>討論は日本語で行いますが、担当教員による導入、レポート、春学期試験、研究発表の使用言語は英語とします。秋学期には、グループ発表のために授業外での準備も若干必要となります。</p>	授業計画	1 Introduction
			2 Classic conceptualization of Japanese culture
			3 Contemporary views of Japanese culture
			4 Stability in contemporary Japanese society & The causes for this degree of unrest
			5 Japanese collectivism
			6 Japanese self-concepts and interpersonal consciousness
			7 Japanese emotionality
			8 The Japanese salaryman
			9 Japanese lifetime employment & The Japanese marriage
			10 Understanding what culture is and is not
評価方法	春学期 レポート (500語×2) と定期試験 秋学期 レポート (1000語×1) と研究発表		11 Japanese cultural change & Changing moral values in Japanese society
テキスト参考文献	Matsumoto, D. (2002). <i>The new Japan</i> . Yarmouth, MN: Intercultural Press.		12 春学期授業のまとめ、討論「価値観について」

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 Some reasons for changing morals and social behavior in Japan	
				2 The search for morality among Japanese youth
				3 The Japanese business world
			4 The educational system	
			5 Sports	
			6 Changing Japanese culture and everyday life	
			7 The cultural challenge for corporate Japan and educational system	
			8 The cultural challenge for Japanese sports & Challenge for the future	
			9 研究発表会の準備	
			10 研究発表会 1	
評価方法			11 研究発表会 2	
テキスト参考文献			12 秋学期授業のまとめ	

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	国見 晃子
----------------	----------------	-----	-------

副題	オーストラリアの詩	担当者	*****
----	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p><講義目的> 多民族、多言語を内包するオーストラリアの歴史や文化を考察しながら、オーストラリアの詩を様々な角度で話し合っていきます。オーストラリアの詩を検討していく中で、常に自分自身に対する問い(「国」「言語」「詩」「歌」とは何か?等)と合わせて考えて欲しいと思っています。また、クラスで論議する楽しさを再確認して欲しいと考えています。</p> <p><講義概要> オーストラリアの歴史を踏まえた上で、アボリジニと入植者たちの、それぞれの視点から創作された詩を読んでいきます。今回の授業用に選択した詩は、歴史的価値がある作品というよりは、声に出して読んで心地よい詩ばかりです。「ことば」の面白さ、美しさも研究します。授業はレポーターの発表後、クラスで議論する形式で進めます。</p>	授業計画	1 イントロダクション オーストラリアの詩とは? アンソロジーの歴史概要
			2 アボリジニの歴史概要
			3 アボリジニ独自の言語から英訳された詩を読む① (RMW Dixonの本より紹介。CDも使用。)
			4 アボリジニ独自の言語から英訳された詩を読む② (様々なアンソロジーより紹介)
			5 アボリジニ独自の言語から英訳された詩を読む③ (様々なアンソロジーより紹介)
			6 アボリジニが英語で書いた詩① Oodgeroo Noonuccal
			7 アボリジニが英語で書いた詩② Kevin Gilbert
			8 アボリジニが英語で書いた詩③ Inside Black Australiaより紹介
			9 オーストラリア入植の歴史概要
			10 入植者たちが書いた詩① Bush Songs / Music (A. B. Paterson 等)
評価方法	前期・後期レポート、授業での参加度(発表、発言など)、出席状況(欠席は6回以内)。		11 入植者たちが書いた詩② (様々なアンソロジーより紹介)
テキスト参考文献	テキストはプリントして配布。参考文献は授業で適時紹介します。		12 入植者たちが書いた詩③ (様々なアンソロジーより紹介)

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p><講義目的> 前期同様。</p> <p><講義概要> 前期授業内容を踏まえた上で、20世紀以降の詩を読みます。前期同様、授業は、レポーターを中心にディスカッション形式で進行します。以下の詩人の詩を予定。読む順序を変更する場合があります。また授業の流れにより、他の詩人も取り扱う場合もあるかもしれません。</p> <p>Judith Wright (1915-) Gwen Harwood (1920-95) Bruce Beaver (1929-) Peter Porter (1929-) Bruce Dawe (1930-) Les Murray (1938-)</p>	授業計画	1 レポート返却、コメント。前期授業のまとめ。後期授業の展望。
			2 Judith Wright ①
			3 Judith Wright ②
			4 Gwen Harwood ①
			5 Gwen Harwood ②
			6 Bruce Beaver
			7 Peter Porter
			8 Bruce Dawe ①
			9 Bruce Dawe ②
			10 Les Murray ①
評価方法	前期同様		11 Les Murray ②
テキスト参考文献	前期同様		12 ディスカッション

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	児嶋 一男
----------------	----------------	-----	-------

副題	英米の現代劇	担当者	*****
----	--------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>国によって、その国の地域によって、発話する人の文化的な背景によって、話される英語は、さまざまに異なってきます。</p> <p>この授業はいくつかの戯曲のテキストから、さまざまな英語の会話表現を学び、暗記することをネライにしています。</p> <p>同時に、書かれた英文の背景となっている国や地域の文化の理解と、その文化の中に生きる人間の感情の動きを知ることが目標にします。</p> <p>また、欧米では日本よりも身近にある演劇に対する違和感を、実際の上演を観ることで、消してもらいたいとも思っています。</p> <p>舞台上で交される話し言葉の日本語表現を工夫してみるのも勉強になります。</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	毎回の vocabulary quiz、観劇レポートなど。		
テキスト参考文献	テキストはプリント配布。 参考文献は作品に合わせて言及。		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	佐々木輝美
副題	Communication Models	担当者	*****
講義目的および講義概要	<p>基礎的なコミュニケーション・モデルを学びながら、コミュニケーションに関わる要因を理解し、実際のコミュニケーション状況の分析ができるようになることを目的とする。</p> <p>コミュニケーション能力も習得するために、毎回学生による発表・質疑応答&コメント型の授業とする予定。</p>	授業計画	1.Introdduction, pp.1-12
			2.Basic models, pp.13-22
			3. Basic models, pp.23-32
評価方法	発表30%、レポート70%の予定		4.Basic models, pp.33-37
テキスト参考文献	McQuail,D., & Windahl.S. (1993). <i>Communication Models</i> , Longman, pp.1-103.		5.Basic models, pp.38-45
			6.Basic models, pp.46-57
			7.Effects on individuals, pp.58-66
			8.Effects on individuals pp.67-77
			9. Effects on individuals, pp.78-84
			10. Effects on individuals, pp.85-97
			11. Effects on Culture & Society, pp.98-103
			12. Summary

副題	*****	担当者	*****
講義目的および講義概要	<p>前期に引き続き、コミュニケーション・モデルを学びながら、コミュニケーションに関わる要因を理解し、実際のコミュニケーション状況の分析ができるようになることを目的とする。</p> <p>また、前期と同様にコミュニケーション能力も習得するために、毎回学生による発表&質疑応答&コメント型の授業とする予定。</p>	授業計画	1.Effects on Culture & Society, pp.104-110
			2.Effects on Culture & Society, pp.111-121
			3.Effects on Culture & Society, pp.122-131
評価方法	発表30%、試験70%の予定		4.Audience-centered Models, pp.132-142
テキスト参考文献	McQuail,D., & Windahl.S. (1993). <i>Communication Models</i> , Longman, pp.104-209.		5.Audience-centered Models, pp.143-150
			6.Audience-centered Models, pp.151-159
			7.Media Organization, pp.160-168
			8.Media Organization, pp.169-176
			9.Media Organization, pp.177-182
			10.Planned Communication, pp.183-192
			11.Planned Communication, pp.193-200
			12.New Media & Information Society, pp.201-

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	佐藤 唯行
----------------	----------------	-----	-------

副題	アメリカのエスニックヒストリー	担当者	*****
----	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことと表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとこととて要約する能力を養なう事を、授業の目標といたします。	授業計画	1		
			2		
			3		
			4		
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
	評価方法		前、後期に筆記試験をします。平常点も30%程度考慮します。欠席や授業回数数の1/3を超えた場合単位を与えません。遅刻は3回で欠席1回分にカウントします		11
	テキスト参考文献		H. Grinstein, <i>Short History of Jews in the United States</i> , テキストは高価で私でコピーを配布します		12

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	前期と同じです。	授業計画	1		
			2		
			3		
			4		
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
	評価方法				11
	テキスト参考文献				12

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	佐藤 勉
----------------	----------------	-----	------

副題	物語を読む	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>優れた現代英米の物語（短編小説と呼んでもかまわない）を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語などに触れ、読みの行為とはなにかという点に焦点を当てて考えてみる。</p> <p>読むための技術を身につけることを目指す。そのためいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになる。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、できるだけ受講生に順番に読んでもらい、言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者がどんな技巧を物語の語りに駆使しているかを見極めていく。</p> <p>授業では読み進める物語の解説とともに、右に掲げた授業計画についてはトピックスとして取り上げて解説を試みる予定である。</p>	授業計画	1 Character と characterization について
			2 Plot と plotting について
			3 Point of view と narrator について
評価方法	成績評価は定期試験とレポートの提出などによって行う。		4 Setting と perspective について
			5 Style と tone について
テキスト参考文献	受講生にはハンドアウトを用意するのでテキストの購入はない。		6 Theme と title について
			7 Structure と analysis について
			8 Metaphor について
			9 Allegory について
			10 Imagery について
			11 Satire について
			12 Symbol について
			13 まとめ、試験、成績、その他

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>前学期と同様の授業形態を取る。読み進める物語は継続となるか、夏休みの宿題となるかは授業の進展による。</p>	授業計画	1 Focalization について
			2 Stereotype について
			3 Irony について
評価方法	前学期に同じ		4 Analogy について
			5 Allusion について
テキスト参考文献	前学期に同じ		6 Connotation と denotation について
			7 Paradox について
			8 Genre について
			9 物語の語り手の役割について
			10 その他、物語論について
			11 物語の面白さについて
			12 物語と読者との関係について
			13 まとめ、試験、成績、その他

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	島田 啓一
----------------	----------------	-----	-------

副題	現代アメリカ小説	担当者	*****
----	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>まず第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とする。</p> <p>1951年に出版されたサリンジャーの <i>The Catcher in the Rye</i> は50年以上経った今も若者達に愛読され、アメリカ戦後小説の古典となっている。その一方でアメリカの公立図書館や教育員会で最も検閲の対象となった小説でもあり、John Lennon の暗殺者、Mark Chapman の愛読書として物議をかもしもっている。80年代には映画、<i>The Field of Dreams</i> の原作本である <i>Shoeless Joe</i> のインスピレーションの源泉として、最近では村上春樹が翻訳を試みていることでも話題になった。私立の有名進学校(preparatory school)からはみ出た16歳の少年 Holden Caulfield の大人になれない悩みを扱ったこの小説の魅力を下記のような質問表に基づく討論を通じて考えていきたい。</p>	授業計画	1 授業の進め方などについての説明と「第1週の質問表」にもとづく討論による体験授業。従って、左下の欄にある「第1週の質問表」に答えられるよう最初の1, 2ページを読んでくる必要がある。
			2 前週に配布した質問表による討論。第1章を終了する予定。
			3 以降、同様な方法で毎週平均ほぼ1章ずつ読んでいく予定。本書は26章あるので、徐々に速度を上げ、中盤からは各週1章以上読んでいく予定。 質問表は全章分を教師が用意し、教師が討論の司会をするが、途中から、学生諸君に司会をしてもらうかもしれない。
評価方法	各学期末の定期試験、および平常点（出席点ではない！）		
テキスト	J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i>		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

第1週の質問表	<i>The Catcher in the Rye</i> . Chapter 1	授業計画	1 春学期と同様な方法で <i>The Catcher in the Rye</i> を読んでいく。
	1. Why doesn't the narrator want to tell us "all that David Copperfield kind of crap"?		2
	2. What does he say he is going to tell us about in this novel?		3
	3. Where do you think he is now, narrating his story?		4
	4. What kind of person is D. B.? What does he do? Where is he now and what do you think he is doing there?		5
	5. What kind of school is Pencey Prep? Describe the narrator's attitude toward Pencey. (Does he like it? If not, why not?)		6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	春学期と同じ。		
テキスト参考文献	春学期と同じ。		

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	清水 由理子
----------------	----------------	-----	--------

副題	Effective Reading	担当者	*****
----	-------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>英文読解をテーマとし、「読解」とはどのような性質をもっているものなのか、読解力をつけるにはどうしたらよいかなどを扱う。</p> <p>〔講義概要〕 「読解」はさまざまな要因を持った複雑な行為でまだ解明されていないことが多いが、英語を ESL/EFL として学んでいる者にとっての英文読解の問題を中心に扱う。読解に関する論文を読むと同時に読解力を付けるための実践的な速読訓練も行う。 課外にも reading assignment を課す。読んだ内容についての討論や口頭発表を各学期 2 回程度行う予定。</p>	授業計画	1 Introduction	
	評価方法		平常点（授業参加度、レポート）と期末テストによる。	2 Speed Reading Test I The Nature of Reading
			テキスト 参考 文献	プリント。その他は受講者が決定した段階で授業時に指示する。
			4 Eye Movement 2	
			5 Book Report and Discussion 1	
			6 Topics and Main Ideas	
			7 Outlining and Summary Writing	
			8 Textual Organization 1 (cause & effect)	
			9 Textual Organization 2 (time order)	
			10 Textual Organization 3 (comparison & contrast)	
			11 Reading newspaper/magazine articles	
			12 Book Report and Discussion 2 Speed Reading Test II	

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 Speed Reading Test III Vocabulary Development	
	評価方法		前期に同じ。	2 Scanning
			テキスト 参考 文献	
			4 Tone 1	
			5 Tone 2	
			6 Book Report and Discussion 3	
			7 Inference 1	
			8 Inference 2	
			9 Characterization 1	
			10 Characterization 2	
			11 Book Report and Discussion 4	
			12 Review and Speed Reading Test IV	

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	白鳥 正孝
----------------	----------------	-----	-------

副題	イギリス児童文学	担当者	*****
----	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	「習うより慣れよ」(Use makes perfect.)の観点から、面白くて易しい英語を多読することを目的とする。(昨年の実績は518頁であった。) Lang(Andrew,1844-1922)の『色分昔話集』(全12巻)の内、本年度は『緑色昔話集』を読む。ラングはグリム同様編者に過ぎないが、中には翻訳、再話で少し変えているところもある。今回もなじみの話は少ないが、基本は同じ、夢とヒューマーとペイソスである。(一回20ページ相当を2人の共同責任で読む。)	授 業 計 画	1		PAGE	
評価方法	試験をする。		1	<i>The Blue Bird</i>	1	
テキスト参考文献	Lang,A.ed. <i>The Green Fairy Book</i> ,Dover,1965		2	<i>The Half-Chick</i>	27	
				<i>The Story of Caliph Stork</i>	32	
			3	<i>The Enchanted Watch</i>	43	
				<i>Rosanella</i>	48	
				<i>Sylvain and Jocosa</i>	56	
			4	<i>Fairy Gifts</i>	64	
				<i>Prince Narcissus and the Princess Potentilla</i>	68	
			5	<i>Prince Featherhead and the Princess Celandine</i>	85	
				<i>The Three Little Pigs</i>	100	
				<i>Heart of Ice</i>	106	
			7	<i>The Enchanted Ring</i>	137	
				<i>The Snuff-box</i>	145	
				<i>The Golden Blackbird</i>	151	
			8	<i>The Little Soldier</i>	157	
				<i>The Magic Swan</i>	175	
			9	<i>The Dirty Shepherdess</i>	180	
				<i>The Enchanted Snake</i>	186	
			10	<i>The Biter Bit</i>	194	
				<i>King Kojata</i>	202	
				<i>Prince Fickle and Fair Helena</i>	216	
			11	<i>Puddocky</i>	222	
			12			

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	同上(続きを読む)	授 業 計 画	1		PAGE	
評価方法	試験をする。		2	<i>The Story of Hok Lee and the Dwarfs</i>	229	
テキスト参考文献	同上			<i>The Story of the Three Bears</i>	234	
			3	<i>Prince Vivien and the Princess Placida</i>	238	
				<i>Little One-eye, Little Two-eyes, and Little Three-eyes</i>	262	
				<i>Jorinde and Joringel</i>	271	
			5	<i>Allerleirauh; or, the Many-furred Creature</i>	276	
				<i>The Twelve Huntsmen</i>	282	
				<i>Spindle, Shuttle, and Needle</i>	286	
			7	<i>The Crystal Coffin</i>	290	
				<i>The Three Snake-leaves</i>	296	
				<i>The Riddle</i>	300	
			8	<i>Jack my Hedgehog</i>	304	
				<i>The Golden Lads</i>	311	
			9	<i>The White Snake</i>	319	
				<i>The Story of a Clever Tailor</i>	324	
				<i>The Golden Mermaid</i>	328	
			10	<i>The War of the Wolf and the Fox</i>	339	
			11	<i>The Story of the Fisherman and his Wife</i>	343	
			12	<i>The Three Musicians</i>	353	
				<i>The Three Dogs</i>	360	

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	杉山 晴信
----------------	----------------	-----	-------

副題	各種英文ビジネス文書の読み方と実務	担当者	*****
----	-------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	ビジネス通信文(Business Correspondence)のみを扱う狭義のビジネス英語から脱却し、他の領域の英文ビジネス文書にまで学習範囲を拡大して、国際ビジネスに従事する者にとって不可欠な実務能力とロジカル・シンキングの涵養を目指します。春学期(前期)は、契約書と定款という法律文書を扱います。海外販売代理店契約の英文契約書と米国の株式会社の設立定款をテキストとして読み、法律英語の文体や語法の特徴を言語的知識として学ぶと同時に、国際ビジネスに関する実務的な知識を習得できるように努力します。	授業計画	1 授業計画と学習内容について詳しく説明し、履修上の注意事項を伝達します。
			2 法律英語の文体や語法の基本的特徴について講義します。
			3 英文契約書の標準的構成と用語について講義します。
			4 海外販売代理店契約について全体的な説明を行った後、契約書の前文を読みます。
			5 当事者の指定、当事者関係、販売地域、および取扱製品の各条項を読みます。
			6 排他独占権、最低保証、個々の契約、および情報と報告の各条項を読みます。
			7 販売促進と工業所有権の各条項を読みます。
			8 地域外販売禁止、代理店手数料、および費用の各条項を読みます。
			9 その他の一般条項を読みます。
			10 日本企業の米国子会社(現地法人)の設立定款を読みます。
評価方法	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。		11 同上
テキスト参考文献	プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		12 同上

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	秋学期(後期)は、英文財務諸表を扱います。実在の企業の直近の英文財務諸表を範例としたテキストを読みながら、貸借対照表や損益計算書の意義、表示区分と読み方、勘定科目、各種の分析指標などについて学びます。英文財務諸表に馴染み、ごく基本的なレベルの経営分析(流動性、健全性、収益性、効率性、成長性)ができるようになることを目指します。	授業計画	1 財務諸表(特に貸借対照表と損益計算書)の意義について詳しく説明します。
			2 英文財務諸表の表示区分と読み方、および主要な勘定科目について、日本語版のそれらと比較しながら詳しく説明します。
			3 同上
			4 実在の企業の英文財務諸表を範例としたテキストを、実務知識を習得しながら読み進みます。
			5 同上
			6 同上
			7 同上
			8 同上
			9 基本的なレベルの経営分析に用いられる主要な分析指標について学びます。
			10 同上
評価方法	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。		11 各種の分析指標を用いて、テキストが範例として挙げている企業の経営分析を行い、業績を検討します。
テキスト参考文献	<i>Understanding Financial Statements 5th</i> (Prentice Hall) の必要部分をコピーして配布します。		12 同上

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	園部 明彦
----------------	----------------	-----	-------

副題	ードライデンー	担当者	*****
----	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>授業では一言一句疎かにせず、厳密に読むことを心がけていく。重ねて、このところ軽視されがちなスクール・グラマ一の知識が正確に読み進めていくには、いかに大切かを改めて認識してもらうこともこの授業の狙いのひとつである。授業は教養英語のそのままのやり方で進めて行く。</p> <p>成績は毎回のテストの合計で出すので、欠席は非常に不利になる。また、遅刻は絶対に認めないのも従来通りである。</p> <p>授業の際の細かい点は、第一回の講義の時に説明する。</p> <p>テキストは、J.Dryden の <i>Theory of Translation</i> から、昨年の続きを読む。教材のプリントは、当日配布の予定。</p> <p>極めて難解な文であるので、シラバスには毎回の狙いを記してある。充分に利用して欲しい。</p>	授 業 計 画	1	省略形について	
			2	挿入句と省略文	
			3	接続詞の that	
			4	挿入句を含む文	
			5	比較級について	
			6	関係代名詞	
			7	比喩的表現について	
			8	否定形について	
			9	代名詞について	
			10	接続詞について	
			11	仮定法について	
			12	so that の特殊用法	
			13	above について	
			14	省略形について	
			15	比較級について	
			16	where について	
			17	省略形について	
			18	比較級について	
			19	代名詞 that について	
			20	above について	
			21	that の用法	
			22	to の用法について	
			23	特殊な比較級	
			24	代名詞 it の内容	

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

評価方法	
テキスト参考文献	

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	高田 宣子
----------------	----------------	-----	-------

副題	日系アメリカ人の文化とは 日系アメリカ女性の視点	担当者	*****
----	--------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>授業では、映画、音楽、絵画、文学作品から浮かび上がる日系アメリカ人の文化と歴史について探る。</p> <p>19世紀後半以降、日本からハワイ、アメリカ本土、特にカリフォルニアへの移住者が増えた結果、現在、日系人は他の移民と同じく多文化国家アメリカにとって少なからぬ影響力を持つ。現地人からの差別や他の移民たちとの軋轢を生き抜いた一世。第二次世界大戦下の収容所体験でアイデンティティーの危機を体験した二世。そして前世代の歴史を検証しながら新たな生き方を模索する三世。日系人にとってのアメリカとは、日本とはどのような意味を持っているのだろうか？</p> <p>授業では、主に女性作家の作品を取り上げながら、日系アメリカ人の心の軌跡を辿る。</p>	授業計画	1 ガイダンス 日本人にとって北米とは？
			2 映画における日本人と日系人
			3 日系アメリカ人の絵画と音楽
			4 初期移民の歴史と文化〔テキスト講読〕
			5 補足と考察
			6 日系二世 その1 Yoshiko Uchida
			7 Yoshiko Uchida
			8 その2 Hisaye Yamamoto
			9 Hisaye Yamamoto
			10 その3 Mitsuye Yamada
			11 Mitsuye Yamada
			12 前期のまとめ 日系二世の視点とは
評価方法	毎週プレゼンテーションおよびコメント。授業内レポートによる。評価は厳しい。		
テキスト参考文献	『日系アメリカ文学 三世代の軌跡を読む』創元社 1997年 2300円		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 後期ガイダンス race, gender, class について
			2 世代格差と問題意識の変化について
			3 日系三世 その1 Janice Mirikitani
			4 Janice Mirikitani
			5 その2 Cynthia Kadohata
			6 Cynthia Kadohata
			7 比較考察
			8 日系作家(男性) その1 John Okada
			9 John Okada
			10 その2 David Mura
			11 David Mura
			12 後期まとめ
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	高橋 雄一郎
----------------	----------------	-----	--------

副題	パフォーマンス研究の諸相	担当者	*****
----	--------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>パフォーマンス研究の守備範囲は、日常生活におけるパフォーマンスから、音楽や演劇などのいわゆる舞台芸術、また「文化的パフォーマンス」という呼称で括られる宗教儀礼、国家の祭典、スポーツ、メディア、ツーリズムなど実に広い。簡単にいえば、パフォーマンスを介して自己の主体がいかにか構築されるかを、批判的に検証することである。</p> <p>前学期では、1970年代以降盛んになってきたソロ・アーティストによる合州国の「パフォーマンス・アート」を取り上げる。さしあたっては、レズビアンとして自伝的な作品を発表しているホリー・ヒューズと、メキシコ人のグリエルモ・ゴメス・ペーニャの活動に焦点をあてる予定。</p> <p>英語圏文学特殊講義と併せて受講することが望ましい。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	予習、出席を重視する。 作品の翻訳およびレポート		
テキスト参考文献	プリントを使用 参考文献については別途指示する		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>後学期では、ニューヨークのエリス島を題材にしたツーリズム研究、シカゴに移民してきたタイのフモン族を調査した民族誌学の論文などを読みながら、パフォーマンス研究の他の側面を、やや理論的に考察する予定である。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	予習、出席を重視する。 学期末のレポート		
テキスト参考文献	プリントを使用 参考文献については別途指示する		

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	竹田 いさみ
----------------	----------------	-----	--------

副題	現代の国際関係	担当者	*****
----	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>第1の目的は、アジア太平洋地域の国際関係と安全保障を分析することです。第2の目的は、英語の運用能力を高めるとともに、現代の国際関係に関する情報を獲得することです。対象国は①アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、欧州連合、日本、韓国など先進国、②中国、インド、ロシアなど巨大な途上国、③シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナムなど東南アジア諸国。</p> <p>受講生は担当する国々を決め、詳細なレジюмеを用意してプレゼンテーションを行います。その際、各種の専門的資料・新聞・雑誌などを活用し、テキストの内容を掘り下げるような工夫が求められます。次週は、テキストの英文を理解する作業が、日本語と英語で行われます。例えば第1週は、オーストラリアに関するプレゼンがあり、第2週はテキストに掲載されているオーストラリアを、英語に着目して討論します。</p>	授業計画	1
			2
			3
評価方法	受講生によるレジюме作成とプレゼンテーション、出席と討論への参加が基本となります。		4
テキスト参考文献	R.Baker and C.Morrison ed., "Asia Pacific Security Outlook2002"(Tokyo:JCIE,2002) 入手できない場合、01年版を使用します。		5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
評価方法			4
テキスト参考文献			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	中上 健二
----------------	----------------	-----	-------

副題	英語教授法	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目標および講義概要	<p><講義目標> 今日、language teaching においては、さまざまな教授法がある。それらの Background, Approach, Design, Procedure などの概要を理解し、将来、自らの teaching style を構築するための基礎を培うことをめざす。</p> <p><講義概要> 毎時間、テキストの内容をプレゼンテーションしてもらい、それをもとに担当者が補足説明をおこなったり、また、その内容に関して意見交換をおこなう。</p> <p><受講者への要望> 将来、英語を教えようと考えている人、または英語教育に興味・関心がある人が受講することを希望する。</p>	授 業 計 画	1.Course Introduction A brief history of language teaching 1
			2. A brief history of language teaching 2
			3.The nature of approaches and methods in language teaching 1
			4.The nature of approaches and methods in language teaching 2
			5.The Oral Approach and Situational Language Teaching 1
			6.The Oral Approach and Situational Language Teaching 2
			7.The Audiolingual Method 1
			8.The Audiolingual Method 2
			9.Total Physical Response
			10.The Silent Way
評価方法	定期試験、平常点、出席点		11.Community Language Learning
テキスト参考文献	Jack C. Richards and Theodore S. Rodgers "Approaches and Methods in Language Teaching" (Cambridge University Press)		12.Suggestopedia

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目標および講義概要		授 業 計 画	13.Whole Language		
			14.Multiple Intelligences		
			15.Neurolinguistic Programming		
			16.The lexical approach		
			17.Competency-Based Language Teaching		
			18.Communicative Language Teaching 1		
			19.Communicative Language Teaching 2		
			20.The Natural Approach		
			21.Cooperative Language Learning		
			22.Content-Based Instruction		
	評価方法				23.Task-Based Language Teaching
	テキスト参考文献				24.The post-methods era

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	永野 隆行(秋学期完結)
----------------	----------------	-----	--------------

副題	現代国際関係	担当者	*****
----	--------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>*この授業は後期完結型です。したがって週2コマの授業(別の曜日)となります。</p> <p>【授業の目的】</p> <p>①現代国際関係における諸問題についての理解を深めること。</p> <p>②プレゼンテーションを通じて、ものごとを筋道立てて考え、発表する能力を身に付けること。</p> <p>【授業の流れ】</p> <p>半年間の授業は、上記の2つの目的に沿って進めます。最初の数週間、英文の専門書や新聞記事を読むことを通じて、現代国際関係の諸現象に関する知識を習得すると同時に、問題意識を高めます。その上で、授業の後半では(11月中旬頃～)、授業で扱ったトピックの中から、各自(もしくはグループ)が関心を持ったものを選び、それについてパワーポイントを使ってプレゼンテーションをします。発表終了後に、全学生に授業用掲示板を通じて、発表に関するコメントを投稿するよう義務付けます。</p>	授業計画	<p>第1週から第5週:専門書、新聞記事の講読</p> <p>あらかじめ指名された学生が、該当箇所を簡単に紹介して、その後、内容についての質疑応答、討論を行います。なお、学生全員には、該当箇所の要約(400字)を毎週提出するように求めます。</p>
	<p>評価方法</p> <p>宿題(20%)、出席率(20)、プレゼンテーション(40)、掲示板への投稿(20)による総合評価。</p>		<p>第5週から最終週:プレゼンテーション</p> <p>個人、もしくはグループで特定のテーマについて、プレゼンテーションを行います。発表時間は約30分とし、その後、質疑応答ならびに討論を実施します。</p> <p>なお、プレゼンテーションの評価は、問題設定の適確さのほか、発表のわかり易さ、質問への対応などで行います。パワーポイントの使用方法については、マニュアルを貸与します。</p>
	<p>テキスト参考文献</p> <p>夏休み前までに決定し、学科掲示板を通じて通知します。授業開始までに各自購入しておくこと。</p>		<p>※なお、ここに記載した授業計画はあくまでも私が提示するプランです。授業の進め方、取り扱う内容などについては、初回の授業で学生諸君と十分話し合った上で、最終的に決定します。</p> <p>※積極的に授業に関わり、自分たちが楽しめる授業を作っていくようとする学生を大歓迎します。受け身の授業を期待している人にはまったく向かない授業です。</p>

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	授業計画	1
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
評価方法		
テキスト参考文献		

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	中村 燦
----------------	----------------	-----	------

副題	歴史・文化	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義概要 近現代史に関する英文テキストを使う。わが国の歴史教科書や新聞・テレビ等では決して語られぬ事実を学び、日本人としての明確な歴史観形成の一助たらしめたい。それはまた、学生諸君の英語による対外発信の内容を豊かにするのにも役立つであろう。授業では指名して音読と和訳をさせる。音吐朗朗、明瞭かつ淀みない朗読力を要求する。また随時、現下生起する重要問題を解説論評し、学生諸君の時事的関心を触発してゆく。</p> <p>テキストの著者は戦前、日本の戦争と歴史に関する主張を数多くの英文著書で発表した海外で著名なジャーナリスト。本書は支那事変を論じた1938年刊の名著。</p> <p>受講者への要望 始業時には大きな声で挨拶すること。授業中の私語、飲食等厳禁。茶髪、金髪は感心しない。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	平素の勤怠、授業への姿勢及び定期試験。		
テキスト参考文献	K. K. Kawakami : Japan in China (予定)		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	原 成吉
----------------	----------------	-----	------

副題	アメリカ現代詩	担当者	*****
----	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>アメリカ詩を代表する詩人 William Carlos Williams (1883-1963) の作品を読む。産科・小児科医でもあったこの詩人は、日常生活のささやかな喜びや悲しみ、そしてアメリカの抱えるさまざまな矛盾をとりあげ、徹底した口語のリズムで独自の詩を創造した。日常的なテーマと前衛的なフォームの融合した彼の作品は、20世紀後半のアメリカ詩に大きな影響を残している。ウィリアムズの作品を鏡としながら、わたしたちの「ここそしていま」を考えたい。モットーは「事物を離れて観念はない」(no ideas but in things)。</p> <p>これまでの英語学習のマッサージのつもりで受講して欲しい。授業では、レポーターによる発表(毎回1~2篇)、質疑応答、ディスカッション、そして受講生による自作の詩をリーディングも行う。このクラスの目的は、詩を楽しむこと。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	授業のプレゼンテーション、学期ごとのレポート(ワープロで4,000字程度の作品論)による。		
テキスト参考文献	<p>テキスト William Carlos Williams, <i>Selected Poems</i> ed. by Charles Tomlinson (New York: New Directions, 1985) *受講者は、各自テキストを用意すること。下記のサイトで入手可 (http://www.amazon.co.jp) \$9.95。</p> <p>参考文献 レポーターにその都度指示する。すべて独協大学図書館所蔵。</p>		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	府川 謹也
----------------	----------------	-----	-------

副題	認知言語学入門	担当者	*****
----	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	20年ほど前から意味論を飛躍的に発展させる原動力となった認知言語学の入門書を読む。テキストでは、人間の「認知能力」とは何か、そしてその能力を言語（の意味）の基盤として考えることによって、これまで十分に研究の射程に入っていない英語現象のどのようなことが分かるのかをわかりやすく説明されている。例えば、第2章はSPACEを扱い、前置詞のinやonの意味の違いを例解しているが、2例だけ挙げると、 (1) a. the café is at the highway b. the café is on the highway (2) a. John is at the supermarket b. John is in the supermarket のとらえ方の違いが説明されている。	授業計画	1 Basic concepts
			2 続き
			3 Space
			4 続き
			5 Extensions from spatial meanings
			6 続き
			7 Radial Categories
			8 続き
			9 Constructions
			10 続き
			11 続き
			12 時間があれば Review
			評価方法
テキスト参考文献	David Lee (2001) <i>Cognitive Linguistics: An Introduction</i> . Oxford University Press.		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 Mental spaces
			2 続き
			3 Language change
			4 続き
			5 続き
			6 Count and mass nouns
			7 続き
			8 Perfective and imperfective uses of verbs
			9 続き
			10 Causation and agency
			11 続き
			12 Cognitive linguistics and discourse analysis
			評価方法
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	福井 嘉彦
----------------	----------------	-----	-------

副題	英米文化	担当者	*****
----	------	-----	-------

講義目的および講義概要	テキストの英文を、内様を理解しながら読む。	授 業 計 画	1	ガイダンス
			2	時間に従って、その都度一定量の英文を読む。
			3	以下同様。
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	授業への参加と発表、及びテストによって評価する。			
テキスト参考文献				

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	上に同じ。	授 業 計 画	1	上に同じ。
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	上に同じ。			
テキスト参考文献				

01 年度以前 02 年度	専門講読 英語専門講読	担当者	藤田 永祐
------------------	----------------	-----	-------

副題	イギリスの小説	担当者	*****
----	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>語学力養成の有効な一つの方法は、好きな文章、感情移入できる文章、英文らしい歯切れの良い文章などを、手におえる範囲で繰り返し黙読ないし音読し、発想やコロケーションを消化し習得することでしょう。昔も今も将来もこのことに変わりはないと思います。</p> <p>テキストはクラシカルな四人の作家の、いずれも個性的なスタイルの味わい深い短編を集めたもの。</p> <p>授業では単語、フレーズ、文章の把握の正確さと深さを求めます。</p>	授業計画	1 C.Dickens の “The Poor Relation’s Story.”
			2 同上
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 G.Gissing の “The Poet’s Portmanteau.”
			8 同上
			9 同上
			10 同上
			11 同上
			12 同上
評価方法	普段の授業に数回小テストを行い、その総合点と平常点で評価する。		
テキスト参考文献	<i>Classic English Famous Short Stories</i> (1). (英宝社)		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 J.Conrad の “The Tale.”
			2 同上
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 T.Hardy の “For Conscience’ Sake.”
			8 同上
			9 同上
			10 同上
			11 同上
			12 同上
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	安井 美代子
----------------	----------------	-----	--------

副題	英語で日本語の構造を学ぶ	担当者	*****
----	--------------	-----	-------

講義目的および講義概要	テキストは日本語の音声、音韻現象、語形成、統語論、歴史的変化、方言などに関して、日本人言語学者が平易な英語で書いた入門書である。授業では音韻論、統語論を中心に扱う。英語学概論で得た知識があれば十分理解できるが、統語論 a/b の既修もしくは同時履修が望ましい。テキスト10ページ程度を各受講者に割り当てるので、その内容をまとめ口頭で発表してもらう。口頭発表に先立ち、割り当て部分に関する小クイズを全員に課す。また、口頭発表後、関連する言語現象について考察し、分析をまとめてもらう。	授業計画	1 Introduction 2 Phonetics 3 Phonetics 4 たくさん(takusaN) の u が発音されないことなど 5 さんぶん (三分) とさんこ (三個) の「ん」の違いなど 6 た行の「ち」「つ」の特殊性 7 さ行とは行について 8 動詞の活用と発音 9 連濁：山川(yamakawa)と中川(nakagawa) 10 英語の言い誤り 11 日本語の言い誤り 12 まとめ
評価方法	出席、授業時の口頭発表、小クイズ、言語現象の分析を平常点評価(60%)とし、これに定期試験(40%)を加えて評価する。		
テキスト参考文献	<i>An Introduction to Japanese Linguistics</i> N. Tsujimura Blackwell Publishers		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	前期と同じ	授業計画	1 文の中の構造的まとめり 2 句の中心と句の構成 3 Yes/No 疑問文 4 wh 疑問文 5 自由な語順 6 数量詞 7 代名詞とそれが指し示すものの構造的関係 8 発音しない代名詞とそれが指し示すものの構造的関係 9 「自分と」それが指し示すものの構造的関係 10 受動文 11 使役文 12 まとめ
評価方法	前期と同じ		
テキスト参考文献	前期と同じ		

01年度以前 02年度	専門講読 英語専門講読	担当者	山田 修
----------------	----------------	-----	------

副題	現代スコットランド文学	担当者	*****
----	-------------	-----	-------

講義目的および講義概要	講義目的 現代といっても、20世紀中葉前後の短編を数編読む。おそらく諸君たちが名前を知らない作家たちばかりだろうが、小品ながら面白い味のある作品もあるので、それをエンジョイしていただければよい。 講義概要 輪読形式で進めていく。できるだけ多く読むことを心がけたいが、中心となるところは精読したい。所々スコットランド語が出てくる場合があるが、下記の辞書(図書館にある)を参考にしてもらえればよい。ポケット版もあるので、興味のある人は購入するのもよいかと思う。予習を忘れないように。 最初の時間にプリントを配布するので、受講者必ず出席のこと。	授業計画	1. オリエンテーション、プリント配布。
			2. プリントの短編を読んでいく。
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献	プリント <i>The Concise Scots Dictionary, AUP</i>		

副題	*****	担当者	*****
----	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	英作文 英作文	担当者	金谷 優子
----------------	------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	この授業では、正しく簡潔な英語の文章を書くために不可欠の知識を確認し、かつ、英語パラグラフの様々な型を修得することを目指します。毎回のテーマに関連した英語表現について、学生が陥りやすい過ちに着目した後で、様々な文章パターンを学習し、その知識を基に実際作文することによって、英文の表現力を確実なものにしてゆきましょう。2週間で1つのUnitを完成させます。各々のUnitの第1週目には文章パターンを学習し、2週目には修得度をはかるための簡単なテストを行ない、更に、学習した文章パターンを使って自己表現の文を書く場を設けます。	授業計画	1 Introduction
			2 Unit 1: Writing about your university experiences
			3 Unit 1: test
			4 Unit 2: Writing about your daily life
			5 Unit 2: test
			6 Unit 3: Writing about your opinions, values and feelings
			7 Unit 3: test
			8 Unit 4: Writing about your study of English
			9 Unit 4: test
			10 Unit 5: What impact have computers and mobile phones had on your life.
			11 Unit 6: Writing about yourself
			12 Unit 6: test
評価方法	出席、平常点、提出物、前、後期末のテストを総合評価		
テキスト参考文献	<i>Learner's Writing Clinic</i> Kevin L. Mark/ Kazuko Miyake (Tsurumi Shoten)		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 Unit 7: Writing about friendships, influences, insights
			2 Unit 7: test
			3 Unit 8: Writing about your leisure pursuits
			4 Unit 8: test
			5 Unit 9: Writing about an important or difficult decision
			6 Unit 9: test
			7 Unit 10: Writing about sport
			8 Unit 10: test
			9 Unit 11: Writing about travel
			10 Unit 11: test
			11 Unit 12: Writing about your future
			12 Unit 12: test
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	英作文 英作文	担当者	川崎 潔
----------------	------------	-----	------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的 および講義概要	<p>目的 教養ある native speaker (Donald Keene, Edward G. Seidensticker, Edwin O. Reischauer) の書いた自然な英文を読んで英語らしい表現法を学び、それにならって英文を書く練習をし、自己表現の域に達する。</p> <p>概要 1) Model Paragraph を読んで Comprehension Questions に英語で答える。 2) Sentence Building: 既習の語や言いまわしを用いて、テキストとはやや異なった状況表現する。 3) Model Paragraph を範例として、指示された状況に適合した英文を作成する。</p>	授業計画	1 授業の説明と Lesson 1 の一部
			2 Lesson 1, 2
			3 Lesson 2, 3
			4 Lesson 3, 4
			5 Lesson 4, 5
			6 Lesson 5, 6
			7 Lesson 6, 7
			8 Lesson 7, 8
			9 Lesson 8, 9
			10 Lesson 9, 10
評価方法	期末テスト, 英作文の提出, 平常点による。		11 Lesson 10
テキスト 参考文献	天満美智子: <i>A Modern Writing Laboratory</i> (朝日出版)		12 予備日

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的 および講義概要	同上	授業計画	1 Lesson 11
			2 Lesson 11, 12
			3 Lesson 12, 13
			4 Lesson 13, 14
			5 Lesson 14, 15
			6 Lesson 15, 16
			7 Lesson 16, 17
			8 Lesson 17, 18
			9 Lesson 18, 19
			10 Lesson 19, 20
評価方法	同上		11 Lesson 20
テキスト 参考文献	同上		12 予備日

01年度以前 02年度	英作文 英作文	担当者	喜田 慶文
----------------	------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

01年度以前 02年度	英作文 英作文	担当者	工藤 和宏
----------------	------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>英語論文の執筆方法を学ぶ前段階として、パラグラフの書き方を習得するのが目標です。主な学習内容は次の3つです。</p> <p>(1) 日本と英語圏の教育文化の違いと英語論文の特徴を理解する。</p> <p>(2) パラグラフのルール（制約）を理解し、その中で効果的に論旨を展開する。</p> <p>(3) しっかりした英文を書くのに必要な文法力の基礎固めをする。</p> <p>授業は担当教員による解説とグループまたはペア・ワークを中心に進めていきます。実際にパラグラフを書く練習と他の受講者が執筆したパラグラフを添削する練習も行います。</p> <p>大量の英文読解と問題演習を行いますので、毎週最低2時間以上の予習が必要になります。また、効率化を図るため提出物はすべてタイプしてください。</p>	授業計画	1 Introduction
			2 A clash of educational cultures
			3 Plagiarism and bibliographic style basics
			4 The nature and form of the English paragraph
評価方法	春学期 3回の提出物と定期試験 秋学期 5回の提出物		5 Logical paragraph development in English
			6 Revision and editing
テキスト参考文献	Rooks, G. M. (1999). <i>Paragraph power</i> . Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall Regents.		7 The topic sentence & the subject development
			8 The summary sentence & language patterns in the paragraph
			9 Revision and editing
			10 The nature of description & preliminary considerations
			11 Writing the descriptive paragraph & special grammar in description
			12 Revision and editing

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 The nature of process analysis & preliminary considerations
			2 Writing the directional analysis paragraph & Stylistic problems in directional analysis
			3 Revision and editing
			4 The nature of cause and effect analysis & preliminary considerations
			5 Writing cause analysis and effect analysis paragraphs & special grammar
			6 Revision and editing
			7 The nature of comparison and contrast & preliminary considerations
			8 Writing comparison and contrast paragraphs & special grammar
			9 Revision and editing
			10 The nature of argument & preliminary considerations
			11 Writing the argumentative paragraph & special grammar
			12 Revision and editing

01年度以前 02年度	英作文 英作文	担当者	島田 啓一
----------------	------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的: 英語らしい英語を書けるようになるには、とにかく自分の意志を伝える英語を書き、それを他の人が書いた英語と比較、分析して、英語らしい表現方法や発想を「盗んでいく」ことが最も必要と考える。この授業ではコンピュータ教室を使い Web や e-mail を利用して英作文の訓練をする。</p> <p>講義概要: ETS Technologies 社が開発した英作文の自動添削評価システム E-rater を使用して、毎週与えられた課題についてエッセイを書く作業が主となる。また、授業外で e-mail を利用してクラスや海外の人々と英語の文通を年間を通して行ってもらう。(余裕があれば) 最終的には授業の成果を発表する初歩的な英文のホームページを作成してもらう予定。E-rater については、次の url を参照のこと:</p> <p>http://www.etstechnologies.com/welcome-all.htm</p>	授業計画	1 左記は暫定的なシラバスですので、登録希望者は最初の授業に必ず出席してください。
			2 E-rater の登録が完了次第、以後、毎回、E-rater が課すエッセイを作成します。
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	E-rater のスコアと学期末の e-mail または HP によるレポート
------	---

テキスト参考文献	テキストは使用しないが、E-rater の年間使用料約 2,000 円が必要。
----------	---

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>春学期（前期）と同じ。</p> <p>補足：E-rater について</p> <p>http://www.etstechnologies.com/welcome-all.htm</p> <p>E-rater の概要については上記の url で表示されるページ左側の “Scoring Technologies” をまずクリック。表示される文中の “E-rater” → 最下端の “Try E-rater” → 文中の “Try E-rater Now” と進むと、サンプル・エッセイのページが表示されます。</p> <p>登録すると期間限定ですが無料で体験できるデモページもありますので、事前に試してみることをお勧めします。</p>	授業計画	1 春学期（前期）と同じ。
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	E-rater のスコアと学期末の e-mail または HP によるレポート
------	---

テキスト参考文献	テキストは使用しないが、E-rater の年間使用料約 2,000 円が必要。
----------	---

01年度以前 02年度	英作文 英作文	担当者	園部 明彦
----------------	------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>授業では、出来るだけ新鮮な話題を取り上げることが心にかけているため、予め毎回の内容を示すことは控えたい。題材は、新聞、雑誌などから、政治、経済、文化などその時々話題から選び、毎回受講者全員に訳出してもらい、翌週までに、添削、評価して返却する。この作業を通して良い英語とは如何なるものかを各自認識してもらいたい。また、本年度から、従来の与えられた和文を単に受動的に英訳するだけでなく、一つの話題についての各自の意見を英語で論じてもらうことも考えている。確かに、このやり方は、受講者にとっては、二重の負担になろう。英文だけでなく、論旨の明快さも問われるからである。しかし、自分の意見を簡潔に述べるこれがこれからの社会では常に要求されることを考えた場合、是非とも必要なことではないだろうか。出来れば、10回ほどをこのような形式で進めてみたい。「天気が悪いから、傘をもっていけ」式の英作文に飽きたらぬ学生の参加を望む。</p>	<p>成績は、毎回の答案の合計で出すため、欠席は非常に不利になる。なお、遅刻は絶対認めないのも従来通りである。</p>
	評価方法	
	テキスト参考文献	

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

01年度以前 02年度	英作文 英作文	担当者	高田 宣子
----------------	------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>英文を書くために必要な語彙や文法力を養うと同時に、目的に応じた英文を書くため技術を習得することを目標とします。</p> <p>さまざまな表現パターンを検証しながら、一定の時間内に、指定されたトピックに基づき主張をまとめるよう訓練します。ペーパーの添削指導は月に2度程度行い、文法力とジャンル別語彙力のチェックは毎週行います。個人の力に応じた文章上達が可能な授業です。前期はTOEFLスタイルのエッセイを書くことを目標とし、後期は身の回りの出来事を素材に自分の見解を論理的に伝える技術を学んでもらいます。英文を書くときに役立つ辞書を必ず持参してください。</p>	授業計画	1 辞書の紹介 英文を書くコツとは？
			2 文法チェック 「自己PRを書く」
			3 語彙チェック 学生サンプル分析
評価方法	毎週提出するペーパーの合計点による。		4 文法チェック 「相手にものを頼む」
テキスト参考文献	プリント配布		5 語彙チェック 「感謝とお詫びを伝える」
			6 文法チェック 第4、5回サンプル分析
			7 語彙と文法の復習テスト
			8 パラグラフの構成と展開 TOEFL エッセイ分析 その1
			9 語彙チェック TOEFL エッセイ分析その2
			10 文法チェック テーマ別 writing 「説明」
			11 語彙チェック テーマ別 writing 「叙述」
			12 前期のまとめ

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 前期の復習
			2 語彙チェック テーマ別 writing 「分類」
			3 文法チェック テーマ別 writing 「比較」
			4 語彙チェック 学生サンプル分析
			5 語彙と文法の復習テスト
			6 論理的に述べる方法 claim と evidence について
			7 文法チェック テーマ別 writing 「提案」
			8 語彙チェック テーマ別 writing 「賛否」
			9 文法チェック 学生サンプル分析
			10 語彙チェック テーマ別 writing 未定
			11 語彙と文法の総合テスト
			12 後期まとめ
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	英作文 英作文	担当者	中上 健二
----------------	------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目標および講義概要	<p><講義目標> 自分の持っている能力を最大限に引き出しながら、自分の考えやTPOにあった英文を書き、読み手とコミュニケーションを図ることができるようになる。</p> <p><講義概要> テキストやプリントを使用し、毎時間、授業中に英文を書いてもらう。しかし、ただ「書く」だけではなく、他の3技能（「読む」「聞く」「話す」）との関連を深めながら、Communicative writing の能力を養成する活動を取り入れていく。ちなみに昨年度はグループディスカッションをやったり、デイリーヨミウリに投稿したりした。</p> <p><受講者への要望> 『大変だけど、おもしろく、ためになる授業』を目指している。そのような授業に賛同し、協力できること。</p>	授業計画	1 course introduction in-class writing
	2 Unit 1 About me main idea, topic sentence		
	3 Unit 2 Career consultant logical organization		
	4 Unit 2 Career consultant inference sentence		
5 Unit 3 A dream come true facts and examples			
6 Unit 3 A dream come true supporting sentences			
7 Unit 4 Invent! definition paragraphs			
8 Unit 4 Invent! attention getter			
9 Unit 5 It changed my life! cause-and-effect paragraphs			
10 Unit 5 It changed my life! introductory paragraphs			
11 Unit 6 Exciting destinations process paragraphs			
12 Unit 6 Exciting destinations guidebook style			
評価方法	課題（4回）、出席点 平常点（参加姿勢、in-class writing など）		
テキスト参考文献	Curtis Kelly & Arlen Gargagliano "Writing from Within" (Cambridge)		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目標および講義概要		授業計画	13 Unit 7 Research survey classification style
			14 Unit 7 Research survey concluding paragraphs
			15 Unit 8 The power interview comparison-contrast paragraphs
			16 Unit 8 The power interview expressions that show contrast
			17 Unit 9 Personal goals persuasive paragraphs
			18 Unit 9 Personal goals parallelism, sentence transition
			19 Unit 10 Architect logical organization
			20 Unit 10 Architect topic division
			21 Unit 11 My role models paragraph links
			22 Unit 11 My role models paragraph links
			23 Unit 12 Be a reporter newspaper styles
			24 Unit 12 Be a reporter headlines
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	英作文 英作文	担当者	中村 粂
----------------	------------	-----	------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義概要 精選された問題で和文英訳のコツと書き方を教え、実作を通して体得してもらおう。卒業してからも役に立つ英作文と好評を博してきた講義。</p> <p>前期は基本的文法事項を応用した和文英訳を、後期は文法応用をはなれた実戦的和文英訳の練習をする。毎回、学生に板書させ、それを直し、解答例を紹介する。第一回目の授業に於て最前列から着席順に 40 名まで受講を許可する。</p> <p>受講者への要望 始業時に大きな声で挨拶をする。毎回、他所では聞くことのできない重要な説明をするので、遅刻、欠席せずに真剣に受講すること。授業中の私語、飲食等厳禁。茶髪、金髪は感心しない。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	平素の勤怠。定期試験。		
テキスト参考文献	プリント		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	英作文 英作文	担当者	藤田 永祐
----------------	------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>人は誰しも、言葉でも文章でも母国語で先ず組み立てざるをえない。しかし、それを素直に英語に直していくと、英語にならないといってよい。</p> <p>適切な 'word' や 'phrase' を使える能力、文章を組み立て、文章と文章をつなぐ能力を養うことを主眼とする。</p> <p>ときにテキストを離れ、親しみやすい詩やエッセイの英訳に取り組み、変化をもたせます。</p>	授業計画	1 現在の表し方
			2 /
			3 過去の表し方
			4 /
			5 未来の表し方
			6 /
			7 仮定の表し方
			8 /
			9 使役・命令の表し方
			10 /
			11 許可の表し方
			12 /
			評価方法
テキスト参考文献	『コミュニケーションのための英文法・英作文』(英宝社)		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	13 依頼・勧誘の表し方
			14 /
			15 提案の表し方
			16 /
			17 意図・決意の表し方
			18 /
			19 推量・可能性の表し方
			20 /
			21 原因・理由の表し方
			22 /
			23 目的・結果の表し方
			24 /
			評価方法
テキスト参考文献			

01 年度以前 02 年度	英作文 英作文	担当者	本田 謙介
------------------	------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

01年度以前 02年度	英作文 英作文	担当者	宮廻 和男
----------------	------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	和文英訳の問題演習を通して、基本的な英語表現の方法、基本的な語彙の用法、やや高度な英文法などを学習します。学生は毎回課題の提出を義務付けられます。授業では、毎回指名された学生の英作文を訂正しながら、基本的な表現、語法、文法などを説明します。提出課題中によく見られる間違い、理解の程度の低い文法項目なども積極的に取り上げ、授業で解説します。授業が中心ですから、課題の添削は最低限度しか行いません。受講者にわからない箇所は進んで学習したり、質問して、理解を徹底させてください。 受講者は40名以内とします。受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。受講希望者が多い場合は何らかの形で選抜を行います。許可を受けていない学生の受講は認めません。受講を希望する学生で第1回の授業に出席できなかった時は、第2回の授業までに担当教員に連絡を取り、受講可能かどうかを確認してください。 (右の授業計画は教科書の目次です)	授業計画	1 関係代名詞の使い方
			2 関係副詞の使い方
			3 接続詞のいろいろ
			4 不定詞の働き
			5 「前置詞+動名詞」を用いる文
			6 「名詞+修飾する句」を用いる文
			7 it の用法:形式主語、形式目的語、強調構文
			8 受動態はいつ使うか
			9 比較の表現
			10 仮定法を用いる文
			11 分詞を含む文
			12 with を使って付帯状況を表す
評価方法	前後期試験+平常点(出席状況、授業態度)+提出物の成績を総合的に検討します。		
テキスト参考文献	『表現上達の英作文』 根間弘海、Richard Logan 著 桐原書店		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	エッセイ・ライティング 英語エッセイ・ライティング	担当者	D.L.ブランケン
----------------	------------------------------	-----	-----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course will bring students into the writing of short critical essays on different topics. Students will write—and rewrite, so as to correct mistakes and identify error patterns—a series of essays during the year. The focus will be on grammar and syntax (basic writing tools) on one level, and on learning the techniques of persuasive writing on another.</p> <p>Students will write sample pieces in class and as homework. Draft essays may be done in longhand, but final essays will be composed on word processors only. Downloading materials from the Internet will be permissible in certain situations, to be explained along grammar points, error patterns and writing methods.</p> <p>Assigned topics for essays will include movie and music and restaurant reviews, descriptions of people and things, opinions about happenings and events, and occasionally free subjects.</p>	授 業 計 画	1	Brief course introduction;
			2	first writing sample: a self-description Dictionary advice and correction symbols; correction of self-description, first draft
			3	Handout & practice with common error types submit self-description, final version
		4	Draft of second writing sample: a diary or journal entry, one or two pages	
		5	Students' selection of suitable textbook correction of entry, first draft	
		6	Use of textbook for writing practice (1) submit entry, final version	
		7	Use of textbook for writing practice (2) short essay based on text, first draft	
		8	Use of textbook for writing practice (3) correction of text essay, first draft	
		9	Restaurant review, first draft submit text essay, final version	
		10	Restaurant review, finish first draft after consulting with instructor	
評価方法	Grade: attendance (20%), and the scores of eight (8) essays, each worth 10% of the total		11	Use of textbook for writing practice (4) choose essay type, work on first draft
テキスト参考文献	The teacher will suggest texts after checking student writing and judging student needs		12	Use of textbook for writing practice (5) submit text essay, final version

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	review of portfolio of 3 previous essays prepare draft essay about summer holidays
			2	Continue holiday essay draft and/or correct errors of finished draft
			3	Use of textbook for writing practice (6) submit holiday essay, final version
		4	Use of textbook for writing practice (7) long essay based on text, first draft	
		5	Use of textbook for writing practice (8) correction of long essay, first draft	
		6	Movie or concert review, first draft submit long essay, final version	
		7	Movie or concert review, finish first draft after consulting with instructor	
		8	Use of textbook for writing practice (9) submit movie or music review, final version	
		9	Use of textbook for writing practice (10) teacher will check student progress in text	
		10	Article or book review, first draft discuss choice of topic with teacher	
評価方法			11	Article or book review, finish first draft discuss status of yearly work with teacher
テキスト参考文献			12	Review of portfolio of all 7 previous essays submit article or book review, final version

01年度以前 02年度	エッセイ・ライティング 英語エッセイ・ライティング	担当者	E. J. ナオウミ
----------------	------------------------------	-----	------------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Students are encouraged to move beyond the paragraph and to produce longer pieces of writing. There will be an emphasis on good writing habits and students are expected to produce outlines before beginning to write up their assignments. Students will analyze and practice different writing patterns during the year and will submit their assignments in the form of a writing portfolio at the beginning of the second semester and at the end of the year.</p> <p>In the first semester we will look at description, formal and informal letter writing and reviews. There will also be opportunities for free writing in class and these will include narratives.</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Description of a person 3. Description of a place 4. Workshop 5. A letter to a friend 6. Formal writing styles 7. Workshop 8. Writing reviews 9. Workshop 10. Introduction to writing summaries 11. Personal opinion 12. Summer writing assignment
評価方法	Writing portfolio		
テキスト参考文献	Prints and worksheets		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>The emphasis of the course in the second semester will be on patterns of persuasive writing and an introduction to academic writing. I hope students will continue to develop a critical approach to their own writing as they revise their first drafts before submitting their assignments in portfolio form.</p> <p>Students will also produce a piece of original research in groups for their final presentation. The emphasis of this course is on writing skills but the group project will introduce students to the art of presenting their findings to others orally.</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of summer assignments 2. Compare and contrast 3. Problem – solution 4. For and against 5. Cause and effect 6. Group project 7. Introduction to academic writing 1 8. Introduction to academic writing 2 9. Group project 10. Workshop and group project 11. Workshop and group project 12. Presentation of group project and final assignment
評価方法	Writing portfolio and winter assignment		
テキスト参考文献	Prints, articles and worksheets		

01年度以前 02年度	エッセイ・ライティング 英語エッセイ・ライティング	担当者	E.カーニィ
----------------	------------------------------	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This programme is aimed primarily at having the students produce good, clear, error-free English. Also, we want to find better ways to organize and to express well. Coherence and balance are target items in all writing work.</p> <p>講義概要</p> <p>Classes will give time for the appreciation of the subjects about which the students will write and this will include some discussion. Advice will be given on simple construction and the importance of clarity in communicating ideas. Set pieces will be used as sample work and students will be asked to match their own ideas with these and express themselves accordingly.</p> <p>Punctuation, good expression, and awareness of the reader's needs will all be covered. There will be at least one writing task per week to give students the chance to show that they have grasped the explanations in class.</p>	授 業 計 画	1 <i>Introduction of methods and class practice.</i>
			2 <i>Basic errors in construction</i>
			3 <i>Punctuation. Good comma use</i>
			4 <i>Direct and indirect speech uses</i>
			5 <i>Ambiguity pitfalls</i>
			6 <i>Paragraph effectiveness</i>
			7 <i>The relative pronoun</i>
			8 <i>Singular and plural problems</i>
			9 <i>Descriptive writing</i>
			10 <i>Introductions and endings</i>
評価方法	All papers are graded(weekly assignments). Where necessary, students will be asked to write a final report.		11 <i>Writing a short story</i>
テキスト参考文献	Brit-think. Ameri-think. Jane Walmsley Creative Writing Mind the Stop G.V. Carey		12 <i>Balanced writing</i>

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1 <i>Reader's meaning and writer's meaning</i>		
			2 <i>Examples of documentary and fictional pieces for comparison</i>		
			3 <i>Letter writing. All forms</i>		
			4 <i>Conciseness in documentary writing</i>		
			5 <i>The short story. Time and sequence</i>		
			6 <i>Implied nuance "between the lines"</i>		
			7 <i>Criticism</i>		
			8 <i>The anecdote</i>		
			9 <i>Economy of expression</i>		
			10 <i>The power of humour</i>		
	評価方法				11 <i>Creative expression</i>
	テキスト参考文献				12 <i>Recapitulation and recrimination</i>

01年度以前 02年度	エッセイ・ライティング 英語エッセイ・ライティング	担当者	K.ミーハン
----------------	------------------------------	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	The objective of the essay writing course is to build students understanding of the necessary requirements to write an essay in English. Students will study and practice the stages of the writing process : planning, drafting and revision and learn writing strategies The course will study and practice many different types of essay forms.	授業計画	1 Introduction and short essay evaluation.
			2 Grammar review.
			3 The writing process.
			4 Paragraphs.
			5 Planning and drafting.
			6 Revision.
			7 Assignment.
			8 Common methods of development.
			9 Tone and style.
			10 Description essay.
			11 Same as above.
			12 Test.
評価方法	Grades will be based on attendance, assignment and tests.		
テキスト 参考 文献	The textbook will be decided at a later date.		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 Narration essay.
			2 Same as above.
			3 Personal opinion essay.
			4 Same as above.
			5 Illustration essay.
			6 Same as above.
			7 Classification essay.
			8 Same as above.
			9 Assignment.
			10 Process and analysis.
			11 Same as above.
			12 Test.
評価方法			
テキスト 参考 文献			

01年度以前 02年度	エッセイ・ライティング 英語エッセイ・ライティング	担当者	M. フッド
----------------	------------------------------	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	最初の授業で説明します。		
	最初の授業で説明します。		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	最初の授業で説明します。		
	最初の授業で説明します。		

01年度以前 02年度	エッセイ・ライティング 英語エッセイ・ライティング	担当者	N. ハミルトン
----------------	------------------------------	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	Course Description: This course will train students in the skills required in order to become good writers of English. Students will learn to appreciate the qualities of good written materials and produce similar materials of their own. Beginning with the basics of good paragraph structure, we will build up to producing good essays. I will aim to make the course as interesting and enjoyable as possible. Necessary Items for class: A dictionary, a notebook and a pen or pencil. A good attitude and a willingness to try! A good sense of humour. Important Rules: NO mobile phones allowed in class! These must be switched OFF and kept out of sight throughout the class. Absences must be verified and students who come very late to class without a genuine excuse will be marked absent. Two lates will also constitute an 'absent' mark.	授業計画	A variety of stimulating themes will be covered and grammar structures practiced will be linked to those structures necessary for effective writing from the paragraph to the essay level. These will include: Paragraph writing Story writing Journal writing Letter writing Biographical/autobiographical writing	
	評価方法			Students will be continually assessed by their participation in class, general attitude and writing performance, as they will be required to submit assignments regularly throughout the year. Attendance is also a major part of the process. More than absences will result in a lower grade, more than that may result in failure.
	テキスト参考文献			The text will be announced at the beginning of the year.

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	As above	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

01年度以前 02年度	エッセイ・ライティング 英語エッセイ・ライティング	担当者	P. M. ホーネス
----------------	------------------------------	-----	------------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	The aim of this class is to have students understand the construction and content of essays. Students will be asked to write essays that will be graded by peers. The course will help students identify and use the different styles of writing needed to write well. Class details will be explained on the first day.	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Grades are based on attendance, essays and class participation.		
テキスト 参考 文献	Will be announced		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

01年度以前 02年度	エッセイ・ライティング 英語エッセイ・ライティング	担当者	P.マッケビリー
----------------	------------------------------	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

01年度以前 02年度	エッセイ・ライティング 英語エッセイ・ライティング	担当者	R. ダラム
----------------	------------------------------	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This class will give students many opportunities to learn how to write sentences in modern English — <u>NOT</u> in "Wasei Eigo".</p> <p>In addition, students will be asked to compose paragraphs in International/English format. Rules of punctuation, capitalization, indenting, and so on will be re-inforced.</p> <p>Students will be challenged to use all of the above, in writing one essay on a chosen topic. Footnoting/referencing will be explained, as well as style(s) of logically elaborating.</p>	授業計画	1 Introductions & re-writing of "Wasei Eigo" sentences.
			2 Writing about plans for Golden Week; punctuation rules.
			3 "How was your Golden Week?": writing and elaborating.
			4 Capitalization rules; re-writing exercises. Assignment of essay topic(s).
			5 Writing about Mother's Day; 'run-on' sentences and sentences which are short.
			6 Elaborating and proving yourr points: referencing.
			7 Re-writing exercises; checking essay drafts.
			8 Writing opinions, and elaborating.
			9 Re-writing exercises; checking essay progress.
			10 Writing the essay; one-on-one checking.
評価方法	The final grade will be determined by Examinations, quizzes, homework, assignments, attendance, and student PARTICIPATION.		11 Checking of essay drafts; re-writing exercises.
テキスト参考文献	A textbook may be selected AFTER assessment of student level(s) and of student needs.		12 Submission of final draft, essay; examination.

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This class will assist students to improve writing of sentences, paragraphs, and essays in English format. Much re-writing of "Wasei Eigo" will be practiced, to emphasize proper English grammar usage.</p> <p>Paragraph-writing will also be practiced, in logical style(s).</p> <p>Each student will be challenged to compose an essay on a chosen topic. Footnoting/referencing and way(s) of elaboration will be practiced.</p>	授業計画	1 Writing about Summer Break.
			2 Re-writing exercises
			3 Researching Hallowe'en; re-writing exercises.
			4 Hallowe'en: writing about background and impressions.
			5 Assignment of essay topic(s).
			6 Research, re: essay topic(s).
			7 Re-writing exercises; checking essay 'skeletons'.
			8 Writing about the School Festival.
			9 Re-writing exercises; checking essay drafts.
			10 Discussion of research results, re: Christmas in various countries.
評価方法	Same as for Semester 1.		11 Checking essay drafts; re-writing exercises
テキスト参考文献	Same as for Semester 1.		12 Submission of final draft of essay; examination.

01年度以前 02年度	翻訳Ⅰ 英日翻訳	担当者	金谷 優子
----------------	-------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	この授業では、主に文学作品(小説)を英文から日本語の文章に翻訳するための基礎を学びます。取り上げる作品は、アメリカの著名な作家のものから幾つか選びます。各文章を 1. 正しく 2. 読みやすく 3. 自然に感じられるように訳すためにはどうしたら良いか、実際毎回の演習を通じて学んでゆきましょう。また、既に翻訳が出版されているものについては、その訳文を参考にしたり、各自作成したものと比較したりしながら、翻訳の面白さを体験してみましよう。また、各文学作品の翻訳に取り掛かる前に、各作家の紹介文(英文)をまず訳してみます。	授業計画	1 Introduction
			2 James Thurber の作品
			3 同上
4 同上			
5 Anne Tyler の作品			
6 同上			
7 同上			
8 同上			
9 John Steinbeck の作品			
10 同上			
11 同上			
12 同上			
評価方法	出席、平常点、提出物を総合評価		
テキスト 参考 文献	プリント配布		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 Margaret Mitchell の <i>Gone With the Wind</i> から
			2 同上
			3 同上
4 同上			
5 Carson McCullers の作品			
6 同上			
7 同上			
8 同上			
9 Mary McCarthy の作品			
10 同上			
11 同上			
12 同上			
評価方法			
テキスト 参考 文献			

01年度以前 02年度	翻訳 I 英日翻訳	担当者	工藤 政司
----------------	--------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要 審判訳に胸心をもつ学生を対象にカナダの作家 James Houston の <i>The White Dawn</i> , アメリカの作家 Irwin Shaw の代表作 <i>The Troubled Air</i> を各12回ずつ翻訳の添削指導を行う。なおテキストは小説ゆえ折りにふれてインフィクションや評論の翻訳も加えることもある。 授業はプリントを翻訳して提出させ、これを次の時間に添削して返却し、一般的な文法上の誤り、文学的な誤謬、作品化する上で配慮等につき解説を加える。提出した訳文をもつて試験に替るので、特に定期試験を行うことはしない。なお本講座の定員は30名なので、希望者が定員を上回った場合にはテストを行い四日以内に結果を掲示して受講者を発表するので、受講希望者は筆記具を持参のこと。 毎回提出する翻訳の添削によって評価し、テストは行わない。	授 業 計 画	1	選考テスト又は講義内容の説明
		2	作品の説明及び登場人物の表記その他
		3	<i>The White Dawn</i> pp. 3-4
		4	同上 pp. 4-5 講評
		5	同上 p. 6 講評
		6	同上 p. 7 "
		7	同上 p. 8 "
		8	同上 p. 9 "
		9	同上 p. 10 "
		10	同上 p. 11 "
		11	同上 p. 12 "
		12	同上 p. 13 "

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要 前期に同じ	授 業 計 画	1	<i>The Troubled Air</i> 解説
		2	同上 pp. 5-6 講評
		3	同上 pp. 6-7
		4	同上 pp. 7-8
		5	同上 pp. 8-9
		6	同上 pp. 9-10
		7	同上 pp. 10-11
		8	同上 pp. 11-12
		9	同上 pp. 12-13
		10	同上 pp. 14-15
		11	同上 pp. 16-17
		12	同上 pp. 18-19

01年度以前 02年度	翻訳 I 英日翻訳	担当者	児嶋 一男
----------------	--------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>J.B.Keane の英語戯曲台本 <i>The Man From Clare</i> を、1幕3場から日本語に翻訳します。舞台上で話される違和感のない日本語の話し言葉ということに工夫を凝らして下さい。</p> <p>あらかじめ自分で翻訳したものを持ち寄り、4~5人の班で練り直し、クラス全体で吟味を重ねていくことにします。</p> <p>質の高いものをめざします。最終的に妥協できる翻訳表現に落ち着くまで、お互いに遠慮なく徹底的に批判しあっていく覚悟をして下さい。</p> <p>参考にするために、実際に劇場を訪ねることをすすめます。</p> <p>完成した翻訳は活字化する計画でいます。</p>	授業計画	1	選抜のための簡単な英訳試験。
			2	以下、翻訳の進捗状況に応じる。
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	主として毎回提出される翻訳のできばえ。			
テキスト参考文献	テキストはプリント配布。 参考文献は作品に合わせて言及。			

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法				
テキスト参考文献				

01年度以前 02年度	翻訳Ⅱ 日英翻訳	担当者	高田 宣子
----------------	-------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>さまざまなスタイルの英文を適切な日本語に翻訳する技術を身につけることを目標とします。新聞雑誌をわかりやすい日本語に直すだけでなく、映画、歌詞、文学作品についても、原文のニュアンスを大切にする翻訳について考えます。</p> <p>翻訳では、原文の一字一句を的確な日本語に置き換えることも大切ですが、文章の背後にある文化を伝えることも重要です。また、表現媒体によっては翻訳語のリズムや字数についても考慮が必要になります。</p> <p>授業は発表形式とし、各学生の関心のある分野から好きな例を選び、意見交換を行いながら進めます。</p>	授業計画	1 辞書の紹介 英語力以上に大切なのは？
			2 パソコン翻訳は役に立つ？
			3 翻訳は原文のニュアンスを損ねるか？
4 新聞雑誌記事の翻訳について			
5 文学作品の翻訳について			
6 映画字幕、歌詞の翻訳について			
7 共同翻訳プレゼンテーション 1			
8 共同翻訳プレゼンテーション 2			
9 共同翻訳プレゼンテーション 3			
10 共同翻訳プレゼンテーション 4			
11 共同翻訳プレゼンテーション 5			
12 前期のまとめ 生きた日本語とは？			
評価方法	毎週のプレゼンテーションとコメントの合計点による。		
テキスト 参考 文献	プリント配布		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 前期の復習
			言葉に表れる時代差、地域差、性差、年代差、階層差について
			3 翻訳プレゼンテーション 1
4 翻訳プレゼンテーション 2			
5 翻訳プレゼンテーション 3			
6 翻訳テスト その1			
7 翻訳プレゼンテーション 4			
8 翻訳プレゼンテーション 5			
9 翻訳プレゼンテーション 6			
10 翻訳プレゼンテーション 7			
11 翻訳テスト その2			
12 後期まとめ			
評価方法			
テキスト 参考 文献			

01年度以前 02年度	英文法 カレッジ・グラマー	担当者	児玉 仁士
----------------	------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	英語の表現力を涵養するために、英語の基礎的な文法事項を網羅的に解説し、更に文体的側面にも随時触れたいと思う。	授業計画	1 英文法の予備知識としての概要を説明する。
	テキストの内容は、Section 1 では、主に英語の基礎的な文法事項が網羅的に解説されており、また Section 2 では、前節の既習事項を踏まえて、文章表現上の誤りと文体上の技巧が具体的に述べられている。特に後者の文体的側面に比重が置かれているので、英語の表現力を更にブラッシュアップするのに有益であろう。テキストの問題の他に、色々の文例を補充しつつ授業を進めて行くつもりである。		2 文の構成 (Section I-第1章) : 品詞およびその分類について (第2章)
			3 名詞の形態 (数・性・格) について (第3章)
			4 代名詞およびその用法について (第4章)
			5 動詞および文中におけるその機能について (第5章)
			6 時制・法・態について (第5章)
			7 形容詞とその機能について (第6章)
			8 副詞およびその位置について (第7章)
			9 接続詞 (等位接続詞・従位接続詞) について (第8章)
			10 前置詞およびその機能について (第9章)
			11 準動詞 (動名詞・分詞・不定詞) について (第10章)
			12 句 (名詞句・形容詞句・副詞句) と (名詞節・形容詞節・副詞節) について
評価方法	前期・後期の定期試験の成績、夏休みのレポート、出席により総合評価する。		
テキスト参考文献	A. Waldhorn, A. Zeiger : <i>A Practical English Grammar for College Students</i> 金鑿堂		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 一致 (agreement) (Section II-第1章) : 主語と動詞 (数)、代名詞と先行詞 (数・人称・性) について
			2 代名詞の格 (主格・目的格・所有格; 同格) について (第2章)
			3 代名詞の照応について (第3章)
			4 時制の一致について (第4章)
			5 助動詞の用法 (特に法助動詞) について (第4章)
			6 形容詞・副詞の機能上の相違について (第5章)
			7 副詞の配列について (第5章)
			8 修飾語・句の問題点 (1 : 懸垂分詞・懸垂不定詞) について (第6章)
			9 修飾語・句の問題点 (2 : 懸垂動名詞) について (第6章)
			10 語・句・節の配列の一貫性について (第7章)
			11 並列に関する問題点について (第8章)
			12 文における省略 (特に文体上) の問題について (第9章)
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	英文法 カレッジ・グラマー	担当者	府川 謹也
----------------	------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	専修学校ではなく大学で英語を学ぶ英語学科の学生にとって恥ずかしくないきっちりとした英文法の知識を身につけることが当然の狙いであるが、そのためには「なぜこう言えて、ああ言えないの？」と素朴な疑問を抱くことが肝要で、そこから始めて次第に英語という言葉の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにして表面に現れない言語の規則性を探っていくための考え方のヒントをつかんでもらいたい。が、それと同時に、TOEIC や TOEFL に見られるような英文法問題も毎回30分位の時間を割いて答合わせをする。(受講希望者は、研究室(537)の廊下の本棚にある練習問題のプリントを事前に必ず解き、授業に持参すること。解答を書いていない場合、履修登録はお断りします。)	授業計画	1 プリント
	2 プリント		
	3 動詞の定義・動詞と助動詞		
4 動詞の形			
5 動詞の下位範疇化と選択制限			
6 続き			
7 状態的・非状態的動詞			
8 続き&可算・質量述語			
9 対称的述語&直示動詞			
10 続き&be 動詞の特性			
11 続き&存在文			
12 続き			
評価方法	定期試験と小テスト。欠席が7回を超えると自動的に「不可 (F)」。		
テキスト参考文献	鈴木英一・安井泉『現代の英文法 8 動詞』研究社		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 単純現在時制の用法と意味
			2 過去時制の用法と意味&未来の表し方
			3 続き&進行相
		4 続き	
		5 現在完了相	
		6 続き	
		7 過去完了相&未来完了相	
		8 仮定法	
		9 続き&受動態	
		10 受動態	
評価方法	定期試験と小テスト。欠席が7回を超えると「不可 (F)」。		11 続き
テキスト参考文献			12 時制の一致

01年度以前 02年度	英文法 カレッジ・グラマー	担当者	本田 謙介
----------------	------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>本授業では学生諸君に文法を「発見」してもらうことが中心となる。教師から与えられたデータ及び自分で集めた例文を吟味することで隠れていた「ルール」を発見し、それを他の人にわかる言葉で示すことになる。</p> <p>授業は以下のように進む。まず教師がトピック及び関連するデータを与え、仮説を提示する。学生は次の授業までにその仮説が正しいかを自分で探してきたデータを基に考察し、その結果を授業で発表する。学生全員が発表し終えたところで教師は学生の重要な「発見」を指摘し最近の言語学の成果を踏まえながらコメントを与える。</p> <p>この一連の作業の繰り返しの中で学生たちの体に英文法が自然としみこみ、reading, listening,そしてconversationの際にも十分な効果を発揮すると考えられる。さらには「考えること」のおもしろさを知り、自分で問題を提起しそれを独力で解決する能力を養えるようになるであろう。</p> <p>なお予習中心の授業になるので授業外の準備時間が十分に確保できない学生の受講は難しい。第一回目の授業で詳しく説明するので必ず出席すること。</p>	授業計画	1 Introduction 授業の方法など Topic(1)の出題
			2 学生の発表 (Topic(1))、 Topic(2)の出題
			3 学生の発表 (Topic(2))、 Topic(3)の出題
			4 学生の発表 (Topic(3))、 Topic(4)の出題
			5 学生の発表 (Topic(4))、 Topic(5)の出題
			6 学生の発表 (Topic(5))、 Topic(6)の出題
			7 学生の発表 (Topic(6))、 Topic(7)の出題
			8 学生の発表 (Topic(7))、 Topic(8)の出題
			9 学生の発表 (Topic(8))、 Topic(9)の出題
			10 学生の発表 (Topic(9))、 Topic(10)の出題
			11 学生の発表 (Topic(10))
			12 前期のまとめ、質問等
評価方法	授業中の発表が成績評価の主要な判断材料となる。		
テキスト参考文献	ハンドアウト使用 参考文献のリストは授業中に配布する。		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	前期と同様	授業計画	13 Introduction Topic(11)の出題
			14 学生の発表 (Topic(11))、 Topic(12)の出題
			15 学生の発表 (Topic(12))、 Topic(13)の出題
			16 学生の発表 (Topic(13))、 Topic(14)の出題
			17 学生の発表 (Topic(14))、 Topic(15)の出題
			18 学生の発表 (Topic(15))、 Topic(16)の出題
			19 学生の発表 (Topic(16))、 Topic(17)の出題
			20 学生の発表 (Topic(17))、 Topic(18)の出題
			21 学生の発表 (Topic(18))、 Topic(19)の出題
			22 学生の発表 (Topic(19))、 Topic(20)の出題
			23 学生の発表 (Topic(20))
			24 後期のまとめ、質問等
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	英文法 カレッジ・グラマー	担当者	三好 健
----------------	------------------	-----	------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>テキストは、平易な英文で書かれた英文法の教科書で、ややクセはあるが、小冊子ながら、現代英語の文法が全般にわたって簡潔にまとめられている。これを読みながら、理論に走りすぎることのない実用文法を研究し、英語を読んだり書いたり話したりする場合の、実地への応用や、教職のための実力養成を目指したい。</p> <p>なお、万一履修希望者数が定員(45名)を超えたときは、出席の諸君と相談の上善処する予定である。</p> <p>講義概要</p> <p>受講者の実力養成を目標としているため、毎回の授業は英語・英文法の充実した訓練の場となる。毎回受講生全員に発言を求め、下調べが必須であることは言うまでもない。意欲のない者には適さないかも知れないが、マジメにやれば力がつくことは請け合いである。</p> <p>受講者への要望</p> <p>遅刻・欠席が好きで下調べの嫌いな学生は来ないで頂きたい。受講希望者は第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>	授 業 計 画	1	イントロダクション。テキストの紹介と、一年間の授業計画及び勉強の仕方の説明。
			2	品詞について。(テキスト第1章)
			3	文の構造について。(テキスト第2章)
			4	文の機能について。(テキスト第3章)
			5	節について。(その1. 名詞節) (テキスト第4章)
			6	節について。(その2. 形容詞節) (テキスト第5章)
			7	節について。(その3. 副節) (テキスト第6章)
			8	主語について。(テキスト第8章)
			9	代名詞の照合について。(テキスト第9章)
			10	動詞について。(テキスト第11章)
			11	目的語について。(テキスト第12章)
			12	補語について。(テキスト第13章)
評価方法	平常の成績と年2回の試験による。欠席が多いと当然「平常の成績」がわるくなる。			
テキスト参考文献	<p>テキスト</p> <p>M. M. Bryant & C. Momozawa: "Modern English Syntax" (成美堂)</p> <p>参考文献</p> <p>江川泰一郎:「英文法解説」(金子書房)</p> <p>山崎貞・毛利可信:「新自修英文典」(研究社)</p>	担当者		
		担当者		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	動詞句について。(テキスト第14章)
			2	助動詞について。(その1. shallとwill) (テキスト第15章)
			3	助動詞について。(その2. shall, will以外と疑似助動詞) (テキスト第16章)
			4	形容詞的修飾語句。(テキスト第17章)
			5	副詞的修飾語句。(テキスト第18章)
			6	否定について。(テキスト第19章)
			7	比較について。(テキスト第20章)
			8	態について。(テキスト第21章)
			9	仮定法について。(テキスト第24章)
			10	不定詞について。(テキスト第25章)
			11	分詞について。(テキスト第26章)
			12	話法について。(テキスト第27章)
評価方法				
テキスト参考文献				

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	A.R.フォルヴォ
----------------	---	-----	-----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	The objective of this course is to develop the ability of students to provide an opinion on various topics from News, video and media.	授業計画	Week one: Introduction Week two: Topic One Week three: Topic Two Week four: Topic Three Week five: Topic Four Week six: Topic Five Week seven: Topic Six Week eight: Topic Seven Week nine: Topic Eight Week ten: Topic Nine Week eleven: Topic Ten Week twelve: Exam
	評価方法		To be determined after initial class meeting.
	テキスト 参考 文献		Weekly presentation of opinions, class participation, transmission of homework by email to my account, final first and second term exams, attendance.

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1			
			2			
			3			
			4			
			5			
			6			
			7			
			8			
			9			
			10			
			評価方法			11
			テキスト 参考 文献			12

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	D.ブラドリー
----------------	---	-----	---------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course aims to improve the listening and speaking abilities of intermediate students of English.</p> <p>We will do a selection of listening exercises and fluency practice activities. The level will be that of general EFL textbooks at the intermediate level. The listening exercises consist of short interviews, telephone exchanges, public announcements, conversations and other recordings of people speaking naturally. In the fluency activities students exchange information, describe their experiences, and participate in role plays and discussions. In the weekly topics listed below there is a range of topics commonly handled at this level. This is a proposed list and not necessarily final.</p> <p>There will be a homework listening assignment.</p> <p>There is an upper limit of 35 on the number of students who may take this class. Where the number hoping to take this class exceeds 35 we will decide the class members by lottery during the first class meeting.</p>	授 業 計 画	1 Introduction to the course
			2 Consolidation activities
			3 Consolidation activities
			4 Personal information – talking about yourself
			5 Work – talking about jobs and careers
			6 Past lives – talking about people’s histories, biographies
			7 Homes – location inside the house
			8 Directions – giving directions and using maps
			9 Travel – making travel arrangements
			10 Travel – modes of transport
			11 Giving instructions
			12 Review
評価方法	Grades will be based on attendance(33%), class participation(33%) and the homework assignment(33%).		
テキスト参考文献	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1 Consolidation
			2 Comparisons
			3 Communication – reported speech and giving messages
			4 Health
			5 Giving advice
			6 Hypothetical situations – talking about the future
			7 Hypothetical situations – talking about the past
			8 Current events – listening to the news
			9 Discussions – giving opinions
			10 Discussions – giving opinions
			11 Review
			12 Review
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	D.L.ブランケン
----------------	---	-----	-----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course aims to improve students' oral skills, hearing and vocabulary. Besides text exercises and activities, there will be student presentations and role play based on travel-oriented themes. All tasks are intended to be both practical and realistic.</p> <p>Handouts will be provided by the teacher, and topics chosen by the students for speaking work. There will be pronunciation and listening practice, as well as occasional dictations, and sometimes games.</p> <p>Students will do extensive pair and group speaking. Good attendance is necessary for this to be successful; so is the willingness and the desire to communicate orally.</p>	授 業 計 画	1	Course introduction & expectations: procedures and rules. Advice on dictionary choice and use.	
	評価方法		Grade: attendance, group and pairwork, role playing, and quizzes, each worth 25%.	2	Textbook, Unit 1: Arrival abroad Explanation & drills; pairwork and role play choices
				3	Unit 1: Conversation practice in pairs and groups Supplemental work, handouts and activities
				4	Textbook, Unit 2: At Immigration Explanation & drills; pairwork and role play prep
テキスト参考文献	English On the Move: Pustulka and Baxter Metropolitan Publications	5	Unit 2: Conversation practice in pairs and groups Extra work: various handouts and free speaking		
		6	Consolidation work: written exercises and student presentations (I)		
		7	Textbook: Unit 3: Handling money Explanation and drills; pair work and role play prep		
		8	Unit 3: Conversation practice in pairs and groups Extra work: practice in handling foreign currency		
		9	Textbook: Unit 4: Medical treatment Explanation and drills; pairwork and role play prep		
		10	Unit 4: Conversation practice in pairs and groups Extra work: sample non-prescription medicines		
		11	Consolidation work: written exercises and student presentations (II)		
		12	Final pair work and role play speaking tests: Students will speak in pairs and groups		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	Textbook: Unit 5: Hotel reservations Explanation and drills; pair work and role play prep
			2	Unit 5: Conversation practice in pairs and groups Extra work: various handouts and free speaking
			3	Textbook: Unit 6: In a restaurant Explanation and drills; practice with menus
			4	Unit 6: Conversation practice in pairs and groups Extra work: Role playing restaurant situations
			5	Consolidation work: written exercises and student presentations (III)
			6	Textbook: Unit 7: Public Transportation Explanation and drills; pairwork and role play prep
			7	Unit 7: Conversation practice in pairs and groups Extra work: pronunciation and dictation practice
			8	Textbook: Unit 8: Shopping Explanation and drills; pairwork and role play prep
			9	Unit 8: Conversation practice in pairs and groups Extra work: shopping situations
			10	Consolidation work: written exercises and student presentations (IV)
			11	Final pair work and role play prep using topics from Textbook: Unit 9: At the post office
			12	Final pair work and role play speaking tests: Students will speak in pairs and groups

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	E. ハードスターク
----------------	---	-----	------------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	J.ワールドマン
----------------	---	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>	授 業 計 画	1 Introductions with an explanation of the grading system and student requirements.
			2 In this session students will generate topics for discussions that will be used throughout the semester.
			3 The main topic of discussion will focus on dating and marriage customs in Japan and the United States.
			4 The difference in life styles between students and their parents will be the topic of conversation in this class.
			5 This session will revolve around reading patterns and students' favorite books.
			6 The Confucian and Socratic methods of education will be discussed in this class.
			7 This session will focus on travel experiences to broaden students' cultural understanding.
			8 Health topics affecting university students will be the topic of this class.
			9 High school memories and a comparison between high school life and college life will be the discussion topic in this class.
			10 Storytelling techniques will be used to generate conversations among students.
評価方法	Students will be graded on attendance, classroom participation, homework, and examinations.		11 The main topic of discussion in this class will revolve around summer travel plans.
テキスト参考文献	No text will be used, but students will be expected to prepare and generate topics for class discussion.		12 Midterm examination.

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1 This class will focus on leisure activities and attitudes toward work and family life.
			2 The changing roles of men and women in the United States and Japan will be the topic of discussion in this class.
			3 In this class students will learn to read and understand English newspapers.
			4 Students will continue to work with English newspapers to further proficiency.
			5 This will be the last class using English newspapers with a review for upcoming test.
			6 Test on previous three lessons using English newspapers.
			7 Students will give presentations explaining some aspect of Japanese culture.
			8 Problems of non- Japanese people living in Japan will be the focus of discussion in this class.
			9 Storytelling techniques will be used to generate discussion in this class.
			10 The topic of this class will be environmental problems.
評価方法			11 Communication activities using music will be the focus of this class.
テキスト参考文献			12 Final examination.

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	K.R.ベイン
----------------	---	-----	---------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>The course aims to provide an interesting atmosphere and opportunity for students to focus on and practice accuracy and fluency skills in English. At the same time, the use of role-plays will place 'beneficial' pressure and stress on students an attempt to replicate real-time stress. Students will be expected to participate to the best of <i>their</i> ability and to show a willingness to work with others.</p> <p>The course will use a basic level textbook for accuracy and fluency practice. Textbook units will be rearranged thematically to suit role-play purposes. Additional language, text modifications and other activities will be provided by the teacher. The focus of the lessons and assessment will be 2-3 member role-plays conducted roughly every fourth week.</p> <p><i>The class limit of student numbers will be strictly observed for this class.</i></p> <p><i>4th year students should be aware of the need for regular attendance and participation in order to pass.</i></p>	授業計画	<p>Units will be rearranged over each semester to fit three part role-plays. Combinations may vary depending on the timetable. It is very important that students purchase the book (which has an accompanying CD included).</p>	
	評価方法			Students will be evaluated by class participation and class Attendance, and particularly by grades based on 6-7 groups role-plays over the year.
	テキスト参考文献			Passport Plus (red cover) A. Buckingham & N. Whitney Oxford University Press

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	K.ミーハン
----------------	---	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	The objective of Conversation 1 is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building and using everyday English. Students are encouraged to achieve their goal through student-student and student-teacher conversations and discussions.	授業計画	1 Introduction.
			2 Exchanging personal information.
			3 Personalities.
			4 Appearances.
			5 Attitudes.
			6 Comparing experiences.
			7 Getting information.
			8 Events.
			9 Quiz.
			10 Movies.
評価方法	Grades will be based on attendance, class participation and tests.		11 Music
テキスト参考文献	The textbook will be decided at a later date.		12 Test.

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 Summer vacation.
			2 Preferences.
			3 Personal opinions
			4 Japan.
			5 Present-day concerns.
			6 Generational conflicts.
			7 Quiz.
			8 Relationships.
			9 University education.
			10 Future.
評価方法			11 Discussion.
テキスト参考文献			12 Test.

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	L.K.ハーキンス
----------------	---	-----	-----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	The goal of this course is to provide the students with an opportunity to improve their knowledge of vocabulary, idioms and grammar and to provide them with an opportunity to actually practice the English they have studied. This shall be attempted with the use of video. So, the class should be both fun and instructive.	授業計画	Each week shall be devoted to one lesson from the video movie. Thus the schedule would look as follows: Week One: Scene One Week Two: Scene Two etc...	
	評価方法			The students will be evaluated on the following: Class participation, attendance, two exams and a final interview.
	テキスト 参考 文献			Handouts shall be provided by the teacher.

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	P.M.ホーネス
----------------	---	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course will focus on communicating in English with native speakers of English, as well as non-native speakers. It will be important for students to express their ideas concisely and coherently. The students will be responsible for researching discussion topics and actively presenting their ideas in a discussion.</p> <p>Class details will be explained on the first day.</p> <p>Class limit of 30.</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Grades will be based on attendance, participation, and tests		
テキスト 参考 文献	Will be announced		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

01 年度以前 02 年度	Conversation I Communicative English I	担当者	P.アプス
------------------	---	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Purpose The aim of this course is to encourage the students to communicate using English in the classroom and eventually outside the classroom. The students will participate in structured group work and pair work. It is hoped that through participating in these exercises the students will develop confidence in communicating in English. Finally the students will given time in class to talk to the teacher in small group and they will be encouraged to take full advantage of this experience.</p> <p>Teaching Method The communicative approach Message to the students In this course I hope the students will try their hardest to communicate in class with each other and myself. The simple point is that English is easy if you try.</p>	授業計画	At the beginning of the year the students can select the sequence in which they would like to study the chapters of the book.	
	評価方法			<p>1) There will be an interview test at the end of each term 2) Attendance and class participation will be evaluated. 3) Evaluation of the assignments</p>
	テキスト参考文献			<p>“English File two” by Clive Oxendale / Christine Latham-Koenig / Paul Seligson Oxford University Press</p>

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	R.J.バロウズ
----------------	---	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Object This is a content-based course for students interested in learning about and discussing cultural & social changes in post-war America & Britain. Movie & documentary video will be used as both listening practice and a springboard for debate. In addition, to expanding student's communicative skills, class members will have the opportunity to share opinion & expand their vocabulary.</p> <p>Content In the Spring Term, the film 'Forrest Gump' will be analyzed to look at post-war American culture & history, including the Civil Rights Movement, the Vietnam War & Watergate. In the Fall Term, excerpts change during the 1960s. Students will be requires to learn new vocabulary, practice listening comprehension with a section of dialogue or song, and summarize or review what they have seen.</p> <p>Message for Students As this class is regularly oversubscribed, please only apply for it if you have a genuine interest in the period & materials. Since each lesson includes video footage, regular attendance is essential to understanding the course. Students will be permitted a maximum of 2 absences per semester, including 4th year students.</p>	授業計画	<p>Week 1: Introductory Lesson 'FORREST GUMP'</p> <p>Week 2: Forrest's Childhood</p> <p>Week 3: Forrest's Education</p> <p>Week 4: Forrest Graduates</p> <p>Week 5: Forrest in Vietnam</p> <p>Week 6: Forrest in Washington</p> <p>Week 7: Forrest in Business</p> <p>Week 8: Forrest on the Road</p> <p>Week 9: Forrest & Jenny</p> <p>Week 10: Review 1 - Social Change in Post-War America</p> <p>Week 11: Review 2 - Writing a Movie Review</p> <p>Week 12: End of Term Exam</p>
評価方法	<p>There in no set text for this course. Instead, students must bring each week an A4/B4 binder or file to keep the photocopies which will be handed out at the beginning of term.</p> <p>In addition, students are strongly advised to bring a good Japanese-English dictionary to each lesson.</p>		
テキスト 参考 文献	<p>Grades will be based on the following criteria: Attendance & Punctuality-20% Class Time Effort & Use of English-40% 2 Term Assignments & 2 End of Term Exams-40%</p>		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	<p>Fall Term 'THE BEATLES ANTHOLOGY'</p> <p>Week 1: The Beatles in Liverpool</p> <p>Week 2: The Beatles in Hmburg</p> <p>Week 3: Beatlemania!</p> <p>Week 4: The Beatles in America</p> <p>Week 5: The Beatles on Film</p> <p>Week 6: The Beatles in Japan</p> <p>Week 7: The Psychedelic Beatles</p> <p>Week 8: The Beatles in India</p> <p>Week 9: Yoko Ono & Apple Records</p> <p>Week 10: The Beatles Break Apart</p> <p>Week 11: Review 1 - The Beatles as 60s Icons</p> <p>Week 12: End of Term Exam</p>
評価方法			
テキスト 参考 文献			

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	R.M.ペイン
----------------	---	-----	---------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course is meant to help intermediate level students improve their speaking and listening abilities.</p> <p>Class time will be divided between whole class activities and group presentations. (Students will be divided into groups and each group will prepare a presentation or activity for an assigned class period.)</p> <p>No specific text will be used. Students will generate and prepare topics for weekly presentations.</p> <p>Grades will be based on attendance and participation in whole class activities and group presentations as well as tests.</p> <p>Three or more absences in one semester will result in a failing grade in the course.</p>	授 業 計 画	1 Introduction and explanation of class methods
			2 Determination of students of group presentation topics for the first term.
			3 Instructor prepared exercises followed by student group presentation.
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	Grades will be calculated as stated above.		11
テキスト参考文献	none		12 mid-year test

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	(same as first term - above)	授 業 計 画	1 determination by students of group presentation topics for the second term
			2 Instructor prepared exercises followed by student presentation.
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12 final exam

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	R.ジョーンズ
----------------	---	-----	---------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Students! Do you want to improve your speaking, listening and vocabulary? Then join this class. The most important thing is not your English level but the fact that you like a challenge! Interesting topics will be covered in the lessons and there will be a lot of fun. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be to understand more fully the differences between the UK and Japanese thinking on the issues covered. Please note: the content for Conversation 1 and the Discussion Class is basically the same. Conversation I is for students of average speaking ability, whereas the Discussion class is for those whose English is pretty good. Previous students to the course are most welcome as all new material will be used.</p>	授 業 計 画	<p>Weeks 1 & 2</p> <p>Introduction to the course, getting to know the teacher and fellow classmates. Discussing aspects of learning and studying English.</p> <p>Weeks 3 & 4</p> <p>The advantages and disadvantages of television (and other media) in our lives.</p> <p>Weeks 5 & 6</p> <p>What is a beautiful person? Are good looks everything? How about personality?</p> <p>Weeks 7 & 8</p> <p>Why do some people want to change the way they look through plastic surgery?</p> <p>Weeks 9 & 10</p> <p>What does friendship mean? How far would you go to help a friend in need?</p> <p>Weeks 11 & 12</p> <p>Students will attend the lesson in small groups to demonstrate how well they can speak English.</p> <p>Good luck with your studies. Let's have fun together, but remember; if you try hard, you can succeed at anything!</p>
評価方法	Class work/Homework = 30%, Speaking examinations = 30%, Reports = 20%, Teacher Points = 20%.		
テキスト参考文献	No set textbook will be used. In the lessons, the students will receive handouts that they should keep safely.		
			<i>Please note that the topics covered might vary according to interest and the pace of the class</i>

講義目的および講義概要	As Above	授 業 計 画	<p>Week 1 & 2</p> <p>Welcome back to the course. Discussion of holidays, and restating of course goals</p> <p>Weeks 3 & 4</p> <p>What standards of behaviour are worth keeping to; for example punctuality, honesty and such like.</p> <p>Weeks 5 & 6</p> <p>How does technology like computers effect our lives. Is email and the internet affecting social interaction?</p> <p>Weeks 7 & 8</p> <p>Drinking alcohol. Should workers be forced to go to drinking parties? Other issues related to drink.</p> <p>Weeks 9 & 10</p> <p>Ethics at work and other social dilemmas.</p> <p>Weeks 11 & 12</p> <p>Students will attend the lesson in small groups to demonstrate how well they can speak English.</p> <p>Good luck with your studies. Let's have fun together, but remember; if you try hard, you can succeed at anything!</p>
評価方法	As above		
テキスト参考文献	As above.		

Please note that the topics covered might vary according to interest and the pace of the class

01年度以前 02年度	Conversation I Communicative English I	担当者	R.ダラム
----------------	---	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

01 年度以前 02 年度	Conversation I Communicative English I	担当者	T.J.フォトス
------------------	---	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>The main objectives of this conversational English course are to improve the fluency of the students. This will be done through practice. An increase in the vocabulary and understanding of general and specialized English will assist the students in their future careers. To accomplish this goal, all four skills of speaking, reading, listening, and writing will be covered. There is no textbook. Students will receive copies of short topical articles and news reports. These will be studied and discussed in class. Short reports and presentations may be required, class size being small enough to permit such exercises. There will be short sections of movie reviews and possibly viewing of closed caption movies if video facilities are available. There will be an emphasis on business. If you don't like business don't sign up for the class. This is not a literature course. It is designed to introduce students to the real world.</p>	授業計画	<p>1 Introduction, organization and initial interview evaluation 2 Topic, hand-out, and introductory discussion 3 Continued 4 Continued 5 Continued 6 Oral interviews and presentations 7 Topic, hand-out, and introductory discussion 8 Continued 9 Continued 10 Continued 11 Continued 12 Oral interviews and presentations</p>
評価方法	<p>Active class participation as well as VERY frequent attendance is expected. Some wiggle room will be permitted 4th year students regarding attendance, however additional reports will be required from those students who simply can't seem to make it to class on a regular basis. There will be short quizzes and brief one-to-one interviews instead of the regularly scheduled final examinations. 60% of the final grade will be based solely on students being present in class and doing their best to practice using English. Quizzes and oral interviews will take up the remaining 40% of the grading.</p>		
テキスト参考文献			

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	<p>1 Topic, hand-out, and introductory discussion 2 Continued 3 Continued 4 Continued 5 Continued 6 Oral interviews and presentations 7 Topic, hand-out, and introductory discussion 8 Continued 9 Continued 10 Continued 11 Continued 12 Final oral interviews</p>
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	A.R.フォルヴォ
----------------	---	-----	-----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	The objective of this course is to refine the ability of students to provide an opinion on various topics from News , video and media.	授業計画	Week one: Introduction Week two: Topic One Week three: Topic Two Week four: Topic Three Week five: Topic Four Week six: Topic Five Week seven: Topic Six Week eight: Topic Seven Week nine: Topic Eight Week ten: Topic Nine Week eleven: Topic Ten Week twelve: Exam
評価方法	Weekly presentation of opinions, class participation, transmission of homework by email to my account, final first and second term exams, attendance.		
テキスト 参考 文献	To be determined after initial class meeting.		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	Week one: Second Term Introduction Week two: Topic One Week three: Topic Two Week four: Topic Three Week five: Topic Four Week six: Topic Five Week seven: Topic six Week eight: Topic seven Week nine: Topic eight Week ten: Topic Nine Week eleven: Topic Ten Week twelve: Exam
評価方法			
テキスト 参考 文献			

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	C. B. 池口
----------------	---	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	This course aims to expose students to the different forms of communication. This will eventually help students to develop effective communicative habits after intensive classroom practice.	授 業 計 画	1	Introduction to the Course
			2	Topic 1: What is communication
			3	Presentation
			4	Topic 2: The various forms of communication?
			5	Presentation
			6	Topic 3: What is intercultural communication?
			7	Presentation
			8	Topic 4: Communicating without words
			9	Presentation
			10	Topic 4: Non-verbal communication (1)
			11	Presentation
			12	Summary and Evaluation
評価方法				
テキスト参考文献				

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	An overview of the second term
			2	Topic 5: Non-verbal communication (2)
			3	Presentation
			4	Topic 6: NVC and intercultural contact
			5	Presentation
			6	Topic 7: Non-verbal codes in Japan: The Bow
			7	Presentation
			8	Topic 8: Non-verbal codes in Japan: eye contact
			9	Presentation
			10	Topic 9: Intercultural reactions to the bow
			11	Presentation
			12	Summary and evaluation
評価方法	Class participation and speeches are important.			
テキスト参考文献	To be announced on the first day of class.			

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	D.L.ブランケン
----------------	---	-----	-----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This course uses a business setting to hone students' oral skills, listening and vocabulary. There will be text exercises and activities, and extensive student pair work and role play based on business themes and situations. All tasks are designed to be highly practical and realistic.</p> <p>Handouts will be provided by the teacher, and topics chosen by the students for speaking work. There will be pronunciation and hearing practice, occasional dictations, and considerable use of the Internet in communicating with foreign companies operating in Japan.</p> <p>Students will make regular presentations of several sorts—recaps of text contents, reports of contacts with firms and offices, sample role play "interviews," etc. Good attendance is obligatory, and the instructor assumes proficient English and willingness to speak it from the outset.</p>	授 業 計 画	1 Course introduction & expectations: procedures and rules. Advice on dictionary and Internet use.	
	評価方法		Grade: attendance, group and pairwork, role playing and quizzes, each worth 25%.	2 Textbook, Unit 1: Job interview Explanation & drills; pair work and role play
			テキスト参考文献	Communicating in the Business World: Pustulka & Baxter, Metropolitan Publications
			4 Consolidation work 1: exercises, preparation and student presentation practice	
			5 Textbook: Unit 3: Naming things Explanation & drills; pair work and role play	
			6 Textbook: Unit 4: Explaining how to do things Explanation & drills; pair work and role play	
			7 Consolidation work 2: exercises, preparation and student presentations using material in Unit 5	
			8 Textbook: Unit 6: Numbers: quantities & prices Explanation & drills; pair work and role play	
			9 Textbook: Unit 7: Numbers: cardinals & ordinals Explanation & drills; pair work and role play	
			10 Consolidation work 3: exercises, preparation and student presentation practice	
			11 Preparation for two brief presentations, or one pair work + one role play speaking the following week	
			12 Final pair work, role play and presentation speaking tests: Students will speak solo, or in pairs/groups	

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1 Textbook: Unit 8: Going out for lunch Explanation & drills; pair work and role play	
	評価方法			2 Textbook: Unit 9: Apologies Explanation & drills; pair work and role play
			テキスト参考文献	
			4 Consolidation work 5: exercises, preparation and student presentations using material in Unit 10	
			5 Textbook: Unit 11: Phone messages (A) Explanation & drills, pair work and role play	
			6 Textbook: Unit 12: Phone messages (B) Explanation & drills, pair work and role play	
			7 Consolidation work 6: making calls to actual offices and companies to receive messages	
			8 Textbook: Units 13 and 14: Letters and graphs Explanation and drills, teacher's comments	
			9 Practical work 1: Students will use the Internet to download business letters or statistics	
			10 Practical work 2: Students will make a presentation of their downloaded materials in Practical work 1	
			11 Preparation for two brief presentations, or one pair work + one role play situation the following week	
			12 Final pair work, role play and presentation speaking tests: Students will speak solo, or in pairs/groups	

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	D. マツキヤン
----------------	---	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト 参考 文献		最初の授業で説明します。

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト 参考 文献		最初の授業で説明します。

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	E. J. ナオウミ
----------------	---	-----	------------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Students often want to discuss their ideas and opinions but are often hindered by a lack of vocabulary and knowledge of current affairs. During this course students will examine a number of topics in depth in order to broaden their knowledge as well as their vocabulary base. By the end of the course I hope that students will have become interested in the news and also critical of what they see, hear and read. I have suggested some topics but these can be changed.</p> <p>During the first semester, students will introduce aspects of the topics studied which interest them and will lead discussion groups. By the end of the semester students should be able to introduce a topic clearly and should be prepared to discuss it.</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. War 3. War 4. Student led discussions 5. Economics 6. Economics 7. Student led discussions 8. Sport 9. Student led discussions 10. Art, music and movies 11. Student led discussions 12. Preparation for the oral interview
評価方法	Speeches, participation and interview		
テキスト参考文献	Video, newspaper articles and worksheets		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Students will continue to follow the news in depth, present topics and lead discussions. At the end of the semester students will make a final presentation in groups. Once again, I have made some suggestions for topics but these can be changed.</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. What has been in the news recently? 2. Politics 3. Politics 4. Student led discussions 5. Environmental issues 6. Environmental issue 7. Student led discussions – Introduction of group project 8. Social issues 9. Social issues 10. Student led discussions 11. Preparation for the presentation 12. Group presentations
評価方法	Speeches, participation and group presentation		
テキスト参考文献	Video, newspaper articles and worksheets		

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	E.力一ニ一
----------------	---	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Aims: A class for capable students who wish to improve their communication skills.</p> <p>A variety of subjects will be studied and discussed. The material will be challenging and yet aimed at giving all the students a chance to develop and use good communication skills.</p> <p>Topics will range widely between "language use in everyday situational needs" to "comprehending and expressing matters that are, or border on, the abstract".</p>	授 業 計 画	1
			<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions 2. Examination of first material and preparation for use. Plus instant short "talks" 3. First practices_opinions, expressing, refining ideas. 4. Examining materials and preparing. 5. Second practices and development. 6. One's own world_ personal needs_communicating. 7. Continuation of "6". 8. Social and moral issues/viewpoint/general interest/ comments. 9. Continued_ 10. Talking to groups. Some speech needs. 11. Revision and discussion. 12. Check-testing in "reaction" communication and self-expression.
			12
評価方法	Grading by end of term exam		
テキスト参考文献	Most text material will be from print handouts, but a suitable text book may be announced later.		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			<ol style="list-style-type: none"> 1. What is important? Also, values and useful communicating. 2. Discussion preparation. 3. Discuss_total participation. 4. Organize and present "your thing" 5. Teach something you like and are confident about. 6. Criticizing and evaluating. 7. Preparation for discussion 8. Discussion. 9. Why is that person so interesting? We need to know. 10. Explaining "everything". 11. Revisions, recommendations, and complaints. 12. Last chance to communicate that "whatever"...
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	E. ハードスターク
----------------	---	-----	------------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	L.K.ハーキンス
----------------	---	-----	-----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	The goal of this course is to provide the students with an opportunity to improve their knowledge of vocabulary, idioms and grammar and to provide them with an opportunity to actually practice the English they have studied. This shall be attempted with the use of video. So, the class should be both fun and instructive.	授業計画	Each week shall be devoted to one lesson from the video movie. Thus the schedule would look as follows: Week One: Scene One Week Two: Scene Two etc...	
	評価方法			The students will be evaluated on the following: Class participation, attendance, two exams and a final interview.
	テキスト 参考 文献			Handouts shall be provided by the teacher.

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

01 年度以前 02 年度	Conversation II Communicative English II	担当者	M.デル ベッキオ
------------------	---	-----	-----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>The aim of this course is to develop communication skills through conversation, discussions and short presentations. Language functions will be detailed and practiced so that students may successfully participate in pair and group discussions. Conversation presentation management will be incorporated into the programme as awareness raising activities.</p> <p>The content of this course will focus on current social and cross-cultural issues. Participants will be expected to explore topics both in and out of the classroom. Students will be encouraged to share their ideas, research and opinions with one another in an informal way.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in the classroom.</p>	授業計画	1. Course introduction
			2. Interviewing
			3. Exploring ideas
			4. Maintaining conversation
			5. Dilemma
			6. Dilemma
			7. Heart and Soul
			8. Describing Visual Art
			9. Advertising
			10. Advertising - case study
評価方法	The final grade will combine the following: attendance, class performance, and short presentations.		11. Crime and Punishment
テキスト 参考 文献	Materials will be provided by the teacher.		12. Crime and Punishment – case study

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1. Cultural Awareness	
			2. Marriage	
			3. Employment Issues	
			4. Welfare	
			5. Stereotypes – case study	
			6. Prejudice	
			7. Discrimination – case study	
			8. Racism –	
			9. Trends – case study	
			10. AIDS	
	評価方法			11. AIDS – case study
	テキスト 参考 文献			12. Final presentation

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	N. ハミルトン
----------------	---	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Course Description: This course is designed for students who have already gained a basic level of competency in English and are now at the intermediate level. The goal is to further develop their capabilities in a friendly and enjoyable atmosphere. During the course we will focus on listening and speaking skills and also on learning new vocabulary. We will use various materials in order to cover a wide range of topics and events from the news of the day. We will seek to further develop the four basic skills in order to enhance meaningful communication in English.</p> <p>Necessary items for this class: A notebook, a pen/pencil and a dictionary. A positive attitude. A good sense of humour.</p> <p>Important Rules: NO mobile phones allowed in the class. These must be switched OFF and placed out of sight for the duration of the class. Students who arrive very late will be given an absent mark. Two late marks will also equal one absent mark.</p>	授業計画	During the year we will cover a wide range of topics, chosen from the textbook and from other materials which will be provided.
	<p>評価方法 Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation assignments and reports. Attendance is vital for success. More than four absences will result in a lower grade, more than that will result in failure of the course.</p>		
	<p>テキスト参考文献 Details will be announced at the beginning of the year.</p>		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	As above	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	P. マッケビリー
----------------	---	-----	-----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト 参考 文献		最初の授業で説明します。

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト 参考 文献		最初の授業で説明します。

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	R.M.ペイン
----------------	---	-----	---------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	Course Objectives: * to give students practice in building conversational skills and communicative skills * to improve students' listening skills * to expose students to the culture of the language	授 業 計 画	1 Introduction to the course and unit 1
	Instructional Plan: We will cover approximately one unit of the text every two classes. Active, enthusiastic participation by each student is essential for success in the course. There will be a test following every third unit.		2 unit 1 (continued)
			3 unit 2
	Grades: Grades will be based on the following: * attendance and participation = 60 % This score will be based on the student's performance in class, preparation for class, and completion of assignments. If a student is absent three or more times in one term the student will receive a failing grade for the course. * tests = 40%		4 unit 2 (continued)
評価方法	(Grades will be calculated as stated above.)		5 unit 3
テキスト参考文献	on line 2, Heinemann Complementary/supplementary materials may also be used as appropriate.		6 unit 3 (continued)
			7 test
			8 unit 4
			9 unit 4 continued
			10 unit 5
			11 unit 5 (continued)
			12 unit 6

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	(same as first term - above)	授 業 計 画	1 unit 6 (continued)
			2 review unit
			3 test
			4 unit 7
評価方法			5 unit 7 (continued)
			6 unit 8
テキスト参考文献			7 unit 8 (continued)
			8 unit 9
			9 unit 9 (continued)
			10 test
			11 unit 10
			12 unit 10 (continued)

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	R. グラム
----------------	---	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This class will challenge students to <u>ACTIVELY</u> participate and to <u>ACTIVELY</u> practice modern English. International cultural awareness will be encouraged, as well as international manners. We will practice conversations about various daily topics; and English pronunciation.</p> <p>Students will be encouraged to fight shyness; to think and speak in English more quickly; to answer appropriately; to speak their opinions; to use modern English instead of "Wasei Eigo"; to improve listening comprehension by listening to English songs; and to do many other things, <u>actively</u>. Weekly attendance is crucial.</p>	授業計画	1 Introductions	
	評価方法		Final grade will be determined by Examinations, quizzes, homework, assignments, attendance, and student <u>PARTICIPATION</u> .	2 "How are you?" & song exercise.
			テキスト参考文献	A textbook may be selected, <u>AFTER</u> assessment of student level(s) and of student needs.
			4 Mothers Day & song exercise.	
			5 Using the Future tense appropriately.	
			6 "What do you think of _____?" (Speaking your opinions.)	
			7 "What do you usually do....?" & song exercise.	
			8 "How often do you....?" & student presentations.	
			9 "What kind of _____ do you like?" and student presentations.	
			10 Student presentations & re-writing of "Wasei Eigo".	
			11 Student presentations	
			12 Student presentations & Examination.	

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>This class will focus on international culture, manners, and conversation. Students will be expected to <u>ACTIVELY</u> participate; to learn to think and reply more quickly; to fight shyness; to say their opinions more clearly; to use modern English (<u>not</u> "Wasei Eigo"); to reply appropriately; and to practice, practice, practice!</p> <p>Some English songs and videos may be used to assist students to improve listening comprehension. Weekly attendance is crucial.</p>	授業計画	1 "How was your Summer Break?" & song exercise.	
	評価方法		Same as for Semester 1.	2 Past perfect; and guessing practice
			テキスト参考文献	Same as for Semester 1.
			4 Hallowe'en; and "Have you ever...?"	
			5 Song exercise & "How long have you...?"	
			6 "How do you feel about...?"	
			7 Discussion of News topics; and assignment of student presentations.	
			8 Asking about and recommending good restaurants; repair shops; CD stores, etc.	
			9 Re-writing of "Wasei Eigo"; student presentations.	
			10 Student presentations & song exercise (Christmas song).	
			11 Student presentations & Christmas song-listening exercise.	
			12 "How was _____?"; review; and examination.	

01年度以前 02年度	Conversation II Communicative English II	担当者	W. J. ベンフィールド
----------------	---	-----	---------------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	To develop listening and speaking skills and to consolidate and build vocabulary using material that is varied, interesting and relevant to adult learners of English. The topic will be introduced through either a written text or video. Students will then participate in a variety of activities such as group discussion or individual/group presentations. Short pieces of written work may also be required depending on the subject. If there are too many students for the class, selection will be random.	授 業 計 画	1	Course explanation/student selection.
			2	Topic 1: The modern world
			3	Topic 1 continued
			4	Topic 2: Sport and leisure
評価方法	Oral examination at end of each semester; attendance; participation class.		5	Topic 2 continued
			6	Topic 3: Writing, painting and music
テキスト参考文献	Print and video		7	Topic 3 continued
			8	Topic 4: Cultural comparison
			9	Topic 4 continued
			10	Topic 5: Holidays
			11	Topic 5 continued
			12	Mid-year examination

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	Topic 6: Food and drink
			2	Topic 6 continued
			3	Topic 7: Work
			4	Topic 7 continued
			5	Topic 8: Money
			6	Topic 8 continued
			7	Topic 9: Families and relationships
			8	Topic 9 continued
			9	Topic 10: Habits
			10	Topic 10 continued
			11	Topic 11: Birth, marriage and death
			12	Final examination

01 年度以前 02 年度	Discussion Discussion	担当者	N. H. ジョスト
------------------	--------------------------	-----	------------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	This class is for those students who have an advanced proficiency in spoken English. The class aims to provide a forum for students to discuss in a logical and reasoned manner the many issues that face us today. Topics for discussion will be student generated and will hopefully look at issues of concern and interest--topics related to global issues, national issues, environmental issues, cultural topics, and other related topics. It also aims to help students further develop their speaking and listening skills, and to aims to helps student understand what a discussion is. Continued below:	授業計画	1. Course Introduction and Student Selection
			2. Student Introductions and Lecture on what a discussion is: The Elements of Reasoning
			3. Discussion #1
			4. Discussion #2
			5. Discussion #3
			6. Discussion #4
			7. Discussion #5
			8. Discussion #6
			9. Discussion #7
			10. Discussion #8
評価方法	Grades will be based on classroom participation and student presentations. And Attendance.		11. Discussion #9
テキスト 参考 文献	No text is required for this class, but I will follow <u>The Elements of Reasoning</u> by Corbett and Ebery		12. Final Discussion and Evaluation

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	Continued: Thus, students considering this class should have 1) an advanced proficiency in English particularly in speaking and listening; 2) a deep interest in discussing topics are that both challenging and pertinent to the world in general; and 3) a keen interest in the ideas and opinions of others. Topics for discussion will be introduced a week in advance of class and students are required to prepare in advance.	授業計画	1. Planning for Second Semester
			2. Discussion #
			3. Discussion #
			4. Discussion #
			5. Discussion #
			6. Discussion #
			7. Discussion #
			8. Discussion #
			9. Discussion #
			10. Discussion #
			11. Discussion #
			12. Final Discussion and Evaluation
評価方法			
テキスト 参考 文献			

01 年度以前 02 年度	Discussion Discussion	担当者	R.ジョーンズ
*****	*****	担当者	*****

講義目的および講義概要	Do you want to come to a class, where you can improve your English and understanding of a variety of interesting issues? Are you up for a challenge? Then join this class in which you'll have many opportunities to debate, debate and debate! Interesting topics will be covered in the lessons and there will be a lot of fun. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared because you must do most of the talking! At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be to understand more fully the differences between the UK (&Western) and Japanese thinking on the issues covered. Please note: the content for the Discussion class and Conversation I is basically the same. The Discussion Class is for students whose English is pretty good, whereas, Conversation I is for students of average speaking ability. Previous students to the course are most welcome as all new material will be used.	Weeks 1 & 2 Introduction to the course, getting to know the teacher and fellow classmates. Discussing aspects of learning and studying English. Weeks 3 & 4 The advantages and disadvantages of television (and other media) in our lives. Weeks 5 & 6 What is a beautiful person? Are good looks everything? How about personality? Weeks 7 & 8 Why do some people want to change the way they look through plastic surgery? Weeks 9 & 10 What does friendship mean? How far would you go to help a friend in need? Weeks 11 & 12 Students will attend the lesson in small groups to demonstrate how well they can speak English. Good luck with your studies. Let's have fun together, but remember; if you try hard, you can succeed at anything!
	評価方法	Class work/Homework = 30%, Speaking examinations = 30%, Reports = 20%, Teacher Points = 20%.
	テキスト参考文献	No set textbook will be used. In the lessons, the students will receive handouts that they should keep safely.
		Please note that the topics covered might vary according to interest and the pace of the class Content for Second Semester Week 1 & 2 Welcome back to the course. Discussion of holidays, and restating of course goals Weeks 3 & 4 What standards of behaviour are worth keeping to; for example punctuality, honesty and such like. Weeks 5 & 6 How does technology like computers effect our lives. Is email and the internet affecting social interaction? Weeks 7 & 8 Drinking alcohol. Should workers be forced to go to drinking parties? Other issues related to drink. Weeks 9 & 10 Ethics at work and other social dilemmas. Weeks 11 & 12 Students will attend the lesson in small groups to demonstrate how well they can speak English. Good luck with your studies. Let's have fun together, but remember; if you try hard, you can succeed at anything! Please note that the topics covered might vary according to interest and the pace of the class

講義目的および講義概要	As Above	Week 1 & 2 Welcome back to the course. Discussion of holidays, and restating of course goals Weeks 3 & 4 What standards of behaviour are worth keeping to; for example punctuality, honesty and such like. Weeks 5 & 6 How does technology like computers effect our lives. Is email and the internet affecting social interaction? Weeks 7 & 8 Drinking alcohol. Should workers be forced to go to drinking parties? Other issues related to drink. Weeks 9 & 10 Ethics at work and other social dilemmas. Weeks 11 & 12 Students will attend the lesson in small groups to demonstrate how well they can speak English. Good luck with your studies. Let's have fun together, but remember; if you try hard, you can succeed at anything! Please note that the topics covered might vary according to interest and the pace of the class
	評価方法	As Above
	テキスト参考文献	As Above

01年度以前 02年度	Discussion Discussion	担当者	W. J. ベンフィールド
----------------	--------------------------	-----	---------------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	This course is designed to introduce students to a wide variety of British and American poetry. Students often correctly consider poetry a hard subject, and it is true that poetry differs from prose in its use of unusual syntax, specialized 'poetic' vocabulary and unusual combinations of words. However, in this course we will be looking mainly at British and American poetry from the 20 th century written in a plainer style of English. We will look at the poems from two points of view. Firstly, we will look at the meaning that the poet is trying to express. Secondly, we will look at the way the poet has used the techniques of poetry - rhythm, rhyme, form, choice of words, etc. - to help express that meaning. The end result of the course should be an increased enjoyment of poetry and a greater awareness of how English can be used creatively. We will look at the poems of W. H. Auden, D. H. Lawrence, Sylvia Plath, Ted Hughes, Theodore Roethke, Richard Wilbur and many others.	授 業 計 画	1	Course outline. Student selection (if necessary) on the basis of a short essay written in class.
			2	What is poetry? A look at some of the main elements of poetry.
			3	Poem and discussion
			4	Poem and discussion
5	Poem and discussion			
6	Poem and discussion			
7	Poem and discussion			
8	Poem and discussion			
9	Poem and discussion			
10	Poem and discussion			
11	Poem and discussion			
12	Review of term's work			
評価方法	Attendance, performance and participation in class, plus a short report at the end of each semester.			
テキスト参考文献	There will be no set text. Copies of the poems will be provided.			

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	Poem and discussion
			2	Poem and discussion
			3	Poem and discussion
			4	Poem and discussion
			5	Poem and discussion
			6	Poem and discussion
			7	Poem and discussion
			8	Poem and discussion
			9	Poem and discussion
			10	Poem and discussion
			11	Poem and discussion
			12	Review of term's work
評価方法				
テキスト参考文献				

01年度以前 02年度	スピーチ Public Speaking I	担当者	A.R.フォルヴォ
----------------	---------------------------	-----	-----------

03年度	Public Speaking I a	担当者	A.R.フォルヴォ
------	---------------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	The objective of this course is to develop the ability of students to deliver a convincing oratory from of expression with appropriate gestures, intonation and transitional devices.	授業計画	Week one: Introduction Week two: Topic One Week three: Topic Two Week four: Topic Three Week five: Topic Four Week six: Topic Five Week seven: Topic Six Week eight: Topic Seven Week nine: Topic Eight Week ten: Topic Nine Week eleven: Topic Ten Week twelve: Exam
	評価方法		Weekly presentation of speeches, class participation, transmission of speeches by email to my account, final first and second term exams, attendance.
	テキスト 参考 文献		To be determined after initial class meeting.

03年度	Public Speaking I b	担当者	A.R.フォルヴォ
------	---------------------	-----	-----------

講義目的および講義概要		授業計画	Week one: Second Term Introduction Week two: Topic One Week three: Topic Two Week four: Topic Three Week five: Topic Four Week six: Topic Five Week seven: Topic six Week eight: Topic seven Week nine: Topic eight Week ten: Topic Nine Week eleven: Topic Ten Week twelve: Exam
	評価方法		
	テキスト 参考 文献		

01年度以前 02年度	スピーチ Public Speaking I	担当者	E. カーニィ
----------------	---------------------------	-----	---------

03年度	Public Speaking I a	担当者	E. カーニィ
------	---------------------	-----	---------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>This class aims to give students a chance to prepare and deliver speeches with maximum effect. The use of language, the art of effective construction, and the use of all forms of communication when delivering a speech will be covered.</p> <p>講義概要</p> <p>Students will work both inside and outside of class to prepare and hone their speeches ready for delivery to their group or to the class. We want to cover a wide area of aspects related to good speech making and class participation is a must.</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions and explanations. 2. What should a speech be? 3. Some points on aims and relative ideas. 4. The confidence factor, 5. The importance of the small points (like pronunciation and intonation) that tend to get taken too much for granted. 6. Who are you talking to? 7. The power of addressing the individual in the crowd. 8. Negative gestures and habits. 9. Preparing a 'good' speech, 10. Delivery 11. Feedback and correction. 12. First seminar test
	評価方法		Grading by end of term exam
	テキスト参考文献		テキスト Texts to be announced

03年度	Public Speaking I b	担当者	E. カーニィ
------	---------------------	-----	---------

講義目的および講義概要		授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 13. You, the student, say something. 14. Loving your subject. 15. Add libbing to bridge the gaps. 16. Humour and other weapons of mass communication. 17. Say it again, Sam. 18. How to bore everybody. 19. Speaking to machines, speaking to people. 20. Stressing your good technique. 21. Including the audience. 22. Revisions and assessment. 23. Tell it like it is. 24. Final
	評価方法		
	テキスト参考文献		

01年度以前 02年度	スピーチ Public Speaking I	担当者	K.R.ペイン
----------------	---------------------------	-----	---------

03年度	Public Speaking I a	担当者	K. R. ペイン
------	---------------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。	
	評価方法			最初の授業で説明します。
	テキスト 参考 文献			最初の授業で説明します。

03年度	Public Speaking I b	担当者	K. R. ペイン
------	---------------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。	
	評価方法			最初の授業で説明します。
	テキスト 参考 文献			最初の授業で説明します。

01年度以前 02年度	ディベート Debate I	担当者	N. H. ジョスト
----------------	-------------------	-----	------------

03年度	Debate I a	担当者	N. H. ジョスト
------	------------	-----	------------

講義目的および講義概要	This class is designed with three basic goals in mind: 1) to help students understand the basic principles of debate--how debates are organized, what the rules of debate are, who debates and why; 2) to help students develop their abilities to debate--to understand issues; to be able to articulate the issues; and, 3) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--some challenging; some simple.	授業計画	1. Course introduction and selection of students.
			2. What debate is and how to debate.
			3. Debate topic #1
			4. Debate topic #2
			5. Debate topic #3
			6. Debate topic #4
			7. Debate topic #5
			8. Debate topic #6
			9. Debate topic #7
			10. Debate topic #8
評価方法	Grades are based on class participation, attendance, and final debates.		11. Debate topic #9
テキスト スト 参考 文献	Text or materials for this class will be decided at a later date.		2. Final debate #

03年度	Debate I b	担当者	N. H. ジョスト
------	------------	-----	------------

講義目的および講義概要	Student considering this class should keep in mind that debate is not about winning or losing, but about understanding the different issues related to a particular topic. Debates should be fun, interesting, and most importantly intellectually rewarding.	授業計画	1. Debate topic selection
			2. Debate topic #1
			3. Debate topic #2
			4. Debate topic #3
			5. Debate topic #4
			6. Debate topic #5
			7. Debate topic #6
			8. Debate topic #7
			9. Debate topic #8
			10. Debate topic #9
評価方法	Grades are based on class participation, attendance, and final debates.		11. Debate topic #10
テキスト スト 参考 文献			12. Final debate

01年度以前 02年度	ディベート Debate I	担当者	柿田 秀樹
----------------	-------------------	-----	-------

03年度	Debate Ia	担当者	柿田 秀樹
------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	英語発話能力の養成を目的とした言語教育活動には現在多くの方法があるが、4技能(聞く、話す、読む、書く)のみならず「考える」という第5の技能を磨くディベートこそ英語発話能力向上の最も効果的な学習方法のひとつといえる。ディベートの実践によって養われる批判的思考能力は、コミュニケーションに不可欠な言説を構成するテキストの「行為遂行性(performativity)」を向上させるからである。ディベート実践に不可欠な一連の作業を通じて思考を訓練し、批判的思考能力を高めて英語発話能力を向上させていくことを目標とする。	授業計画	1 Course Orientation
	本講義では英語で教育ディベートを遂行する。ディベートの命題としては社会的または政治的な問題を取り扱う予定である。学生は、まずレクチャーでディベートの実践に必要な議論の技術を学んだ後、ワークショップでリサーチ能力を養い、グループでのブレインストーミングなどを通じてディベートの準備を行う。そして、最終的にはディベートの実践を行う。		2 What is Argument and What is Debate?
			3 Analysis and Structure of Argument
評価方法	総合的な評価はディベートのパフォーマンス(前・後期、それぞれ20%—計60%)、パロット(15%)、クラス内での積極的な参加度(15%)、出席(10%)、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	4 Evidence as Support	
テキスト参考文献	松本茂『頭を鍛えるディベート入門:発想と表現の技法』講談社ブルーバックス	5 Warrant	
		6 Refutation	
		7 How to Research a Topic	
		8 Case Construction & Structural and Language Considerations	
		9 1st Debate I	
		10 1st Debate II	
		11 1st Debate III	
		12 Review of the First Debate and Reflections	

03年度	Debate Ib	担当者	柿田 秀樹
------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 Orientation
			2 Preparation for the Second Debate
			3 2nd Debate I
評価方法		4 2nd Debate II	
テキスト参考文献		5 2nd Debate III	
		6 Review of the Second Debate	
		7 Preparation for the Third Debate	
		8 Preparation for the Third Debate	
		9 3rd Debate I	
		10 3rd Debate II	
		11 3rd Debate III	
		12 Course Summary	

01年度以前 02年度	通訳 I 通訳 I	担当者	原口 友子
----------------	--------------	-----	-------

03年度	通訳 I a	担当者	原口 友子
------	--------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>高いリスニング力を持つ学生でも、最初の頃は思うように言葉が出ず悔しそうな表情をする。英語のリスニングは、英語を英語のまま理解するだけである。一方、通訳の場合、英語で理解した内容を日本語に変換する作業を瞬時に行わなければならない。その反射神経を鍛えるのが通訳 1 の目標である。</p> <p>第 1 回目の授業に必ず出席すること。リスニングテストで受講者を決定する。単語の小テストは毎週行う。通訳に必要なのは、リスニング力、日本語力(これは決して侮れない)、英語が好きで勉強が苦にならないこと、緊張感を楽しむこと等。1年から3年までの優秀な学生が集まり切磋琢磨する独特な雰囲気がある。家でもトレーニングをしなければ授業についてこれないので、2週連続欠席の学生は受講取り消しを検討中。</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	学期末テスト(英日、日英の逐次通訳、録音する)、単語のテスト、授業中の様子で評価する。		11
テキスト参考文献			12

03年度	通訳 I b	担当者	原口 友子
------	--------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>授業は L1 教室にて毎週実践的な訓練を繰り返し行う。教材と自分の通訳した声はすべて録音し、家に持ち帰り自分の通訳をチェックし練習する。スピーチの通訳や商談通訳では敬語の正しい知識や理解を深め、日本語らしい表現を学習する。</p> <p>授業計画に関しては、shadowing(repeating のようなもの)、note-taking、通訳基本練習、商談通訳などのトレーニングを毎週行う。回を重ねるにつれて教材をレベルアップさせる。通訳 I b では、逐次通訳だけでなく簡単な同時通訳も学習する。</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	学期末テスト(英日、日英の逐次通訳、録音する)、単語のテスト、授業中の様子で評価する。		11
テキスト参考文献			12

01年度以前 02年度	通訳Ⅱ 通訳Ⅱ	担当者	原口 友子
----------------	------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>通訳1受講後は、聞き取れた内容はすべて通訳できるようになる。次の段階として、リスニング力を高める必要がある。通訳1に比べてかなり速いテープ教材を使用する。具体的には、通訳1の学年末試験の英日通訳テストのスピードを思い出してもらいたい。</p> <p>通訳2の目標としては、どれだけ多く聞き取れるか、どれだけ速くメモを取れるか、日本語についても英語に関しても幼稚な表現から脱却できるか、などである。具体的な目標としては、TOEIC Part4の逐次通訳ができるようになること。</p> <p>授業計画としては、最初の数週間は通訳1で使用したテキストの続きを学習する。<u>1回目</u>の授業に、テキストとテープを持って来る事。その後はプリントで配布。</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	学期末テスト（英日と日英の逐次通訳、英日同時通訳）、授業中のテストで評価する。
------	---

テキスト参考文献	
----------	--

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>授業はLL教室あるいは通訳ブースを使って一年を通して実践的な訓練を繰り返す行う。通訳2では同時通訳の練習も行う。</p> <p>この授業では、通訳に不可欠な高度なリスニング力と note-taking 力を養えるか、日本語と英語どちらに関しても大人らしい洗練された表現で訳が出せるか、など大きな目標に向かって各自が意欲的に取り組む、専門性の高い授業である。</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	学期末テスト（英日と日英の逐次通訳、英日同時通訳）、授業中のテストで評価する。
------	---

テキスト参考文献	
----------	--

01年度以前 02年度	ビジネス英語Ⅰ 英語ビジネス・コミュニケーションⅠ	担当者	海老沢 達郎
----------------	------------------------------	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>貿易立国日本にとっては、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立、履行、求償、解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。</p> <p>また、Business English を国際語である英語を使用して、ビジネスを促進遂行するためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、効果的なビジネスレターの書き方のポイントを例をあげて説明・指導すると同時に、英字新聞のビジネス欄の読み方をあわせて指導していきたい。</p>	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Business English を学ぶにあたって 2. ビジネスレターの形式 3. 効果的なビジネスレターを書くための10のキー・ポイント 4. 取引の申し込み 5. 取引申し込みに対する応答 6. 引合い 7. 引合いに対する応答
	評価方法		前期・後期の試験成績、レポート及び授業への貢献度を総合的に判断して決める。
	テキスト参考文献		Tatsuo Ebisawa: <i>Practical English For Business Writing</i>

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 8. オファー 9. オファーに対する応答 10. 信用状 11. 海上保険 12. 積出し 13. クレームと紛争の解決 14. 就職申込状と履歴書
	評価方法		
	テキスト参考文献		

01年度以前 02年度	ビジネス英語Ⅰ（木2履修者） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠ	担当者	杉山 晴信
----------------	-------------------------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文(Business Correspondence)を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を習得することが狙いです。具体的には、下記テキスト①の前半の単元ごとに、当該単元で扱う貿易取引段階の実務遂行手順および通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)について平易に講義します。次いで、履修者を適宜指名して、各単元のモデルレターを商用文としてふさわしく和訳させるとともに、練習問題を黒板に書かせて添削するという形で毎回の授業を行います。また、毎月1回の割合で、下記テキスト②を出題範囲とする語彙力診断テスト(Vocabulary Check)を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p> <p>なお、私の担当するもう一つの同一名称科目とは内容がまったく異なります。</p>	授業計画	1 授業計画を説明し、ビジネス・コミュニケーションの意義と概念について講義します。
			2 ビジネス通信文の構成要素、句読法、書式、上書き等の外形的な側面と文体の特徴について講義します。
			3 語彙力診断テストを実施するとともに、「取引先の発見」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
評価方法	出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点等の平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。		4 「取引の申し込み」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			5 同上
			6 語彙力診断テストを実施するとともに、「信用照会」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
テキスト参考文献	①小池直己・杉山晴信「ビジネス英語の基本」(北星堂) ②小池・杉山「商業英語検定試験にでる英単語」(南雲堂)		7 「引合い」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			8 同上
			9 「引合いに対する返事」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			10 同上
			11 語彙力診断テストを実施するとともに、「オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			12 「カウンター・オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>春学期（前期）と同一ですが、テキスト①の後半の単元を扱います。</p>	授業計画	1 「注文」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			2 語彙力診断テストを実施するとともに、「注文の受諾」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			3 「注文のことわり」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			4 「成約」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			5 「信用状督促」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			6 語彙力診断テストを実施するとともに、「船積通知」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			7 「船積遅延と信用状訂正」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			8 「クレーム」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			9 同上
			10 語彙力診断テストを実施するとともに、「クレーム調整」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。
			11 テキストで直接取り上げていない Courtesy Letters について講義します。
			12 総復習
	評価方法、テキストとも春学期（前期）と同じです。		

01年度以前 02年度	ビジネス英語Ⅰ（金1履修者） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠ	担当者	杉山 晴信
----------------	-------------------------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>国際ビジネスを遂行・促進するためには、「書式の闘い」(Battle of Forms)と言われるほど多種多様な英文ビジネス文書がやりとりされます。こうした英文ビジネス文書を中心に営まれるビジネス・コミュニケーションの果たす役割は、伝達の機能(function to inform)と説得の機能(function to persuade)に大別できます。春学期（前期）は、伝達の機能において英文ビジネス文書を最大限に効果あらしめるライティング戦略について、英語学や言語学の関連知識を活用して学際的な調査、研究、および訓練を行います。具体的な授業の進め方は、原則として、1つの学習テーマごとに担当者による講義2回と履修者のワーク1回の計3時間分で完結するものとします。全員参加の原理によって授業が行われますので、履修者は積極的に自分の意見を開示するとともに、他人の発言を傾聴することが求められます。</p> <p>なお、私の担当する同一名称科目とは内容が全く異なりますので、注意して下さい。</p>	授業計画	1 授業計画を説明するとともに、ビジネス・コミュニケーションの概念について詳しく講義します。
			2 正確な情報伝達を妨げる意味論的な問題点として、曖昧さ(ambiguity)と不確かさ(vagueness)の危険性を摘示します。
			3 英文ビジネス文書における曖昧さと不確かさに対する対処法を、実例を用いて検討します。
			4 上記のテーマに関するワークを行います。
			5 正確な情報伝達を妨げる意味論的な問題点として、包摂関係(hyponymy)と重複関係(overlapping)の危険性を摘示します。
			6 英文ビジネス文書における包摂関係と重複関係に対する対処法を、実例を用いて検討します。
			7 上記のテーマに関するワークを行います。
			8 正確な情報伝達を妨げる意味論的な問題点として、類義語(synonyms)の使用に伴う危険性を摘示します。
			9 英文ビジネス文書における類義語の適切な使い分けについて、実例を用いて検討します。
			10 上記のテーマに関するワークを行います。
評価方法	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。		11 春学期(前期)の授業を総括し、ビジネス・コミュニケーションを伝達の機能の面からレベルアップする戦略を導出します。
テキスト参考文献	配布プリント		12 同上

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>秋学期（後期）は、説得の機能において英文ビジネス文書を最大限に効果あらしめるライティング戦略について、心理学や統計学の関連知識を活用して学際的な調査、研究、および訓練を行います。具体的な授業の進め方は春学期（前期）と同じです。</p>	授業計画	1 効果的な説得効果をもたらす要因として、文章難易度(text readability)の重要性を摘示します。
			2 主要な文章難易度判定公式(readability formulas)を紹介し、実例を用いて各々の計算方法を説明します。
			3 上記のテーマに関するワークを行います。
			4 効果的な説得効果をもたらす要因として、読者本位の文章態度(You-Attitude)の基本原則について説明します。
			5 You-Attitudeの基本原則を実現するための種々のライティング技法について検討します。
			6 上記のテーマに関するワークを行います。
			7 効果的な説得効果をもたらす要因として、各種のメッセージ構成法(organizational patterns)を紹介します。
			8 各種のメッセージ構成法の適用事例について検討します。
			9 上記のテーマに関するワークを行います。
			10 秋学期(後期)の授業を総括し、ビジネス・コミュニケーションを説得の機能の面からレベルアップする戦略を導出します。
評価方法	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。		11 同上
テキスト参考文献	配布プリント		12 春学期(前期)の内容も含めた総復習および履修者との質疑応答を行います。

01年度以前 02年度	ビジネス英語Ⅰ 英語ビジネス・コミュニケーションⅠ	担当者	信 達郎
----------------	------------------------------	-----	------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語 (English for business) である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英力の不足で、多忙な業務を通じて英語力を伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。このコースは、前期後期を通じて基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。	授業計画	1 ビジネス英語の特徴
	講義概要 (前半) 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント (英文ビジネスコラム) の3部構成で、参加型の授業である。また、黒板を使つての演習が多くなる。後期では発表も予定する。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。		2 プリント① (英文ビジネスコラム)
			3 国際取引概略Ⅰ
			4 プリント②
評価方法	受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%		5 国際取引概略Ⅱ
			6 プリント③
テキスト参考文献	『マルチトピックスのビジネス英語』信、井著、南雲堂フェニックス『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』信達郎編著、南雲堂フェニックス		7 引合 (inquiry)
			8 プリント④
			9 オファーⅠ (offer)
			10 プリント⑤
			11 オファーⅡ
			12 プリント⑥

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語 (English for business) である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英力の不足で、多忙な業務を通じて英語力を伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、前期後期を通じて基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。	授業計画	1 契約Ⅰ (contract)
	講義概要 (後半) 基本的に演習科目で、授業の進め方は、前期と同様に、宿題と教科書、それにプリント (英文ビジネスコラム) の3部構成で、参加型の授業である。後期では、希望者によりビジネストピックスの発表、レポートを予定。基本的には、前期の内容を継続するため、教科書は同じものを用いるが、授業中ないしは時に授業を離れてのグループ学習が多くなる。グループは、4人以内であれば何人であってもよい。むしろ、一人でリサーチし、プレゼンテーションしてもよい。人前での発表が不得手であれば、リサーチレポートに替えてもよい。		2 プリント⑦
			3 契約Ⅱ
			4 プリント⑧
評価方法	受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%		5 クレームⅠ (claim)
			6 プリント⑨
テキスト参考文献	『マルチトピックスのビジネス英語』信、井著、南雲堂フェニックス『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』信達郎編著、南雲堂フェニックス		7 クレームⅡ
			8 プリント⑩
			9 企業内組織の英語
			10 プリント⑪
			11 企業内組織の英語Ⅱ
			12 プリント⑫

01年度以前 02年度	ビジネス英語Ⅱ 英語ビジネス・コミュニケーションⅡ	担当者	杉山 晴信
----------------	------------------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	主に取引の当事者間でやりとりされる英語のビジネス通信文を検討しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、通関士国家試験を目指す人などに有益な情報を提供できるように、貿易取引の全体にわたって万遍なく勉強することを狙いとしています。使用するテキストは英文ですが、履修者はあらかじめ所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業ではテキストの内容を補助プリントを用いて敷衍する形で進めます。春学期（前期）は、貿易取引の流れを輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、マクロ的に鳥瞰することを主眼とします。	授業計画	1 テキスト Part 1 を読み、貿易の基本概念を理解することに努めます。
			2 同上
			3 テキスト Part 2 を読み、貿易実務の遂行手順を輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して概観します。
4 テキスト Part 3 を読み、ビジネス・コミュニケーションが貿易取引の遂行に果たしている役割を学びます。			
5 配布プリントを用いて、貿易マーケティングの段階について学びます。			
6 テキスト Part 4 の第2章を読み、取引関係創設の段階のうち、引合い(inquiry)までを学びます。			
7 テキスト Part 4 の第3章を読み、取引関係創設の段階のうち、信用照会(credit inquiry)について学びます。			
8 テキスト Part 4 の第4章と第5章を読み、成約段階のうち、オファーから受注にいたる過程を学びます。			
9 テキスト Part 4 の第6章を読み、成約段階のうち、一般取引条件で取り決めるべき諸条件を詳細に検討します。			
10 テキスト Part 4 の第7章を読み、履行段階(=船積み)について学びます。			
11 テキスト Part 4 の第8章を読み、決済段階(=荷為替手形の取組み)について学びます。			
12 テキスト Part 4 の第10章を読み、クレームおよびクレーム調整の段階について学びます。			
評価方法	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。		
テキスト参考文献	伊東ほか「現代商業英語読本」(英潮社、1988) 配布プリント		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	講義目的および授業の進め方は春学期（前期）と同じですが、秋学期(後期)の主眼は、貿易取引をミクロ的に、専門事項(technicalities)に細分して学ぶことに置かれます。具体的には、貿易形態、信用調査、定型貿易条件、輸出通関、船積書類、荷為替信用状、海上貨物保険などのテーマを取り上げます。主として当方で用意する資料プリントを使用しますが、テキストも補助的に活用します。	授業計画	1 貿易の主体、取引の損益性、契約の自主性などの観点から各種の貿易形態を学び、各々の特色や長所・短所を比較します。
			2 信用調査の目的、方法、調査項目などを学び、調査依頼状および調査報告書の実例を検討します。
			3 いわゆるインコタームズ(Incoterms)に規定された定型貿易条件について学び、輸出価格の積算訓練を行います。
4 同上			
5 輸出通関および船積の手続き一般について、在来船の場合とコンテナ船の場合に区分して学びます。			
6 同上			
7 各種の船積書類(shipping documents)について、実例を用いて、各々の目的、用途、記載事項などを学びます。			
8 同上			
9 荷為替信用状(documentary letter of credit)について、実例を用いて、信用状の意義、種類、当事者などを学びます。			
10 同上			
11 海上貨物保険(marine cargo insurance)について、保険証券の実例を用いて、填補範囲や免責条項を学びます。			
12 同上			
評価方法	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。		
テキスト参考文献	伊東ほか「現代商業英語読本」(英潮社、1988) 配布プリント		

01年度以前 02年度	時事英語Ⅰ メディア英語Ⅰ	担当者	W. J. ベンフィールド
----------------	------------------	-----	---------------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events.	授 業 計 画	1	Course outline; student selection if necessary
			2	Review of main news stories of recent months
			3	Topic 1
			4	Topic 1 (contd.)
			5	Topic 1 (contd.)
			6	Topic 2
			7	Topic 2 (contd.)
			8	Topic 2 (contd.)
			9	Topic 3
			10	Topic 3 (contd.)
評価方法	Attendance; participation; test at the end of each semester.		11	Topic 3 (contd.)
テキスト参考文献	Print and video		12	Review of term's work

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	Topic 4
			2	Topic 4 (contd.)
			3	Topic 4 (contd.)
			4	Topic 5
			5	Topic 5 (contd.)
			6	Topic 5 (contd.)
			7	Topic 6
			8	Topic 6 (contd.)
			9	Topic 6 (contd.)
			10	Topic 7
評価方法			11	Topic 7 (contd.)
テキスト参考文献			12	Review of term's work

01年度以前 02年度	時事英語Ⅰ メディア英語Ⅰ	担当者	新井 妥門
----------------	------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>この科目は受講上限人数が決められています、また使用する教室の設備にも人数の限界があります。第1回目の授業において受講希望者が上限人数を超えるならば抽選により選考を行います。授業の内容について、クラスの数日前に録音した放送英語(CNN,BBCなど)のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにも触れ時事英語力の向上を目的とする。</p> <p>受講生中心のディクテーションをします。学生は予習によりディクテーションをして難しい部分を確認してくる。その部分を取り上げ、音や語法または文の構造にも注意して難しい部分を把握していくことに重点を置く。</p>	授業計画	<p>1. 授業形式についての説明</p> <p>2. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション</p> <p>3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</p> <p>4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音</p> <p>5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</p> <p>6. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音</p> <p>7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</p> <p>8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音</p> <p>9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</p> <p>10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音</p>
	<p>定期試験、出席状況を含む平常点(欠席回数が授業回数の1/3 或いはそれ以上の場合は単位を与えません)</p>		<p>11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</p> <p>12. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語についてのまとめ</p>
	<p>評価方法 テキストは使用せず。受講生は60分カセットテープを持参する、そのテープに教材を随時録音していく。</p> <p>テキスト参考文献</p>		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>この科目は受講上限人数が決められています、また使用する教室の設備にも人数の限界があります。第1回目の授業において受講希望者が上限人数を超えるならば抽選により選考を行います。授業の内容について、クラスの数日前に録音した放送英語(CNN,BBCなど)のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにも触れ時事英語力の向上を目的とする。</p> <p>受講生中心のディクテーションをします。学生は予習によりディクテーションをして難しい部分を確認してくる。その部分を取り上げ、音や語法または文の構造にも注意して難しい部分を把握していくことに重点を置く。</p>	授業計画	<p>1. 授業形式についての説明</p> <p>2. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション</p> <p>3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</p> <p>4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音</p> <p>5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</p> <p>6. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音</p> <p>7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</p> <p>8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音</p> <p>9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</p> <p>10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音</p>
	<p>定期試験、出席状況を含む平常点(欠席回数が授業回数の1/3 或いはそれ以上の場合は単位を与えません)</p>		<p>11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</p> <p>12. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語についてのまとめ</p>
	<p>評価方法 テキストは使用せず。受講生は60分カセットテープを持参する、そのテープに教材を随時録音していく。</p> <p>テキスト参考文献</p>		

01年度以前 02年度	時事英語Ⅰ メディア英語Ⅰ	担当者	海老沢 達郎
----------------	------------------	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>「アメリカの文化と国際理解について」をテーマにして1年間授業を進めていきたい。英字新聞の基本的な読み方を指導すると同時に、アメリカの主要な新聞・雑誌等を使用して、アメリカの権威ある評論家、学者、ベテラン記者が執筆した高い水準の記事を味読し、英字新聞を読む楽しさを指導していきたい。</p> <p>英文を精読・多読することによって現代英語の運用能力をつけたい。また、アメリカの文化を勉強することによって、複眼的思考法が身につけられるよう指導していきたい。学期末にレポートの提出を求める予定である。</p> <p>尚、詳細については第1回目の授業で説明する。</p>	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英字新聞を読む意義について 2. アメリカの大学について 3. アメリカの家庭について 4. アメリカの大衆文化について (その1) 5. アメリカのスポーツについて 6. アメリカの国旗について 	
	評価方法			前期・後期の試験成績、レポート及び授業への貢献度を総合的に判断して決める。
	テキスト参考文献			プリント使用

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 7. アメリカの宗教について 8. アメリカの大衆文化について (その2) 9. アメリカのMBA (経営学修士) について 10. アメリカの銃問題について 11. アメリカの死刑制度問題について 12. アメリカの妊娠中絶問題について 13. 1年間のまとめ 	
	評価方法			
	テキスト参考文献			

01年度以前 02年度	時事英語 I メディア英語 I	担当者	金子 節也
----------------	--------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	日米関係、ハイテク、日政関係、 アジア問題等、再川流、第一人者 への英語インタビューを中心に、日本の 今後の進路と他国との協調関係等 を学ぶ。 テマタの知識、英字新聞等への最新 記事は言に及ばず、CNN、Pナリカ ABC、BBC等とTV放送、VTR、 インターネット等を活用したい。	授 業 計 画	1	キクワースへのオリエンテーション	
	評価方法		出席とレポート、授業への参加度と テスト成績	2	
				3	
テキスト参考文献	金子節也著「ニッポン・ウツケン」		4	日米関係 "The Media Plays Up American Pressure Too Much,"	
			5	"A Caution to the U.S.-Japan Relationship", 120	
			6		
			7		
			8	日英(政)関係 "I Too, Am a Bit of a Workaholic, but..."	
			9		
			10	アジアへの関心、120	
			11		
			12		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	同上。	授 業 計 画	1		
	評価方法		同上。	2	
				3	雇用とハイテク技術
テキスト参考文献	同上。		4	"The Unions were Too Greedy,"	
			5	I Too, Am a Bit of a Workaholic, but..." (120)	
			6		
			7	アジアと日本	
			8	"Help Us Stand on Our Two Feet," "The Japanese Rather Looks West," "Do More for Our Spiritual Enrichment", (120)	
			9		
			10		
			11		
			12		

01年度以前 02年度	時事英語 I メディア英語 I	担当者	工藤 政司
----------------	--------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	世界の情勢をリアルタイムで把握することは国際人の必須条件である。メディア英語 I では英語を通じて海外事情、海外から見た国内事情に通曉し、国際人としての教養を身につけることを目指す。受講者は外国の新聞、雑誌に取り上げられた記事を読み、視野が広がったことと実感するだろう。Herald Tribune, New York Times, Washington Post, The Economist 等のプリントを使用する。	授業計画	1 授業のやり方 オリエンテーション	
	評価方法		前後期の試験成績及び本席発言を平常点をもって評価する。	2 海外から見た日本の政治
			テキスト参考文献	
			4 同上	
			5 アメリカの政治	
			6 中東事情	
			7 "	
			8 アメリカの社会問題	
			9 アジア情勢	
			10 イギリスの現況	
			11 ヌーロッパ	
			12 "	

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	メディア英語は時々刻々と変化する内外事情を扱ったので、講義予定の順序及び内容にはしばしば変更が生じることがあるので、予め予定することにはなじまないということを認識しておく必要がある。	授業計画	1 科学の現況	
	評価方法		同上	2 アメリカの社会問題
			テキスト参考文献	
			4 環太平洋地域	
			5 世界の環境問題	
			6 同上	
			7 イギリスの政治と経済	
			8 EU 問題	
			9 ドイツ及びフランス	
			10 ロシアの現況	
			11 The Economist の社説	
			12 New York Times 社説	

01年度以前 02年度	時事英語Ⅱ メディア英語Ⅱ	担当者	新井 妥門
----------------	------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>この科目は受講上限人数が決まっています、また使用する教室の設備にも人数の限界があります。第1回目の授業において受講希望者が上限人数を超えるならば抽選により選考を行います。授業の内容について、クラスの数日前に録音した放送英語(CNN,BBCなど)のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにも触れ時事英語力の向上を目的とする。</p> <p>受講生中心のディクテーションをします。学生は予習によりディクテーションをして難しい部分を確認してくること。その部分を取り上げ、音や語法または文の構造にも注意して難しい部分を把握していくことに重点を置く。</p> <p>定期試験、出席状況を含む平常点(欠席回数が授業回数の1/3 或いはそれ以上の場合は単位を与えません)</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形式についての説明 2. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション 3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 6. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音
	評価方法		<ol style="list-style-type: none"> 11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 12. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語についてのまとめ
	テキスト参考文献		<p>テキストは使用せず。受講生は60分カセットテープを持参する、そのテープに教材を随時録音していく。</p>

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>この科目は受講上限人数が決まっています、また使用する教室の設備にも人数の限界があります。第1回目の授業において受講希望者が上限人数を超えるならば抽選により選考を行います。授業の内容について、クラスの数日前に録音した放送英語(CNN,BBCなど)のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにも触れ時事英語力の向上を目的とする。</p> <p>受講生中心のディクテーションをします。学生は予習によりディクテーションをして難しい部分を確認してくること。その部分を取り上げ、音や語法または文の構造にも注意して難しい部分を把握していくことに重点を置く。</p> <p>定期試験、出席状況を含む平常点(欠席回数が授業回数の1/3 或いはそれ以上の場合は単位を与えません)</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形式についての説明 2. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション 3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 6. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音
	評価方法		<ol style="list-style-type: none"> 11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 12. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語についてのまとめ
	テキスト参考文献		<p>テキストは使用せず。受講生は60分カセットテープを持参する、そのテープに教材を随時録音していく。</p>

01年度以前 02年度	時事英語Ⅱ メディア英語Ⅱ	担当者	川島 浩美
----------------	------------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>現代社会が直面している様々な問題について、メディアの記事を参考に多面的な視点から分析することを目的とする。</p> <p>1つのテーマについて複数の文献を参照しながら、問題点や望ましい方向性についてまとめ、その上で各自の意見を発表してもらう。文献は新聞や雑誌を中心に、必要に応じて学術論文を扱う。</p> <p>授業での話し合いをもとに、レポートを作成するので、出席を前提とする。</p>	授業計画	1. ガイダンス：雑誌記事、論文の読み方他
			2. グローバル化と経済格差（1）
			3. グローバル化と経済格差（2）：貧困克服
			4. グローバル化と経済格差（3）
			5. グローバル化と経済格差（4）：まとめ
			6. 食の未来（1）：取り組み
			7. 食の未来（2）：安全性についての論争
			8. 食の未来（3）：各国の対応
			9. 食の未来（4）：まとめ
			10. 市民の安全と自由（1）
			11. 市民の安全と自由（1）
			12. レポート作成準備
評価方法	授業参加度（出席と発表）およびレポートによる総合評価		
テキスト参考文献	<i>The Economist</i> 他		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>前期に同じ。</p> <p>ただし、後半は学生が希望するテーマを扱う。</p>	授業計画	1. レポートの評価と発表
			2. 国際社会と基本的人権（1）：基準
			3. 国際社会と基本的人権（2）：普遍性
			4. 国際社会と基本的人権（3）：普遍性
			5. 国際社会と基本的人権（4）：論争
			6. 国際社会と基本的人権（5）：まとめ
			7. 未定
			8. 未定
			9. 未定
			10. 未定
			11. 未定
			12. レポート作成準備
評価方法	前期に同じ		
テキスト参考文献	前期に同じ		

***** 02年度	***** メディア英語Ⅱ	担当者	高橋 雄一郎
---------------	------------------	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	WORLD WATCH 世界で何がおこっているのか、リアルタイムの情報を収集し、議論します。新聞の一面記事はもちろん大事ですが、日本にはあまり届かない情報にも、考えるべき重大な問題が潜んでいることがあります。 この授業では英語を使った情報の収集→整理→分析→意見の主張→交換→発信という一連の流れを、受講生自らがおこなえるようになることを目標とします。 英語で受信可能なテレビの報道番組、海外で発行されている新聞雑誌、インターネット等が情報源になりますが、日本語の新聞や図書館所蔵の英字新聞などを通じて、受講生は常に世界の動き、社会の問題に目を開いていることが要求されます。 なお、LL 教室が使える場合には、ニュースのリスニング練習もおこないます。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	予習、復習、出席重視。授業中の課題、発表および宿題の提出。		
テキスト参考文献	プリント		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

***** 02年度	***** シネマ英語	担当者	岡田 誠一
---------------	----------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	エジソンのキネトスコープの時代から今日に至るまでの、アメリカ映画の歴史について学ぶのが、この授業の目標の一つである。「無声映画」、「スタントマン」、「監督」、「プロデューサー」、「オスカー」「特殊効果」などに関する授業を通して、アメリカ文化とは如何なるものかを知ることでもできよう。授業では、テキストの精読だけでなく、他の参考書もできる限り用いる予定。過去の名画も観ていくことになる。従って、指定された映画を、宿題として教室以外の場所で観てもらおうことがあるので、それが可能なことが受講の条件。少なくとも、映画が嫌いでない、できれば、映画が好き、という人に受講してもらいたい。	授業計画	1 introduction
			2 first images
			3 fixing the image
			4 the photographic gun
			5 the birth of special effects
			6 from silence to sound
			7 Hollywood: the early years
			8 The heroes
			9 Hollywood and the star system
			10 The search for quality
評価方法	出席回数、予習をして授業に臨んだか否か、レポート、などによって総合的に評価する。		11 The search for quality
テキスト参考文献	『楽しい映画文化史』 成美堂		12 Animation

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	前期と同じ	授業計画	1 The coming of colour
			2 Making cartoons
			3 Computers
			4 Special effects
			5 Monster movies
			6 Monster-makers
			7 Stunts, fires and explosions
			8 Working models
			9 Making a movie
			10 Pre-production
評価法	前期と同じ		11 The director
テキスト参考文献	前期と同じ		12 Making-up

***** 02年度	***** シネマ英語	担当者	高橋 雄一郎
---------------	----------------	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>映画を題材に使って、集中的なリスニングの練習をすることが第一の目的である。会話特有な言い回しや、方言、スラングなどにも注意を払いたい。また、時間に余裕があれば、背景の社会問題についても考察したい。</p> <p>2000年に公開された <i>Music of the Heart</i> を教材にする。若い白人の音楽教師が、人生の荒波にもまれながら、荒廃したハーレムの小学校でヴァイオリン教室を成功させていくという、涙と感動の物語である。</p> <p>英語はそれほど難しくないので、既習条件を満たした学生であれば、リスニングが得意でなくとも、努力次第では充分ついていけるが、毎週の出席と予習、復習が前提となるのは言うまでもない。</p> <p>定員25名。応募多数の場合は抽選。</p> <p>初回はプリントを用意するので、教科書は受講者が確定した2週目に購入して欲しい。</p>	授業計画	1
	2		
	3		
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
評価方法	授業中のおこなわれる小テストと宿題。		
テキスト参考文献	『ミュージック・オブ・ハート』英潮社		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>後学期は大作 <i>Titanic</i> に挑む。長尺なので授業中に作品を全部観ることができないため、映画館で観た人も夏休みにレンタルビデオ等でもう一度ストーリーを頭に入れておくことをすすめる。</p>	授業計画	1
	2		
	3		
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
評価方法	授業中のおこなわれる小テストと宿題。		
テキスト参考文献	プリント		

01年度以前 *****	ドイツ語Ⅲ *****	担当者	木村 佐千子
-----------------	----------------	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	ドイツ語力の総合的な向上とドイツ語圏の文化理解の深化を目指し、楽しくドイツ語を学んでいきたい。教材等は受講者の希望を考慮して選択していく予定。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	出席、テストなどによる総合評価		
テキスト 参考 文献	授業中に指示する		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

01年度以前 *****	ドイツ語会話Ⅰ *****	担当者	A.リプスキ
-----------------	------------------	-----	--------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明します。	授業計画	最初の授業で説明します。
	評価方法		最初の授業で説明します。
	テキスト参考文献		最初の授業で説明します。

01 年度以前 *****	フランス語Ⅲ *****	担当者	大原 知子
------------------	-----------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>【講義の目標】 前期・後期 新聞、論文、短編小説などをテキストにしてフランス語読解と文法のさらなる向上を目指します。</p> <p>【講義概要】 テキストとしては、「ル・モンド」紙、ラカンの「セミネールI」、フロイド、ウィニコットの論文(仏訳)、ネルヴァルやプルーストの小説の断片などから比較的平易なものを使いますが、授業の内容に一貫性を持たせるため、“ナルシズム”、“alter ego(もう一人の自分)”、“同一視”など、視点(テーマ)を決め、そこから出現する『別の筋』についても考えていきたいと思ひます。</p> <p>文法については、動詞の活用と時制の再チェック、直説法複合過去、半過去、大過去の復習と直説法単純過去、接続法半過去・大過去の分析と再学習を含みます。</p> <p>なお、テキストは授業時に「注」をつけたものをプリントして配布します。また授業計画は、前後入れ替わること、内容に多少の変更があることがあります。</p>	授業計画	1 ラカン『ロベールの症例』+ル・モンド
			2 同上
			3 同上
			4 ウィニコット「ピーグル」(少女の症例)より
			5 同上
			6 ネルヴァル『ヴァロワの思い出』
			7 同上
			8 同上
			9 同上
			10 同上
			11 同上
			12 ウィニコット「ピーグル」(少女の症例)
評価方法	通常の定期試験に出席率を加味。		
テキスト参考文献			

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 ウィニコット「ピーグル」より + ル・モンド
			2 同上
			3 フロイド「夢判断」(第5章、『典型的な夢』より)
			4 同上(pp. 211-215)
			5 プルースト『ヒヤシンス』の隠喩からル・モンド
			6 クリステヴァ『ナルシス・新しい精神錯乱』
			7 同上
			8 同上
			9 同上
			10 ウィニコット『真の自己と偽りの自己』 pp.115-131
			11 同上
			12 同上
評価方法	通常の定期試験に出席点加味		
テキスト参考文献			

01年度以前 *****	フランス語会話 I *****	担当者	C. ヴァリエンヌ
-----------------	--------------------	-----	-----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	Dans ce cours les étudiants seront amenés à communiquer à travers des jeux de rôles et des mises en situation par petits groupes. Nous travaillerons également la prononciation.	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	un test oral - la présence sera prise en compte		
テキスト参考文献			

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	lolem.	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	un test oral + ^{la} présence sera prise en compte		
テキスト参考文献			

01年度以前 *****	フランス語会話Ⅰ *****	担当者	M.ミズバヤシ
-----------------	-------------------	-----	---------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Ce cours s'adresse aux étudiants qui sont curieux de tout et qui ont des choses à dire non seulement en français mais aussi en japonais. Nous suivrons une étudiante japonaise qui fait ses études à Paris, ce qui nous donnera l'occasion de parler de la vie quotidienne en France et au Japon.</p>	授業計画	1. Révision du vocabulaire et de la grammaire pour « se débrouiller » en français.
			2. Se présenter / Dire sa nationalité
			3. Dire sa profession
	4. Localisations spatiales		
	5. Expressions du temps		
	6. Exprimer son souhait / son désir		
	7. Exprimer son goût		
	8. Proposer		
	9. Accepter / Refuser une offre		
	10. Dire l'heure		
	11. Révision générale		
	12. Test		
評価方法	Test à la fin du semestre		
テキスト 参考 文献	Le texte sera précisé lors de la présentation du cours.		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>Au deuxième semestre, nous travaillerons avec les mêmes objectifs qu'au premier semestre.</p>	授業計画	1. Parler de la cuisine 1
			2. Parler de la cuisine 2
			3. Parler du cinéma 1
			4. Parler du cinéma 2
			5. Etre d'accord / ne pas être d'accord 1
			6. Etre d'accord / ne pas être d'accord 2
			7. Petits exposés et discussion 1
			8. Petits exposés et discussion 2
			9. Petits exposés et discussion 3
			10. Petits exposés et discussion 4
			11. Synthèse
			12. Test
評価方法	Test à la fin du semestre		
テキスト 参考 文献	Le texte sera précisé lors de la présentation du cours.		

01年度以前 *****	スペイン語Ⅲ *****	担当者	喜多 延鷹
-----------------	-----------------	-----	-------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	初級文法をひとつと終了した学生を対象に、教科書を離れ、12-13歳用の少年少女小説を読みます。内容は平易ながら事柄や文章はすでに童話の段階から成人の域に達しており、初級文法をすべて駆使せねばならないもので、スペイン語読解力養成に資するものです。推理小説風に次々と変わるスジを追い、楽しみながらスペイン語を修得しようというのが目的です。基本的には、輪読の形式をとり、読んで解釈し、教師が訂正し、文法の復習をしながら、進みます。毎回全員が必ず一回ずつ当たるようにします。楽しく予習ができ、達成感を味わえるように努めたいと思います。	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献	始業時に指示します。		

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献			

01年度以前 *****	スペイン語会話I *****	担当者	J.フェレーラス
-----------------	-------------------	-----	----------

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	目標は、日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人にくりかえさせて、スペイン語らしい発音ができるようにするとともに、聞き取り能力を養成する。 ビデオ教材などをもちいて、スペイン語の聞き取り練習をする。	授業計画	1 スペイン語のL、RとRRの発音練習。
			2 スペイン語のL、RとRRの開き取りと発音練習。
			3 スペイン語らしいイントネーション。
			4 直接目的格代名詞。
			5 再帰動詞①。
			6 再帰動詞②。
			7 点過去と線過去の使い方とその組み合わせ。
			8 ser+過去分詞、estar+過去分詞。
			9 現在分詞。
			10 接続法の1。
評価方法	授業への積極的参加およびテスト。		11 接続法の2。
テキスト参考文献	プリント、「¡Hola, amigos!」、西和辞典。		12 復習。

*****	*****	担当者	*****
-------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	目標は、さらにスペインあるいはラテンアメリカの文化理解を深めながら、自分の体験を活用して、日本文化と比較すること。 また、自然なスペイン語が話せるように練習をおこなう。 さらに、スペイン語の発話に伴うジェスチャーも練習する。	授業計画	1 前置詞。
			2 関係代名詞。
			3 所有形容詞。
			4 旅行に使う言葉。
			5 買物に使う言葉。
			6 「發」の表現。
			7 侮辱。
			8 日本文化、スペイン語で語る①。
			9 日本文化、スペイン語で語る②。
			10 日本文化、スペイン語で語る③。
評価方法	授業への積極的参加およびテスト。		11 日本とスペイン語圏の国々の文化比較。
テキスト参考文献	プリント、「¡Hola, amigos!」、西和辞典。		12 復習。

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	言語情報処理 Ia	担当者	長崎 等・吉成 雄一郎
--------	-----------	-----	-------------

講義目的および講義概要	本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータを利用した英文データベース(以下コーパス)の構築と利用、テキスト処理の方法、およびコーパスから得られた情報の統計的処理とその意味を学ぶことを目的とする。 年間の講義の前半(ほぼ前期)は、Microsoft Excel(以下 Excel)の基本的機能および操作方法を学ぶ。後半は既存の各種コーパスをネットワークを經由し体験利用しながら、コーパス言語学の基礎的な知識を得る。その後、Excelの応用して、データベースの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。また英語の言語材料をインターネットなどから収集し、各自が自分のテーマに基づいたコーパスを構築する。年度の最後はあるリサーチ課題について、構築したコーパスを Excel を用いて分析し、結果をまとめてレポートとして提出する。	授 業 計 画	1 受講者の決定と講義のガイダンス	
	評価方法		学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	2 表計算(1): 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り
				3 表計算(2): 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)
テキスト参考文献	テキスト, 参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。		4 表計算(3): 関数(算術・統計関数を中心に)	
			5 表計算(4): 関数(文字列操作関数を中心に)	
			6 表計算(5): 関数(論理関数と関数のネストについて)	
			7 表計算(6): データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)	
			8 表計算(7): データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)	
			9 データベース(1): Excel からリレーショナルデータベース Access へ	
			10 データベース(2): データの蓄積方法	
			11 コーパスの構想を練る データ収集の方法など	
			12 実習試験	

02年度以前	言語情報処理 Ib	担当者	長崎 等・吉成 雄一郎
--------	-----------	-----	-------------

講義目的および講義概要	本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータを利用した英文データベース(以下コーパス)の構築と利用、テキスト処理の方法、およびコーパスから得られた情報の統計的処理とその意味を学ぶことを目的とする。 年間の講義の前半(ほぼ前期)は、Microsoft Excel(以下 Excel)の基本的機能および操作方法を学ぶ。後半は既存の各種コーパスをネットワークを經由し体験利用しながら、コーパス言語学の基礎的な知識を得る。その後、Excelの応用して、データベースの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。また英語の言語材料をインターネットなどから収集し、各自が自分のテーマに基づいたコーパスを構築する。年度の最後はあるリサーチ課題について、構築したコーパスを Excel を用いて分析し、結果をまとめてレポートとして提出する。	授 業 計 画	1 テキスト処理: 文字列変換, 正規表現	
	評価方法		学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	2 出現単語の頻度の集計(ピボットテーブルを利用した単語の頻度集計)
				3 テキスト全体の出現単語数と異なり語数
テキスト参考文献	テキスト, 参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。		4 語彙密度の計算	
			5 コンコーダンスを作る(1)	
			6 コンコーダンスを作る(2)	
			7 コンコーダンスの利用(2) データの検索・絞り込みなど	
			8 コンコーダンスラインの利用(1) コロケーションを調べる(MI-Score)。	
			9 コンコーダンスラインの利用(2) コロケーションを調べる(t-score)。	
			10 品詞情報のタグ付け: 各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。	
			11 タグ付けされたテキストの分析: 品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。	
			12 言語情報処理の現状: 今日のコーパス言語学の状況、コンピュータによる言語処理の最新技術を紹介する。	

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	言語情報処理Ⅱa	担当者	吉成 雄一郎
--------	----------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータを利用した英文データベース(以下コーパス)の構築と利用、テキスト処理の方法、およびコーパスから得られた情報の統計的処理とその意味を学ぶことを目的とする。</p> <p>年間の講義の前半(ほぼ前期)は、Microsoft Excel(以下 Excel)の基本的機能および操作方法を学ぶ。後半は既存の各種コーパスをネットワークを經由し体験利用しながら、コーパス言語学の基礎的な知識を得る。その後、Excelの応用して、データベースの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。また英語の言語材料をインターネットなどから収集し、各自が自分のテーマに基づいたコーパスを構築する。年度の最後はあるリサーチ課題について、構築したコーパスを Excel を用いて分析し、結果をまとめてレポートとして提出する。</p>	授業計画	1 受講者の決定と講義のガイダンス	
	評価方法		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	2 表計算(1): 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り
			<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>	3 表計算(2): 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)
授業計画	4 表計算(3): 関数(算術・統計関数を中心に)	5 表計算(4): 関数(文字列操作関数を中心に)	6 表計算(5): 関数(論理関数と関数のネストについて)	
		7 表計算(6): データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)	8 表計算(7): データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)	
		9 データベース(1): Excel からリレーショナルデータベース Access へ	10 データベース(2): データの蓄積方法	
		11 コーパスの構想を練る データ収集の方法など	12 実習試験	

02年度以前	言語情報処理Ⅱb	担当者	吉成 雄一郎
--------	----------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータを利用した英文データベース(以下コーパス)の構築と利用、テキスト処理の方法、およびコーパスから得られた情報の統計的処理とその意味を学ぶことを目的とする。</p> <p>年間の講義の前半(ほぼ前期)は、Microsoft Excel(以下 Excel)の基本的機能および操作方法を学ぶ。後半は既存の各種コーパスをネットワークを經由し体験利用しながら、コーパス言語学の基礎的な知識を得る。その後、Excelの応用して、データベースの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。また英語の言語材料をインターネットなどから収集し、各自が自分のテーマに基づいたコーパスを構築する。年度の最後はあるリサーチ課題について、構築したコーパスを Excel を用いて分析し、結果をまとめてレポートとして提出する。</p>	授業計画	1 テキスト処理: 文字列変換, 正規表現	
	評価方法		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	2 出現単語の頻度の集計(ピボットテーブルを利用した単語の頻度集計)
			<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>	3 テキスト全体の出現単語数と異なり語数
授業計画		4 語彙密度の計算	5 コンコーダンスを作る(1)	
		6 コンコーダンスを作る(2)	7 コンコーダンスの利用(2) データの検索・絞り込みなど	
		8 コンコーダンスラインの利用(1) コロケーションを調べる(MI-Score)。	9 コンコーダンスラインの利用(2) コロケーションを調べる(t-score)。	
		10 品詞情報のタグ付け: 各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。	11 タグ付けされたテキストの分析: 品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。	
		12 言語情報処理の現状: 今日のコーパス言語学の状況、コンピュータによる言語処理の最新技術を紹介する。		

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	統語論 a	担当者	安井 美代子
--------	-------	-----	--------

講義目的および講義概要	この授業は、言語の構造に関して私たちが無意識に「知っている」ことを明確にかつできるだけ一般的に述べられるようになることを目指す。扱うデータはほとんどが英語であるが、日本語など他の言語にも拡張できるような説明的枠組みを構築していく。毎回の授業の前半は講義形式で行い、後半は講義内容に関する英語のデータを受講者に分析してもらい、分析は毎回提出してもらい、次回の授業時に返却し解説を加える。	授業計画	1 生成文法の言語観
			2 統語論の研究対象
			3 句構造
			4 一般句構造理論
			5 一般句構造理論
			6 一般句構造理論
			7 節の内部構造
			8 主語と助動詞の倒置
評価方法	定期試験による。なお、約60%の問題を定期試験前の授業で開示し、説明を加える。		9 省略構文
テキスト参考文献	テキスト プリント 参考文献 <i>Introduction to Government and Binding Theory</i> (L. Haegeman, Blackwell) <i>Transformational Syntax</i> (A. Radford, Cambridge University Press) <i>An Introduction to the Principles of Transformational Syntax</i> (A. Akmajian and F. Heny, MIT Press) 『自然科学としての言語学』(福井直樹、大修館) 『生成文法の基礎』(中村捷、金子義明、菊池朗、研究社)		10 本動詞・助動詞と時制辞の分布
			11 日本語の統語構造との比較
			12 定期試験予告問題解説・質問

02年度以前	統語論 b	担当者	安井 美代子
--------	-------	-----	--------

講義目的および講義概要	前期と同じ	授業計画	1 機能範疇と語彙範疇
			2 persuade と expect の統語的差異
			3 seem と try の統語的差異
			4 名詞句の分布と格理論
			5 格理論と名詞句移動：上昇構文
			6 格理論と名詞句移動：受動文
			7 himself などの再帰形と先行詞の構造的関係：束縛理論(A)
			8 himself などの再帰形と先行詞の構造的関係：束縛理論(A)—続き
			9 名詞句移動の局所性と束縛理論(A)
			10 he などの代名詞と先行詞の関係：束縛理論(B)
評価方法	前期と同じ		11 不定詞構文の中の照応形
テキスト参考文献	前期と同じ		12 後期定期試験予告問題解説・質問

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	意味論 a	担当者	阿部 一
--------	-------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>本講座は「言語の意味」について扱うものである。その際、とりわけ「言語」と「認知」の関連性を重点的に取り上げ、意味の複雑な仕組みについてできるだけ体系的に、分かりやすく講義する。また、外国語学習上起こりうる数々の疑問に対して、意味論はどういった解決法や説明を可能とするのかも、色々な実証データを踏まえながら検討してみる。なお、データは英語の語彙や文法を中心とするが、随時、日本語やドイツ語などからもタイムリーな話題を取り上げる。</p> <p>講義の概要</p> <p>本講座では、意味論分野の概要を講義するとともに、基本的な問題点やこれまでに提唱された理論の特徴と意義、語用論や談話論など関連分野との接点、そして今後の課題（特に認知意味論の可能性）などについて検討していく。その際、受講者の理解を助けるために事例研究を数多く取り上げる。何分にも取り上げる題材が多岐に渡り、しかも読書課題もけっこう多いので、受講の条件として①既に言語学概論や英語学概論を履修していること、②やる気があるって多読・精読を日英両語ともいわない、の2点を約束してもらいたい。①の未履修者で受講を希望する場合は個別に担当講師に相談されたい。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 意味論 a のオリエンテーション：意味論で何？何の役に立つの？何がおもしろいの？ 2. 意味論の基礎知識—まずは英語の「空間概念」を考えてみる。 3. 意味論の基礎知識—意味の「あいまい性」「多義性」などを事例を通して理解する。 4. 意味論の基礎知識—特に多義性の問題・応用：般化と差異化を具体例で考える。*基本概念・基本用語の小テスト 5. 意味の分析・研究—前置詞・副詞の実例（空間・位置）を通して理解する。 6. 意味の分析・研究—前置詞・副詞の実例（時間）を通して理解する。*前置詞・副詞の小テスト 7. 意味の分析・研究—動詞の実例（単純な項構造）を通して理解する。 8. 意味の分析・研究—動詞の実例（複雑な項構造）を通して理解する。 9. 意味の分析・研究—動詞の実例（CAUSE 構文）を通して理解する。特に、Jackendoff と Pinker を参考。*動詞の小テスト 10. 意味の分析・研究—名詞を冠詞（定／不定）と絡めて理解する。 11. 意味の分析・研究—形容詞の実例（次元）を通して理解する。*名詞・冠詞・形容詞の小テスト 12. 意味論 a のエピローグ：まとめと発表会
	評価方法		<p>授業課題として①授業内発表（含ハンドアウト）②学期末試験かもしくはレポートの提出③出席の重視④年に数回の復習小テストの実施</p>
	テキスト参考文献		未定（第一回目の授業時に指示する）

02年度以前	意味論 b	担当者	阿部 一
--------	-------	-----	------

講義目的および講義概要	全て上と同じ	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 13. 意味論 b のオリエンテーション：意味論をもっと応用してみよう。意味から文の真の姿を探る！ 14. 意味論の応用知識—まずは英語の語彙意味論を概観する。特に、Levin や Miller and Johnson-Laird を参考。 15. 意味論の応用知識—語彙意味論の展開。特に、状態・行為・過程の問題や項構造の問題を Grimshaw など参考に考える。 16. 意味論の応用知識—語彙意味論の展開。特に、結果構文とイベント構造を理解する。*語彙意味論の小テスト 17. 意味論の応用知識—認知意味論を概観する。特に、Fillmore と Lakoff そして Langacker を参考。 18. 意味論の応用知識—認知意味論を応用してみる。特に、移動動詞などを中心に実践。 19. 意味論の応用知識—認知意味論を応用してみる。特に、感覚・知覚動詞などを中心に実践。 20. 意味論の応用知識—意味の拡張やメタファーそしてレトリックを考えてみる。特に、瀬戸と佐藤などを参考。 21. 意味論の応用問題—近年の意味論分野で研究されている問題の解決に思い切って挑戦してみよう。*発表会（その1） 22. 意味論の応用問題—近年の意味論分野で研究されている問題の解決に思い切って挑戦してみよう。*発表会（その2） 23. 意味論を超えて—構造と意味そして機能のインターフェース、「文法化現象」や「語用論的強化現象」の問題を考える。また、コーパス言語学や語用論、そして談話分析（会話分析）についても触れる。 24. 意味論 b のエピローグ：現在の意味論が抱える問題点と今後の方向性。*特に、Halliday を参考。
	評価方法		上と同じ
	テキスト参考文献		上と同じ

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	音声・音韻論 a	担当者	大竹 孝司
--------	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>言語について研究する場合、その中核に位置するのは音声言語である。音声言語は多くの側面を持っているため様々な観点から研究することができるが、音声を研究する場合、最初に学ぶべきものは音声学である。</p> <p>音声学は、(1) 調音音声学、(2) 音響音声学、(3) 聴覚音声学の3つに下位区分されるが、本講義ではこれら3つの領域の基礎知識をバランスよく学ぶことにする。近年、コンピュータを用いた音声分析が容易に行えるようになったことから、伝統的な研究手法に加えて、最新の研究手法も紹介することにする。また、聴覚音声学の理解を深めるために音声の認知に関する実験も行うことにする。</p> <p>授業では、英語の発音やリスニングなどの改善にも役立つ実践的な側面も十分に配慮するつもりである。音声に関する知識の吸収にとどまることなく、常に問題解決能力を養うことを重視する。授業の形式は、通常の講義に加えて随時討論を取り入れる予定である。</p> <p>海外でも通じる言語コミュニケーションにおける音声研究、英語や日本語など言葉の教育などに興味を持つ学生には有益であろう。なお、英語の具体的な問題は、専門講読でも扱うので、興味がある学生は受講を勧める。</p>	授 業 計 画	1 講義概要の説明。音声学とはいかなる学問か？
			2 音声言語と文字言語の類似点と相違点
			3 音声研究と音声記号
			4 調音音声学の基礎：発音器官と音声の生成
			5 調音音声学の基礎：子音の分類と記述方法
			6 調音音声学の基礎：母音の分類と記述方法
			7 調音音声学の基礎：分節音と超分節素（アクセント、イントネーションなど）
			8 音声記号と調音音声学の融合
			9 音響音声学の基礎：コンピュータによる母音分析
			10 音響音声学の基礎：コンピュータによる子音分析
			11 音響音声学の基礎：コンピュータによる超分節素分析
			12 聴覚音声学の基礎：人は音声をどのように聞くか？
評価方法	試験、課題、実験の3点によって決める。		
テキスト参考文献	教科書は、英語で書かれた資料をコピーして配布 参考文献：P. Ladefoged A Course in Phonetics		

02年度以前	音声・音韻論 b	担当者	大竹 孝司
--------	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>音声研究の基礎は音声学と音韻論にある。前者は、主として音声を生理的、物理的、聴覚的な側面から研究するのに対して、後者は、言語研究の核となる3分野（音韻論、統語論、意味論）の中に位置付けられるもので、音声を作り出す音の構造と機能や音の構造と意味との関りを論じるものである。</p> <p>本講義では音韻論の基礎知識を学び、諸言語の音の組織がどのように成り立っているかを解き明かす分析手法を身に付けることを目指す。英語の発音や聞き取りは困難を伴うことが多いが、音声学の知識に加えて音韻論の知識を学習することで問題の所在を明確にする。音韻論の基礎知識に加え、実験音韻論や心理言語学における音韻研究など最新の研究についても随時紹介する。</p> <p>授業では、理論的側面に焦点を当てるが、英語の発音やリスニングなどの改善にも役立つ実践的な側面にも配慮し、バランスが取れた講義を行う。授業形式は、通常の講義に加えて随時討論を取り入れ、単なる知識の吸収ではなく、具体的な問題解決能力を養うことを重視する。</p> <p>海外でも通じる言語コミュニケーションにおける音声研究、英語や日本語など言語の教育などに興味を持つ学生には特に有益であろう。英語の具体的な問題は専門講読でも扱うので、興味がある学生は受講を勧める。</p>	授 業 計 画	1 講義概要の説明。音韻論とはいかなる学問か？
			2 音素分析の基礎：音素、異音、分布
			3 音素分析の基礎：音素分析の手順
			4 音素分析の基礎：音素分析の実際
			5 弁別素性の基礎：子音の分類
			6 弁別素性の基礎：子音の分類
			7 超分節素の基礎：単語の強勢の仕組み
			8 超分節素の基礎：単語の強勢の予測性
			9 超分節素の基礎：イントネーション
			10 音節構造の基礎：音素配列論
			11 音節構造の基礎：音節構造
			12 音韻論と外国語教育
評価方法	試験、課題、実験の3点によって決める。		
テキスト参考文献	英語で書かれた資料をコピーして配布 P. Roach English Phonetics and Phonology: A Practical Course		

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	英語史 a	担当者	児玉 仁士
--------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>言語の特性の一つである「言語は変化する」の側面に視点を置き、英語が古期から中期へ、さらに近代へと時の経過と共に「どのように変化したか」、を具体的な資料に基づきながら解説する。言語の変化は、その時々社会的・文化的要因と深く係わり合いながら促進されるものでもあるから、その面にも合わせて言及したい。</p>	授 業 計 画	1 言語の変化
	<p>まづ、歴史言語学の視点から、(a)「言語の変化」とはどのようなことなのか、(b)その変化の要因は何なのか、(c)英語はインド・ヨーロッパ語族/ゲルマン語派の孰れに属するのか、(d)英語は紀元700年ごろから今日まで約1300年間にどのように変化(進歩/退歩)してきたのか、(e)英語のどのような側面(文字・発音・綴り・形態・統語・意味など)に変化が見られるのか、と著った話題が中心となるだろう。テキストに準拠しながら、随時プリントを配布する。具体的には、年間授業計画を参照せよ。</p>		2 インド・ヨーロッパ語族/ゲルマン語語での位置
			3 アングロ・サクソン時代の歴史的背景
評価方法	評価は、基本的には、前期の定期試験の成績に時折のレポートと出席を加味して、総合評価する。	4 古期英語の文字・発音・綴り	
テキスト参考文献	松浪有編『英語史』(英語学コース 1)、大修館書店	5 古期英語の形態	
		6 古期英語の統語	
		7 古期英語の語彙	
		8 古期英語のテキスト講読	
		9 上記と同じ	
		10 上記と同じ	
		11 上記と同じ	
		12 上記と同じ	

02年度以前	英語史 b	担当者	児玉 仁士
--------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	英語史 a と同じ	授 業 計 画	1 中世期の歴史的背景
			2 中期英語の文字・発音・綴り
			3 中期英語の形態
評価方法	英語史 a と同じ要領	4 中期英語の統語	
テキスト参考文献	上記テキストと継続して使用	5 中期英語の語彙	
		6 中期英語のテキスト講読	
		7 上記と同じ	
		8 近代の歴史的背景	
		9 近代英語の発音・綴り	
		10 近代英語の形態	
		11 近代英語の統語	
		12 近代英語の語彙	

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	英語学特殊講義 a (文法と意味)	担当者	府川 謹也
--------	-------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>今まで習ってきた英語の語法や文法について次の例のように「なぜこう言えて、ああ言えないのか」という問題を、現代英語学の知見を踏まえて解説していく。</p> <p>(1) 次の各組の文はどういう用法(意味)の違いがあるのだろうか。</p> <p>① a. Sitting on the bench was an old man. b. An old man was sitting on the bench. c. There was an old man sitting on the bench.</p> <p>② a. She is starving to death. b. She is starving herself to death.</p> <p>③ a. The glass broke. b. The glass was broken. cf. *The glass got broken.</p>	授業計画	1 英語の情報構造の観点から構文を見る
			2 続き
			3 続き
			4 英語の存在文
			5 続き
			6 続き
			7 英語の受動文
			8 続き
			9 続き
			10 '行ったり来たり' と 'come and go'
			11 続き
			12 続き
			評価方法
テキスト 参考 文献	プリント		

02年度以前	英語学特殊講義 b (文法と意味)	担当者	府川 謹也
--------	-------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>目的は前期授業と同じ。</p> <p>(2) 「人を傷つける」という意味では同じなのに、どうして容認性に違いが出るのか？</p> <p>a. Jesse { shot / *knifed / *stoned } him dead. b. Jesse { shot / knifed / stoned } him to death.</p> <p>(3) 'write a letter to Mary' と 'write Mary a letter' とは同じ意味だと習ったのに、どうしてbは言えないんだ！</p> <p>a. John wrote a letter to Mary, but later he tore it up. b. *John wrote Mary a letter, but later he tore it up</p>	授業計画	1 英語の壁塗り構文
			2 続き
			3 英語の二重目的語構文
			4 続き
			5 続き
			6 英語の代名詞化
			7 続き
			8 英語の再帰代名詞化
			9 続き
			10 英語の前置詞(OVER)
			11 英語の前置詞 (IN, ON, AT)
			12 (文法化)
			評価方法
テキスト 参考 文献	プリント		

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	英米の小説 a	担当者	藤田 永祐
--------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>19世紀から20世紀にかけてのイギリスの代表的な小説家3人(J. オースティン, W. M. サッカレー, E. M. フォースター)の代表作をとりあげ、イギリス小説の主流である風俗小説の特色・面白みを解説し鑑賞していきます。</p> <p>広くイギリスの近・現代の文学、文化を自ずと対象として取り扱うこととなります。</p> <p>人間とか人間性に強い興味・関心がある人、そして語学力を身につけることに人一倍熱意を傾ける人なら得るところ少なくないはずです。</p>	授業計画	1 全体的な解説と説明
			2 J. Austenの小説
			3 同上
			4 同上
			5 W. M. Thackerayの小説
			6 同上
			7 同上
			8 同上
			9 E. M. Forsterの小説
			10 同上
			11 同上
			12 同上

評価方法	数回予定している小テストとレポート
------	-------------------

テキスト参考文献	手作りのプリント。 参考文献は授業中に指定する。
----------	-----------------------------

02年度以前	英米の小説 b	担当者	島田 啓一
--------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>20世紀最大と言われるアメリカの小説家 William Faulkner について彼の代表作 <i>The Sound and the Fury</i> を中心に学びます。</p> <p>この作品は難解と考えられていますが、2章の一部を除けば、十分皆さんにも理解できるすばらしい作品です。4章からなるこの小説を各章ごとに解説していきます。半期で全部読むのは困難でしょうが、各自にテキストを購入してもらい、「さわり」の部分で鑑賞、討論してもらう予定です。プロットや背景については私が解説しますが、一方通行の講義にならないよう、途中から有志のプレゼンテーションも取り入れたいと思っています。</p> <p>Faulkner の世界を知るのに都合のよいサイトがあります。受講希望者にはぜひ事前に見ておくことを希望します。以下が url です： http://www.mcscr.olemiss.edu/~egjbp/ Faulkner (廃墟化した島田ゼミHPのリンクのページからも跳べます)</p>	授業計画	1 授業の説明。概説：モダニズムと Faulkner と <i>The Sound and the Fury</i>
			2 第1章 April Seventh, 1928 (1)：「意識の流れ」と Benjy
			3 第1章 April Seventh, 1928 (2)： Benjy と Caddy
			4 第1章 April Seventh, 1928 (3)： Benjy と Caddy： 象徴としての Benjy
			5 第1章 April Seventh, 1928 (4)： Benjy, Quentin, Jason： Compson 家の3兄弟
			6 第2章 June Second, 1910 (1)： Quentin と時間
			7 第2章 June Second, 1910 (2)： Quentin と Caddy
			8 第2章 June Second, 1910 (3)： Quentin と死
			9 第3章 April Sixth, 1928 (1)： Jason と Caddy の娘と Mrs. Compson
			10 第3章 April Sixth, 1928 (2)： Jason と Caddy と Quentin (Caddy の娘)
			11 第4章 April Eighth, 1928 (1)： Dilsey と Faulkner: Faulkner の黒人観
			12 第4章 April Eighth, 1928 (2)： Dilsey と Benjy が意味するもの：結論

評価方法	学期末の定期試験+プレゼンテーション。 受講者が少数の場合はレポート。
------	--

テキスト参考文献	William Faulkner. <i>The Sound and the Fury</i> (Vintage 版など)
----------	---

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	英米の詩 a	担当者	園部 明彦
--------	--------	-----	-------

講義目的 および 講義概要	<p>英詩の楽しさを味わってもらうことを主眼とする。詩を味わうには、ひとの解説を受動的に聞くだけでなく、自ら積極的に動くことが要求される。そこで、毎回受講者全員に与えられた何篇かの作品についてその場でレポートを作成してもらい、翌週、優れたものを紹介する。毎時間、この作業を通して、各自、詩をどのように読むかを会得してもらえれば幸いである。毎回、授業の始めに、その日の狙いを解説するので、遅刻は絶対に認めない。第一回の講義の際に、詩の読み方について解説する予定なので、この日は必ず出席して欲しい。詳細は、同日、説明する。</p>	授 業 計 画	<p>1 A. E. Housman 2 W. B. Yeats 3 E. E. Cummings 4 W. Shakespeare 5 J. Joyce 6 W. Wordsworth 7 Elizabeth B. Browning 8 Christina Rossetti 9 Emily Brontë 10 Emily Dickinson 11 Emily Dicikinson 12 Dylan Thomas</p> <p>上記の詩人は飽くまで予定であって、受講者の反応を見ながら、多少の変更があり得る。</p>
	評価方法		<p>また成績は、毎回のレポートの合計をもって出すため、欠席は非常に不利になる。</p>
	テキスト 参考文献		

02年度以前	英米の詩 b	担当者	原 成吉
--------	--------	-----	------

講義目的 および 講義概要	<p>講義目的 まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉ををとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。</p> <p>講義概要 アメリカ先住民の口承詩(うた)、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、“here and now”の視点から論じる。</p>	授 業 計 画	<p>1 アメリカの大地の声—Native American の歌を聴く</p> <p>2 Rock の Lyrics 読む—Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ</p> <p>3 デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン</p> <p>4 ミクロコスモのなかのマクロコスモ—女性詩人 Emily Dickinson の世界</p> <p>5 モダニズムの起源を探る (1) Ezra Pound がみた東洋の詩学</p> <p>6 (2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” —詩に描かれた現代人の苦悩</p> <p>7 (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学</p> <p>8 (4) e. e. cummings の “typography”が創る「感じる」詩</p> <p>9 ポストモダンの詩を読む (1) Allen Ginsberg の “A Supermarket in California” を読む</p> <p>10 (2) Gary Snyder の “Ripples on the Surface” を読む</p> <p>11 (3) Sylvia Plath の “Daddy” を読む</p> <p>12 (4) Robert Creeley の “The Whip” を読む</p>
	評価方法		<p>授業への参加度とレポート(ワープロで4,000字程度の詩人論、または作品論)で決める。</p>
	テキスト 参考文献		<p>テキスト The American Poetry & Literacy Project ed., <i>101 Great American Poems</i> (New York: Dover Pub., 1998) テキストは担当者が手配が手配する、250円くらい。上記のテキストの他にプリントを使用。</p> <p>参考文献 Jay Parini ed., <i>The Columbia History of American Poetry</i> (New York: Columbia UP, 1993) 亀井俊介・川本皓嗣編『アメリカ名詩選』(岩波文庫) D・W・ライト編『アメリカ現代詩101人集』(思潮社)</p>

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	英米の演劇 a	担当者	児嶋 一男
--------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>最初に主としてイギリス演劇の概史を学びます。それから、話題になっている英米の劇作家の作品抜粋(英文)を読み、その英語表現を学びます。</p> <p>受講生は、テキストとして配布されるこの英文の科白を舞台上で話してみても違和感のない日本語に翻訳し、本読みのパフォーマンスを行います。</p> <p>それから、テキスト全編を読むか、上演舞台を観るかして、現代英米文化について、特に英米の現代の時代もしくは社会風潮が、どういうふうに舞台表現として示されているか考えます。</p> <p>芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを、読んで、観て、知って下さい。</p>	授業計画	1	作品の上演日程に合わせる。以下同じ。
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	パフォーマンス・観劇レポート3編など。			
テキスト参考文献	テキストはプリント配布。 参考文献は作品に合わせて言及。			

02年度以前	英米の演劇 b	担当者	児嶋 一男
--------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>最初に主としてイギリス演劇の概史を学びます。それから、話題になっている英米の劇作家の作品抜粋(英文)を読み、その英語表現を学びます。</p> <p>受講生は、テキストとして配布されるこの英文の科白を舞台上で話してみても違和感のない日本語に翻訳し、本読みのパフォーマンスを行います。</p> <p>それから、テキスト全編を読むか、上演舞台を観るかして、現代英米文化について、特に英米の現代の時代もしくは社会風潮が、どういうふうに舞台表現として示されているか考えます。</p> <p>芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを、読んで、観て、知って下さい。</p>	授業計画	1	作品の上演日程に合わせる。以下同じ。
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	パフォーマンス・観劇レポート3編など。			
テキスト参考文献	テキストはプリント配布。 参考文献は作品に合わせて言及。			

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	英語圏文学特殊講義 a	担当者	高橋 雄一郎
--------	-------------	-----	--------

講義目的および講義概要	(パフォーマンス研究入門) パフォーマンス研究は近年欧米を中心に注目を集めている intercultural, interdisciplinary な研究領域で、個人や集団によっておこなわれる様々な行為(performance)の反復が、文化の組成やアイデンティティを構築しているという認識に立って、権力の支配にメスを入れていこうとする。その研究対象は個人による日常生活上のパフォーマンスからスポーツや芸能、また宗教や国家といった組織による集合的なパフォーマンスと幅広い。 この授業はパフォーマンス研究の紹介を目的とし、パフォーマンス研究の定義、研究領域の広がり、研究の方法論などを、昨年、この分野の草分け的な存在である Richard Schechner によって出版された <i>Performance Studies: An Introduction</i> からの抜粋を使って学習していく。	授業計画	1
	2		
	3		
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
評価方法	予習、出席重視。学期末レポート		
テキスト参考文献	プリントで配付		

02年度以前	英語圏文学特殊講義 b	担当者	高橋 雄一郎
--------	-------------	-----	--------

講義目的および講義概要	パフォーマンス研究の主要な概念の一つである表象(representation)と主体の構築、権力の関係を考察する。テキストには文化研究の第一人者である Stuart Hall が The Open University のために編纂したものをを用いる。 学期末のレポートでは、 Charlott Gilman の短編小説” The Yellow Wallpaper ”と Elaine Showalter の評論” The Performance of Hysteria ”を比較し、テキストで学習し、また教室で議論した内容を踏まえて主張を展開してもらう。(4000字程度、A4版横書き、ワープロ使用、教務課提出) 後学期は昨年と同内容なので、重複履修は認められない。	授業計画	1
	2		
	3		
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
評価方法	予習、出席重視。学期末レポート		
テキスト参考文献	プリントで配付		

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	英米文学文献研究 a	担当者	白鳥 正孝
--------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>マザーグースなどのやさしい英詩を導入にして基本的な英詩を分析し味わう力を養うと共に、ロマン派等のやや古い英詩についても鑑賞しうる能力を身につけることを目的とする。更なる専門性へ導く為入手可能な文献をなるべく多く明示する。</p> <p>始めは、導入として詩形について講ずる。次いで比較的新しい詩を垣間見た後、R.Burns (1759-1796) W.Blake (1757-1827), W.Wordsworth(1770-1850)等のロマン派に焦点を当てる。</p>	授 業 計 画	1	
			2	
			3	
			4	Mother Goose 1
			5	Walter de la Mare 15
			6	Emily Dickinson 20
			7	Robert Burns 26
			8	William Blake 32
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	試験をする。			
テキスト参考文献	薬師川虹一他編注 『マザーグースと美しい英詩』 (北星堂、1987)			

02年度以前	英米文学文献研究 b	担当者	白鳥 正孝
--------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>マザーグースなどのやさしい英詩を導入にして基本的な英詩を分析し味わう力を養うと共に、ロマン派等のやや古い英詩についても鑑賞しうる能力を身につけることを目的とする。更なる専門性へ導く為入手可能な文献をなるべく多く明示する。</p> <p>始めは、導入として詩形について講ずる。次いで比較的新しい詩を垣間見た後、R.Burns (1759-1796) W.Blake (1757-1827), W.Wordsworth(1770-1850)等のロマン派に焦点を当てる。</p>	授 業 計 画	1	
			2	' William Wordsworth 37
			3	Samuel Taylor Coleridge 52
			4	George Gordon Byron 55
			5	Percy Bysshe Shelley 63
			6	John Keats 68
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	試験をする。			
テキスト参考文献	薬師川虹一他編注 『マザーグースと美しい英詩』 (北星堂、1987)			

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02 年度以前	英米の社会と思想 a	担当者	福井 嘉彦
---------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	アングロサクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べていく。	授業計画	1 ガイダンスと父なる神と、母なる神について。
			2 ローマンブリテン：ケルトのキリスト教
			3 ローマ帝国のキリスト教弾圧とドナチスト論争
			4 教皇によるブリタニアへのキリスト教宣教
			5 イングランドの七王国とアルフレッド大王
			6 カロリング王朝とイングランドのキリスト者
			7 グレゴリウス七世の教会改革
			8 イングランドの教会改革
			9 中世の異端
			10 地獄墮ちの恐怖
評価方法	授業への参加と試験の結果で評価する。		11 教皇権の栄光と下降
テキスト参考文献			12 中世の終わり

02 年度以前	英米の社会と思想 b	担当者	福井 嘉彦
---------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	上に同じ。	授業計画	1 ルター、我ここに立つ
			2 ジュネーヴの人カルヴァン
			3 イングランドの宗教改革、ウィリアム八世
			4 エドワード王の改革とメアリー女王のカトリック復興
			5 エリザベスによる改革
			6ピューリタンの反撃
			7 英国国教会の樹立
			8 シュチュワート王朝の国教会
			9 国王の処刑
			10 ビルグリムファーザーズ
評価方法	授業への参加と試験の結果で評価する。		11 王制復古から名誉革命に
テキスト参考文献			12 啓蒙主義時代から現代まで

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	英米の歴史 a	担当者	佐藤 唯行
--------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>(前期) ユダヤ人と英国社会との最初の出会いから現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指しつつユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究(多数派英国人側に視点を置いた英国史研究)の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。</p> <p>前期は下記二冊の「テキスト」にそって授業を行なう。</p>	授業計画	1 中世英国のユダヤ人金融
			2 儀式殺人管交の神話
			3 千年王国思想とユダヤ人再入国
4 17-18世紀英国外国貿易とユダヤ人			
5 英国人地主貴族社会へのユダヤ人の同化現象			
6 ドイツ系ユダヤ移民の流入により生じた貧民問題			
7 19世紀末英国の移民排斥論のメカニズム			
8 英国ファシスト勢力との対決			
9 現代アメリカユダヤ人の経済力の史像			
10 アメリカ経済史の中のユダヤ人			
11 ワール街のユダヤ人, M&A アドヴァイザリー業務とエンビロメント			
12 アメリカ経済のユダヤンパワー, 大物たちの人脈, 人使に資金力			
評価方法	<p>評価は前後期各1回の筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストのみ持込み可。</p>		
テキスト参考文献	<p>『英国ユダヤ人』佐藤唯行(1995年)講談社選書 1500円, 『アメリカ・ユダヤ人の経済力』佐藤唯行 1999年 PHP新書 660円</p>		

02年度以前	英米の歴史 b	担当者	佐藤 唯行
--------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>(後期) 植民地時代から現代にいたるアメリカ合衆国史を通史的に展望する。政治史・経済史のみならず、女性史・社会史の研究成果もとり入れて講義を行なう。</p> <p>後期のテーマは「アメリカ合衆国の通史。」毎回、完全に文章化されたレジュメを配布予定。</p>	授業計画	1 アメリカ史の特質 — 封建性の欠除, 広大な自由地の存在, セクシユンの多様性 —
			2 イギリス領北米植民地の建設
			3 アメリカ独立革命
4 ジェファソンの政権の内政と外交			
5 領土的膨張			
6 奴隷廃止と南北戦争			
7 フロントティアの消滅, メカロポリスの形成			
8 第一次大戦への参戦, 1920年代の都市と農村			
9 ニューディールと第二次大戦			
10 「豊かな社会」とベビーブーム, ベトナム戦争。			
11 「帝王的大統領制」の終末, マノリテイの地位向上			
12 今日のアメリカ			
評価方法	前期 a と同じ		
テキスト参考文献			

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	英米事情 a	担当者	佐藤 勉、他
--------	--------	-----	--------

講義目的および講義概要	上記のテーマに沿って英語圏の歴史や宗教を含む文学芸術の背後にあるものを分かり易く捉えることを目的とする。文学という表現芸術を理解する場合、いくつかの方法がある。時代ごとに、ジャンルごとに、思潮ごとに、あるいは作家ごとに、という風である。しかし、どの方法をとっても文学の背後にあるものは常に個人としての人間の、何かに対する憧憬やそれへの衝動である。また様々な時代の宗教、社会、経済、政治、国家や地方などの影響も個としての人間の魂の痛切な叫びに決して無縁ではない。何が偉大な文学を創造するのかという大きな難しい人間的問題について、ある種の理論が、あるいはある種の素朴な説明が引き出され得るのではないかという担当者の期待が込められている。 (第1回、4/9—第13回、7/9)	授業計画	1 英米文学を貫く太いもの—想像力という巨人 (担当者: 佐藤 勉)
			2 物語はいかにして語られるか—夢見る人たちの系譜 (担当者: 佐藤 勉)
			3 演劇の歴史—ギリシャからブロードウェイまで (担当者: 高橋 雄一郎)
			4 アイルランドの演劇について— (担当者: 児嶋 一男)
			5 無意識とはなにか—作家と読者における無意識の世界 (担当者: 園部 明彦)
			6 文学作品、特に詩にみられる無意識の作用の効果 (担当者: 園部 明彦)
			7 文学と宗教の関係について (担当者: 福井 嘉彦)
			8 宗教改革時代を中心に—その果たした意味について (担当者: 福井 嘉彦)
			9 アメリカに渡ったアイルランド人—ギャグ・オヴ・ニューヨーク (担当者: 児嶋 一男)
			10 現在活躍中のネイティヴ・アメリカンの作家— L. M. Silko & S. Alexie (担当者: 原 成吉)
			11 現代アメリカ作家の位置付けについて (担当者: 島田 啓一)
			12 ユダヤ系アメリカ作家について—Bernard Malamud を中心に (担当者: 島田 啓一)
			13 まとめ (授業評価など) (担当者: 佐藤 勉)

02年度以前	英米事情 b	担当者	白鳥 正孝、他
--------	--------	-----	---------

講義目的および講義概要	<p>テーマ「文化の背景を訪ねる」</p> <p>講義の目的: 上記テーマの元に、イギリス及びアイルランドの社会と文化を概観する。またアメリカの社会と文化を具体的エリアを挙げつつ、周知せしめることを目的とする。</p> <p>講義概要: 導入として、エリア・スタディーズとはおよそどのようなものかを紹介し、ついで個別のトピックに焦点を当てる。例えばルネッサンス、宗教改革、アイルランド文芸復興、大英帝国主義、公民権運動、ヴェトナム反戦、フェミニズムの台頭、マルチカルチャー主義等</p>	回数 月日 担当者 講義内容
		1 9月24日 白鳥正孝 ガイダンス、イギリスのEarly Modern
		2 10月1日 白鳥正孝 Miltonとロンドン・ケンブリッジ
		3 10月8日 児嶋一男 <現代アイルランド>ノーベル文学賞 輩出国の風土
		4 10月15日 児嶋一男 <同>現代に残る飢餓のトラウマ
		5 10月29日 高橋雄一郎 アメリカ合衆国のカウンターカルチャー—その1—
		6 11月5日 高橋雄一郎 同—その2—
		7 11月12日 藤田永祐 J.オースティン、エミリー・ブロンテとその背景
		8 11月19日 藤田永祐 ディケンズと生まれた土地、時代、文化 社会、環境
		9 11月26日 島田啓一 マラマッドとその背景
		10 12月3日 島田啓一 マルチカルチュラリズムについて
		11 12月10日 高橋雄一郎 U. S. A. Today
		12 12月17日 白鳥正孝 後期試験

評価方法	試験による。
------	--------

参考文献	加藤普章 編 「エリア・スタディ入門」 (昭和堂、2000年)
------	---------------------------------

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	国際政治論 a	担当者	竹田 いさみ
--------	---------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>本講義では、「冷戦後」の新しい国際社会に注目し、現代の国際社会を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理に例えれば、材料（国際問題）をどうやって料理（分析）するかを学ぶこととなります。第1の目標は、国際社会を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、リアリズム、相互依存論、従属論、世界システム論と呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することで、これが料理の方法（分析枠組み）に相当します。</p> <p>講義では指定資料集、ビデオ、英字新聞・雑誌などを使用しながら、国際社会の特色を国際政治学の分野から理解していきます。「国際社会」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することとなります。「情報」のフローよりストックを重視し、表面的な現象に目をとらわれているのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。</p> <p>メディアで取り上げられる国際問題を取り上げ、解説を行います。そのため、講義の順番は部分的に変更することがあります。</p>	授業計画	1 冷戦後の世界（1、4頁）／国際社会を見る眼（木・林・森）、問題群（戦争、貧困、環境、テロ）
			2 理論・モデルとは何か（物理学、経済学、政治学、文学）／E・H・カー（7-11頁）
			3 利害の調整：有限の世界、無限の欲望（21-27頁）、政治過程：権力+正統性=権威（47頁）
			4 国内政治と国際政治の相違（49-50頁）
			5 国際社会論①：ホッブス、カント、グロティウス（52-54頁）
			6 国際社会論②：ホッブス、カント、グロティウス（52-54頁）
			7 国際社会のイメージ①：現実主義、多元主義、従属論・世界システム論（56-59頁）
			8 国際社会のイメージ②：現実主義、多元主義、従属論・世界システム論（56-59頁）
			9 ウィーン会議「会議はなぜ踊ったのか」ビデオ メッテルニヒ、タレーラン、カースルリー
			10 相互依存論・国際レジーム（134-138頁）
			11 従属論・世界システム論（158-159頁）
			12 まとめ
評価方法	中間試験と定期試験を基本とします。授業開始直後に、登録を確認する作業があります。		
テキスト参考文献	テキスト：『国際政治講義資料集』、参考：田中明彦著『新しい「中世」』（日本経済新聞社、1996年）		

02年度以前	国際政治論 b	担当者	金子 芳樹
--------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目的 国際社会で起こっている様々な問題を理解し、自らの「国際政治を見る眼」を養うことを目的とする。そのために、国際政治に関する基礎的知識と分析枠組みの習得、および他の学問（経済学、歴史学など）の成果をも踏まえた国際関係のダイナミクスの体系的把握を目指す。</p> <p>講義概要 本講義では、現在、世界各地で起きている種々の問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説し、国際政治の基礎的理論の解説を織り交ぜながら国際関係の包括的理解を促す。今年の講義は、近年、変化の激しい中東、ヨーロッパ、東アジアの3つの地域を取り上げ、それぞれの国際政治・経済の特徴を浮き彫りにする。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	授業計画	1 イントロダクション：国際社会の捉え方
			2 中東の国際関係(1) - 宗教と民族
			3 中東の国際関係(2) - イスラムと政治
			4 中東の国際関係(3) - パレスチナ問題の構造と展開
			5 中東の国際関係(4) - イスラム・石油・テロ
			6 ヨーロッパの国際関係 - 社会主義体制とその崩壊(1)
			7 ヨーロッパの国際関係 - 社会主義体制とその崩壊(2)
			8 ヨーロッパの国際関係 - 社会主義体制とその崩壊(3)
			9 ヨーロッパの国際関係 - 社会主義体制とその崩壊(4)
			10 東アジアの国際関係(1) - 朝鮮半島をめぐる対立と協調
			11 東アジアの国際関係(2) - 中国の発展と地域の安定
			12 東アジアの国際関係(3) - 東南アジアの統治と共生
評価方法	学期中1回のレポートと学期末試験を評価対象とする。レポートは、指定されたテーマに沿って2千字以上、ワープロを用いて書き、e-mailにて提出する。		
テキスト参考文献	テキスト：指定しない。 参考文献：長谷川雄一ほか編著『新版 現代の国際政治』（ミネルヴァ書房、2002年）および永野先生のホームページ（ http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0026/ ）内の「国際関係研究のための邦語文献リスト」で紹介されている諸文献。		(テーマについては若干の変更があり得る。また、国際政治情勢の変化が起こった場合は適宜取り上げる)

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	国際政治論 a	担当者	金子 芳樹
--------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目的 国際社会で起こっている様々な問題を理解し、自らの「国際政治を見る眼」を養うことを目的とする。そのために、国際政治に関する基礎的知識と分析枠組みの習得、および他の学問（経済学、歴史学など）の成果をも踏まえた国際関係のダイナミクスの体系的把握を目指す。</p> <p>講義概要 本講義では、現在、世界各地域で起きている種々の問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説し、国際政治の基礎的理論の解説を織り交ぜながら国際関係の包括的理解を促す。今年の講義は、近年、変化の激しい中東、ヨーロッパ、東アジアの3つの地域を取り上げ、それぞれの国際政治・経済の特徴を浮き彫りにする。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	授業計画	1 イントロダクション：国際社会の捉え方
	評価方法		2 中東の国際関係(1) - 宗教と民族
			3 中東の国際関係(2) - イスラムと政治
テキスト参考文献	<p>学期中1回のレポートと学期末試験を評価対象とする。レポートは、指定されたテーマに沿って2千字以上、ワープロを用いて書き、e-mailにて提出する。</p> <p>テキスト：指定しない。 参考文献：長谷川雄一ほか編著『新版 現代の国際政治』（ミネルヴァ書房、2002年）および永野先生のホームページ（http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0026/）内の「国際関係研究のための邦語文献リスト」で紹介されている諸文献。</p>	4 中東の国際関係(3) - パレスチナ問題の構造と展開	
		5 中東の国際関係(4) - イスラム・石油・テロ	
		6 ヨーロッパの国際関係 - 社会主義体制とその崩壊(1)	
		7 ヨーロッパの国際関係 - 社会主義体制とその崩壊(2)	
		8 ヨーロッパの国際関係 - 社会主義体制とその崩壊(3)	
		9 ヨーロッパの国際関係 - 社会主義体制とその崩壊(4)	
		10 東アジアの国際関係(1) - 朝鮮半島をめぐる対立と協調	
		11 東アジアの国際関係(2) - 中国の発展と地域の安定	
		12 東アジアの国際関係(3) - 東南アジアの統治と共生 (テーマについては若干の変更があり得る。また、国際政治情勢の変化が起こった場合は適宜取り上げる)	

02年度以前	国際政治論 b	担当者	竹田 いさみ
--------	---------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>本講義では、「冷戦後」の新しい国際社会に注目し、現代の国際社会を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理に例えれば、材料（国際問題）をどうやって料理（分析）するかを学ぶこととなります。第1の目標は、国際社会を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、リアリズム、相互依存論、従属論、世界システム論と呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することで、これが料理の方法（分析枠組み）に相当します。</p> <p>講義では指定資料集、ビデオ、英字新聞・雑誌などを使用しながら、国際社会の特色を国際政治学の分野から理解していきます。「国際社会」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することになります。「情報」のフローよりストックを重視し、表面的な現象に目をとらわれているのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。</p> <p>メディアで取り上げられる国際問題を取り上げ、解説を行います。そのため、講義の順番は部分的に変更することがあります。</p>	授業計画	1 冷戦後の世界（1、4頁）／国際社会を見る眼（木・林・森）、問題群（戦争、貧困、環境、テロ）
	評価方法		2 理論・モデルとは何か（物理学、経済学、政治学、文学）／E・H・カー（7-11頁）
			3 利害の調整：有限の世界、無限の欲望（21-27頁）、政治過程：権力+正統性=権威（47頁）
テキスト参考文献	<p>中間試験と定期試験を基本とします。授業開始直後に、登録を確認する作業があります。</p> <p>テキスト：『国際政治講義資料集』、参考：田中明彦著『新しい「中世」』（日本経済新聞社、1996年）</p>	4 国内政治と国際政治の相違（49-50頁）	
		5 国際社会論①：ホッブス、カント、グロティウス（52-54頁）	
		6 国際社会論②：ホッブス、カント、グロティウス（52-54頁）	
		7 国際社会のイメージ①：現実主義、多元主義、従属論・世界システム論（56-59頁）	
		8 国際社会のイメージ②：現実主義、多元主義、従属論・世界システム論（56-59頁）	
		9 ウィーン会議「会議はなぜ踊ったのか」ビデオ メッテルニヒ、タレーラン、カースルリー	
		10 相互依存論・国際レジーム（134-138頁）	
		11 従属論・世界システム論（158-159頁）	
		12 まとめ	

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	国際関係史 a	担当者	有賀 貞
--------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	英語学科の学生のために書かれた英文テキストを用い、第2次世界大戦終了までの近代世界の国際関係史全般に関する基本的知識を提供する。 それにより、履修者による現代の国際関係の歴史的背景の理解に役立てること、履修者が国際関係史に関連する日本語・英語の基本的語彙を習得すること、国際関係史の英文テキストを読めるよう訓練することを旨とする。併せて随時、幾つかの英文の外交文書を配布し、その意味を分析する練習を行いたい。	授業計画	1 Introduction
			2 Emerging Modern Europe and Other Regions
			3 The Age of Pax Britannica
			4 Politics of Imperialism
			5 The Outbreak of World War I
			6 The Second Phase of World War I
			7 (Reading: Diplomatic Documents)
			8 The World in Postwar Confusion
			9 The Return of Relative Stability
			10 The Collapse of the International Order
評価方法	レポート1回と期末試験とを総合評価		11 The Beginning of War in Asia and Europe
テキスト参考文献	<u>An International History of the Modern World</u> (研究社, 8月刊行予定)の一部原稿を逐次配布。		12 World War II after Pearl Harbor

02年度以前	国際関係史 b	担当者	永野 隆行
--------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	みなさんは新聞の国際面を読んでいて、よく理解できないことがしばしばありませんか？アラブ諸国とイスラエルはなぜ対立しているのでしょうか。アフガニスタンのタリバン政権は、なぜテロリストたちをかくまっていたのでしょうか。なぜイギリスのクリケットチームはジンバブエでの 2002 ワールドカップクリケットに参加しなかったのでしょうか。現代国際関係のさまざまな問題を理解する鍵のひとつは、歴史を紐解くことです。現在起こっている現象の多くが、過去とのつながりから生じたものであり、歴史に対する知識なくしては、こうした現象の理解も分析も不可能です。 ここでは、20 世紀の国際関係の歴史についての理解を深めることを目的としています。その際、現代との接点を常に意識しながら、歴史を考えていきたいと思っています。なお、必要に応じて、ビデオ教材を利用します。	授業計画	初回の授業時に、詳しい授業計画と参考文献リストを配布します。
評価方法	定期試験による評価。		
テキスト参考文献	(参考文献)石井修『国際政治史としての20世紀』有信堂、2000年。		

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	国際開発協力論 a	担当者	竹田 いさみ
--------	-----------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>本講義では、英語圏の国際関係を、国際開発と国際協力という分野から考察します。オーストラリアの対アジア関係を手掛かりに、先進国（日本・欧米）と発展途上国（アジア諸国など）の関係を検討し、途上国が抱える問題点を受講生と共に考えたいと思います。問題意識としては、日本外交の座標軸が底流にあります。</p> <p>基本的に講義形式で授業を行います。希望者を募って研究発表を行う可能性もあります。この場合、発表者は期末レポートなどが免除されます。</p> <p>テキストを基本としつつも、授業ではビデオ、英字新聞・雑誌などを適宜取り上げ、メディアが報道する開発問題も解説します。</p> <p>オーストラリアそのものを扱う授業としては、国際関係論特殊講義（経済学部開設科目との合併）があります。</p>	授業計画	1 オーストラリアの東アジア関与・政策／多文化ミドルパワー（序章、1章）
			2 東チモール内戦・和平プロセス・復興、ハワード・ドクトリン（6章4節）
			3 ミャンマー（ビルマ）、北朝鮮関与（6章4節）
			4 カンボジア和平、エバンス提案（6章3節）
			5 APEC（アジア太平洋経済協力会議）、ケアンズ・グループ（6章3節）
			6 ベトナム難民（6章2節）、紛争と難民、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）
			7 アジア系移民（6章2-3節）
			8 ミドルパワー論、第3世界外交（6章1-2節）
			9 冷戦下のアジア政策と軍事関与（5章3節）
			10 テーマ研究：ODA
			11 テーマ研究：人の移動
			12 まとめ
評価方法	中間試験と期末レポート（または試験）を実施。受講生の人数によって、評価方法を変更します。最初に登録確認作業を行います。		
テキスト参考文献	竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』（中公新書、2000年）、参考：竹田・森編『オーストラリア入門』（東大出版会、1998年）		

02年度以前	国際開発協力論 b	担当者	金子 芳樹
--------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目的</p> <p>発展途上国の「開発」の実態と、開発のための「国際協力」のあり方について分析・解説するとともに、それら2つの要素がそれぞれに抱える問題点について考える。これらを通して、先進国と発展途上国との二極構造を維持しながら同時に相互依存を深めていく現代の国際社会に対する認識を深める。</p> <p>講義概要</p> <p>3つの柱を立てて解説する。「東南アジアの開発」では、「開発」の概念を軸に国づくりを行ってきた東南アジア諸国の政治・経済・社会システムについて、「開発援助の政治経済学」では、先進国の開発行政の構造と問題点について、そして「開発協力の新展開」では、近年途上国で主流となってきたNGO中心型の開発協力の実態とその捉え方について、順次説明していく。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	授業計画	1 概論：開発と国際協力
			2 東南アジアの開発(1) - 植民地支配の遺産
			3 東南アジアの開発(2) - 政治的・経済的近代化(1)
			4 東南アジアの開発(3) - 政治的・経済的近代化(2)
			5 東南アジアの開発(4) - 開発体制：構造
			6 東南アジアの開発(5) - 開発体制：ケーススタディ
			7 開発援助の政治経済学(1) - 政府開発援助 (ODA)
			8 開発援助の政治経済学(2) - 援助行政の仕組み
			9 開発援助の政治経済学(3) - ODAの課題と展望
			10 開発協力の新展開(1) - 開発NGOの登場
			11 開発協力の新展開(2) - NGOの機能と役割
			12 開発協力の新展開(3) - ケーススタディ
評価方法	学期中1回のレポートと学期末試験を評価対象とする。レポートは、指定されたテーマに沿って2千字以上、ワープロを用いて書き、e-mailにて提出する。		
テキスト参考文献	テキスト：特に指定しない。 参考文献：唐木園和・金子芳樹ほか編『現代アジアの統治と共生』（慶應大学出版会、2002年）、その他、授業開始後に各回の主要参考文献を紹介する。		(初回の授業時に詳細な授業計画を配布する)

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	国際関係論特殊講義 a	担当者	森 健
--------	-------------	-----	-----

講義目的および講義概要	(目的) 世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もそれぞれの固有性を反映し、多様な形態を示す。しかし、このような多様な形態を持つ経済活動も、深く観察すれば、その根本には各国に共通する普遍的な論理が働いていることを確認できる場合が多い。 この講義では、日本経済との結びつきが強く、また、特にこの20年間で自由貿易主義と多文化主義社会政策を急速に進めてきたオーストラリアを取り上げ、この国がかかる政策を採用した理由とその帰結について考える。	授業計画	1 講義の目的の確認。ビデオ	
	(概要) 近年、オーストラリアは極めて大胆な政策転換を行った。同国は1989年にAPEC(アジア太平洋経済協力会議)の開催を主唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れ、多様な文化の維持、発展に努める国として知られる。しかし、同国は、かつては名だたる保護貿易主義国家であり、有色人種の移民を排除する人種差別国家であった。オーストラリアがこのような政策変換を進めた理由は何か。新政策はどのような変化をこの国に及ぼしているのか。この講義では、上記のような問題を様々な切り口(自然条件、歴史的条件、文化的背景、政治社会体制、国際環境、経済条件など)から解明する。春期ではこの内、自然条件、歴史的条件、および、多文化主義政策を採用する以前の文化的背景をとりあげる。		2 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ(1)・・・(講義全体を理解する上で特に重要)	
	評価方法		定期試験	3 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ(2)
	テキスト参考文献		秋期の欄を参照	4 歴史：流刑労働と羊毛産業の発展
				5 歴史：金発見とその影響(1)
				6 歴史：金発見とその影響(2)
				7 歴史：仲間主義(mateship)の起源と特徴：長期経済ブーム
				8 歴史：1890年代の恐慌とその影響
				9 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(1)
				10 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(2)：経済ナショナリズム
				11 文化：エトス、アイデンティティ、ヒーロー
				12 文化：アボリジニ

02年度以前	国際関係論特殊講義 b	担当者	森 健
--------	-------------	-----	-----

講義目的および講義概要	講義目的および概要は春期「オセアニア経済論 a」に同じ。ただし、秋期では、講義の切り口を、多文化主義政策採用以降の社会文化環境、政治社会体制、国際環境、経済条件などから解明する。	授業計画	1 前期講義の復習をかねた歴史概観(1)
			2 前期講義の復習をかねた歴史概観(2)
			3 社会構造と問題
			4 労働問題
			5 70年代中期以降の経済困難と多文化主義社会政策
			6 政治構造
			7 労働党政権と保守連立政権
			8 産業構造
			9 対外経済関係
			10 社会経済改革と経済パフォーマンス
			11 外交と国際関係(1)
			12 外交と国際関係(2)

評価方法	春期「オセアニア経済論 a」に同じ
テキスト参考文献	プリントを配布する。また、参考文献の、竹田・森共編[1]は多用するがテキストではない。 [1]竹田いさみ、森健(共編)、『オーストラリア入門』、東京大学出版会、2002年第4刷。 [2]関根政美著、『多文化主義社会の到来』、朝日新聞社、2000年。 [3]J プレイニー著、加藤めぐみ訳、『オーストラリア歴史物語』、明石書店、2000年 [4]竹田いさみ著、『物語オーストラリア』、中公新書、中央公論新社、2000年。

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	国際関係論文献研究 a	担当者	阿部 純一
--------	-------------	-----	-------

講義目的および講義概要	英語文献を通じて、米ソ冷戦期からポスト冷戦の現在にかけて生じてきた国際関係の構造変化を検討する。 米ソ冷戦が終結して十余年を経過した現在、政治・経済・軍事のあらゆる点でアメリカが突出した状況が定着しつつある。しかし、「9・11」テロとその後のアフガンでのアメリカの軍事行動に見られるように、アメリカのリーダーシップがヨーロッパや日本、中国、ロシアなどとの協調を必要としていることも事実である。かかる現実を踏まえ、冷戦後の国際関係の構造変化をどう捉えるべきか、また現実に起きている国際関係の諸問題への対処の仕方がどう変化してきているか、等の問題について最新の文献をもとに議論する。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	成績は授業時の学生による報告と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。授業への出席は最低条件。		
テキスト参考文献	アメリカの外交専門誌記事、政府機関・シンクタンクのレポートなどをコピーし配布。		

02年度以前	国際関係論文献研究 b	担当者	阿部 純一
--------	-------------	-----	-------

講義目的および講義概要	(国際関係論文献研究 a に同じ)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	国際関係論文研究 a	担当者	金子 芳樹
--------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	講義目的 本授業では、国際関係分野で卒業論文またはゼミ論文を執筆しようとする学生を対象に、論文の執筆指導を行う。 講義概要 (1)各受講者が提出したレポートおよび卒業論文・ゼミ論文(スケルトン・ドラフト)を題材に、論文・レポートを書く際に不可欠なルールやレベルの高いレポートの書き方について解説する。 (2)受講者から提出された論文・レポートを受講者全員で添削する。 (3)受講者には、4回程度のレポート提出を課し、また、それぞれの添削後に各修正稿の提出を求める。さらに、卒業論文・ゼミ論文のスケルトンならびにドラフトの提出を求める。 受講資格 国際関係分野で卒業論文またはゼミ論文を執筆する予定の者。 受講条件 初回の授業に下記の条件で書いたレポートを持参する。テーマ:「在日外国人問題」、字数:2千字以内(A4で2枚以内に収める)、条件:テーマに関する自らの体験談を一部に必ず盛り込む。	授業計画	1	イントロダクションおよびレポート提出	
	評価方法		出席率、レポート・論文内容、討論への参加状況などに基づいて総合的に評価を行う。課題レポートの未提出者、無断欠席者は履修者名簿から除外する。	2~12	(各回とも、各受講者の報告とディスカッション、および添削を行う)
	テキスト参考文献		参考文献:授業の中で適宜指定する。		

02年度以前	国際関係論文研究 b	担当者	竹田 いさみ
--------	------------	-----	--------

講義目的および講義概要	この授業では、以下の3つの目標が設定されています。第1の目標は、英語圏の国際関係を、雑誌論文や評論などを手掛かりに分析・解釈し、現在進行形の国際関係を討論することです。第2の目標は英語の運用能力を高めることです。第3に、この授業は参加型であり、全員が積極的に発言する状況が生まれることです。 基本的に授業は、英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。	授業計画	1		
	評価方法		出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。	2	
	テキスト参考文献		H.Kissinger, "Does America Need a Foreign Policy?" (NY:Simon & Schuster, 2001)など。	3	
			4		
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
			11		
			12		

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	石井 敏
--------	------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義目的 本講義には、相互に関連した3種類の基本目的がある。第1の目的は、日本社会に根強い欧米文化崇拜意識を異文化間の平等意識に変革することである。第2は、欧米文化理解・模倣の一方方向コミュニケーションの受信型態度を、異文化間の平等意識に基づく双方向コミュニケーションの発信型態度に改善することである。そして第3は、上の2目的を達成するために不可欠な条件として、自文化すなわち日本文化に関する理解を深め、諸問題を英語で表現する能力を育成することにより、国際的に健全な英語学習・教育観を築くことである。</p> <p>講義概要 総合的内容は、文化の概念、コミュニケーションの概念、文化とコミュニケーションの相関関係である。具体的には、「文化とは」、「文化の差異」、「コミュニケーションとは」、「ことばとコミュニケーション」、「ことばをこえたコミュニケーション」等である。</p>	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講上の注意、英語ノートの取り方、文化、世界観、価値観 2. 文化相対論、共文化、第三の文化、多文化主義、文化帝国主義 3. 時間、空間、宗教、人間観、儀礼 4. 倫理観、法意識、イエ、生死観、個人主義と集団主義 5. 達成と生得、偏見、自民族優越主義、ステレオタイプ、タブー 6. コミュニケーション、コード、意味づけ、フィードバック、知覚・認知 7. 理解と誤解、感情移入・共感、自己概念、コンテキスト、コミュニケーション・レベル 8. コミュニケーション・パターン、国際コミュニケーション、コミュニケーション倫理、IT革命、言語政策 9. 言語と文化、言語と思考、言語相対説、言語メッセージ、レトリック 10. アロギア、ロイス・パリス、メジャー、スモール・トーク、1-7 11. 敬語、婉曲表現、非言語メッセージ、身振り言語、視線 12. 近接学、身体接触行動、周辺言語、間、沈黙
評価方法	受講生が多数になると予想されるので、学期末試験の成績による。		
テキスト参考文献	古田暁ほか『異文化コミュニケーション・キーワード』（新版）、有斐閣。		

02年度以前	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	石井 敏
--------	------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義目的 本講義には、相互に関連した3種類の基本目的がある。第1の目的は、日本社会に根強い欧米文化崇拜意識を異文化間の平等意識に変革することである。第2は、欧米文化理解・模倣の一方方向コミュニケーションの受信型態度を、異文化間の平等意識に基づく双方向コミュニケーションの発信型態度に改善することである。そして第3は、上の2目的を達成するために不可欠な条件として、自文化すなわち日本文化に関する理解を深め、諸問題を英語で表現する能力を育成することにより、国際的に健全な英語学習・教育観を築くことである。</p> <p>講義概要 総合的内容は、文化とコミュニケーションと人間関係、文化的特性と社会関係、異文化（間）コミュニケーションと外国語学習・教育等である。具体的には、「異文化と人間関係」、「異文化と社会関係」、「異文化コミュニケーション教育」等である。</p>	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハラ、以心伝心、Pタイム・Mタイム、対人関係、文化的アイデンティティ 2. ガイジン、カルチャー・ショック、縁、和、家族 3. 公と私、タテとヨコ、ウチとソト、世間体、仲介者 4. 贈答、礼儀、ホンネとタテマエ、義理と人情、なじみ 5. 甘え、補完と対称、異性間コミュニケーション、共生、グローカリゼーション 6. 民族紛争、国際協力、派閥、イノベーション、労使関係 7. 交渉、稟議と根回し、意思決定、葛藤、多文化経営 8. 現地主義、国際報道、プロバガンダ、コマーシャル、リーダーシップ 9. マイノリティ、国籍、国際結婚、外国人就労者、エスニック・ネットワーク 10. 異文化理解教育、コミュニケーション能力、外国語教育、日本語教育、バイリンガリズム 11. 通訳・翻訳、民族教育、環境コミュニケーション教育、海外子女教育、帰国子女教育 12. 海外留学、滞日外国人留学生、国際学校、異文化カンパニイ、異文化コミュニケーション訓練
評価方法	受講生が多数になると予想されるので、学期末試験の成績による。		
テキスト参考文献	古田暁ほか『異文化コミュニケーション・キーワード』（新版）、有斐閣。		

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	鍋倉 健悦
--------	------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	異文化間コミュニケーションの背景と領域、非言語コミュニケーションの種類、文化と言語、および言語と認識の関係、そしてカルチャー・ショックなど。(ビデオを多用する。また学生同士でディスカッションしながら授業を進める)	授業計画	1	当講座の概要説明
			2	人間の体験的世界
			3	民族対立と紛争
			4	異文化間コミュニケーションの歴史 I
			5	異文化間コミュニケーションの歴史 II
			6	異文化間コミュニケーション論成立の背景 I
			7	異文化間コミュニケーション論成立の背景 II
			8	異文化体験
			9	異文化体験
			10	異文化コミュニケーションの領域
			11	文化とは何か
			12	文化とコミュニケーションのつながり
評価方法				
テキスト参考文献	『異文化間コミュニケーション入門』(丸善ライブラリー) 『異文化間コミュニケーションへの招待』(北樹出版)			

02年度以前	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	鍋倉 健悦
--------	------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	同上	授業計画	1	非言語コミュニケーション入門 I
			2	非言語コミュニケーション入門 II
			3	材物学
			4	動作学
			5	非接学と時間学
			6	言語とは何か I
			7	ことばの不思議
			8	言語とは何か II
			9	多言語社会のゆくえ
			10	言葉の壁をのり超えて
			11	異文化コミュニケーションとITの英語学習
			12	グローバル化時代とは
評価方法				
テキスト参考文献				

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	マス・コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
--------	-----------------	-----	--------

講義目的および講義概要	マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、かつそれらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。 本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の教週間で、マス・コミュニケーションのモデル及び効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、マスコミと教育の問題を扱う予定。	授業計画	1. マス・コミュニケーションとは	
	評価方法		定期試験による。出席は参考程度。	2. コミュニケーションについての基礎知識(1) プロセスの概念
			テキスト 参考文献	テキスト:前期はプリント配付予定 参考文献:『マス・コミュニケーション効果研究の展開』(岡崎篤郎 他編著北樹出版、1992)

02年度以前	マス・コミュニケーション論 b	担当者	佐々木 輝美
--------	-----------------	-----	--------

講義目的および講義概要	マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、かつそれらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。 後期は、マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。影響研究については、特に「メディア暴力の視聴者への影響」をテーマとして扱う。	授業計画	1. マスコミの影響研究(1) 弾丸理論	
	評価方法		定期試験による。出席は参考程度。	2. マスコミの影響研究(2) 限定効果モデル 3. マスコミの影響研究(3) 適度効果モデル&強力効果モデルへ 4. メディア暴力研究(1) 研究の背景 5. メディア暴力研究について(2) カタルシス理論 6. メディア暴力研究について(3) 観察学習理論 7. メディア暴力研究について(4) 脱感作理論 8. メディア暴力研究について(5) カルティベーション理論 9. ビデオ視聴&解説 10. メディア暴力研究について(6) 4 理論のまとめ 11. メディア暴力研究について(7) メディア暴力への対応 12. 後期のまとめ
			テキスト 参考文献	テキスト:『メディアと暴力』(佐々木輝美著、勁草書房) 参考文献:『性 暴力メディア』(H.J.アイゼンク他著 岩臨三良訳、新曜社)

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	板場 良久 (春学期完結)
--------	-------------------	-----	---------------

講義目的および講義概要	<p>☆この時限のクラスでは、論理的に発言および議論するために必要な基本的スピーチ理論を学びます。</p> <p>☆スピーチ・コミュニケーションとは単なる音声表現のことでありません。スピーチ・コミュニケーションとは、スピーチという発話を人間関係のダイナミクスに投じることによってさらに次の発話が生み出されていく生きたプロセス、すなわち発話の人間の連鎖です。発話としてのスピーチとは、政治演説や結婚式での祝辞のようなものから、何気ない一言や会議での発言、意味ありげな仕草や沈黙さえも発話として機能しますので、これらもコミュニケーション・プロセスに投じられるスピーチの一種と定義できます。この講義では、言葉で構成され、まとまった時間を費やして発せられた発話を中心に考えてみましょう。具体的には、さまざまな状況に対応したスピーチの技術（知恵）をまず学んでいただきます。</p> <p>☆講義の場合は平易な英語（英検2級程度）で行い、その要約を翌週の講義の冒頭に日本語で行います。</p>	授業計画	1. 概略説明	
	評価方法		クイズ(不定期1回、40%)、日本語でのスピーチとディベートの体験(60%)の総合成績による。	2. スピーチ・コミュニケーション教育の意義
				3. スピーチ・コミュニケーションの基本理論—トウルミン・モデル他
テキスト参考文献	プリント		4. スピーチ—基本的技術	
			5. スピーチの実践(分科会)	
			6. スピーチの実践(全体会)	
			7. ディベート—なぜこんな形式でやるのか？	
			8. ディベート—基本的技術	
			9. ディベートの実践(分科会Ⅰ)	
			10. ディベートの実践(分科会Ⅱ)	
			11. ディベートの実践(全体会)	
			12. ディベートの実践(全体会) (予備日)	

02年度以前	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久 (春学期完結)
--------	-------------------	-----	---------------

講義目的および講義概要	<p>☆この時限のクラスでは、批判能力のある発言者としてコミュニケーションに参加するために必要な賢慮・視点を養います。</p> <p>☆「スピーチ・コミュニケーション」の基本概念については、「a」の記述を参照。</p> <p>☆人間が発話をする際に常に立ち回らざる文化イデオロギーの作用などについても探究し、そのメカニズムを暴き皆さんがそれに立ち向かえるだけの分析力と批評能力を養うきっかけ作りをしたいと思います。</p> <p>☆講義の場合は平易な英語（英検2級程度）で行い、その要約を翌週の講義の冒頭に日本語で行います。</p>	授業計画	1. 概略説明	
	評価方法		クイズ(不定期1回、40%)および口頭発表(グループ単位、60%)の総合成績による。	2. スピーチ・コミュニケーションを考えるための発想の転換
				3. スピーチのネオ・アリストテレス批評—アリストテレスと話者中心主義
テキスト参考文献	プリント		4. スピーチの分析とレトリック—脱アリストテレスの視点	
			5. スピーチは「作品」か「テキスト」か？—R. パルトを中心に	
			6. スピーチのイデオロギー批評—L. アルチュセールを中心に	
			7. スピーチのフェミニスト批評—K.K. キャンベルとそれ以降の批評	
			8. スピーチのポストモダン批評—J-P. リオタールを中心に	
			9. グループ発表(批評)とその講評	
			10. グループ発表(批評)とその講評	
			11. グループ発表(批評)とその講評	
			12. グループ発表(批評)とその講評 (予備日)	

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
--------	-------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解／実践できるようにすることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第一に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第二にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。</p> <p>講義概要 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。前・後期で異なるレトリック批評の系譜を題材とし、系譜に沿って理論家の諸視点を提示する。前期は主に伝統的レトリック分析の対象となる言説の表象性やその効果について触れる。この系譜においてはアリストテレス主義の理解が中心となる。後期には20世紀後半のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これら現代批評研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。</p>	授業計画	1 オリエンテーション:スピーチ・コミュニケーションにおけるレトリック研究の視点(テキスト 第1章:An Introduction to Rhetoric)
			2 オリエンテーション:スピーチ・コミュニケーションにおけるレトリック研究の視点(テキスト 第1章:An Introduction to Rhetoric)
			3 I. A. リチャード(第2章:I. A. Richards)
			4 I. A. リチャード(第2章:I. A. Richards)
			5 スティーブン・ツールミン(第5章:Stephen Toulmin)
			6 スティーブン・ツールミン(第5章:Stephen Toulmin)
			7 スティーブン・ツールミン(第5章:Stephen Toulmin)
			8 カイム・ペレルマン(第4章:Chaïm Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca)
			9 カイム・ペレルマン(第4章:Chaïm Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca)
			10 カイム・ペレルマン(第4章:Chaïm Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca)
			11 カイム・ペレルマン(第4章:Chaïm Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca)
評価方法	評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度による総合評価。		12 前期総括
テキスト参考文献	Sonja K. Foss, Karen A. Foss, and Robert Trapp. <i>Contemporary Perspectives on Rhetoric</i> . Third Ed. Prospective Heights, IL: Waveland Press, Inc. 2001.		

02年度以前	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
--------	-------------------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1 アーネスト・グラッシー(第3章:Ernesto Grassi)
			2 アーネスト・グラッシー(第3章:Ernesto Grassi)
			3 アーネスト・グラッシー(第3章:Ernesto Grassi)
			4 アーネスト・グラッシー(第3章:Ernesto Grassi)
			5 ケネス・パーク(第7章:Kenneth Burke)
			6 ケネス・パーク(第7章:Kenneth Burke)
			7 ケネス・パーク(第7章:Kenneth Burke)
			8 ミシェル・フーコー(第11章:Michel Foucault)
			9 ミシェル・フーコー(第11章:Michel Foucault)
			10 ミシェル・フーコー(第11章:Michel Foucault)
			11 ミシェル・フーコー(第11章:Michel Foucault)
			12 総括
評価方法			
テキスト参考文献			

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	柿田 秀樹
--------	------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的 表象と文化の関係をコミュニケーション実践としてとらえ、そこに見いだされる権力関係と主体の問題をレトリックの見地から明らかにしていく。現在の研究方法は一般的にはカルチュラル・スタディーズと呼ばれるアプローチであるが、その理論的背景を理解した上で、その具体例を見ていく。</p> <p>講義概要 テキストにはスチュアートホールが行ったカルチュラル・スタディーズの講演が収められたビデオを使用し、キータームの解説を加えながら、教科書・副読本を参照しつつ講義を進めていく。カルチュラル・スタディーズの講義であるという性質上、映画やテレビなどポピュラーカルチャーにしばしば言及することになる。</p>	授業計画	1 オリエンテーション	
	評価方法		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度による総合評価。	2 表象 (representation) とは？
				3 表象 (representation) とは？
テキスト参考文献	初回の授業で指示する。		4 スチュアート・ホール	
			5 スチュアート・ホール	
			6 スチュアート・ホール	
			7 スチュアート・ホール	
			8 ルイ・アルチュセール	
			9 ルイ・アルチュセール	
			10 カルチュラル・スタディーズ	
			11 カルチュラル・スタディーズ	
			12 総括	

02年度以前	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	柿田 秀樹
--------	------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>現代のレトリックとコミュニケーション研究の中心は表象理論を基礎にした言説の分析へと移行している。イデオロギー批評の視座から言説をレトリック実践として研究する時、そこに見出されるのは主として権力関係の表出であり、主体構築の政治性がその理解の鍵となる。例えば、アメリカの批評家であるエドワード・サイードが『オリエンタリズム』で提唱した東洋研究家の実践は東洋を西洋の視点から表象し、東洋を文化的に支配する西洋を主体とする権力関係の言説を再生産する。ここでいう権力関係とは一体何なのか。権力関係が主体を構築し、主体が関係性であるとはどういうことか。権力関係の構築にはどのようなレトリックがコミュニケーションを通じて働いているのか。これらの疑問に答えるために、まずはじめに言説とは何かを前期学習した表象との関係を念頭におき理論的に詳説し、次いでその理論的系譜を辿っていく。その際、諸分野に考察される言説行為の実践を具体例として言説の考察をしていく。前期と継続性のある講義なので、すべての学生が前期の講義で学習したことを既に理解していることを前提に講義を進めていく。</p>	授業計画	1 オリエンテーション		
			評価方法	評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度による総合評価。	2 言説 (discourse) とは？
					3 言説 (discourse) とは？
テキスト参考文献	初回の授業で指示する。		4 エドワード・サイード		
			5 エドワード・サイード		
			6 エドワード・サイード		
			7 エドワード・サイード		
			8 ミシェル・フーコー		
			9 ミシェル・フーコー		
			10 ミシェル・フーコー		
			11 ミシェル・フーコー		
			12 総括		

***** *****	***** *****	担当者	*****
----------------	----------------	-----	-------

02年度以前	コミュニケーション論文献研究 a	担当者	石井 敏
--------	------------------	-----	------

講義目的 および 講義概要	<p>講義目的 最近の英語学習・教育では、コミュニケーション技能育成のみが重視され、思想・理論的な裏づけが軽視されがちである。しかし、思想・理論的な裏づけのない技能育成には、効果上の疑問が残るだけでなく、内容や方法が誤っている場合も少なくない。そこで本講義は、スピーチ・コミュニケーション理論の文献研究により、現在の英語学習・教育の健全化を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 現代の日本社会においてスピーチ・コミュニケーション理論を学習・教育することの意義を考察し、続いて対人コミュニケーション、小集団コミュニケーション、公的コミュニケーション、ディベート、文学作品の音声的解釈等を思想・理論的に研究する。</p>	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. General Introduction to the Course 2. Oral Communication (pp. 7-15) 3. Oral Communication (pp. 15-22) 4. Interpersonal Communication and Relationships (Print, pp. 1-6) 5. Interpersonal Communication and Relationships (Print, pp. 6-13) 6. Group Communication and Discussion (pp. 23-27 & pp. 36-44) 7. Group Communication and Discussion (pp. 44-54) 8. Public Communication and Speaking (pp. 27-31 & pp. 55-61) 9. Public Communication and Speaking (pp. 61-71) 10. Public Communication and Speaking (pp. 71-81) 11. Debate (pp. 31-33 & pp. 83-88) 12. Oral Interpretation (pp. 32-33 & pp. 104-115)
	評価方法		出席状況、授業中の研究発表の内容と方法、および学期末試験の成績による。
	テキスト 参考文献		Klopf & Ishii, <u>Effective Oral Communication</u> (英宝社). 担当者作成のプリント教材。

02年度以前	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	石井 敏
--------	------------------	-----	------

講義目的 および 講義概要	<p>講義目的 最近の英語学習・教育では、コミュニケーション技能育成のみが重視され、思想・理論的な裏づけが軽視されがちである。しかし、思想・理論的な裏づけのない技能育成には、効果上の疑問が残るだけでなく、内容や方法が誤っている場合も多い。そこで本講義は、異文化(間)コミュニケーション理論の文献研究により、現在の英語学習・教育の健全化を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 現代の日本社会において異文化(間)コミュニケーション理論を学習・教育することの意義を考察し、続いて人間コミュニケーションと文化の関係、言語・非言語シンボルシステム、心理と文化の関係、異文化(間)コミュニケーション能力の育成方法を思想・理論的に研究する。</p>	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. General Introduction to the Course 2. The Global Village (pp. 1-10) 3. Communication, Culture, and Intercultural Communication (pp. 11-20) 4. Communication, Culture, and Intercultural Communication (pp. 20-28) 5. Symbolic Systems (pp. 29-36) 6. Symbolic Systems (pp. 36-46) 7. Intercultural Influences (pp. 48-59) 8. Intercultural Influences (pp. 59-73) 9. Becoming Culturally Sensitive (pp. 76-83) 10. The Importance. . . . , Intercultural Communication (Print, 14-19) 11. The Importance. . . . , Intercultural Communication (Print, 19-22) 12. Overall Review of the Course
	評価方法		出席状況、授業中の研究発表の内容と方法、および学期末試験の成績による。
	テキスト 参考文献		Klopf & Ishii, <u>Communicating Effectively Across Cultures</u> (南雲堂). プリント教材。

2003 年度

外国語学部共通科目シラバス

獨協大学

外国語学部共通科目 2003年度入学者用

目 次

◇ … 春学期開講科目
◆ … 秋学期開講科目

総合講座		◇ 佐藤唯行	1
総合講座		◆ 佐藤唯行	1
情報科学概論a		◇ 呉浩東	2
情報科学概論b		◆ 呉浩東	2
情報科学各論(入門)		◇ 各担当教員	3
情報科学各論(初級)「表計算入門」	◇・◆	各担当教員	4
情報科学各論(初級)「プレゼンテーション」	◇・◆	金井満	5
情報科学各論(初級)「HTML入門」	◇・◆	各担当教員	6
情報科学各論(中級)「表計算応用1」		◆ 松山恵美子	7
情報科学各論(中級)「HTML応用1」		◇ 東孝博	8
情報科学各論(中級)「HTML応用1」		◆ 金子憲一	9
情報科学各論(中級)「HTML応用1」		◆ 田中雅英	10
情報科学各論(中級)「HTML応用2」		◆ 東孝博	11
情報科学各論(中級)「データベース1」		◇ 長崎等	12
情報科学各論(中級)「データベース1」	◇・◆	松山恵美子	13
情報科学各論(中級)「データベース2」		◆ 長崎等	14
情報科学各論(中級)「プログラミング論1」		◇ 呉浩東	15
情報科学各論(中級)「プログラミング論2」		◆ 呉浩東	15
経済原論a		◇ 阿部正浩	16
経済原論b		◆ 阿部正浩	16
社会心理学a		◇ 玉井寛	17
社会心理学b		◆ 玉井寛	17

03年入学者	総合講座	担当者	(春学期)佐藤 唯行
--------	------	-----	------------

講義目的および講義概要	「世界のマイノリティと民族問題」というテーマのもとに、主に外国語学部に所属する教員が1年間にわたり、輪講形式で、各自の専門の話をします。90分授業の内、75分を講義、最後の15分を質疑応答にあてたことで、とくに一方通行になりがちで通常授業の欠点を解消するつもりです。聞き手であった学生諸君からの積極的な質問を歓迎します。	授業計画	1 佐藤唯行, ガイダンス
			2 佐藤唯行, アメリカ政治のユダヤ・パワー
			3 中野 聡, フォルベール・アメリカンの語り方
			4 平田雅博, 英国黒人の歴史と現在
			5 辻康吾, 中国の少数民族政策
			6 佐原徹哉, バルカンの民族問題とマケドニア
			7 佐藤勘治, 米国ラティーノ
			8 = = , ラテンアメリカの先住民
			9 山本英政, ハワイ: 元はアメリカ人 —日本人の物産, 巻の1—
			10 = = = = 巻の2
評価方法	前期・後期に筆記試験を実施、形式は4択20問のクイズ形式で、範囲は授業内容に即したものが		11 井藤早織, スコティッシュの選択—「イギリス」のなかのスコットランド人—
テキスト参考文献			12 井上兼行, カリブ海地域の黒人クレオール 巻の1

03年入学者	総合講座	担当者	(秋学期)佐藤 唯行
--------	------	-----	------------

講義目的および講義概要	前期と同じ	授業計画	1 佐藤唯行, 試験問題返却・講評・後期ガイダンス
			2 竹田いづみ, インドネシア・南太平洋の民族紛争
			3 本田浩邦, ロサンゼルスの人種・移民問題(1) アメリカ・メキシコ国境の意味を考へ
			4 = = , = = (2) IT時代のスラット・シヨツア
			5 金子芳樹, 華僑・華人コネクション—ネットワークを支えた社会—
			6 = = , マイノリティーとしてのイスラム教徒—過激派テロリストを生むメカニズム—
			7 辻康吾, 中国の少数民族問題
			8 右田善文, 統一ドイツの民族問題
			9 = = , EU諸国における極右・ポピュリスト勢力の台頭
			10 高橋雄一郎, セクシリティ—アメリカを中心に—
評価方法			11 御園生真, 19世紀前半の4エコの経済発展と民族—4エコ: ドイツ人・メキシコ人—
テキスト参考文献			12 高橋雄一郎, セクシリティの多様性を求めて—アメリカを中心に—

03 年入学者		情報科学概論 a	担当者	(春学期)呉 浩東	
講義目的および講義概要	<p>本講義では、情報科学とコンピュータの勉強をされる学生たちを念頭におき、情報科学とコンピュータリテラシの話からスタートし、コンピュータの歴史と仕組み、情報のデジタル化とコンピュータによるデータの表現や、コンピュータの原理を紹介する。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの間を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、数値や文字などデータのコンピュータ内での表現、データの入出力、プログラム構造、ソフトウェア開発の概要について述べる。本講義は情報処理技術者試験を受験しようとする学生たちに、また、コンピュータに関する知識を中心とした情報科学に深い興味をもつ学生たちに十分に役立つように工夫している。</p>		授業計画	1 本講義の概略 前期講義概要、評価の方法と基準、授業の進め方	
	評価方法	期末のテストと、レポートの提出および出席を加味して評価する。		2 情報とは何か 情報の持つ性質、情報の形態、情報の発達	
		テキスト参考文献		(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する	
4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換					
5 データ表現 情報量の単位と文字コード、数値データの種類					
6 コンピュータの構成要素 (1) 中央処理装置とメインメモリ					
7 コンピュータの構成要素 (2) 2次記憶装置と周辺装置					
8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類					
9 オペレーティングシステム (OS) OSの基礎概念、OSの構成と機能					
10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の目的と分類					
11 基本データ構造 木構造、配列構造、リスト構造、スタック構造					
12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守					

03 年入学者		情報科学概論 b	担当者	(秋学期)呉 浩東	
講義目的および講義概要	<p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術に重点をおき、コンピュータ利用技術に関するさまざまな知識を概説する。</p> <p>具体的に、ファイルとデータベースの構造、データベース管理システムの概要、データ通信とコンピュータ・ネットワーク、特にインターネットについて述べる。最後に、情報システムの設計、情報セキュリティについて解説する。最後に、情報技術の最新展開を紹介し、コンピュータを使いながら情報検索や情報処理のテクニックを身に付けることを目標とします。本講義は情報処理技術者試験を受験しようとする学生たちに、また、コンピュータに関する知識を中心とした情報科学に深い興味をもつ学生たちに十分に役立つように工夫している。</p>		授業計画	1 ファイルの構造 ファイルの構造、種類、用途	
	評価方法	期末のテストと、レポートの提出および出席を加味して評価する。		2 データベース データベースの概要、データベースの種類	
		テキスト参考文献		(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する	
4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化					
5 コンピュータ通信 情報通信の基礎、データ転送のしくみ					
6 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式					
7 インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS					
8 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど					
9 インターネットと社会 ネットワークセキュリティ、暗号システムの基礎					
10 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、バーチャルリアリティ					
11 情報検索 情報検索の方法と演習					
12 アプリケーション・ソフトウェア オンラインソフトの使い方と使用					

03年入学者	情報科学各論 (入門)	担当者	(春学期)各担当教員
講義目的および講義概要	<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活（広くは社会生活）で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク（通信）、情報倫理についてである。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作
	2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション		
	3 日本語入力とタイピング		
	4 インターネット—ブラウザ・メール・検索 (1)		
	5 インターネット—ブラウザ・メール・検索 (2)		
	6 情報倫理		
	7 ワープロ入門—文書の編集 (1)		
	8 ワープロ入門—文書の編集 (2)		
	9 ワープロ入門—文書の編集 (3)		
	10 ワープロ入門—文書の編集 (4)		
	11 ワープロ入門—文書の編集 (5)		
	評価方法		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年入学者	情報科学各論 (初級)「表計算入門」	担当者	(春学期)・(秋学期)各担当教員
---------	--------------------	-----	------------------

講義目的および講義概要	<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算 (MS-Excel) の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>	授業計画	1	ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
			2	表の作成(文字の入力)、グラフの作成
			3	表の編集、グラフの装飾、印刷
			4	計算式の利用
			5	ネットワークからのデータの収集・整理
			6	関数の利用 (1)
			7	関数の利用 (2)
			8	関数の利用 (3)
			9	プレゼンテーション (1) —作成 (MS-Powerpoint とは)
			10	プレゼンテーション (2) —作成 (データの活用・まとめ)
			11	プレゼンテーション (3) —発表
	評価方法		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	12

03年入学者	情報科学各論（初級）「プレゼンテーション」	担当者	(春学期)・(秋学期)金井 満
--------	-----------------------	-----	-----------------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
			2 Powerpoint の基本操作 1
			3 Powerpoint の基本操作 2
			4 Powerpoint の基本操作 3
			5 Powerpoint の基本操作 4
			6 Powerpoint の基本操作 5
			7 プレゼンテーションの注意点
			8 グループプレゼンテーションの組み分けと個人プレゼンテーションの準備
			9 個人プレゼンテーションの準備
			10 個人プレゼンテーション
			11 個人プレゼンテーション
			12 個人プレゼンテーション
評価方法	グループ及び個人プレゼンテーション。		
テキスト参考文献	テキスト 授業で指示します。		

03 年入学者	情報科学各論 (初級) 「HTML 入門」	担当者	(春学期)・(秋学期)各担当教員
---------	-----------------------	-----	------------------

講義目的および講義概要	<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>	授業計画	1	ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
			2	コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成
			3	ファイルの種類とフォルダ構成
			4	WWW と WWW ブラウザ
			5	インターネットと情報倫理
			6	ページの構造と HTML
			7	ホームページの作成—テキスト
			8	ホームページの作成—リンク
			9	ホームページの作成—イメージ
			10	ホームページの作成—テーブル・その他
			11	ホームページの作成—完成
			12	ファイルの転送とページの更新
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。			

03 年入学者	情報科学各論 (中級)「表計算応用 1」	担当者	(秋学期)松山 恵美子
講義目的および講義概要	<p>本講義は表計算ソフト (Excel) の基礎をマスターした学生を対象として行う。</p> <p>Excel には様々な機能が用意されている。その中のひとつに「マクロ」機能がある。「マクロ」とは一連の操作を登録しておき、その操作を行いたいときに呼び出すと実行できるという機能である。</p> <p>本講義は簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成された VBA (Visual Basic for Applications) プログラムを理解することを目標とする。</p> <p>ツールバー上のボタンを利用すると処理が行われる。それと同じことがプログラミングでもできるということを「マクロ」機能を通じて学習する。</p>	授業計画	1 ガイダンスと Excel の復習
評価方法	出席とレポート課題		2 マクロとは
テキスト参考文献	第 1 回目の授業で指示		3 マクロの実行方法
4 マクロの作成 (1)			
5 マクロの作成 (2)			
6 フォームの利用			
7 Visual Basic Editor の利用 (1)			
8 Visual Basic Editor の利用 (2)			
9 Visual Basic Editor の利用 (3)			
10 最終課題作成 (1)			
11 最終課題作成 (2)			
12 最終課題作成 (3)			

03年入学者	情報科学各論(中級)「HTML応用1」	担当者	(春学期)東 孝博
講義目的および講義概要	<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語とされている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることがを目標とする。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意 情報科学各論(初級)「HTML入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>	授業計画	1 授業内容説明
	2 HTMLの復習(簡単なCGIの利用)		
	3 HTMLの復習(Javaスクリプトの埋め込み)		
	4 Javaアプレットの概要		
	5 プログラム練習(グラフィックスイメージの表示)		
	6 プログラム練習(定数と変数)		
	7 プログラム練習(for文1)		
	8 プログラム練習(for文2)		
	9 プログラム練習(if文)		
	10 プログラム練習(配列)		
	11 プログラム練習(Mathオブジェクト)		
	12 総合演習		
評価方法	日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。		
テキスト参考文献	プリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する。		

03年入学者	情報科学各論(中級)「HTML応用1」	担当者	(秋学期)金子 憲一
講義目的および講義概要	<p>講義の目標 この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人(FTPの理解を含む)を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>	授業計画	1 ガイダンスとイントロダクション
	2 HTMLとFTPの復習(1)		
	3 HTMLとFTPの復習(2)		
	4 インタラクティブなページ(HTMLとCGI)		
	5 JavaScript(1)		
	6 JavaScript(2)		
	7 JavaScript(3)		
	8 JavaScript(4)		
	9 CGIの利用(1)		
	10 CGIの利用(2)		
	11 CGIの利用(3)		
	評価方法		授業中に作成する課題と平常点(宿題含む)で総合評価する。出席は特に重視する。最低限のルール(禁飲食等)を守れない場合は、即時失格とする。
テキスト参考文献	授業中に指示する。 プリントの配布も行う。		

03 年入学者	情報科学各論 (中級)「HTML 応用 1」	担当者	(秋学期)田中 雅英
講義目的および講義概要	<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みの学生を対象に、単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく、cgi や java script にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を深め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なおこの授業計画はあくまでの一つの目安であり、途中で更なる発展を目指す変更は当然ありえる。</p>	授業計画	1. ガイダンスと復習
評価方法	授業中に指示する課題と平常点で評価する。		2. Web ページのネットへのアップロード等
テキスト参考文献	授業中に適宜指示する。		3. java script 1
			4. java script 2
			5. java script 3
			6. java script 4
			7.cgi 1
			8.cgi 2
			9. 情報の収集 1
			10. 情報の収集 2
			11. 応用
			12. その他

03年入学者	情報科学各論(中級)「HTML応用2」	担当者	(秋学期)東 孝博
講義目的および講義概要	<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語とされている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることを目指す。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したリアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意 情報科学各論(中級)「HTML応用1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>	授業計画	1 Javaの基本構造
評価方法	日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。		2 イベント処理(マウスイベント1)
テキスト参考文献	プリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する。		3 イベント処理(マウスイベント2)
			4 イベント処理(キーイベント1)
			5 イベント処理(キーイベント2)
			6 GUI部品の使用(ボタン・チェックボックス)
			7 GUI部品の使用(選択ボックス・スクロールバー)
			8 GUI部品の使用(GUI部品のレイアウト)
			9 スレッドの利用(イメージの移動)
			10 スレッドの利用(色の変化・時計)
			11 スレッドの利用(スレッドを利用したゲーム)
			12 総合演習

03年入学者	情報科学各論 (中級)「データベース1」	担当者	(春学期)長崎 等
--------	----------------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	<p>本講義は表計算ソフトウェア (Excel) の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法的な答えの1つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論 (初級ー表計算入門) を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習
			2 データベースについての調査
			3 データベースの基本概念
	4 並べ替え		
	5 集計		
	6 レコードの抽出		
	7 条件検索 1		
	8 条件検索 2		
	9 データベース関数		
	10 クロス集計とピボットテーブル		
	11 まとめ		
	12 実習試験		
評価方法	出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。		
テキスト参考文献	1 回目の授業で指示します。		

03年入学者	情報科学各論（中級）「データベース1」	担当者	(春学期)・(秋学期)松山 恵美子
--------	---------------------	-----	-------------------

講義目的および講義概要	<p>本講義は表計算ソフト (Excel) の基礎をマスターした学生を対象とし、データベースの扱い方の基礎を学ぶ。数値データだけでなく文字データの処理方法についても学習する。膨大な量のデータの中から必要なデータを的確に抽出する力を習得する。また検索・加工・分析・発表という一連の過程からデータベースの基本的な概念を学習することを目標とする。</p> <p>紙面上のデータをデジタル化してデータベースを構築する方法、またインターネット上から取得したデータをもとにデータベースを構築する方法についても学ぶ。</p> <p>最後に、自ら作成したデータベースを利用して抽出や検索などのデータベース機能を使って分析を行い、その結果を Word でまとめレポートを作成する。</p>	授業計画	1 本講義の概要および Excel の復習
	2 データベースとは何か		
	3 データの取得と加工		
	4 並べ替え		
	5 集計		
	6 レコードの抽出		
	7 レコードの検索		
	8 クロス集計		
	9 データベース作成 (1)		
	10 データベース作成 (2)		
	11 レポート作成 (1)		
	12 レポート作成 (2)		
評価方法	出席およびレポート課題で評価を行う。		
テキスト参考文献	「Windows による情報活用」 共立出版		

03 年入学者	情報科学各論 (中級)「データベース 2」	担当者	(秋学期)長崎 等
---------	-----------------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	<p>本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらい、グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論 (中級)「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>	授業計画	1 データベースの概念と機能
			2 Access の基本操作
			3 テーブル
			4 テーブルと結合
			6 クエリー (1)
			6 クエリー (2)
			7 グループによるテーブル設計 1 (ハイレベルエンティティ分析)
			8 グループによるテーブル設計 2 (関係データ分析)
			9 グループによるテーブル設計 3 (テーブル作成)
			10 グループによるクエリ設計 1 (外部スキーマの設計)
評価方法	出席及びレポート課題によって評価します。		11 グループによるクエリ設計 1 (クエリの作成)
テキスト参考文献	30H で理解できるアクセス 2000, 実教出版 図解雑学 データベース, ナツメ出版		12 グループによるプレゼンテーション

03年入学者	情報科学各論(中級)「プログラミング論1」	担当者	(春学期)吳 浩東	
講義目的および講義概要	<p>コンピュータで問題を解決するには、プログラムを書かなくてはなりません。本講義では、プログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説します。プログラミングのノウハウや方法などを理解することを目標とします。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語とオペレーティングシステムについて概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、およびプログラミング言語の構造、さらに基本的なプログラムの仕組みなどを学びます。いくつかのプログラムの設計について講義と実習を行います。</p>	授業計画	1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説	
	評価方法		前期の定期試験と、2～3回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。	2 プログラミング言語とオペレーティングシステム
			テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料をファイルで配布する。
4 Visual Basic の基本操作 コントロール配置、プロパティ設定、コーディング				
5 簡単なプログラムの作成 データ型、演算子、プロパティの値の取得と演算				
6 選択構造をもつプログラムの作成(1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング				
7 選択構造を持つプログラムの作成(2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計				
8 繰り返しあるプログラムの作成 ループ構造とその応用				
9 配列とコントロール配列 一次元配列、二次元配列、コントロール配列				
10 ファイル操作(1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き				
11 ファイル操作(2) ランダムファイルとランダムアクセス				
12 総合練習 アプリケーションを試作する				

03年入学者	情報科学各論(中級)「プログラミング論2」	担当者	(秋学期)吳 浩東	
講義目的および講義概要	<p>プログラミング技術を上達させるために、系統的に異なる様々な視点でのアルゴリズム(algorithms)学習が効果的です。そのために、本講義はコンピュータのプログラミングで使われるデータ構造とアルゴリズムにいて重点的に概説します。本講義では受講者に基本的なデータ構造とアルゴリズムをわかりやすく説明し、プログラミング能力をさらに上達することに目指します。初めに、プログラミングの設計に重要であるデータ構造とアルゴリズムの概念を概説します。さらに、データ構造を細かく分析する上、さまざまな例を用いてデータ構造の定義から使い方までを説明し、演習を行います。また、データ構造をアルゴリズムに応用し、プログラミングに特によく使うアルゴリズムを講義と演習しながら学びます。</p>	授業計画	1 なぜデータ構造とアルゴリズムが重要なのか？ データの記録と表現、プログラミングのツール	
	評価方法		定期試験と、2～3回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。	2 アルゴリズムの基礎 アルゴリズムの基本的な考え方
			テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する
4 探索 二分探索、併合、逐次探索と番兵				
5 ソート 選択ソート、挿入ソート				
6 文字列処理 文字列の照合、文字列の置き換え				
7 再帰というプログラミング手法 再帰とは、再帰の簡単な例				
8 木構造 木と二分探索木、二分探索木のさまざまな表現				
9 知的データベースの設計				
10 さまざまなグラフィックスの処理				
11 アプリケーションの開発(1) 実習(1)：課題の説明と作成				
12 アプリケーションの開発(2) 実習(2)：課題設計のスキルと方法の解説				

03年入学者		経済原論 a	担当者	(春学期)阿部 正浩
講義目的および講義概要	講義の目標 「経済学の考え方とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。 講義概要 テキストの内容に沿って講義を行なう。なお、ほとんど毎回課題を出すので、それを自習すること。二回に一回の割合で課題の提出をしてもらう。詳細については一回目の講義で説明する。	授業計画	1	この授業のすすめ方
			2	経済学の考え方
			3	取引と貿易
			4	需要と供給と価格
	5		予備日	
	6		需要・供給分析の応用 (その1)	
	7		需要・供給分析の応用 (その2)	
	8		時間とリスク(その1)	
	9		時間とリスク (その2)	
	10		公共部門 (その1)	
	11		公共部門 (その2)	
	12		予備日	
評価方法	レポートと期末テスト			
テキスト参考文献	「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ (東洋経済新報社)			

03年入学者		経済原論 b	担当者	(秋学期)阿部 正浩
講義目的および講義概要	講義の目標 「経済学の考え方とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。 講義概要 テキストの内容に沿って講義を行なう。なお、ほとんど毎回課題を出すので、それを自習すること。二回に一回の割合で課題の提出をしてもらう。詳細については一回目の講義で説明する。	授業計画	1	GNP とは (その1)
			2	GNP とは (その2)
			3	マクロ経済学と完全雇用 (その1)
			4	マクロ経済学と完全雇用 (その2)
	5		経済成長(その1)	
	6		経済成長 (その2)	
	7		失業と総需要 (その1)	
	8		失業と総需要	
	9		インフレーション (その1)	
	10		インフレーション (その2)	
	11		まとめ	
	12		予備日	
評価方法	レポートと期末テスト			
テキスト参考文献	「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ (東洋経済新報社)			

03年入学者	社会心理学 a	担当者	(春学期)玉井 寛
講義目的および講義概要	<p>本講義では個人と集団ならびに社会とのかかわりの観点から相互作用について考える。個人の行動をもたらす知覚、感情、思考といった個人心理学も視野に入れながら他者との影響や環境との相互作用から個人の態度や行動が変化する様子を考えてゆく。</p> <p>社会的な環境にある個人はその文化に規定されるが、そうした個人と社会、個人と集団、文化と態度、社会と集団などの相互関係や影響の過程などのテーマについても考察する。考察テーマは身近なものを取り上げたい。</p> <p>履修条件：秋学期と連動した内容で講義を進めます。従って、本学期では社会心理学の領域をすべて網羅していませんので、秋学期も合わせて受講することを条件とします。</p>	授業計画	1 社会心理学への導入 前期授業の案内
	2 社会的行動の基礎 行動の動機		
	3 社会のなかの個人 人の理解-1		
4 社会のなかの個人 人の理解-2			
5 他者との影響 さまざまな見方-1			
6 他者との影響 さまざまな見方-2			
7 相互作用 協力と対立-1			
8 相互作用 協力と対立-2			
9 態度変容 説得とメディア-1			
10 態度変容 説得とメディア-2			
11 コミュニケーション			
12 集団とメンバー			
評価方法	試験結果、レポートと出席回数を加味します		
テキスト参考文献	授業の中で随時紹介します		

03年入学者	社会心理学 b	担当者	(秋学期)玉井 寛
講義目的および講義概要	<p>本講義では個人と集団ならびに社会とのかかわりの観点から相互作用について考える。個人の行動をもたらす知覚、感情、思考といった個人心理学も視野に入れながら他者との影響や環境との相互作用から個人の態度や行動が変化する様子を考えてゆく。</p> <p>社会生活上における具体的な事象を組織、集団や群衆行動や、社会病理といった観点からとりあげ、さらに文化と適応を国際化社会に生きる現代の様相を考える。最後に近代化した社会での孤独と不安について考察しい。</p> <p>履修条件：春学期と連動した内容で講義を進めます。従って、本学期では社会心理学の領域をすべて網羅していませんので、春学期も合わせて受講することを条件とします。</p>	授業計画	1 社会生活 世論とマスコミ-1
	2 社会生活 世論とマスコミ-2		
	3 組織、集団 組織と心理-1		
4 組織、集団 組織と心理-2			
5 群衆行動-1 流言と群集			
6 群衆行動-2 群集制御			
7 社会病理-1 ストレス			
8 社会病理-2 社会不安			
9 文化と適応-1 異文化適応			
10 文化と適応-2 ボーダーレス社会			
11 現代人の心理 孤独と不安			
12 社会、文化、個人 社会心理学まとめ			
評価方法	試験結果、レポートと出席回数を加味します		
スト参考文献	授業の中で随時紹介します		